

2024年度シラバス

経営学部

(2021年度カリキュラム)

公立鳥取環境大学

<<学 習 案 内>>

本冊子は、本学が開講する各講義について授業計画を取りまとめたもので、これは一般的にシラバス (Syllabus) と呼ばれています。シラバスはギリシャ語の *sittuba* を語源にしている英語で、講義の摘要、大要、要目と訳されています。

シラバスには各講義の授業の目標と内容、成績評価の方法などが記載されています。年度のはじめに学生諸君に配布することによって、諸君の1年間の学習計画を立てるための手助けになることを期待して編纂したものです。

大学で学ぶ諸君にとってシラバスがなぜ重要なのでしょうか。いくつか指摘しておきます。

1. 学生諸君が計画的かつ主体的に学んでいくための重要な情報を提供していますので、学習意欲を高めることに役立ちます。
2. シラバスの中には教育目標が明示されており、学生諸君の関心とのミスマッチを前もってなくすことに役立ちます。
3. シラバスは講義内容を社会に公開するもので、本学の教育内容を説明するものになります。
4. なお、大学間の単位互換制度を活用する際にシラバスが重視されるようになっていきます。

この冊子が諸君の大学での学びに有意義に活用されることを期待しています。

2024年4月

公立鳥取環境大学 教務委員長

<<シラバスの読み方>>

1. 科目一覧表は所属学部毎に掲載されています。
2. 科目名の右端に掲載ページが示されていますので、ページを確かめシラバスを確認してください。
3. 集中講義、単位互換等、一部の科目についてシラバスが掲載されていません。後日提示しますので、確認してください。
4. 科目には、以下の履修区分があります。
 - 必 修…必ず履修修得しなければならない科目
 - 選択必修…指定された科目の中から1つを必ず履修修得しなければならない科目
 - 選 択…授業科目の中から、各区分において定められた卒業要件に従って選択し、履修する科目
 - 自 由…履修しても卒業要件に必要な単位として計算されない科目

<<履修における注意点（全科目共通）>>

講義は毎回必ず出席してください。講義回数の3分の2以上の出席がない場合には、履修放棄とみなされ、単位認定不可となります。

また、科目によっては上記に加え、履修上の注意事項等が設定されている場合がありますので、履修する科目のシラバスをよく確認してください。

学務課

<<シラバスの見方>>

シラバスには、以下の内容が記載されています。科目ごとのシラバスを確認の上、履修計画を立ててください。

- 科目名： 履修規則に定められる科目名称です。
COC事業に関係する科目には【COC】との記載があります。
※COC事業については、各期のガイダンス等にて説明があります。
- 授業タイプ： 授業形態で、以下の6種類があり、複数が組み合わせられて構成される科目もあります。
- <講義・演習>
- ・講義： 一般講義型で、主に聴講することで知識の習得を行う
 - ・講義(AL)： アクティブラーニング型講義で、学生が授業に主体的に取り組み、教員はサポートする役割を担う
 - ・演習： 講義で理論や定理を学んだ後、問題等に取り組むことで、知識・技能等を習得する
- <実験・実習・実技>
- ・実験： 仮説が正しいかどうかを検証し、また実験技術を習得する
 - ・実習： 実際に体験することで必要な知識・技能等を習得する
 - ・実技： スポーツ等技能を習得する
- 科目区分： 卒業要件における科目区分
- 履修区分： 授業の履修区分で、以下の4種類があります。
- ・必修…必ず履修修得しなければならない科目
 - ・選択必修…指定された科目の中から1つを必ず履修修得しなければならない科目
 - ・選択…授業科目の中から、各科目区分において定められた卒業要件に従って選択し、履修する科目
 - ・自由…履修しても卒業要件に必要な単位として計算されない科目
- 配当年次： 配当年次以上の学年で履修することができます。
- 単位数： 単位修得ができた場合の、単位数です。
- 開講区分： 前期、後期があり、集中講義の場合は更に“集中”と記載されます。
- 教員名： 科目を担当する教員で、複数の教員が並んでいる場合、一番最初に記載がある教員が成績を取りまとめる代表教員となります。
- 授業の概要： 授業の概要です。
- 到達目標： 授業の到達目標です。講義を履修し、単位を修得した結果、どのような知識・能力などを修得できるかが記載されています。
- カリキュラムマップ項目：
- 学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連性を示し、以下の7項目に○が記載されます。
- a. 汎用的技能
 - I 基礎的な知識・技能・技術を養う
 - II 文章作成能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養う
 - b. 専門的な知識
 - III 専門分野を深く学び、高い専門性を養う
 - IV 専門分野の幅広い知見を養う
 - c. 基礎的な思考力・行動力、及び応用力
 - V 課題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、問題解決する能力を養う

VI 多様性を理解し、協働できる能力を養う

d. 全地球的な視点

VII 多文化理解や社会問題に対してのアプローチ方法を身につける

授業計画： 授業各回の講義内容が記載されます。

定期試験がある場合は、16回目に実施されます。

評価方法： 成績は以下で評価され、各科目における成績評価方法が記載されます。

評価	評点	評価基準
S	90点～100点	シラバスに記載される到達目標を十分達成し、課題解決に繋げることができる。
A	80点～ 89点	シラバスに記載される到達目標を十分達成し、修得した知識・技能を応用することができる。
B	70点～ 79点	シラバスに記載される到達目標を達成し、知識・技能を確実に修得している。
C	60点～ 69点	シラバスに記載される到達目標を概ね達成し、基礎知識・技能を修得している。
P	合否科目の合格	シラバスで記載される到達目標を達成している。
F	59点以下 合否科目の不合格	シラバスで記載される到達目標を達成していない。

以下の記載の他、科目ごとに利用される評価方法があります。

- ・定期試験： 期末に行われる成績を測るための主になる試験
- ・期末レポート： 期末に行われる成績を測るための主になるレポート
- ・課題： 授業で設定される演習課題等
- ・課題等の提出状況： 課題やレポート等の提出状況
- ・授業参加態度： 積極的な授業参加態度を総合的に判断するもの

講義外での学習：

授業科目は1単位につき授業を含めて45時間の学習が必要となるため、講義外における学習方法・内容（予習・復習）が記載されます。

注意事項： 授業で必要な知識、必要物等、受講にあたって、また単位修得にあたっての必要な注意事項が記載されます。

先修科目： 当該科目を履修するにあたって、事前に関係する知識を得るために単位修得しておくことが望ましい科目が記載されます。

他学部履修： 他学部履修の手続き要否について記載されます。
科目によっては、事前に科目担当教員から許諾を得る必要があります。

教材： 教科書に指定されるものは授業で必要となりますので、必ず購入等して準備してください。参考書の購入は必須ではありませんが、授業に役立つ書籍ですので、必要に応じて購入等してください。

なお、タイトルが似ている書籍がありますので、大学で販売しているもの以外を購入する場合は、書籍名、著者名、出版社のほか、本を識別するISBNを必ず確認してください。

実務経験のある教員による授業科目：

実務経験のある教員が、実務経験をもとにどのような教育を行うのかが記載されます。

シラバス目次ページで、すべての科目が一覧できますので、併せて確認してください。

科目区分	科目名称	配当年次	開講期		実務経験	COC科目	カリキュラムマップ項目							ページ	
			前期	後期			I	II	III	IV	V	VI	VII		
総合教育科目	現代と人権	1	○		○		○				○		○	2	
	日本国憲法	1	○				○				○		○	3	
	鳥取学	1		◎		○	○			○				4	
	麒麟の知	3	○			○					○	○	○	5	
	現代社会と健康	1	○	○			○				○			6	
	スポーツ実技(前・後)	1	○	○			○	○			○	○		7・8	
	文章作成1	1	◎		○		○	○						9	
	文章作成2	1		◎	○		○	○						10	
	数理基礎	1	○				○							11	
	特別講義A	1		○			○							12	
	特別講義B	2		○	○	○	○		○		○			13	
	特別演習A	1	○	○			○						○	14	
	特別演習B	1	○	○	○	○	○				○	○	○	15	
	特別演習C	1	○	○			○	○	○		○	○	○	16	
	文学	1		○				○	○					17	
	地理学入門	1	○		○		○	○			○	○	○	18	
	SDGs基礎	1		○			○						○	19	
	環境学概論	1	◎				○						○	20	
	離散数学	2		○			○							21	
	データ構造とアルゴリズム	2		○			○			○	○			22	
	AI	3	○		○		○			○	○			23	
	計算機の基礎	2	○				○						○	24	
	画像処理	3	○						○	○				25	
	AI実践演習	3		○	○	○	○			○	○			26	
	パターン認識	3		○					○	○				27	
	AMD実践演習A	2	○				○	○	○	○	○	○		28	
	AMD実践演習B	2		○				○		○	○	○		29	
	人間居住論	2	○		○		○			○			○	30	
	環境と倫理	2	○							○		○		31	
	環境と文明	1		○			○			○				32	
	自然環境保全概論	1		○			○	○		○	○		○	33	
	循環型社会形成概論	1		○	○	○	○			○				34	
	人間環境概論	1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	35	
	人間形成科目	Intensive English 1	1	◎				○	○			○	○	○	36
		Intensive English 2	1	◎				○	○			○	○	○	37
Intensive English 3		1		◎			○	○		○	○	○	○	38	
Intensive English 4		1		◎			○	○			○	○	○	39	
Intensive English 5		2	◎				○	○		○	○	○	○	40	
Intensive English 6		2	◎				○	○			○	○	○	41	
Intensive English 7		2		◎			○	○		○	○	○	○	42	
Intensive English 8		2		◎			○	○			○	○	○	43	
中国語1		2	○				○	○					○	44	
中国語2		2		○			○	○					○	45	
韓国語1		2	○					○				○	○	46	
韓国語2		2		○				○				○	○	47	
ロシア語1		2	○				○	○					○	48	
ロシア語2		2		○			○	○					○	49	
Advanced English 1		2	○				○	○		○		○	○	50	
Advanced English 2		2	○				○	○		○	○	○	○	51	
Advanced English 3		2		○			○	○		○		○	○	52	
Advanced English 4		2		○			○	○		○	○	○	○	53	
Advanced English 5		2	○				○	○		○	○	○	○	54	
Advanced English 6		2	○				○	○		○	○	○	○	55	
Advanced English 7		2		○			○	○		○	○	○	○	56	
Advanced English 8		2		○			○	○		○	○	○	○	57	
英語特別講義A		3	○					○	○	○				58	
英語特別講義B		3	○				○		○	○				59	
英語特別講義C		3		○				○	○	○				60	
英語特別講義D		3		○			○	○		○		○	○	61	
英語活動A		1	○						○				○	62	
英語活動B		1		○									○	63	
海外英語研修A		1	○	○									○	64	
海外英語研修B		1	○	○									○	65	
海外英語研修C		1	○	○									○	66	
海外語学実習A		1	○	○								○	○	67	
海外語学実習B		1	○	○								○	○	68	
基礎英語能力養成A(集中)		1	○				○	○					○	69	
基礎英語能力養成B(集中)		1		○			○	○					○	70	
応用英語能力養成A(集中)	1	○				○	○					○	71		
応用英語能力養成B(集中)	1		○			○	○					○	72		
情報処理科目	情報リテラシ1	1	◎				○						73		
	情報リテラシ2	1		◎			○						74		
キャリアデザイン科目	キャリアデザインA	1	◎		○	○	○	○				○	75		
	キャリアデザインB	2	◎		○	○	○	○				○	76		
	基礎インターンシップ	1	○	○		○	○			○			77		

科目区分	科目名称	配当 年次	開講期		実務 経験	COC 科目	カリキュラムマップ項目							ページ	
			前期	後期			I	II	III	IV	V	VI	VII		
学部基礎科目	経営学入門	1	◎				○		○		○				78
	会計学入門	1		◎	○		○								79
	現代経済学入門	1	◎				○			○					80
	統計学入門	1		◎			○								81
	経営戦略論1	1		○	○		○		○	○			○		82
	経営組織論1	2	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	83
	マーケティング1	2	○						○					○	84
	商業簿記1	1	◎						○		○				85
	商業簿記2	2	○		○				○	○					86
	財務会計	2	○		○				○	○					87
	管理会計	2		○					○	○					88
	ファイナンス入門	2		○			○			○					89
	ミクロ経済学	1		○			○		○						90
	マクロ経済学	2	○				○		○						91
	金融論	2		○					○	○					92
	情報システム基礎	1		◎	○		○			○					93
	インターネット	2	○				○			○				○	94
	地域経営論	2	○		○	○				○	○				95
	経営情報論	2	○		○					○					96
プログラミング	1		○						○					97	
企業経営系科目	人的資源管理論	3	○				○		○		○				98
	経営戦略論2	2	○				○	○	○	○			○		99
	経営組織論2	2		○	○		○	○	○	○	○	○	○		100
	マーケティング2	2		○	○			○		○	○				101
	商品開発論	3	○		○			○		○	○				102
	ブランド論	3	○		○			○		○	○				103
	事業創造論	3	○		○		○	○	○	○	○		○		104
	経営分析	2		○	○				○	○	○				105
	原価計算論	3	○						○		○				106
	税務会計	3	○		○		○			○					107
	監査論	3		○	○					○	○				108
	コーポレート・ファイナンス	3	○				○		○	○					109
	リスクマネジメント	3		○			○		○	○					110
	経営倫理	3		○			○		○	○					111
	ビジネス・エコノミクス	3	○						○					○	112
	日本経済論	2		○			○			○	○			○	113
	金融市場論	3		○					○	○					114
	証券論	3	○						○	○					115
	地域経営系科目	地域経済論	2		○		○	○	○		○				
公共経営論		2		○	○	○	○	○		○	○				117
地域政策論		3	○		○				○	○	○	○			118
地域産業論		3	○			○		○	○	○	○				119
公共政策論		3		○		○	○		○		○		○		120
中小企業経営論		3	○		○	○	○	○	○	○	○		○		121
地域マーケティング		3		○		○	○		○	○			○		122
流通論		2		○		○			○		○				123
非営利組織論		3		○	○				○	○	○	○	○		124
コミュニティビジネス論		3		○	○	○			○				○		125
観光経営論		3		○		○				○	○				126
地域振興論		3	○		○	○				○	○				127
農業経営論		3		○		○				○	○	○			128
経営情報系科目	経営情報システム	3	○		○				○						129
	システム監査	3		○	○			○	○		○				130
	データベース	3	○						○						131
	データサイエンス	2	○				○			○	○				132
	データサイエンス実践演習	2	○				○			○	○				133
	情報産業論	3		○	○					○			○		134
	プロジェクトマネジメント	3		○	○		○		○	○					135
経営工学	3	○		○		○		○	○					136	
生産管理	3		○	○		○		○	○					137	

学部 共通科目	経済史	2	○				○						○	138	
	西洋経営史	2		○			○						○	139	
	日本経営史	3	○				○						○	140	
	国際経済論	2		○					○					141	
	国際関係入門	2	○				○			○			○	142	
	国際経営論	3	○		○		○		○	○				143	
	アジア経済論1	3	○							○				144	
	アジア経済論2	3		○						○				145	
	アジア環境論	3		○	○					○				○	146
	環境経済論	2		○			○			○				○	147
	共生経営論	3	○		○					○	○	○			148
	環境経営論	3		○	○					○	○	○			149
	社会経済と人口	3		○			○				○				150
	微分積分学	1	○				○								151
	線形代数学	1		○			○								152
	社会調査法	2	○		○		○					○			153
	データ解析	3	○				○					○		○	154
	情報倫理	3		○			○							○	155
	民法1	2	○							○		○			156
	民法2	2		○						○		○			157
	企業法概論	3	○								○	○			158
	Case Analysis	2		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	159
	経営学特別講義A	2		○	○					○	○				160
	経営学特別講義B	3	○							○	○				161
	経営学特別講義C	3		○	○					○	○				162
	ワークショップ	3		○		○				○	○	○			163
	インターンシップ	3	○	○							○	○		○	164
	専門演習1	3	◎							○	○	○	○	○	165
	専門演習2	3		◎						○	○	○	○	○	165
	専門演習3	4	◎	◎						○	○	○	○	○	165

※ 開講期欄の見方・・・◎:必修科目 ●:選択必修科目 ○:選択科目・自由科目

2024年度シラバス

経営学部

(2021年度カリキュラム)

公立鳥取環境大学

科目名	現代と人権					授業タイプ		講義(AL)・演習																						
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期																					
教員名	北村 秀徳 (非常勤)																													
授業の概要	<p>キーワード：人権問題に対する理解・認識、人権感覚、自己省察力</p> <p>現代社会においては「人権」のかけがえなき重要性を、誰もが少なくとも建前としては承認している。しかし、身近な日々の生活や仕事、社会などの中で他者の人権を尊重せず他者を対等な人格として取り扱わない実態が一般的に存在している。この講義では、私たちの身近で起きている人権問題や人権判例を取り上げながら、人権尊重の重要性および必要性についての理解を深めるとともに、人権問題を自分自身の生活や生き方となげ、「人権を尊重する人間」として自己を省察することを目標とする。</p>																													
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 人権の主体者として、現代社会における「人権」の理念と現状について学ぶ。 「私」と「人権」との関わりについて、具体的に深く掘り下げて振り返り、今後の自己の生き方、他者との関わりについて考え、実践する力を身に付ける。 					<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="7">カリキュラムマップ項目</th> </tr> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> <th>VI</th> <th>VII</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>				カリキュラムマップ項目							I	II	III	IV	V	VI	VII	○				○		○
カリキュラムマップ項目																														
I	II	III	IV	V	VI	VII																								
○				○		○																								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション：講義内容と授業計画の概要、学習に臨む姿勢等を説明する。併せて、「人権の意味と特質」について理解を深める。 「普遍的人権と個別具体的人権」について理解を深めるとともに、ハラスメント問題と自分との関わりについて話し合う。 「人権観の転換～人権の普遍性～」について理解を深めるとともに、ジェンダー問題について話し合う。 「人権の国際化」について理解を深めるとともに、外国人の人権と自分との関わりについて話し合う。 「新しい人権～知る権利～」について理解を深めるとともに、情報公開のあり方について話し合う。 「新しい人権～自己決定権～」について理解を深めるとともに、尊厳死と安楽死における現状と問題点、LGBTQの人々の人権について話し合う。 「新しい人権～プライバシーの権利～」について理解を深めるとともに、同和問題(部落差別)と自分との関わりについて話し合う。 「新しい人権～インターネットと人権～」について理解を深めるとともに、個人情報の取り扱い方について話し合う。 「新しい人権～環境権・景観権・嫌煙権～」について理解を深めるとともに、環境と人権について話し合う。 「基本的人権のいま～平等権～」について理解を深めるとともに、障がいのある人々の人権と自分との関わりについて話し合う。 「基本的人権のいま～生存権～」について理解を深めるとともに、生活保護問題や子どもの貧困問題について話し合う。 「人権救済」について理解を深めるとともに、裁判員制度の現状と課題について話し合う。 「人権教育の制度化」および高齢者の人権と自分との関わりについて話し合う。 「ハンセン病問題」「水俣病問題」「災害弱者の問題」について理解を深めるとともに、どのように向き合っていくか考える。 期末レポート発表と討議：講義を通しての学びを振り返り、自分自身の生活や生き方と人権との関わりや、問題解決に向けて自分自身何ができるか考える。 定期試験 																													
評価方法	講義内容の理解度および講義内容について自身の考えがどれだけ深められたかに重点をおき、毎回のミニレポート(20%)、期末レポート(20%)、定期試験(60%)により、総合的に評価する。																													
講義外での学習	新聞等に目を通し、社会の出来事(時事問題)を人権の視点から捉えることに努めてほしい。また、期末レポートの作成に向けて、自己の振り返りをまとめておくこと。																													
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 知識や教養を培うことを目的とした授業ではなく、自己と人権問題との関わりや自身の生き方を考えることをめざしているため、受講生の積極的な授業参加を求めたい。 各レポートは、自分の考えや思いをしっかり表現してくれることを望む。また、ミニレポートの考察を通して、受講生相互の意見交換を図っていきたい。 <p>※先修科目：特になし。</p>																													
教材	<p>◆教科書： なし。毎回レジュメや資料等を配付するとともに、映像作品を視聴する。</p> <p>◆参考書： 基本的人権の事件簿(有斐閣選書)、伊藤真の憲法入門(日本評論社)</p>																													
実務経験のある教員による授業科目																														
学校現場や県教育委員会等での勤務経験を活かし、具体的事例を交えながら講義を進めていきます。																														

科目名	日本国憲法					授業タイプ		講義			
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期集中		
教員名	杉原 充志 (非常勤)										
授業の概要	<p>キーワード：立憲主義、人権保障、国際協調</p> <p>1947年に施行された日本国憲法は、ときに厳しい批判にさらされながらも、70年以上にわたって戦後日本の基盤として国民に定着してきました。一方、国力に見合って果たすべき「国際協調主義」の見地と、21世紀の現代社会に適合した内容を持つべきであるとの考えから、近年、憲法改正論議もますます盛んになってきました。</p> <p>この授業では、マスコミでも取り上げられることの多い身近な社会問題を素材にして、日本国憲法のあり方について最終の決定権を持つ皆さん（国民）とともに、憲法の理念（精神）に迫ります。</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本国憲法のあり方について最終決定権を持つ主権者として、正しく憲法の理念を理解し、説明できる。 日本国憲法の抽象的な各条文の意味内容を、自分たちの日常生活に引きつけ、リアリティをもって理解し、説明できる。 					カリキュラムマップ項目					
						I	II	III	IV	V	VI
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> はじめに：授業の進め方、指定教科書の選択理由と読み方、評価の仕方について 憲法の特質について：そもそも憲法とは何か？他の法律とはどこが違うのか？ 日本国憲法と立憲主義：「立憲主義」の意味について、憲法前文を通して学びます。 国民主権と天皇制：憲法第1条の意義について学びます。 平和主義といわゆる「九条問題」：憲法第9条をどう解釈するか？ 基本的人権の保障（1）：基本的人権の分類について学びます。 基本的人権の保障（2）：人身（身体）の自由について学びます。 権力分立：三権分立（国会、内閣、裁判所）と地方自治について学びます。 人権条項を活かす（1）：「婚外子の相続分差別」を手がかりに、家族と憲法について学びます。 人権条項を活かす（2）：「夫婦別姓訴訟」を手がかりに、家族と憲法について学びます。 地方自治は誰のものか？（1）：「沖縄の基地問題」を手がかりに、地方自治の本旨について学びます。 地方自治は誰のものか？（2）：国政の重要事項をめぐる二つの憲法観について学びます。 憲法は改正すべきか？：昨今の憲法改正をめぐる論議について、さまざまな角度から学びます。 憲法を使いこなすためには？：国民の「憲法リテラシー」が問われている、という意味について考えます。 まとめ：全体の理解度の確認と授業の総括 定期試験 										
評価方法	授業参加態度（20％）、定期試験（80％）										
講義外での学習	事前に指示された教科書の該当箇所を読み込み、教室での質疑応答のやりとりを通して理解度を確認しましょう。										
履修上の注意事項	<p>指定教科書に沿った講義が中心となりますので、教科書は必ず持参すること。ただし、一方通行の講義に終わらせるのではなく、学生と担当教員あるいは学生同士の双方のやりとりも取り入れながら進めていきます。</p> <p>また、受講者数によっては「座席指定」、あるいは担当者独自の「気合い席」制度を採用します。</p> <p>最後に、今年度は週末を挟んだ計5日間の集中講義となりますので、ご注意下さい。</p> <p>※先修科目： 特になし。</p>										
教材	<p>◆教科書：『憲法という希望』（木村草太、講談社、9784062883870）</p> <p>◆参考書：『憲法入門〔第4版補訂版〕』（伊藤正己、有斐閣、4641112630）</p> <p>『はじめての憲法』（篠田英朗、筑摩書房、9784480683670）</p> <p>『アメリカ法入門〔第5版〕』（伊藤正己・木下毅、日本評論社、9784535010369）</p>										
実務経験のある教員による授業科目											

科目名	鳥取学					【COC】	授業タイプ		講義			
科目区分	総合教育	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	後期			
教員名	吉永 郁生（専任）、太田 太郎（専任）、笠木 哲也（専任）、眞田 廣幸（非常勤）、重田 祥範（専任）、徳田 悠希（専任）、山口 創（専任）											
授業の概要	<p>キーワード：鳥取県、自然環境、歴史・文化</p> <p>「人と社会と自然との共生」を考察する基盤を、鳥取地域を題材として学習する。鳥取地域の社会は、本来、この地域の気象や地質・地理などの要素に加え、山や森林、河川、里、そして隣接する日本海などの特有の自然環境と、そこに見られる動植物などを基盤として成立している。結果として、鳥取地域には原始古代から現代までの歴史や建造物を背景としつつ、特有の民俗や信仰、習わしなどが定着し、現在のこの地域特有の社会や文化、産業などに受け継がれている。鳥取地域における特徴的な事項を相互に関連付けながら解説し、受講生に鳥取地域の自然環境と歴史文化を総合的に理解させることを目的に、複数の教員によって講義を行う。</p>											
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 鳥取県の自然環境の特徴と歴史文化を総括的に学習することによって、日本の中の鳥取の位置付けを理解し、説明できる。 学習した鳥取県の自然環境と歴史文化を基にして、現在の鳥取県の身近な課題について、自ら発見できる。 					カリキュラムマップ項目						
						I	II	III	IV	V	VI	VII
						○			○			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション：鳥取学を学ぶ意義、授業および評価法について説明する（吉永） 自然環境（第1回）：鳥取の気象について学ぶ（重田） 自然環境（第2回）：鳥取の地形について学ぶ（徳田） 自然環境（第3回）：鳥取の地質について学ぶ（徳田） 自然環境（第4回）：鳥取の動物について学ぶ（笠木） 自然環境（第5回）：鳥取の植物について学ぶ（笠木） 自然環境（第6回）：鳥取の海と海洋生物について学ぶ（太田） 自然環境（第7回）：鳥取の一次生産物について学ぶ（山口） 歴史文化（第1回）：鳥取の黎明-弥生から古墳時代へ-（眞田） 歴史文化（第2回）：古代の因幡と伯耆-律令制下の鳥取-（眞田） 歴史文化（第3回）：山岳信仰-大山と三徳山-（眞田） 歴史文化（第4回）：戦国の争乱-因幡と伯耆-（眞田） 歴史文化（第5回）：鳥取藩と城下町（眞田） 歴史文化（第6回）：鳥取県の誕生（眞田） 歴史文化（第7回）：鳥取県内の歴史的建造物と町並み（眞田） 											
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 第1回 2点、第2回～第15回 各7点（合計100点） 各回の当教員による小テストかレポート（第1回～第8回）、あるいは理解度チェックシートの提出（第9回～15回） 											
講義外での学習	毎回の自主的復習のほか、各自の出身地の自然や歴史・文化に関わる書物を、一冊でも良いから読むことを望む。											
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 内容が多岐にわたるため、毎回きちんと整理しておくこと。 オンラインと対面の講義がある。オンラインの出席確認はフィードバックで行う。 ※先修科目： 特になし											
教材	◆教科書： 対面の講義で印刷資料を配布することがある。 ◆参考書：											
実務経験のある教員による授業科目												

科目名	麒麟の知 【COC】					授業タイプ	講義			
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	前期	
教員名	倉持 裕彌（専任）、太田 太郎（専任）、甲田 紫乃（専任）、佐藤 彩子（専任） 竹内 由佳（専任）、戸苅 丈仁（専任）、山口 和宏（専任）、吉永 郁生（専任）									
授業の概要	<p>キーワード：在来知の発掘、地域課題の解決、麒麟地域（鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町、新温泉町、香美町）</p> <p>1年次配当の「鳥取学」を基礎知識とし、1、2年次に受講した「麒麟プロジェクト研究（プロジェクト研究1～4のうちの一つ）」で学んだ鳥取（特に鳥取市、八頭町、智頭町、若桜町、岩美町、および兵庫県新温泉町、香美町を含む麒麟地域）の課題や在来知に関して、関連する専門科学（自然科学、社会科学および人文科学）的見地から解説することで、知識を深化する。「鳥取学」と「麒麟プロジェクト研究」の事後学習と位置づけ、専門課程における専門科目の学修へのきっかけとする。</p>									
到達目標	鳥取または関連するフィールドに係る具体的かつ実践的な取り組み事例に触れることによって、地域課題の発掘能力と専門的知識を活用した解決能力を高める。	カリキュラムマップ項目								
		I	II	III	IV	V	VI	VII		
授業計画	<p>① ガイダンス（倉持）（4/10）</p> <p>② 鳥取県における水産物のブランド化の実情：地域特産物から地域ブランドへ（太田）（4/17）</p> <p>③ 鳥取の水産物から見た未来（吉永）（4/24）</p> <p>④ ゲストスピーカー（智頭町）（5/1）</p> <p>⑤ 鳥取における脱炭素社会に向けた取り組み（甲田）（5/8）</p> <p>⑥ ゲストスピーカー（八頭町）（5/15）</p> <p>⑦ 鳥取をフィールドとした有機性廃棄物からのエネルギー回収と地域内資源循環（戸苅）（5/22）</p> <p>⑧ ゲストスピーカー（岩美町）（5/29）</p> <p>⑨ 鳥取県の農村の現状と課題（山口）（6/5）</p> <p>⑩ ゲストスピーカー（若桜町）（6/12）</p> <p>⑪ 鳥取県の高齢化・過疎化問題とその解決に向けた取り組み（佐藤）（6/19）</p> <p>⑫ 鳥取県の医療・介護サービス人材の特徴と課題（佐藤）（6/26）</p> <p>⑬ ゲストスピーカー（新温泉町）（7/3）</p> <p>⑭ 農産物マーケティングと鳥取におけるその課題（竹内）（7/10）</p> <p>⑮ ゲストスピーカー（鳥取市）（7/17）</p> <p>※ゲストスピーカーは現在調整中であり、今後増える可能性がある。</p>									
評価方法	各担当教員毎にミニテスト（計6～7回）を実施し、その合計点で評価をします。									
講義外での学習	内容が多岐にわたるため毎回の復習が必要です。またより深い知識を得るために、講義内容に関連する書物や文献を読むことが望まれます。									
履修上の注意事項	<p>講義内で課題が提示されます。</p> <p>※先修科目： 履修にあたって、「鳥取学」「麒麟プロジェクト研究」を履修しておくこと</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>									
教材	<p>◆教科書： 毎回の講義で資料を配付</p> <p>◆参考書：</p>									
実務経験のある教員による授業科目										
民間企業や行政機関等での実務経験を有する教員が、地域課題やその解決策について、実践的な見地から講義する。										

科目名	現代社会と健康					授業タイプ		講義				
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期・後期			
教員名	関 耕二 (非常勤)											
授業の概要	<p>キーワード：健康、ライフスタイル、スポーツ</p> <p>日本人の平均寿命の延伸は著しく、長寿社会に対応した具体的な健康づくりのための基本的指針や諸要領が作成・改訂されてきている。ただ単に長生きをするだけでなくいかに有意義な生き方をするかという質的な問題すなわち平均寿命というより健康寿命が一層重要になってきた。本講義では、現代社会において、健康・長寿と運動、栄養、休養との関連や、これらのライフスタイルは相互に関係をもつことを述べ、一つの因子、例えば、運動を習慣づけることによって他の因子を変化させる作用があることについて考える。</p>											
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 子ども時代から現在の学生生活の中で形作られた自分自身のライフスタイルの背景を知る。 健康なライフスタイルとは何かを理解できるようになる。 					カリキュラムマップ項目						
						I	II	III	IV	V	VI	VII
						○						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 健康とは、健康教育とヘルスプロモーションの違い等について学ぶ。 生活習慣病、メタボリック症候群と健康なライフスタイルのあり方について学ぶ。 健康行動、危険行動などの行動の背景を理解し、ヘルスリテラシーについても学ぶ。 健康教育理論・行動変容理論とその変遷について学ぶ。 体力の概念について学ぶ。 骨格筋とエネルギー供給機構について学ぶ。 呼吸と循環について学ぶ。 運動処方 の原理・原則について学ぶ。 生涯スポーツの楽しみ方について学ぶ。 スポーツと環境について考える。 地域スポーツとライフスタイルについて学ぶ。 学校教育と健康について学ぶ。 健康の維持・増進に関する政策を学ぶ。 老化、フレイル、ロコモティブシンドロームについて学ぶ。 まとめ 定期試験 											
評価方法	定期試験 80%、授業参加態度 20%											
講義外での学習	講義の最終日に試験を実施しますので、当然のことながら事前配布された資料での予習と講義内容の復習が重要です。											
履修上の注意事項	<p>前期：経営学部生及び 2022 年度以前入学環境学部生に限る 後期：2023 年度入学環境学部生に限る</p> <p>学生生活で身についたライフスタイルが将来の健康生活を左右します。理論と実践が乖離しないよう教員も気をつけます。よく質問しますので、積極的に授業に参加、傾聴してください。</p> <p>※先修科目： 特になし。</p>											
教材	<p>◆教科書： 講義内容の抄録と関連資料を配布します。</p> <p>◆参考書： 「基礎から学ぶ スポーツリテラシー」（大修館書店）、「国民衛生の動向」（厚生労働省）</p>											
実務経験のある教員による授業科目												

科目名	スポーツ実技 (バレーボール)					授業タイプ		実技	
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	1	単位数	1	開講区分	前期
教員名	瀬戸 邦弘 (非常勤)								
授業の概要	キーワード： スポーツの楽しさ、仲間づくり、コミュニケーション								
	本授業では受講者がバレーボールの基礎知識、および基本的技術を十分に獲得し、国際ルールに則った競技を行えるようになることを目的としています。あわせて知識や技能だけでなくバレーボールの醍醐味や、楽しさを十分に知ることが大きなテーマとなっています。前半部ではパス、レシーブ、サーブなど基礎技術、レシーブ、トス、スパイクなど基礎から応用までの技術をひとつひとつ正確に身につけます。そして授業の終盤では、身につけた技術の実践機会として試合を実施し、バレーボールを楽しく、そして正確に行えるようになることを目指します。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受講者がバレーボールの基礎知識、および基本的技術を十分に獲得する。 ・ 国際ルールに則った競技を行えるようになる。 ・ 知識や技能だけでなくバレーボールの醍醐味や、仲間づくりの楽しさを十分に知ること。 						カリキュラムマップ項目		
							I	II	III
						○	○		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス(諸注意、評価基準・方法について) ② バレーボールの基礎動作とボールコントロール技術 ③ 基礎技術(パス、レシーブ、サーブ) ④ 基礎技術(レシーブ、トス、スパイク(1)) ⑤ 基礎技術(レシーブ、トス、スパイク(2)) ⑥ 集団戦術とグループ内コミュニケーション(1)(サーブ・レシーブ等) ⑦ 集団戦術とグループ内コミュニケーション(2)(サーブ、レシーブ、トス、スパイク等) ⑧ 集団戦術とグループ内コミュニケーション(3)(攻撃のバリエーション、ブロック等) ⑨ 試合での戦術(フォーメーション、ローテーション、ポジションチェンジ等) ⑩ ゲーム形式の練習(1) ⑪ ゲーム形式の練習(2) ⑫ リーグ戦(1) ⑬ リーグ戦(2) ⑭ リーグ戦(3) ⑮ 授業内実技試験 								
評価方法	授業への取り組み姿勢 40%、積極性 20%、授業内実技試験 40%となります。								
講義外での学習	授業で学んだことを、次週までに理解し、実践できるようにしましょう。								
履修上の注意事項	受講に際しては積極的に課題に取り組み、周りの迷惑にならないようにしましょう。 ※先修科目： 特になし。								
教材	◆教科書： 指定なし ◆参考書： 松井素二『バレーボール 基本を極めるドリル (差がつく練習法)』								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	スポーツ実技 (バドミントン)					授業タイプ		実技		
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	1	単位数	1	開講区分	後期	
教員名	瀬戸 邦弘 (非常勤)									
授業の概要	キーワード： スポーツの楽しさ、仲間づくり、コミュニケーション									
	<p>本授業では受講者がバドミントンの基礎知識、および基本的技術を十分に獲得し、国際ルールに則った競技を行えるようになることを目的としています。あわせて知識や技能だけでなくバドミントンの醍醐味や、楽しさを十分に知ることが大きなテーマとなっています。前半部では基礎技術から応用までの技術をひとつひとつ正確に身につけます。そして授業の終盤では、身につけた技術の実践機会として試合を実施し、バドミントンを楽しく、そして正確に行えるようになることを目指します。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受講者がバドミントンの基礎知識、および基本的技術を十分に獲得する。 ・ 国際ルールに則った競技を行えるようになる。 ・ 知識や技能だけでなくバドミントンの醍醐味や、仲間づくりの楽しさを十分に知ること。 						カリキュラムマップ項目			
							I	II	III	IV
						○	○			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス(諸注意、評価基準・方法について、班分け) ② バドミントンの基礎動作とグループ内コミュニケーション(1) ③ 基礎技術(クリア)とグループ内コミュニケーション(2) ④ 基礎技術(クリア、スマッシュ) ⑤ 基礎技術(クリア、スマッシュ、ドロップ) ⑥ 基礎技術(ドロップ、ドライブ、ヘアピン) ⑦ 基礎技術(ドライブ、ヘアピン) ⑧ シングルの練習(1) ⑨ シングルの練習(2) ⑩ シングルの試合 ⑪ ダブルスの練習(1) ⑫ ダブルスの練習(2) ⑬ ダブルスの試合(1) ⑭ ダブルスの試合(2) ⑮ 授業内実技試験 									
評価方法	授業への取り組み姿勢 40%、積極性 20%、授業内実技試験 40%となります。									
講義外での学習	授業で学んだことを、次週までに理解し、実践できるようにしましょう。									
履修上の注意事項	受講に際しては積極的に課題に取り組む、周りの迷惑にならないようにしましょう。 ※先修科目： 特になし。									
教材	◆教科書： 指定なし ◆参考書： 指定なし									
実務経験のある教員による授業科目										

科目名	文章作成1					授業タイプ		講義	
科目区分	総合教育	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	伊奈 辰喜（非常勤）、坂本 修一（非常勤）、鈴木 洋志（非常勤）、同免木 利加（非常勤）、本池 彩（非常勤）								
授業の概要	<p>キーワード：「何を書くか」、「どう書くか」、「読み手に伝わるか」</p> <ul style="list-style-type: none"> 「書く」という観点から、表現する力はもとより、学び、考えるための基礎力として、読解、要約、思考、語彙の力をつける。 テキスト『改訂文章作成技法』の内容に準拠しつつ、大学生の書くレポートはどのようなものであるべきか考えるとともに、課題による実践の機会を設ける。 								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 意見を表明するためには「問題意識」や「知力」が必要であることを理解する。 レポートや論文だけでなく、就職時におけるエントリーシートや、その後必要となる公的、客観的な文章を書くにあたっての基礎的な知識と技法を習得する。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
						○	○		
授業計画	<p>① ガイダンス (1) 受講の心構え：学習の目標、単位認定と評価のための具体的方法 (2) 授業の方法等：授業の進め方、教科書、配付資料、ノートのとり方等 (3) 原稿用紙の使い方</p> <p>② レポートとは ③ レポートの実例 ④ レポートの書き方 ⑤ レポートを書くために ⑥ 中身の作り方 ⑦ レポート作成の流れ ⑧ 段落を意識して書く（パラグラフ・ライティング） ⑨ レポートの中身を作るための基礎力（いろいろな活動） ⑩ レポートの中身を作るための基礎力（いろいろな活動） ⑪ レポートの中身を作るための基礎力（いろいろな活動） ⑫ レポートの中身を作るための基礎力（発表） ⑬ レポートの中身を作るための基礎力（発表） ⑭ 論文執筆のヒント ⑮ 授業のまとめ：何を書くか、どう書くか、読み手に伝わるか ⑯ 定期試験</p> <p>※ 以上の計画の中で、随時、授業内容に応じた課題による文章の「執筆」「推敲」「提出」「添削」「校正を経て再提出」等の実践演習を行う。</p>								
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 上記「授業計画」の「①ガイダンス」で具体的に示す「受講状況（発言や毎回提出を求める授業レポートの内容等も含む）（30%）」、「課題提出状況（30%）」、「前期試験の結果（40%）」のそれぞれを重視し、評価する。 								
講義外での学習	<ul style="list-style-type: none"> 「書く」と「読む」とは表裏一体である。できるだけ多くの書物を読み、いろいろなものの考え方はもとより、語彙と表現技法の獲得に努めること。 問題意識がなければ何も書けない。生活のさまざまな場面において、クリティカルな姿勢を持つよう努めること。 論拠がなければ何も書けない。生活のさまざまな場面において、客観的な姿勢を保ち、より多くの正確な情報を収集するよう努めること。 								
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 授業開始までにテキストを大まかに通読し、毎回の授業前にはシラバスに準じてテキストを精読しておくこと。 手書きでの課題提出も多く見込まれるため、原稿用紙の使い方を熟知することはもとより、読みやすい文字を楷書で丁寧に書くよう努めること。 <p>※先修科目： 特になし。</p>								
教材	<p>◆教科書： 『改訂文章作成技法』（2024年度版 環大発行）及び授業で配付する資料</p> <p>◆参考書： 教科書末尾に「参考文献」として紹介。他に、授業においても紹介。</p>								
実務経験のある教員による授業科目									
高等学校教諭（国語）等の免許状を有し、高等学校・予備校等において、文章全般の指導に実践的に携わった経験を活かして指導する。									

科目名	文章作成 2					授業タイプ		講義	
科目区分	総合教育	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	後期
教員名	伊奈 辰喜（非常勤）、坂本 修一（非常勤）、鈴木 洋志（非常勤）、同免木 利加（非常勤）、本池 彩（非常勤）								
授業の概要	<p>キーワード：「何を書くか」、「どう書くか」、「読み手に伝わるか」</p> <ul style="list-style-type: none"> 「書く」という観点から、表現する力はもとより、学び、考えるための基礎力として、読解、要約、思考、語彙の力をつける。 テキスト『改訂文章作成技法』の内容に準拠しつつ、大学生の書く客観的な文章とはどのようなものであるべきかについて考えるとともに、課題による実践の機会を「文章作成1」以上に多く設ける。 								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 意見を表明するためには「問題意識」や「知力」が必要であることを理解する。 レポートや論文だけでなく、就職時におけるエントリーシートや、その後必要となる公的、客観的な文章を書くにあたっての基礎的な知識と技法を習得する。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
						○	○		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス <ol style="list-style-type: none"> (1) 受講の心構え：学習の目標、単位認定と評価のための具体的方法 (2) 授業の方法等：授業の進め方、教科書、配付資料、ノートのとり方等 ② 高校から大学への基礎力の総復習（助詞「は」と「が」） ③ 分かりやすく正確な文章 ④ 文レベルのチェック（誤解を招かない文） ⑤ 文レベルのチェック（わかりやすい文） ⑥ 文レベルのチェック（簡潔な文） ⑦ 文と文の関係を明示する接続詞 ⑧ 接続助詞等 ⑨ ひとつの文の適切な書き方（文法面から） ⑩ ひとつの文の適切な書き方（表現面から） ⑪ 文字の正しい使い方 ⑫ コラムの文章を読む ⑬ コラムの文章を読む ⑭ 語彙力を鍛える ⑮ 授業のまとめ：何を書くか、どう書くか、読み手に伝わるか ⑯ 定期試験 <p>※ 以上の計画の中で、随時、授業内容に応じた課題による文章の「執筆」「推敲」「提出」「添削」「校正を経て再提出」等の実践演習を行う。</p>								
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 上記「授業計画」の「①ガイダンス」で具体的に示す「受講状況（発言や毎回提出を求める授業レポートの内容等も含む）（30%）」、「課題提出状況（30%）」、「後期試験の結果（40%）」のそれぞれを重視し、評価する。 								
講義外での学習	<ul style="list-style-type: none"> 「書く」と「読む」とは表裏一体である。できるだけ多くの書物を読み、いろいろなものの考え方はもとより、語彙と表現技法の獲得に努めること。 問題意識がなければ何も書けない。生活のさまざまな場面において、クリティカルな姿勢を持つよう努めること。 論拠がなければ何も書けない。生活のさまざまな場面において、客観的な姿勢を保ち、より多くの正確な情報を収集するよう努めること。 								
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 授業開始までにテキストを大まかに通読し、毎回の授業前にはシラバスに準じてテキストを精読しておくこと。 手書きでの課題提出も多く見込まれるため、原稿用紙の使い方を熟知することはもとより、読みやすい文字を楷書で丁寧に書くよう努めること。 <p>※先修科目：履修にあたって、「文章作成1」を履修しておくことが望ましい。</p>								
教材	<p>◆教科書：『改訂文章作成技法』（2024年度版 環大発行）及び授業で配付する資料</p> <p>◆参考書：教科書末尾に「参考文献」として紹介。他に、授業においても紹介。</p>								
実務経験のある教員による授業科目									
高等学校教諭（国語）等の免許状を有し、高等学校・予備校等において、文章全般の指導に実践的に携わった経験を活かして指導する。									

科目名	数理基礎					授業タイプ		講義				
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期			
教員名	吉田 聡 (専任)											
授業の概要	<p>キーワード：集合、行列、論理</p> <p>前半では、数理・データサイエンス・AI 分野をはじめとする様々な分野の問題解決に必須となる集合と行列の基本を学びます。後半では、コンピュータ理論の歴史を概観し、その背景にある論理と数学的証明について学びます。</p> <p>この科目では、数学的能力の向上を図ると共に、「数学とは何か？コンピュータとは何か？」を考えていきます。</p>											
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集合と行列の基礎を理解する。 ・ 論理を理解し、論証を行えるようになる。 					カリキュラムマップ項目						
						I	II	III	IV	V	VI	VII
						○						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 集合：集合の記法と表現、集合の演算（和集合、共通部分、補集合、空集合） ② 集合：ド・モルガン則、集合による問題の表現 ③ 集合：関数、濃度 ④ 行列：2×2 行列 ⑤ 行列：2 元 1 次連立方程式 ⑥ 行列：平面上の直線の変換 ⑦ 第 1 回～第 6 回までの復習、確認試験 ⑧ コンピュータ理論の歴史：円周率 ⑨ コンピュータ理論の歴史：ウソつきとパラドックス ⑩ コンピュータ理論の歴史：ゲーデルの不完全性定理、チューリングマシン ⑪ 論理：命題論理 ⑫ 論理：述語論理 ⑬ 論理：否定の述語論理式 ⑭ 数学的証明：直接的証明 ⑮ 数学的証明：否定命題の証明 ⑯ 定期試験 											
評価方法	確認試験(40%)、定期試験(50%程度)、レポート(10%)によって評価します。											
講義外での学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回の講義では、復習を行っていることを前提に説明を進めていきます。 ・ 個人学習において、資料の例題と演習問題を必ず復習しておいて下さい。 											
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中高の算数・数学教科書など、これまで使用してきた数学関連書籍を参照できるようにしておくことが望ましいです。 ・ 授業支援システム利用のため、毎回の講義ではパソコンを準備しておいてください（利用開始は 1 年次生の PC 利用が可能になる 5 月頃より）。 <p>※先修科目： なし。</p>											
教材	<p>◆教科書： 資料を配布する。</p> <p>◆参考書： 講義時に紹介する。</p>											
実務経験のある教員による授業科目												

科目名	特別講義A 【COC】					授業タイプ		講義		
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	1	単位数	2	開講区分	後期	
教員名	今井 正和（専任）									
授業の概要	キーワード：くらし、経済、法律									
	鳥取県消費生活センターと連携して、賢く社会生活を送るために必要となる様々な知識を身につけることを目指した学内外の講師によるオムニバス形式での講義を実施する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 賢く社会生活を送るために必要となる種々の知識を学修し、日常生活で活用できるようになること。 経済や法律に関係した知識を中心に学修し、日常生活で活用できるようになること。 						カリキュラムマップ項目			
							I	II	III	IV
授業計画	鳥取県消費生活センターと連携して授業を行う。次のような消費生活に関係の深いトピックを設定し、学内外の講師によるオムニバス形式で授業を実施する。									
	<p>消費者問題</p> <p>くらしと法</p> <p>労働者の権利</p> <p>犯罪被害者支援</p> <p>社会保障</p> <p>テーマについては、ここにあげたもの以外の各回の具体的な授業内容や担当教員、順序などの詳細については、決まり次第別途掲示により知らせるので、受講する学生は掲示に注意しておくこと。</p> <p>なお、16回目に定期試験を実施する。</p>									
評価方法	各回の担当教員が作成した試験問題により学期末に実施する定期試験を75%以上、授業参加態度を最大25%以下で評価を行う。									
講義外での学習	講義内容を復習し、理解を深めるようにすること。									
履修上の注意事項	鳥取県消費生活センターとの連携した授業であるため、一般県民も受講する。周囲や講師に迷惑をかけないように、受講の際にはマナーを守ることを心がけること。 ※先修科目： 特になし。									
教材	<p>◆教科書： 特になし。必要に応じて、適宜授業中に配布する。</p> <p>◆参考書： 特になし。必要に応じて、適宜授業中に配布する。</p>									
実務経験のある教員による授業科目										

科目名	特別講義B					授業タイプ		講義	
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教員名	成田 正久(非常勤)								
授業の概要	<p>キーワード：DX(Digital Transformation), IoT(Internet of Things), GX(Green Transformation)</p> <p>昨今、デジタルトランスフォーメーション(DX)という言葉をよく耳にする。世の中は、情報システムの発展とつながる社会の進行において、産業・流通、社会・公共、様々な分野でグローバル化とDXが必要となっている。本講義では、そもそもDXとは何で、なぜDXが各分野で必要とされているかを解説し、一般社会での応用例をもとに実務的な活用事例を学ぶ。その中でDX実現に必要な考え方や技術を学び、実社会でのDX実現に関する課題について考え、ディスカッションを通して理解を深める。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> DX概要と実社会で必要とされる理由を理解する。 DX及びその実現手段や要素を理解し、実社会での活用する際に抵抗なく取り組める。 事例や課題を通して、IoT環境におけるビックデータの活用やAIを理解する。 	カリキュラムマップ項目							
		I	II	III	IV	V	VI	VII	
			○		○		○		
授業計画	<p>本授業では、DXに関する概要と実社会で必要とされる理由を解説し、事例調査によりDXを実現するための方法や技術を学ぶ。また、DX実現の課題を考え、議論することで、実社会におけるDXに関する基礎知識、考え方を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① イントロダクション：授業の流れ、DXの目的及び必要性 ② DXを実現する手段：IoT、AI、CPS、RPA、BI ツール、画像認識、AR など ③ 産業分野(1)：自動車製造におけるDXの必要性和現状、今後の課題 ④ 産業分野(2)：医薬品製造におけるDXの必要性和現状、今後の課題 ⑤ 産業分野(3)：食品製造におけるDXの必要性和現状、今後の課題 ⑥ 産業分野におけるDXまとめ(課題)：課題説明とディスカッション ⑦ 産業分野の課題発表、解説、ディスカッション ⑧ 社会・公共分野(1)：「鉄道」におけるDXの必要性和現状、今後の課題 ⑨ 社会・公共分野(2)：「道路」におけるDXの必要性和現状、今後の課題 ⑩ 社会・公共分野(3)：「上下水道」におけるDXの必要性和現状、今後の課題 ⑪ 社会・公共分野におけるDXまとめ(課題)：課題説明とディスカッション ⑫ 社会・公共分野の課題発表、解説、ディスカッション ⑬ グリーントランスフォーメーション(GX)とは ⑭ 産業DXとGX ⑮ 社会DXとGX、最終課題の説明 								
評価方法	<p>授業時間中に発表・質疑応答を行うことや、それをまとめたレポートの提出を求める(50%)。授業中の発言を重視する(加点あり)。最終課題に対して、期末レポートを提出(50%)し、合わせて評価を行う。</p>								
講義外での学習	<p>今後、自身が研究や事業のDXに関するプロジェクトを担当する際に、基礎的な知識を持ち、アレルギーなく業務を行えるようになる。そのために、より深く理解するため、授業中に行った課題やケーススタディを自分の言葉や考え方で整理しておく必要がある(課題提出)。理解できない部分の質問は歓迎する。</p>								
履修上の注意事項	<p>講義資料を学内Webで閲覧したり、授業時間内にeメールなどでレポートを提出するため、パソコンを持参すること。履修希望者が多数の場合は抽選とすることがある。</p> <p>※先修科目： 特になし</p> <p>※他学部履修： 特になし</p>								
教材	<p>◆教科書： 特に指定しない。教員が作成した教材を使用し、電子的に配布する。</p> <p>◆参考書： 特に制限なし、事前確認不要</p>								
実務経験のある教員による授業科目									
<p>民間企業においてDXおよびGXプロジェクトのプロジェクトマネージャや事業責任者としての経験をもとに、その成功や失敗の体験を通じて、DXの実態や問題点と応用について実践的な見地から講義する。</p>									

科目名	特別演習A 【COC】					授業タイプ		実習		
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	1	単位数	1	開講区分	前期集中 後期集中	
教員名	代表教員：吉田 聡、科目担当：テーマ毎に指定される教員が担当									
授業の概要	キーワード：地域、産業、体験学習									
	<p>本科目は、社会体験やフィールドワーク等の体験学習による学修を目的とした演習科目です。地域社会や具体的な産業等をテーマとして設定し、テーマに応じた体験学習を行うことで、それらの現状と課題を認識し、提言等を行います。また、学修効果を高めることを目的として、事前および事後の学習を行います。</p> <p>具体的なテーマ、シラバス、担当教員について、決まり次第、掲示等で周知します。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会や具体的な産業等の現状と課題を認識する能力を高める。 課題を分析する能力を高める。 ※具体的な到達目標について、別に定める各担当教員のシラバスを参照して下さい。						カリキュラムマップ項目			
							I	II	III	IV
授業計画	別に定める各担当教員のシラバスを参照して下さい。									
評価方法	別に定める各担当教員のシラバスを参照して下さい。									
講義外での学習	別に定める各担当教員のシラバスを参照して下さい。									
履修上の注意事項	テーマによっては土日等に体験学習等を実施することがあります。 ※先修科目：なし。									
教材	◆教科書： ◆参考書：									
実務経験のある教員による授業科目										

科目名	特別演習B 【COC】					授業タイプ		実習			
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	1	単位数	1	開講区分	前期集中 後期集中		
教員名	代表教員：倉持 裕彌										
授業の概要	<p>キーワード：地域実践経営、社会問題、フィールドワーク、地域副専攻</p> <p>本授業は、地域副専攻において主に地域経営に関する実践的な学びを目的とするフィールドワークを中心とした講義である。複数の担当講師がそれぞれ独自のプログラムを作成し集中型の講義を行う。詳細はプログラム毎に掲示を行うので履修希望者は掲示を確認してほしい。（人数制限 有）</p>										
到達目標	<p>各プログラムには共通して以下の目標を設定する。 対象とするテーマについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識を身に付ける。 ・実態について理解する。 ・課題を理解する。 					カリキュラムマップ項目					
						I	II	III	IV	V	VI
授業計画	<p>プログラムの詳細は各担当教員が掲示する。 一例として昨年度実施した内容を以下に示す。</p> <p>【昨年実施プログラム例：テーマ「NPOの活動に対する理解を深める」】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション（事前学習）：NPO、ボランティアの基礎知識を学ぶ。フィールドワークの準備を行う。 ② フィールドワーク 1日目（土日等の午前のみ 3コマ分相当） 対象となるNPO、ボランティア団体の活動について、作業を共にすることで理解を深める。 ③ フィールドワーク 2日目（土日等の午前のみ 3コマ分相当） 作業を共にしつつ、対象としたNPOやボランティア団体のメンバーと議論を行い、彼らの活動が抱える問題点や社会問題の解決の難しさについて理解を深める。 ④ まとめ（事後学習）：フィールドワークに参加したメンバーとワークショップを行い、フィールドワークで得られた知見についてより深く理解することを目指す。 <p>※補足すると、事前のオリエンテーションは前期の空きコマを活用し学内講義室で実施、フィールドワーク、まとめは夏期休業時に行った。日程の詳細は履修希望者の希望を踏まえつつ決定した。</p> <p>本年はフィールドワークのプログラムが複数組まれる予定である。なお、複数のプログラムへの参加希望を認める場合もある。ケースごとに決定するので、興味のある学生は代表教員まで相談すること。</p>										
評価方法	<p>実習への積極的な参加、基礎的な知識の習得を評価する。 なお、各プログラムによって評価方法は異なる。 例) 小レポート (50%)、フィールドワークへの参加 (50%)</p>										
講義外での学習	各プログラムのテーマに対する関心を日頃から持つこと。										
履修上の注意事項	<p>少人数（5～10名程度）で開講する。受け入れ先の数に応じて若干変動する。 履修希望者が多い場合は、副専攻履修者を優先したうえで別途選考を行う。（詳細は掲示する） ※先修科目： 特になし。</p>										
教材	<p>◆教科書： なし ◆参考書： 必要に応じて紹介します。</p>										
実務経験のある教員による授業科目											
プログラムにより実務経験のある教員による授業科目に該当する。（詳細は掲示する）											

科目名	特別演習C					【COC】		授業タイプ		実習	
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	1	単位数	1	開講区分	前期集中 後期集中		
教員名	代表教員：吉永 郁生										
授業の概要	<p>キーワード：地域課題、自然資本、体験型学習</p> <p>座学による学習は理論中心となる傾向が強い。この特別演習Cでは、身につけた（あるいはこれから身につける）理論の応用を意識するために、いくつかの現場に赴き、調査や活動などの体験型学習を通して課題を発見し、具体的な命題まで落とし込み、実践的に解決する力を養うことを目的とする。想定している現場は各種の施設や野外における活動のほか、ワークショップや演習等の活動までも含めるが、複数のプログラムを開講し、各プログラムに関しては、別にシラバスを作成する。実施にあたっては、プログラムごとに人数制限を設ける。</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 単なる学外活動だけではなく、事前学習やそのほかの探索的学習で得た知識や技能を実際の現場で応用し、得られた個人的な見解をレポートやプレゼンテーションで表現できる。 					カリキュラムマップ項目					
						I	II	III	IV	V	VI
		○	○	○		○	○	○			
授業計画	<p>開講するプログラムによって異なるが、おおむね下記のように授業を進める。</p> <p><事前学習> 担当する教員や外部講師によるガイダンスや講義を受講し、体験型学習を行うための基礎的な知識や技能を身につける。</p> <p><体験型学習> 大学内、あるいは現場に赴き、実習を行う。（1～2日間だが、プログラムによってより長くなる場合もある。）主に、土日祝日か長期休暇の期間に集中して実施する。</p> <p><事後学習> レポートやプレゼンテーションを行う。</p>										
評価方法	レポート等（50%）、実習中の活動内容・状況（50%）										
講義外での学習	多くの場合、復習を含めた自主学習が必要である。										
履修上の注意事項	<p>少人数で実施するため、受動的ではなく主体的な学習や活動が必要となる。また大学外の人々とともに取り組むプログラムが多いため、コミュニケーション力が必要になる。履修にあたっては一つ一つのものごとにまじめに取り組む姿勢が大事である。</p> <p>※先修科目： 特になし</p>										
教材	<p>◆教科書：</p> <p>◆参考書：</p>										
実務経験のある教員による授業科目											

科目名	文学					授業タイプ		講義	
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	1	単位数	2	開講区分	後期
教員名	松本 陽子（非常勤）								
授業の概要	キーワード： 日本近代文学、中国・上海、異文化体験								
	明治以降、多くの日本人が訪れ、深い関わりを持った中国・上海を、近代日本人作家等はどのように描いたのか。当時の写真や地図等を参考にしながら読み進め、理解を深めたい。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本近代文学作品に描かれた、日本と中国の関わり の多様性を知る。 文学について考える糸口を見つける。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 日本近代文学と中国・上海 概説 谷崎潤一郎の〈支那趣味〉 谷崎潤一郎『鶴唳』を読む(1) 谷崎潤一郎『鶴唳』を読む(2) 村松梢風と上海 村松梢風『魔都』を読む(1) 村松梢風『魔都』を読む(2) 芥川龍之介 中国と西洋のはざままで 芥川龍之介『支那遊記』を読む(1) 芥川龍之介『支那遊記』を読む(2) 芥川龍之介『支那遊記』を読む(3) 林京子の故郷と異郷 林京子『ミッシェルの口紅』を読む(1) 林京子『ミッシェルの口紅』を読む(2) 林京子『ミッシェルの口紅』を読む(3)、まとめ 								
評価方法	期末レポート（100％）、定期試験は実施しない。								
講義外での学習	講義で扱った文学作品を各自読み直し、文学に親しむことが望ましい。								
履修上の注意事項	近代における日本と中国の歴史を理解しておくことが望ましい。 ※先修科目： 特になし。								
教材	◆教科書： なし。プリントを配布する。 ◆参考書： 参考文献を随時紹介する。								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	地理学入門					授業タイプ		講義(AL)					
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期				
教員名	柚洞 一央 (専任)												
授業の概要	キーワード：地域、環境、地理学												
	<p>地理学は人の活動と人を取り巻く空間がどのように結びつき、地域として成立しているのか、また地域がどのような特徴を持つようになるのかということを知り、これを解明する学問である。本講義では、地理学を学ぶうえで必要となる基礎的な知識や考え方を学習し、地理的な見方・考え方の習得を目指す。また、受講生と相談しながらフィールドワークを実施し、現場で考えることの重要性を理解する。人文地理学の内容を主とするが、自然地理学の視点も随時取り入れ、文理融合学問としての地理学の特性を理解する。</p>												
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地理学の基礎を理解する。 ・地理的なものの見方を理解する。 						カリキュラムマップ項目						
							I	II	III	IV	V	VI	VII
							○	○			○	○	○
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス～系統地理学と地誌学～ ② 自然景観と文化景観 ③ 地域的観点と地域構造 ④ 環境（1）環境論の系譜 ⑤ 環境（2）砂漠化から考える人間による環境変化 ⑥ 農業・農村（1）食卓から考えるフードチェーン ⑦ 農業・農村（2）村落景観と農業立地 ⑧ 都市（1）都市とは何か ⑨ 都市（2）都市景観と都市システム ⑩ 経済（1）商店街の今昔 ⑪ 経済（2）産業立地を考える ⑫ 文化・観光（1）人間と空間 ⑬ 文化・観光（2）観光と地域 ⑭ 地域を調査する～現場で問いを立てる～ ⑮ まとめ 												
評価方法	小課題（30％）、レポート（70％）												
講義外での学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義で紹介する文献を読み理解を深める。 ・ 日頃から景観観察を行うこと。 												
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内で小課題を出します。 ・ 高校で「地理」を選択していなくても受講できます。 ・ 「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を展開します。積極的に参加してください。 <p>※先修科目： なし。</p>												
教材	<ul style="list-style-type: none"> ◆教科書：指定しない（授業でプリントを配布） ◆参考書：講義内で紹介する 												
実務経験のある教員による授業科目													
<p>実務経験（教育委員会での地域づくり実践や市役所職員、ジオパーク審査員など）で得られた情報や地域社会の動かし方などを授業内容に取り入れることで、実社会での実践に応用できる考え方やスキルを習得することを重視する。</p>													

科目名	SDGs 基礎					授業タイプ		講義	
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	1	単位数	2	開講区分	後期
教員名	高井 亨(専任)、谷口 謙次(専任)、相川 泰(専任)、佐藤 伸(専任)、 田島 正喜(専任)、角野 貴信(専任)、柚洞 一央(専任)、甲田 紫乃(専任)、 竹内 由佳(専任)、連 宜萍(専任)、								
授業の概要	<p>キーワード：SDGs (持続可能な開発目標)、環境、社会、経済</p> <p>世界を見渡すと、貧困、格差、テロ、終わりの見えない戦争や紛争、地球環境の破壊など、解決困難な問題が山積しています。このような状況を変革するために掲げられた目標が SDGs です。SDGs は 2015 年の国連総会にて全会一致で採択された 2030 年までに取り組むべき 17 のゴールからなります。「誰一人取り残さない」世界をつくるために、あらゆる主体が目標達成に向けて行動することが求められます。そこで本講義は、SDGs を達成するために役立つさまざまな知識や道具を提供します。なお各回 1 回完結の講義となっています。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> SDGs の理念や目標の基礎となる学問領域を知り、社会の複雑性・多様性を説明できる。 SDGs 達成に向けた多角的な考え方を自らの視点で考えることができる。 SDGs 達成に向けた実践事例を通して理解を深めている。 	カリキュラムマップ項目							
		I	II	III	IV	V	VI	VII	
		○						○	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス + SDGs を考える (高井) ② 特別講義・SDGs と社会的共通資本を考える (占部；学外講師) ③ SDGs の来た道 (相川) ④ 感染症の歴史と SDGs (谷口) ⑤ グルメコーヒーは世界を変える (佐藤) ⑥ 持続的な自然と物理法則 (足利；学外講師) ⑦ 持続可能なエネルギー供給－水素製造モデル (田島) ⑧ 持続可能な社会における土壌資源管理とその指標化 (角野) ⑨ 地球の気持ちに寄り添う：ジオパークという挑戦 (柚洞) ⑩ 持続可能な社会に向けてのパートナーシップのあり方 (甲田) ⑪ SDGs とマーケティング (竹内) ⑫ 持続可能なファッションとは何か？ (連) ⑬ SDGs と企業経営 (中尾；学外講師) ⑭ SDGs と住み続けたい地域づくり (松浦；学外講師) ⑮ 世界は SDGs の意味で持続可能か (高井) <p>※ 講義の順序は変更となることがありうる。また、学外講師については土曜に授業を実施することがある。</p>								
評価方法	<p>特別講義のミニレポート(10%)＋期末レポート(90%)。期末レポートは、ランダムに指定された 3 回分の講義について、各回 1000 字合計 3000 字程度の分量で作成することになります。評価は、「SDGs 基礎」のレポートルーブリックをもとにするため、異なる教員間でも公平性が保たれます。<u>レポートの評価基準は (1) 授業内容理解度、(2) 分析力、(3) 考察力、(4) 論述力、(5) 作成努力</u>。レポート提出後、不正行為が発覚した場合、単位認定を取り消します。</p>								
講義外での学習	授業支援システムを必ず毎回、確認してください。教科書の担当教員の章を事前に読んでおいてください。								
履修上の注意事項	※先修科目： 特になし。								
教材	<p>◆教科書： 高井亨・甲田紫乃編著 (2020) 『SDGs を考える－歴史・環境・経営の視点からみた持続可能な社会』ナカニシヤ出版。</p> <p>◆参考書：</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	環境学概論					授業タイプ		講義	
科目区分	総合教育	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	荒田 鉄二（専任）								
授業の概要	キーワード：有限性、持続性、環境容量								
	人間と自然の関係、人間の生存基盤としての環境の役割、更に地球温暖化、生物多様性の減少、化学物質による環境汚染等の今日の地球規模の環境問題について学ぶ。また、持続性の概念・指標および持続可能社会づくりの取り組みについて学ぶ。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 人間の生存基盤としての環境の役割について理解する。 地球の有限性の顕在化に伴う持続性問題の構造を理解する。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
						○			○
授業計画	<p>① 講義概要：人間と環境についての概念整理。</p> <p>② 自然界における人間の位置：人間と自然の関係について学ぶ。</p> <p>③ 地球の基礎知識：人間の生存基盤としての地球環境について学ぶ。</p> <p>④ いま地球で起きていること：地球の有限性の顕在化に伴う問題の構造を学ぶ。</p> <p>⑤ 地球温暖化とエネルギー：温暖化の状況、影響、緩和策および適応策について学ぶ。</p> <p>⑥ 環境問題の歴史：文明以前も含めた過去の環境破壊について学ぶ。</p> <p>⑦ エネルギーと環境の関わり、再生可能エネルギー等について学ぶ。</p> <p>⑧ 生物多様性：生物多様性の現状と生物多様性保全のための取り組みについて学ぶ。</p> <p>⑨ 循環型社会：廃棄物リサイクルと循環型社会構築について学ぶ。</p> <p>⑩ 化学物質：化学物質による汚染とその防止策について学ぶ。</p> <p>⑪ 環境と経済：経済成長と環境負荷の関係について学ぶ。</p> <p>⑫ 持続可能とは：持続性の概念とその指標について学ぶ。</p> <p>⑬ 持続可能社会(1)：都市における持続可能社会づくりについて学ぶ。</p> <p>⑭ 持続可能社会(2)：農村における持続可能社会づくりについて学ぶ。</p> <p>⑮ 持続可能社会(3)：持続可能な産業について学ぶ。</p> <p>⑯ 定期試験。</p>								
評価方法	定期試験により評価する（100%）。								
講義外での学習	講義中に紹介する本を、少なくとも1冊は読むこと								
履修上の注意事項	講義中は静粛を保つこと。 ※先修科目： なし。								
教材	<p>◆教科書： なし</p> <p>◆参考書： 東京商工会議所、eco 検定公式テキスト改訂9版、日本能率協会マネジメントセンター（2023）</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	離散数学					授業タイプ		講義	
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教員名	吉田 聡 (専任)								
授業の概要	<p>キーワード：関係、数え上げ、グラフ</p> <p>コンピュータ科学の基盤である数え上げ可能な構造（離散構造）の基礎的事項を学びます。前半では、データ構造とアルゴリズムの数学的基礎である集合、数学的帰納法、関係、数え上げを学びます。後半では、ネットワークの数理的表現と問題解決方法を与えるグラフ理論の基礎を学びます。</p> <p>この科目では、コンピュータ技術の課題の本質を理解するための数学的能力の向上を目指します。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 集合、関係離散構造に関する基本的概念を理解し、その数理的表現を行えるようになる。 離散構造に関する問題解決のための技法を理解する。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
						○			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 集合 ② 関数 ③ 同値関係 ④ 順序関係 ⑤ 順列、組合せ、数え上げ ⑥ 数学的帰納法 ⑦ 再帰的定義 ⑧ 復習、確認試験 ⑨ 無向グラフ、連結性 ⑩ 一筆書き問題、ハミルトン閉路問題 ⑪ グラフ同型 ⑫ 重み付きグラフ、最短経路問題 ⑬ 最小全域木問題 ⑭ 行列 ⑮ 行列によるグラフの表現 ⑯ 定期試験 								
評価方法	確認試験（40%）、定期試験（50%）、レポート（10%）によって評価します。								
講義外での学習	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の講義では、復習を行っていることを前提に説明を進めて行きます。 個人学習において、資料の例題と演習問題を必ず復習しておいて下さい。 								
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 小中高の算数・数学教科書など、これまで使用してきた数学関連書籍を参照できるようにしておくことが望ましいです。 授業支援システム利用のため、毎回の講義ではパソコンを準備しておいてください。 <p>※先修科目： なし。</p>								
教材	<p>◆教科書： 資料を配布する。</p> <p>◆参考書： 講義中に適宜紹介する。</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	データ構造とアルゴリズム					授業タイプ		講義			
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期		
教員名	齊藤 明紀 (専任)										
授業の概要	キーワード： データ構造、アルゴリズム、計算量										
	情報の処理のためには、コンピュータが実行可能な形で処理内容を記述しなければならない。そのために、電算処理向けの問題の定式化、処理方法(アルゴリズム)、データの格納方式(データ構造)を学ぶ。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整列や探索等の基本的アルゴリズムが使用できる ・ 再帰や動的計画法など高度なアルゴリズムを知る ・ スタック、キューなど基本的データ構造を習得する ・ 分割統治法などアルゴリズム設計の戦略を知る。 ・ アルゴリズムをみて計算量を見積もることができる 					カリキュラムマップ項目					
						I	II	III	IV	V	VI
						○					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 総論とアルゴリズム入門、 ② 情報科学の基本と python 環境 ③ アルゴリズムの威力 ④ データの整列(ソート) ⑤ ソートを改良する。データの探索 1 ⑥ データの探索 2 ⑦ ハッシュテーブル、グラフ構造 ⑧ グラフの探索 ⑨ グラフの最短経路、アルゴリズムの戦略 ⑩ 動的計画法 ⑪ 問題の難しさ ⑫ 乱択アルゴリズム ⑬ 乱択アルゴリズムと数論 ⑭ 素数判定。いろいろなソート。 ⑮ 現代社会を支えるアルゴリズム ⑯ 定期試験 										
評価方法	定期試験(60%)、課題(宿題)およびレポート(25%)、講義中の演習・受講態度(15%)で評価する。										
講義外での学習	課題(宿題)は必ず行うこと。予習復習を行うこと。										
履修上の注意事項	<p>アルゴリズムの説明は主に python の記法を用いる。PC 持参が望ましい。</p> <p>※先修科目： プログラミングを履修しておくことを強く勧める。履修していない場合にはある程度の python の独習が必要である。</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>										
教材	<p>◆教科書： 辻真吾他、データサイエンス入門シリーズ python で学ぶアルゴリズムとデータ構造、講談社</p> <p>◆参考書：</p>										
実務経験のある教員による授業科目											

科目名	AI					授業タイプ		講義	
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	前期
教員名	堀 磨伊也（専任）、佐川 龍之（専任）								
授業の概要	<p>キーワード：ビッグデータ、機械学習、深層学習</p> <p>ビッグデータや人工知能（AI）技術の活用領域は予測、意思決定、異常検出、自動化、最適化など多岐にわたって急速に拡大している。本講義ではAIの歴史と発展を知るとともに、AIの種類や機械学習、深層学習で用いられる各種技術についての基礎知識を概観する。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> AIを適切に理解し、それを利活用する基礎的な能力が身につく。 実社会でのAI活用事例を説明することができる。 AIは万能ではなく、その活用にあたって様々な留意事項があることを理解できる。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
						○	○		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 社会におけるAI利活用 ② AIの定義と歴史 ③ AIをめぐる動向 ④ AI分野の問題 ⑤ データの利活用 ⑥ 教師あり学習（回帰） ⑦ 教師あり学習（分類） ⑧ 教師なし学習 ⑨ 深層学習の概要 ⑩ 深層学習のさまざまなモデル ⑪ 認識技術の活用事例 ⑫ 自然言語処理技術の活用事例 ⑬ 生成モデル、強化学習 ⑭ AIの構築と運用 ⑮ AIと社会 ⑯ 定期試験 								
評価方法	講義中の課題（50%）＋定期試験（50%）によって評価する。								
講義外での学習	毎回の講義内容について復習するとともに、インターネットや参考書で関連する用語などを調べて理解を深める。								
履修上の注意事項	授業支援システムを利用するため各自パソコンを持参すること。 ※先修科目： ※他学部履修：								
教材	<p>◆教科書： ディープラーニング G 検定公式テキスト第2版（猪狩宇司ら、翔泳社、ISBN 978-4-7981-6594-3）</p> <p>◆参考書： 教養としてのデータサイエンス（北川源四郎ら、講談社、ISBN 978-4-06-523809-7）</p>								
実務経験のある教員による授業科目									
民間企業や研究機関における機械学習やAIについての調査経験を活かし、専門家・実務家の観点に基づく講義を行う。									

科目名	計算機の基礎					授業タイプ		講義	
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	前期
教員名	齊藤 明紀（専任）								
授業の概要	<p>キーワード： コンピュータ、ハードウェア、ソフトウェア</p> <p>現代社会におけるコンピュータの活用事例、誕生からの変遷を通して、情報システムとビジネスの関係や情報科学における情報の表現のしかたを学ぶとともにハードウェア、ソフトウェア、およびネットワークについて学ぶ。さらに情報システムの構築と維持についても取り上げる。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 現代におけるコンピュータの活用携帯を理解する。 ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークに関する知識を身につける。 情報の表現と電算処理の原理を身につける。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① コンピュータとその利用：身近な事例を通して学ぶ ② ビジネスと情報システム：企業における情報システムとビジネスの関係について学ぶ ③ コンピュータとネットワークの歴史(1)：コンピュータの誕生から現在まで ④ コンピュータとネットワークの歴史(2)：ネットワーク社会の成り立ち ⑤ 情報の表現：数値、文字、画像、音声等の情報のデジタル表現を学ぶ ⑥ ハードウェア(1)：コンピュータの構造について学ぶ ⑦ ハードウェア(2)：計算と記憶の原理 ⑧ ソフトウェア(1)：企業の基幹システムにおけるソフトウェア ⑨ ソフトウェア(2)：いかにしてコンピュータに仕事をさせるか ⑩ ソフトウェア(3)：ファイル、データベースの概念 ⑪ ネットワークと情報システム(1)：ネットワークの基礎 ⑫ ネットワークと情報システム(2)：インターネットの基礎 ⑬ 情報システムの基礎と維持：情報システムのライフサイクルや構築手法を学ぶ ⑭ 情報倫理と情報セキュリティ(1)：情報倫理、知的財産権、個人情報 ⑮ 情報倫理と情報セキュリティ(2)：情報システムの信頼性・安全性 ⑯ 定期試験 								
評価方法	定期試験(60%)、課題およびレポート(25%)、講義中の演習・受講態度(15%)で評価する。								
講義外での学習	毎週の課題レポートを行うほか、予習・復習を励行することが重要である。また、教科書や講義内容を鵜呑みにするのではなく事例調査等自主的に学習に取り組むことが重要である。								
履修上の注意事項	<p>※先修科目：</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>								
教材	<p>◆教科書： 魚田 他「コンピュータ概論 情報システム入門 第9版(2023)」(共立出版)</p> <p>◆参考書：</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	画像処理					授業タイプ		講義			
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	前期		
教員名	堀 磨伊也（専任）										
授業の概要	<p>キーワード：デジタル画像、コンピュータビジョン、情報化社会</p> <p>画像処理技術は、コンピュータや通信技術の発展に伴い、情報化社会において必要不可欠なものになっている。製品の検査、監視カメラによる安全の確保、ロボットの視覚などだけでなくスマートフォンに搭載されているカメラ画像においても本講義で学ぶ様々な画像処理技術が応用されている。本講義では画像処理関連技術を体系的かつ有機的に学ぶだけでなく、実社会で応用されている最新の技術についても概観する。</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 画像処理技術を適切に理解し、それを利活用する基礎的な能力が身につく。 実社会での画像処理活用事例に用いられている技術を説明することができる。 					カリキュラムマップ項目					
						I	II	III	IV	V	VI
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① イントロダクション ② デジタル画像の撮影 ③ 画像の性質と色空間 ④ 画素ごとの濃淡変換 ⑤ 空間フィルタリング ⑥ 周波数領域におけるフィルタリング ⑦ 画像の復元と生成 ⑧ 画像の幾何学的変換 ⑨ 2値画像処理 ⑩ 領域分割処理 ⑪ パターン検出とマッチング ⑫ パターン認識 ⑬ 深層学習による画像認識と生成 ⑭ 動画画像処理 ⑮ 画像からの3次元復元 										
評価方法	講義中の課題（70%）＋ 期末レポート（30%）によって評価する。定期試験はなし。										
講義外での学習	毎回の講義内容について復習するとともに、インターネットや参考書で関連する用語などを調べて理解を深める。										
履修上の注意事項	授業支援システムを利用するため各自パソコンを持参すること。 ※先修科目： ※他学部履修：										
教材	<p>◆教科書：</p> <p>◆参考書： デジタル画像処理「改訂第二版」（CG-ARTS、ISBN 978-4-903474-64-9）</p>										
実務経験のある教員による授業科目											

科目名	AI 実践演習					授業タイプ	演習																									
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	後期																							
教員名	佐川 龍之（専任）、堀 磨伊也（専任）																															
授業の概要	<p>キーワード：ビッグデータ、機械学習、深層学習</p> <p>ビッグデータや人工知能（AI）技術の活用領域は予測、意思決定、異常検出、自動化、最適化など多岐にわたって急速に拡大している。本演習では Python を用いた実践演習により AI の種類や機械学習、深層学習で用いられる各種技術の活用方法を学ぶ。</p>																															
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> AI の開発環境および実行環境を構築することができる。 自らの専門領域で必要となる AI 技術を選択し、活用することで問題解決につなげることができる。 					<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="7">カリキュラムマップ項目</th> </tr> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> <th>VI</th> <th>VII</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						カリキュラムマップ項目							I	II	III	IV	V	VI	VII	○		○		○		
カリキュラムマップ項目																																
I	II	III	IV	V	VI	VII																										
○		○		○																												
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 人工知能の概要，開発環境の構築 Python の基礎 1 Python の基礎 2 配列操作 データの可視化・利活用 線形回帰 課題演習 1 分類 クラスタリング ニューラルネットワークによる分類 ニューラルネットワークによる回帰 畳み込みニューラルネットワーク 再帰型ニューラルネットワーク 課題演習 2 生成モデル，強化学習 																															
評価方法	講義中の小課題（60%）＋ 課題演習（40%）によって評価する。定期試験はなし。																															
講義外での学習	毎回の講義内容について復習するとともに、インターネットや参考書で関連する用語などを調べて理解を深める。																															
履修上の注意事項	<p>演習を行うため各自パソコンを持参すること。</p> <p>※先修科目： 「AI」を修得していることが望ましい。</p> <p>※他学部履修：</p>																															
教材	<p>◆教科書： 人工知能技術の教科書（我妻幸長、翔泳社、ISBN 978-4-7981-6720-6）</p> <p>◆参考書： ディープラーニング G 検定公式テキスト第 2 版（猪狩宇司ら、翔泳社、ISBN 978-4-7981-6594-3）</p>																															
実務経験のある教員による授業科目																																
民間企業や研究機関における機械学習や AI についての調査経験を活かし、専門家・実務家の観点に基づく演習を行う。																																

科目名	パターン認識					授業タイプ		講義			
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	後期		
教員名	堀 磨伊也（専任）										
授業の概要	<p>キーワード：画像認識、音声認識、識別器</p> <p>画像・音声などの雑多な情報を含むデータの中から、一定の規則や意味を持つ対象を選別して取り出す処理はパターン認識と呼ばれ、自動販売機の硬貨やお札の識別、デジカメの顔認識、自動音声認識など日常生活においても広く応用されている。本講義では、それら応用の基礎となるパターン認識技術を概観するだけでなく、各自の専門分野にてパターン認識技術を応用できるように理論・方法を学ぶ。</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活で用いられているパターン認識技術を説明できる。 専門分野においてパターン認識技術を応用できる。 					カリキュラムマップ項目					
						I	II	III	IV	V	VI
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① パターン認識とは ② 識別規則と学習法の分類 ③ 汎化能力 ④ ベイズの識別規則 ⑤ 確率モデル ⑥ 確率モデルパラメータの最尤推定 ⑦ k 最近傍法 ⑧ 線形識別関数 1 ⑨ 線形識別関数 2 ⑩ パーセプトロン型学習規則 ⑪ サポートベクトルマシン ⑫ 主成分分析 ⑬ クラスタリング ⑭ 識別器の組み合わせによる性能強化 ⑮ まとめ 										
評価方法	講義中の課題（60%）＋ 期末レポート（40%）によって評価する。定期試験はなし。										
講義外での学習	毎回の講義内容について復習するとともに、インターネットや参考書で関連する用語などを調べて理解を深める。										
履修上の注意事項	授業支援システムを利用するため各自パソコンを持参すること。 ※先修科目： ※他学部履修：										
教材	<p>◆教科書：</p> <p>◆参考書： はじめてのパターン認識（平井有三、森北出版、ISBN 978-4-627-84971-6）</p>										
実務経験のある教員による授業科目											

科目名	AMD実践演習A					授業タイプ		実習・演習	
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	1	開講区分	前期集中
教員名	久保 奨 (専任)								
授業の概要	<p>キーワード： データサイエンス，統計処理，マーケティング</p> <p>社会のデジタル化が進み，あらゆる企業において，よりの確な経営判断，業務効率化などを目指し，データを活用する動きが加速している。</p> <p>本講義では，これまでに学んだデータサイエンス関連の知識を，実際の企業データ（POS データ）に適用し，データの奥に隠れている有用な情報を見つけ出すことを目指す。そのために，3,4人のグループに分かれて，データ分析を行う。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現実の大規模データを取り扱えるようになる ・ データに隠れている有用な情報を引き出せるようになる 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
						○	○	○	
授業計画	<p>8月5日（月）から8日（木）の4日間（合計20時間程度）の集中講義として実施</p> <p>① イントロダクション（1時間） ガイダンス・諸注意，Python 環境の整備などを行う。</p> <p>② Python やデータ解析の基礎（5時間） データ解析を実行するために必要な基本的事項，Python の基礎，データ処理に使われる pandas の機能，POS データの分析例などを学ぶ。</p> <p>③ グループ活動1（5時間） 仮説を設定した上で，データ分析を行う。中間発表に向け，プレゼンの準備を行う。</p> <p>④ 中間発表（1時間） 仮説と分析結果を発表する。</p> <p>⑤ グループ活動2（5時間） 中間発表を踏まえ，仮説の修正やデータの再分析，そして仮説の検証を行う。発表会に向け，プレゼンの準備を行う。</p> <p>⑥ 発表会（2時間） 取りまとめた結果を発表する。</p> <p>※ 上記のほか，POS データを提供いただいた企業の方の講演を調整予定（1時間程度）</p>								
評価方法	演習中の活動状況（50%），発表会の内容（30%），グループ内メンバー間の相互評価（20%）※試験なし								
講義外での学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ POS データに係る書籍を読むなどの予習 ・ データ解析や結果の解釈，プレゼン資料の作成 								
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 統計についての基礎知識を備えていることが求められる ・ 企業の持つデータを扱うために，データ漏洩などには特に注意すること（データ利用に係る誓約書を提出してもらう） ・ パソコン利用必須 <p>※先修科目： なし</p>								
教材	<p>◆教科書： なし</p> <p>◆参考書： 「ID-POS マーケティング」本藤貴康・奥島晶子，英治出版 ISBN：9784862762016</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	AMD実践演習B					授業タイプ		演習	
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	1	開講区分	後期集中
教員名	堀 磨伊也（専任）、今井 正和（専任）								
授業の概要	<p>キーワード：体験学習、Web×IoTメイカーズチャレンジPLUS、ハッカソン</p> <p>鳥取在住の初学者・学生・若手エンジニアを対象としたIoT（Internet of Things、モノのインターネットのこと）システム開発のスキルアップイベントである「Web×IoTメイカーズチャレンジPLUS in 鳥取」に参加し、学修をする。具体的にはIoTの基礎知識、プログラミング環境についての講習を受けたのち、ハッカソンに参加する。ハッカソンでは設定されたテーマを実現する作品を、グループを構成する他の参加者（数名程度）との共同作業で制作する。このためのアイデアワークショップに参加し、作品のコンセプトを作り、ハッカソンでの成果を発表する。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> IoTの基礎知識やプログラミングの基礎知識を習得し、実現することができるようになる。 コンピュータによるハードウェアの制御を学び、実現できるようになる。 グループでのIoT作品作りに参加し、グループに貢献する。 	カリキュラムマップ項目							
		I	II	III	IV	V	VI	VII	
授業計画	<p>本授業は、「Web×IoTメイカーズチャレンジPLUS in 鳥取」に参加することで実施する。24年度の実施については、詳細が決定され次第掲示する。以下に23年度の実施内容を参考までに示す。</p> <p>23年度は鳥取大学鳥取キャンパス（東部会場）と境港市民交流センターみなとテラス（西部会場）にて開催された。</p> <p>第1日 2023年12月24日 10:00～12:40（土） 東部会場</p> <ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション 座学講義（標準/Open Source Software (OSS) 利活用の意義） Raspberry Pi Zero版CHIRIMENを使ったIoTシステム開発のハンズオン講習（導入編） <p>第2日 2024年1月6日（土） 10:00～17:00 西部会場</p> <ul style="list-style-type: none"> Raspberry Pi Zero版CHIRIMENを使ったIoTシステム開発のハンズオン講習（応用編） チーム分け ハッカソンに向けてのアイデアワークショップ チームでの活動 <p>第3日 2024年2月11日（日・祝） 10:00～17:00 東部会場</p> <ul style="list-style-type: none"> チームでハッカソン作品制作作業 <p>第4日 2024年2月12日（月・振休） 10:00～17:00 東部会場</p> <ul style="list-style-type: none"> チームでの作品制作仕上げと発表準備 成果発表会 								
評価方法	成果発表にて報告された活動内容を基にして可否にて評価を行う。								
講義外での学習	本学以外からの参加者とグループを構成し、活動する。第2日と第3日の間に参加者同士で連絡を取り、ハッカソンに向けた準備を行う必要があるため、理解しておくこと。								
履修上の注意事項	授業実施の詳細については、決定次第掲示などで周知する。 ※先修科目： 特になし ※他学部履修：								
教材	◆教科書： ◆参考書：								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	人間居住論					授業タイプ		講義																						
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	前期																					
教員名	張 漢賢（専任）																													
授業の概要	<p>キーワード：居住問題、居住環境整備、包容的都市</p> <p>産業革命以降の都市化、人口増がもたらした世界各地の居住地の拡大や居住環境の変容、格差の顕在化、スラム・スクオッター（不法占拠地区）の発生など、各国における良質な居住環境の確保・改善するための制度とその限界・課題、居住環境評価の考え方や改善の具現化手法について講述する。グローバルな視野をもって各国、各地域の人間居住問題を概観し、人間居住の思想、居住環境整備の手法・制度・到達点から地球環境問題の本質を探る。</p>																													
到達目標	<p>・人間居住の思想、居住環境整備の制度、手法を理解し</p> <p>・人権の基礎となる居住環境の整備課題を通して、地球環境に対する問題意識・着想力を広げる。</p>					<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="7">カリキュラムマップ項目</th> </tr> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> <th>VI</th> <th>VII</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>				カリキュラムマップ項目							I	II	III	IV	V	VI	VII	○			○			○
カリキュラムマップ項目																														
I	II	III	IV	V	VI	VII																								
○			○			○																								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 人間居住論の視座 ② イギリス産業革命時代の都市化と居住環境問題 ③ 理想都市・民間活力・国家の介入 ④ イギリスにおける居住環境整備の制度的対応と発達（その1） ⑤ イギリスにおける居住環境整備の制度的対応と発達（その2） ⑥ 日本における住宅政策の展開（その1） ⑦ 日本における住宅政策の展開（その2） ⑧ 中間テスト＋講義：都市の発展とスラム ⑨ インドネシアのカンボン改善事業 ⑩ 途上国における参加型開発の展開 ⑪ 先進国の居住運動－フランスの事例から－ ⑫ 高齢者から捉える居住環境 ⑬ インフォーマル・セクター ⑭ 貧困とのたたかい ⑮ 人間居住諸課題の変化と展望 ⑯ 定期試験 																													
評価方法	中間テスト（10%）、定期試験（90%）で評価する。																													
講義外での学習	グローバルな視野、時代感覚をもって、地域文化・システムの多様性を意識して履修すること。																													
履修上の注意事項	講義の配布資料だけに頼らずに、講義ノートを必ずとること。 ※先修科目： 特になし																													
教材	<p>◆教科書： 特になし</p> <p>◆参考書： 授業の進行に合わせてその都度指示する。</p>																													
実務経験のある教員による授業科目																														
設計事務所における空間計画・設計行為に強く意識する物理的な空間形成と人間生活の営為の相互関係を、人間居住問題の歴史とその処方箋の視点で講述する。																														

科目名	環境と倫理					授業タイプ		講義		
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	前期	
教員名	荒田 鉄二（専任）									
授業の概要	キーワード：世代間倫理、自然の生存権、全体と個									
	世代間の公平、自然の生存権、全体と個の関係など、環境問題の倫理的側面とそれに関わる様々な議論について解説する。これまで一般に倫理的関心の対象とされてきた個人の行為だけではなく、環境問題を生み出す原因となっている社会の制度的枠組みを対象とした倫理構築の必要性についても解説する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世代間倫理、自然の生存権、生態系中心主義など、環境倫理にかかわる主要な議論を理解する。 ・ 今日の世界環境問題において、なぜ「倫理」が問題となるのかを理解する。 						カリキュラムマップ項目			
							I	II	III	IV
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 講義概要：功利主義的アプローチ、義務に基づくアプローチ、人格に基づくアプローチ、バランスに基づくアプローチという倫理的動機付けの4つの類型について学ぶ。 ② 費用便益分析を考える：費用便益分析と費用効果分析の違いを学ぶ。 ③ 世代間倫理：倫理的考察の垂直的拡張（時間的拡張）としての「世代間倫理」について学ぶ。 ④ 自然の生存権：道徳的受動者という位置づけと、倫理的考察の水平的拡張としての自然の生存権について学ぶ。 ⑤ 地球全体主義：個体論（要素還元主義）と全体論、全体論に基づく倫理としての生態系中心主義について学ぶ。 ⑥ 自然と人間：人間は自然の一部であるのか一部でないのか、自然と人間の関係を巡る様々な議論について学ぶ。 ⑦ 人間中心主義：人間中心主義とは何を意味しているのか、人間中心主義批判の背後にある価値観・世界観について学ぶ。 ⑧ 環境倫理が求められる背景：地球環境問題の顕在化、南北格差の拡大、開発（環境の人工化）の限界など、環境倫理が議論されるようになった背景を改めて学ぶ。 ⑨ 「共有地の悲劇」を読む：G・ハーディンの「共有地に悲劇」を読み、技術的解決策のない問題という問題の類型と、社会的ジレンマ（集合の誤謬）について学ぶ。 ⑩ 救命ボート倫理：負傷者選別の論理と、その持続性問題への応用としての「救命ボート倫理」について学ぶ。 ⑪ ディープ・エコロジー：環境倫理に対する人格に基づくアプローチの一つとしてのディープ・エコロジーについて学ぶ。 ⑫ ソーシャル・エコロジー：人間による人間の支配のあり方が人間による自然の支配（破壊）のあり方を決定するというソーシャル・エコロジーの考え方について学ぶ。 ⑬ 社会制度の倫理：奴隷制度やアパルトヘイト廃絶の歴史、米国における環境レイシズム研究などを参考に、社会制度の中に埋め込まれ、費用便益分析などによって正当化されさえしている制度化された悪の存在について学ぶ。 ⑭ 放射性廃棄物と倫理：映画「100,000年後の安全」を参考に、放射性廃棄物を巡る倫理的議論について学ぶ。 ⑮ 自由と環境：「集団としての人間の自然に対する自由」と「人間集団の内部における個人の自由」の違いを学び、自由と環境を対立的にとらえる視点を克服する視座を学ぶ。 ⑯ 定期試験 									
	評価方法	定期試験により評価する。（100%）								
講義外での学習	講義後に教科書の該当する部分や配布資料を読むなどして復習すること。参考書または講義中に紹介した文献を少なくとも1冊は読むこと。									
履修上の注意事項	授業支援システムから教科書をダウンロードしておくこと。 ※先修科目： 特になし。									
教材	<ul style="list-style-type: none"> ◆教科書： 環境と倫理、公立鳥取環境大学 ◆参考書： ハンス・ヨナス、責任という原理（新装版）、東信堂（2010） 									
実務経験のある教員による授業科目										

科目名	環境と文明					授業タイプ		講義	
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	1	単位数	2	開講区分	後期
教員名	荒田 鉄二（専任）								
授業の概要	キーワード：人工生態系、環境容量、地球温暖化								
	環境を人工化していく過程としての文明の歴史、過去の文明と環境および環境変化との関係、物質・エネルギー代謝からみた工業文明の特性、人工化の限界としての地球環境問題、文明持続の条件等について解説する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 環境を人工化していく過程としての文明の歴史を理解する。 地球生態系内における人工生態系としての文明の位置づけを理解する。 今日の地球環境時代において、なぜ「文明」が問題になるのかを理解する。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
						○			
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 講義概要：各回の講義で取り扱う内容を紹介する。 ② 環境の人工化：映画「コヤニスカッツィ」を参考に、環境の人工化とはどのようなことかを学ぶ。 ③ モノを作る生き物としての人間の歴史：人間は何故モノを作るのかを学ぶ。 ④ 農耕と文明：灌漑農業とそれに基づく都市文明の成立によって、地球システム内に人工生態系が成立したことを学ぶ。 ⑤ 文明の始まりと伝播：「銃・鉄・病原菌」を参考に、どこで文明が始まり、どのように伝播したか、また文明の成立を可能にした環境条件について学ぶ。 ⑥ 古代文明と環境（1）森林破壊：古代文明が引き起こした森林破壊について学ぶ。 ⑦ 古代文明と環境（2）土壌劣化：古代文明が引き起こした土壌劣化について学ぶ。 ⑧ イースター島の文明崩壊：イースター島の文明崩壊を事例に、環境容量と資源利用のオーバーシュートについて学ぶ。 ⑨ 持続可能文明としての江戸：260年にわたって安定を維持した江戸社会の持続性の根源について学ぶ。 ⑩ 中世ヨーロッパと環境：中央集権的な帝政ローマ社会の崩壊後に自立分散型社会として生まれた中世ヨーロッパ社会と環境との関係について学ぶ。 ⑪ 近代ヨーロッパと環境：産業革命の前提としての農業革命、近代ヨーロッパが直面した木材枯渇とエネルギー不足、それを救った石炭利用の意義について学ぶ。 ⑫ 石油文明としての現代文明：現代文明の特徴を、動力機械の使用という技術の観点と、地上のバイオマスから地下に埋蔵された化石燃料（石油）への転換というエネルギー基盤の観点から学ぶ。 ⑬ ドラマ「2016年 石油のなくなる日」を参考に、ピークオイルとそれが世界におよぼす影響について学ぶ。 ⑭ 私たちは何をめざすのか：持続可能な社会について、西欧近代文明という枠組みの中でそれをめざすのか、それとも別の枠組みで考えるのか、二つのアプローチについて学ぶ。 ⑮ 文明の避難場所づくり：大きな破局を迎える前に社会全体が方向転換しない可能性があることを念頭に、文明の避難場所づくりについて学ぶ。 ⑯ 定期試験 								
評価方法	定期試験により評価する。（100%）								
講義外での学習	講義後に教科書の該当する部分や配布資料を読むなどして復習すること。参考書または講義中に紹介した文献を少なくとも1冊は読むこと。								
履修上の注意事項	授業支援システムから教科書をダウンロードしておくこと。 ※先修科目： 特になし								
教材	<ul style="list-style-type: none"> ◆教科書： 環境と文明、公立鳥取環境大学 ◆参考書： ジャレド・ダイヤモンド、文明崩壊（上・下）、草思社（2005） 								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	自然環境保全概論					【COC】	授業タイプ		講義		
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	1	単位数	2	開講区分	後期		
教員名	吉永 郁生(専任)、太田 太郎(専任)、笠木 哲也(専任)、角野 貴信(専任)、重田 祥範(専任)、徳田 悠希(専任)										
授業の概要	キーワード：生態系の保全、生物環境、非生物環境 自然生態系は、動物、植物などが構成する生物環境と、水、土壌、大気などが構成する非生物環境が互い作用し合い、その中を物質が循環しながら成り立っている。授業では生物環境、非生物環境それぞれの構造や両者の相互作用、そしてそれらが健全な状態を保つために必要な対策などを具体例も交えながら考えていく。										
到達目標	・生物環境、非生物環境の成り立ちが理解できる。 ・生物環境、非生物環境の健全な状況が理解できる。 ・生物環境、非生物環境を保全するために必要な対策が理解でき、自ら対策を考える力がつく。					カリキュラムマップ項目					
						I	II	III	IV	V	VI
						○		○	○		○
授業計画	① 自然環境保全プログラムの特性と自然生態系の望ましい状態（吉永） ② 水辺希少動物の生態と生息地の保全（未定） ③ 森林の小型哺乳類の生態と生息地の保全（未定） ④ 地盤災害とその事例（斜面崩壊、地すべり、崖崩れ）（徳田） ⑤ 第四紀の自然環境変遷史（徳田） ⑥ 環境劣化が自然生態系に及ぼす影響（笠木） ⑦ 自然生態系、特に森林生態系の現状と保全（笠木） ⑧ 生態系サービスと生態系のワイズユース（笠木） ⑨ 海洋基本計画と海洋環境保全についての現在の考え方（太田） ⑩ 沿岸海洋の景観と生態系構造（吉永） ⑪ 低次生産から見た海洋環境保全（吉永） ⑫ 気象災害とその事例（大雨、台風、強風、たつ巻、落雷）（重田） ⑬ 水災害とその事例（河川洪水、高潮、波浪、雪氷）（重田） ⑭ 生態系と土壌（角野） ⑮ 土壌および水資源の利用と保全（角野） ⑯ 定期試験										
評価方法	定期試験(100%)										
講義外での学習	講義内容の範囲が広がるため授業後の復習が必要である。										
履修上の注意事項	※先修科目： 特になし ※他学部履修： 不可										
教材	◆教科書： なし。授業の都度、資料を配付する、あるいは授業支援システムにアップする。 ◆参考書： なし。										
実務経験のある教員による授業科目											

科目名	循環型社会形成概論 【COC】					授業タイプ		講義	
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	1	単位数	2	開講区分	後期
教員名	門木 秀幸（専任）、金 相烈（専任）、甲田 紫乃（専任）、佐藤 伸（専任）、田島 正喜（専任）、戸苺 丈仁（専任）、山本 敦史（専任）								
授業の概要	<p>キーワード：持続可能な開発、循環型社会、地球環境問題</p> <p>環境問題に関する日本や世界の取り組みの経緯を通じて、産業公害から地球環境問題への変遷について学び、「持続可能な開発」と「循環型社会」の概念について理解する。また、循環型社会形成コースの各ゼミで行われている、大気、水質、廃棄物、化学物質、エネルギー、バイオマス、地球温暖化などの様々な課題に関する研究テーマの内容やその取り組み方法の事例を学ぶことにより、問題解決に向けての手法や技術について理解する。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本や世界が直面している様々な環境問題の現状とその取り組み内容や解決に向けての課題について理解する。 循環型社会形成コースで学ぶ大気保全、水質保全、廃棄物処理、化学物質分析、エネルギー対策、バイオマス利用、地球環境保全などの技術的内容とその研究手法について理解する。 循環型社会形成コースでの取り組み内容を理解して、将来の進路選択に役立てる。 	カリキュラムマップ項目							
		I	II	III	IV	V	VI	VII	
				○					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 公害問題から環境問題へ：DVD映像を通じて公害問題を知り、解決のための対策について学ぶ。また、現代の環境問題の概況について学ぶ（門木） 資源エネルギーと廃棄物処理の現状：資源エネルギー開発から廃棄物処理までの概況と環境問題との関わりを学ぶ（門木） これまでに取り組んできた研究概要の紹介（門木） これまでに取り組んできた研究概要の紹介（甲田） これまでに取り組んできた研究概要の紹介（金） 金ゼミでの卒業研究の内容とその成果の紹介（金） これまでに取り組んできた研究概要の紹介（佐藤） 佐藤ゼミでの卒業研究の内容とその成果の紹介（佐藤） これまでに取り組んできた研究概要の紹介（山本） 山本ゼミでの卒業研究の内容紹介（山本） これまでに取り組んできた研究概要の紹介（田島） 田島ゼミでの卒業研究の内容紹介（田島） これまでに取り組んできた研究概要の紹介（戸苺） 戸苺ゼミでの卒業研究の内容紹介（戸苺） 持続可能な社会と循環型社会：この2つの概念が求められるようになった経緯及び環境の未来について学ぶ（門木） 								
評価方法	講義終了時に担当教員ごとに小テストの実施またはレポート課題が示される。小テストと提出レポートの内容によって総合評価を行う。定期試験は実施しない。								
講義外での学習	講義中は集中して聴講した上で小テストに取り組むこと。また、レポート課題を出された時は、期日までにレポートを作成して担当教員宛に提出すること。								
履修上の注意事項	<p>講義計画においては、順序等が変更になる場合もあるが、その際は事前にまたは講義時に告知する。講義の聴講に集中してもらうため、講義中の出入りや私語を禁ずる。講義中のパソコン（聴覚障がい者支援用を除く）、携帯電話・スマホの使用を禁ずる。</p> <p>※先修科目： 特になし。</p>								
教材	<p>◆教科書：</p> <p>◆参考書： 必要に応じて講義中にその都度紹介する。 その他、講義時に必要に応じてプリントを配布する。</p>								
実務経験のある教員による授業科目									
民間企業や行政機関等における実務経験を活かし、循環型社会形成に向けた制度、施策、技術、研究等に関して専門的な講義を行う。									

科目名	人間環境概論					【COC】	授業タイプ		講義		
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	1	単位数	2	開講区分	後期		
教員名	張 漢賢（専任）、浅川 滋男（専任）、加藤 禎久（専任）、中治 弘行（専任）、山口 創（専任）、柚洞 一央（専任）、新任（専任）										
授業の概要	<p>キーワード：地域、ランドスケープ、都市、農村、住まい、情報、文化、環境</p> <p>人間環境プログラムは「人間と環境」の係わりをローカル、かつグローバルに考究することを目的としている。生物学・心理学の古典的定義に従うならば「環境」とは、主体の認知する生活世界の全体を指す。人間にとっての「環境」とは、人間が認知する生活世界の全体と定義することができる。本講義では地域・ランドスケープ・都市・すまい（建築）・情報・文化・環境等の諸相から、人間の生活世界に係わる諸問題を講じる。</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「人間と環境」の係わりについての基礎を学ぶ。 ・人間環境プログラムの分野構成と学習ステップを理解する。 					カリキュラムマップ項目					
						I	II	III	IV	V	VI
						○	○	○	○	○	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 「オリエンテーション」 (張) ② 「人間と環境～変動帯に生きる～」 (柚洞) ③ 「ジオパークと地域」 (柚洞) ④ 「環境とランドスケープ 1」 (加藤) ⑤ 「環境とランドスケープ 2」 (加藤) ⑥ 「環境と都市 1」 (張) ⑦ 「環境と都市 2」 (張) ⑧ 「住まいと環境 1」 (新任) ⑨ 「住まいと環境 2」 (新任) ⑩ 「住まいの安全と防災 1」 (中治) ⑪ 「住まいの安全と防災 2」 (中治) ⑫ 「環境と地域 1」 (山口) ⑬ 「環境と地域 2」 (山口) ⑭ 「環境と文化 1」 (浅川) ⑮ 「環境と文化 2」 (浅川) 										
評価方法	担当教員毎に小テストや課題を行い、その平均点で評価する。										
講義外での学習	「人間と環境」に係る書籍の読書。										
履修上の注意事項	※先修科目： 特になし。										
教材	<p>◆教科書： 教材はその都度、指定する。あるいは適宜、プリント等を配布する。</p> <p>◆参考書： 特になし</p>										
実務経験のある教員による授業科目											
建築事務所、研究所、シンクタンクなどの勤務経験を生かして、調査・研究・分析・計画・設計・マネジメントなどの講義、演習を行う。											

科目名	Intensive English 1 (1st year Listening & Speaking)					授業タイプ		講義 (AL)			
科目区分	外国語	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期		
教員名	Banville, Sean (専任), Giardine, Mark (非常勤), Sengoku, Mari (非常勤) Matsubara, Noel (非常勤), Matsubara, Satoko (非常勤), Nakamura, Hiroko(専任), Enright, Kieran (非常勤)										
授業の概要	<p>キーワード： oral communication, listening, pronunciation</p> <p>1. You will learn basic speaking and communication skills. You will also learn functions like talking about experiences, preferences, etc. 2. You will learn skills to listen for key words and ideas, information, numbers and dates. 3. You will learn classroom English. 4. You will speak with many partners in discussions, role plays and other speaking activities. All classes are in English.</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> to study and function in English in and outside the classroom, and talk about your culture. to discuss basic topics and give opinions in English using critical thinking skills. 					カリキュラムマップ項目					
						I	II	III	IV	V	VI
						○	○		○	○	○
授業計画	<p>① ORIENTATION (Syllabus, grading, getting to know each other, start Unit 1) UNIT 1 - [CHERRY BLOSSOMS] (pp. 1-16)</p> <p>② Unit 1 continues Unit 1 continues</p> <p>③ Unit 1 continues Unit 1 continues</p> <p>④ Unit 1 Speaking Test [about cherry blossoms – Bring your PC] UNIT 2 - [ENGLISH] (pp. 17-32)</p> <p>⑤ Unit 2 continues Unit 2 continues</p> <p>⑥ Unit 2 continues Unit 2 continues</p> <p>⑦ Unit 2 continues Unit 2 Speaking Test [about English – Bring your PC]</p> <p>⑧ UNIT 3 - [MANGA] (pp. 33-48) Unit 3 continues</p> <p>⑨ Unit 3 continues Unit 3 continues</p> <p>⑩ Unit 3 continues Unit 3 continues</p> <p>⑪ Unit 3 Speaking Test [about manga – Bring your PC] UNIT 4 - [FESTIVALS] (pp. 49-64)</p> <p>⑫ Unit 4 continues Unit 4 continues</p> <p>⑬ Unit 4 continues Unit 4 continues</p> <p>⑭ Unit 4 continues Unit 4 Speaking Test [about festivals – Bring your PC]</p> <p>⑮ Unit 4 Speaking Test [about festivals – Bring your PC] LISTENING TEST [4 listenings]</p>										
評価方法	<p>① English Village (10%) 10 visits</p> <p>② 4 Speaking Tests (50%) Unit 1 10%, Unit 2 10%, Unit 3 10%, Unit 4 20%</p> <p>③ Listening Test (40%)</p> <p>* You must have an Excused Absence (公欠) to be able to have a make-up test.</p>										
講義外での学習	You need these things in all lessons: the <i>Lessons on Japan 1</i> textbook, a dictionary, paper / notebook, a pen, your smartphone, a PC and earphones.										
履修上の注意事項	<p>Online practice, homework and test preparation Visit English Village 10 times. NOTE: 15 minutes late for class = absent Three lates = one absence ※先修科目： なし</p>										
教材	<p>◆教科書： <i>Lessons on Japan 1, Intensive English Program Handbook</i> (online)</p> <p>◆参考書： lessonsonjapan.com and tuesenglish.com (for English Village)</p>										
実務経験のある教員による授業科目											

科目名	Intensive English 2 (1st year Reading & Writing)					授業タイプ		講義 (AL)		
科目区分	外国語	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期	
教員名	Tokuyama, Mizufumi (専任)、Fernandez, Cristhian (非常勤)、Otani, Sean (非常勤)、Xenos, Tremain (非常勤)、Yanagita, Minako (非常勤) Enright, Kieran (非常勤)、Stanley, Kevin (非常勤)									
授業の概要	キーワード: skill-building, self-directed learning, critical thinking この授業では様々な話題の文章を読み、論理的思考力を養うと共に、英文の基本的な書き方と伝える力を指導する。実践的な英語コミュニケーション能力を高めるため、教師は脇役のアクティブラーニングの授業タイプとし、授業の練習は全て英語で行う。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 英文理解力を訓練し、英借文の理念を基にして、英文を書く能力を結びつけるようになる。 自然な英文を書けるように、トピックセンテンスやサポートセンテンスなどパラグラフの書き方の基礎を確実に身につけ、次の skill-developing 段階に行くために必要な自信と学習意欲を持てるようになる。 	カリキュラムマップ項目								
		I	II	III	IV	V	VI	VII		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> Orientation [授業の概要・宿題の種類と評価方法] (Guide to Media Center) Unit 1: Reading 1 (Quick Write for Unit One Paragraph Writing Topic) Unit 1: Reading Skill, Vocabulary Skill and Grammar Unit 1: Reading 2 (Quick Write for Unit One Paragraph Writing Topic) Unit 1: Writing Skill and Unit Paragraph Writing Draft Unit 1: Unit One Reading Comprehension Test Unit 1: Unit One Paragraph Writing Test Unit 1: Oral Book Report (1) Unit 2: Reading 1 (Quick Write for Unit Two Paragraph Writing Topic) Unit 2: Reading Skill, Vocabulary Skill and Grammar Unit 2: Reading 2 (Quick Write for Unit Two Paragraph Writing Topic) Unit 2: Writing Skill and Unit Paragraph Writing Draft Unit 2: Unit Two Reading Comprehension Test Unit 2: Unit Two Paragraph Writing Test Unit 2: Oral Book Report (2) Unit 3: Reading 1 (Quick Write for Unit Three Paragraph Writing Topic) Unit 3: Reading Skill, Vocabulary Skill and Grammar Unit 3: Reading 2 (Quick Write for Unit Three Paragraph Writing Topic) Unit 3: Writing Skill and Unit Paragraph Writing Draft Unit 3: Unit Three Reading Comprehension Test Unit 3: Unit Three Paragraph Writing Test Unit 3: Oral Book Report (3) Unit 4: Reading 1 (Quick Write for Unit Four Paragraph Writing Topic) Unit 4: Reading Skill, Vocabulary Skill and Grammar Unit 4: Reading 2 (Quick Write for Unit Four Paragraph Writing Topic) Unit 4: Writing Skill and Unit Paragraph Writing Draft Unit 4: Unit Four Reading Comprehension Test Unit 4: Unit Four Paragraph Writing Test Unit 4: Oral Book Report (4) 									
評価方法	1. Unit Reading Comprehension Tests (40%) 2. Unit Paragraph Writing Tests (40%) 3. Oral Book Reports (20%)									
講義外での学習	Homework: 1. To use SELF-ASSESSMENT for Unit Paragraph Writing Drafts 2. To read books in English and prepare for Oral Book-reports									
履修上の注意事項	教科書、辞書を持参すること ※先修科目: 「Intensive English」類を配当年次及び学期で履修することが望ましい									
教材	◆教科書: <i>Q: Skills for Success (Reading & Writing 1)</i> Oxford University Press ISBN 978-0-19-490392-9 ◆参考書: Intensive English Program Handbook									
実務経験のある教員による授業科目										

科目名	Intensive English 3 (1st year Listening & Speaking)					授業タイプ		講義 (AL)				
科目区分	外国語	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	後期			
教員名	Banville, Sean (専任), Giardine, Mark (非常勤), Sengoku, Mari (非常勤) Matsubara, Noel (非常勤), Matsubara, Satoko (非常勤), Nakamura, Hiroko(専任), Enright, Kieran (非常勤)											
授業の概要	キーワード: oral communication, listening, pronunciation 1. You will learn higher-level speaking and communication skills. You will learn functions like asking for advice, agreeing, disagreeing, etc. 2. You will learn skills to listen for key words and ideas, facts, numbers, and dates. 3. You will learn classroom English. 4. You will speak with many partners in discussions, role plays and other speaking activities. All classes are in English.											
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> to study and function in English in and outside the classroom, and talk about your culture. to discuss higher-level topics and give opinions in English using critical thinking skills. 					カリキュラムマップ項目					
						I	II	III	IV	V	VI	VII
						○	○		○	○	○	○
授業計画	① UNIT 5 - [SHOPPING] (pp. 65-80) Unit 5 continues ② Unit 5 continues Unit 5 continues ③ Unit 5 continues Unit 5 continues ④ Unit 5 Speaking Test [about shopping – Bring your PC] UNIT 6 - [SUSHI AND SASHIMI] (pp. 81-96) ⑤ Unit 6 continues Unit 6 continues ⑥ Unit 6 continues Unit 6 continues ⑦ Unit 6 continues Unit 6 Speaking Test [about sushi and sashimi – Bring your PC] ⑧ UNIT 7 - [HOT SPRINGS] (pp. 97-112) Unit 7 continues ⑨ Unit 7 continues Unit 7 continues ⑩ Unit 7 continues Unit 7 continues ⑪ Unit 7 Speaking Test [about hot springs – Bring your PC] UNIT 8 - [TOTTORI] (pp. 113-128) ⑫ Unit 8 continues Unit 8 continues ⑬ Unit 8 continues Unit 8 continues ⑭ Unit 8 continues Unit 8 Speaking Test [about Tottori – Bring your PC] ⑮ Unit 8 Speaking Test [about Tottori – Bring your PC] LISTENING TEST [4 listenings]											
評価方法	① English Village (10%) 10 visits ② 4 Speaking Tests (50%) Unit 5 10%, Unit 6 10%, Unit 7 10%, Unit 8 20% ③ Listening Test (40%) * You must have an Excused Absence (公欠) to be able to have a make-up test.											
講義外での学習	You need these things in all lessons: the <i>Lessons on Japan 1</i> textbook, a dictionary, paper / notebook, a pen, your smartphone, a PC and earphones.											
履修上の注意事項	Online practice, homework and test preparation. Visit English Village 10 times. NOTE: 15 minutes late for class = absent Three lates = one absence ※先修科目: なし											
教材	◆教科書: <i>Lessons on Japan 1, Intensive English Program Handbook</i> (online) ◆参考書: lessonsonjapan.com and tuesenglish.com (for English Village)											
実務経験のある教員による授業科目												

科目名	Intensive English 4 (1st year Reading & Writing)					授業タイプ		講義(AL)	
科目区分	外国語	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	後期
教員名	Tokuyama, Mizufumi (専任) Fernandez, Crithian (非常勤)、Otani, Sean (非常勤)、Xenos, Tremain (非常勤)、Yanagita, Minako (非常勤)、Enright, Kieran (非常勤)、Stanley, Kevin (非常勤)								
授業の概要	<p>キーワード: skill-building, self-directed learning, critical thinking</p> <p>この授業では様々な話題の文章を読み、論理的思考力を養うと共に、英文の基本的な書き方と伝える力を指導する。実践的な英語コミュニケーション能力を高めるため、教師は協役のアクティブラーニングの授業タイプとし、授業の練習は全て英語で行う。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 英文理解力を訓練し、英借文の理念を基にして、英文を書く能力を結びつけるようになる。 自然な英文を書けるように、トピックセンテンスやサポートセンテンスなどパラグラフの書き方の基礎を確実に身につけ、次の skill-developing 段階に行くために必要な自信と学習意欲を持てるようになる。 	カリキュラムマップ項目							
		I	II	III	IV	V	VI	VII	
		○	○			○	○	○	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> Orientation [授業の概要] Orientation [宿題の種類と評価方法] Unit 5: Reading 1 (Quick Write for Unit Five Paragraph Writing Topic) Unit 5: Reading Skill, Vocabulary Skill and Grammar Unit 5: Reading 2 (Quick Write for Unit Five Paragraph Writing Topic) Unit 5: Writing Skill and Unit Paragraph Writing Draft Unit 5: Unit Five Reading Comprehension Test Unit 5: Unit Five Paragraph Writing Test Unit 5: Oral Book Report (1) Unit 6: Reading 1 (Quick Write for Unit Six Paragraph Writing Topic) Unit 6: Reading Skill, Vocabulary Skill and Grammar Unit 6: Reading 2 (Quick Write for Unit Six Paragraph Writing Topic) Unit 6: Writing Skill and Unit Paragraph Writing Draft Unit 6: Unit Six Reading Comprehension Test Unit 6: Unit Six Paragraph Writing Test Unit 6: Oral Book Report (2) Unit 7: Reading 1 (Quick Write for Unit Seven Paragraph Writing Topic) Unit 7: Reading Skill, Vocabulary Skill and Grammar Unit 7: Reading 2 (Quick Write for Unit Seven Paragraph Writing Topic) Unit 7: Writing Skill and Unit Paragraph Writing Draft Unit 7: Unit Seven Reading Comprehension Test Unit 7: Unit Seven Paragraph Writing Test Unit 7: Oral Book Report (3) Unit 8: Reading 1 (Quick Write for Unit Eight Paragraph Writing Topic) Unit 8: Reading Skill, Vocabulary Skill and Grammar Unit 8: Reading 2 (Quick Write for Unit Eight Paragraph Writing Topic) Unit 8: Writing Skill and Unit Paragraph Writing Draft Unit 8: Unit Eight Reading Comprehension Test Unit 8: Unit Eight Paragraph Writing Test Unit 8: Oral Book Report (4) 								
評価方法	1. Unit Reading Comprehension Tests (40%) 2. Unit Paragraph Writing Tests (40%) 3. Oral Book Reports (20%)								
講義外での学習	Homework: 1. To use SELF-ASSESSMENT for Unit Paragraph Writing Drafts 2. To read books in English and prepare for Oral Book Reports								
履修上の注意事項	教科書、辞書を持参すること ※先修科目: 「Intensive English」類を配当年次及び学期で履修することが望ましい								
教材	<p>◆教科書: <i>Q:Skills for Success (Reading&Writing1)</i> Oxford University Press ISBN 978-0-19-490392-9</p> <p>◆参考書: Intensive English Program Handbook</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	Intensive English 5 (2nd Year Listening & Speaking)					授業タイプ	講義 (AL)				
科目区分	外国語	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	前期		
教員名	Banville, Sean (専任), Giardine, Mark (非常勤), Sengoku, Mari (非常勤), Matsubara, Noel (非常勤), Matsubara, Satoko (非常勤), Tokuyama, Mizofumi (専任), Enright, Kieran (非常勤)										
授業の概要	<p>キーワード: oral communication, listening, pronunciation</p> <p>1. You will learn basic speaking and communication skills. You will also learn functions like talking about experiences, preferences, etc. 2. You will learn skills to listen for key words and ideas, information, numbers and dates. 3. You will learn classroom English. 4. You will speak with many partners in discussions, role plays and other speaking activities. All classes are in English.</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> to study and function in English in and outside the classroom, and talk about your culture. to discuss basic topics and give opinions in English using critical thinking skills. 					カリキュラムマップ項目					
						I	II	III	IV	V	VI
						○	○		○	○	○
授業計画	<p>① UNIT 1 - [NAMES] (pp. 1-16) Unit 1 continues</p> <p>② Unit 1 continues Unit 1 continues</p> <p>③ Unit 1 continues Unit 1 continues</p> <p>④ Unit 1 Speaking Test [about names – Bring your PC] UNIT 2 - [JAPAN'S GEOGRAPHY] (pp. 17-32)</p> <p>⑤ Unit 2 continues Unit 2 continues</p> <p>⑥ Unit 2 continues Unit 2 continues</p> <p>⑦ Unit 2 continues Unit 2 Speaking Test [about Japan's geography – Bring your PC]</p> <p>⑧ UNIT 3 - [TATAMI] (pp. 33-48) Unit 3 continues</p> <p>⑨ Unit 3 continues Unit 3 continues</p> <p>⑩ Unit 3 continues Unit 3 continues</p> <p>⑪ Unit 3 Speaking Test [about tatami – Bring your PC] UNIT 4 - [INSECTS IN JAPAN] (pp. 49-64)</p> <p>⑫ Unit 4 continues Unit 4 continues</p> <p>⑬ Unit 4 continues Unit 4 continues</p> <p>⑭ Unit 4 continues Unit 4 Speaking Test [about insects in Japan – Bring your PC]</p> <p>⑮ Unit 4 Speaking Test [about insects in Japan – Bring your PC] LISTENING TEST [4 listenings]</p>										
評価方法	<p>① English Village (10%) 10 visits</p> <p>② 4 Speaking Tests (50%) Unit 1 10%, Unit 2 10%, Unit 3 10%, Unit 4 20%</p> <p>③ Listening Test (40%)</p> <p>* You must have an Excused Absence (公欠) to be able to have a make-up test.</p>										
講義外での学習	You need these things in all lessons: the <i>Lessons on Japan 2</i> textbook, a dictionary, paper / notebook, a pen, your smartphone, a PC and earphones.										
履修上の注意事項	<p>Online practice, homework and test preparation. Visit English Village 10 times. NOTE: 15 minutes late for class = absent Three lates = one absence ※先修科目: なし</p>										
教材	<p>◆教科書: <i>Lessons on Japan 2, Intensive English Program Handbook</i> (online)</p> <p>◆参考書: lessonsonjapan.com and tuesenglish.com (for English Village)</p>										
実務経験のある教員による授業科目											

科目名	Intensive English 6 (2nd year Reading & Writing)					授業タイプ		講義(AL)	
科目区分	外国語	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	前期
教員名	Tokuyama, Mizufumi (専任)、Fernandez, Cristhian (非常勤)、Moua, Jennifer (専任)、Otani, Sean (非常勤)、Xenos, Tremain (非常勤)、Yanagita, Minako (非常勤)、Stanley, Kevin (非常勤)								
授業の概要	<p>キーワード: skill-developing, self-directed learning, critical thinking</p> <p>この授業では様々な話題の文章を読み、論理的思考力を養うと共に、英文の基本的な書き方と伝える力を指導する。実践的な英語コミュニケーション能力を高めるため、教師は脇役のアクティブラーニングの授業タイプとし、授業の練習は全て英語で行う。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 英文理解力を訓練し、英借文の理念を基にして、英文を書く能力を結びつけるようになる。 自然な英文を書けるように、様々なトピックスのエッセイを書く技能を確実に身につけ、将来、自分で勉強を続けるために必要な動気づけを持つ。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
						○	○		○
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① Orientation [授業の概要] Orientation [宿題の種類と評価方法] ② Unit 1: Reading 1 (Quick Write for Unit One Essay Writing Topic) Unit 1: Reading Skill, Vocabulary Skill and Grammar ③ Unit 1: Reading 2 (Quick Write for Unit One Essay Writing Topic) Unit 1: Writing Skill and Unit Essay Writing Draft ④ Unit 1: Unit One Reading Comprehension Test Unit 1: Unit One Essay Writing Test ⑤ Unit 1: Oral Book Report (1) Unit 2: Reading 1 (Quick Write for Unit Two Essay Writing Topic) ⑥ Unit 2: Reading Skill, Vocabulary Skill and Grammar Unit 2: Reading 2 (Quick Write for Unit Two Essay Writing Topic) ⑦ Unit 2: Writing Skill and Unit Essay Writing Draft Unit 2: Unit Two Reading Comprehension Test ⑧ Unit 2: Unit Two Essay Writing Test Unit 2: Oral Book Report (2) ⑨ Unit 3: Reading 1 (Quick Write for Unit Three Essay Writing Topic) Unit 3: Reading Skill, Vocabulary Skill and Grammar ⑩ Unit 3: Reading 2 (Quick Write for Unit Three Essay Writing Topic) Unit 3: Writing Skill and Unit Essay Writing Draft ⑪ Unit 3: Unit Three Reading Comprehension Test Unit 3: Unit Three Essay Writing Test ⑫ Unit 3: Oral Book Report (3) Unit 4: Reading 1 (Quick Write for Unit Four Essay Writing Topic) ⑬ Unit 4: Reading Skill, Vocabulary Skill and Grammar Unit 4: Reading 2 (Quick Write for Unit Four Essay Writing Topic) ⑭ Unit 4: Writing Skill and Unit Essay Writing Draft Unit 4: Unit Four Reading Comprehension Test ⑮ Unit 4: Unit Four Essay Writing Test Unit 4: Oral Book Report (4) 								
評価方法	1. Unit Reading Comprehension Tests (40%) 2. Unit Essay Writing Tests (40%) 3. Oral Book Reports (20%)								
講義外での学習	Homework: 1. To use SELF-ASSESSMENT for Unit Essay Writing Drafts 2. To read books in English and prepare for Oral Book Reports								
履修上の注意事項	教科書、辞書を持参すること ※先修科目: 「Intensive English」類を配当年次及び学期で履修することが望ましい								
教材	<p>◆教科書: <i>Q:Skills for Success (Reading&Writing2)</i> Oxford University Press ISBN 978-0-19-490393-6</p> <p>◆参考書: Intensive English Program Handbook</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	Intensive English 7 (2nd Year Listening & Speaking)				授業タイプ	講義 (AL)			
科目区分	外国語	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教員名	Banville, Sean (専任), Giardine, Mark (非常勤), Sengoku, Mari (非常勤), Matsubara, Noel (非常勤), Matsubara, Satoko (非常勤), Tokuyama, Mizofumi (専任), Enright, Kieran (非常勤)								
授業の概要	<p>キーワード: oral communication, listening, pronunciation</p> <p>1. You will learn more advanced speaking and communication skills. You will also learn functions like offering to help, making requests, etc. 2. You will learn skills to listen for key words and ideas, and for global comprehension. 3. You will learn classroom English. 4. You will speak with many partners in discussions, role plays and other communicative activities. All classes are in English.</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> to study and function in English in and outside the classroom, and talk about your culture. to discuss more advanced topics and give opinions in English using critical thinking skills. 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
		○		○	○	○	○	○	
授業計画	<p>① UNIT 5 - [MARTIAL ARTS] (pp. 65-80) Unit 5 continues</p> <p>② Unit 5 continues Unit 5 continues</p> <p>③ Unit 5 continues Unit 5 continues</p> <p>④ Unit 5 Speaking Test [about martial arts – Bring your PC] UNIT 6 - [MANNERS] (pp. 81-96)</p> <p>⑤ Unit 6 continues Unit 6 continues</p> <p>⑥ Unit 6 continues Unit 6 continues</p> <p>⑦ Unit 6 continues Unit 6 Speaking Test [about manners – Bring your PC]</p> <p>⑧ UNIT 7 - [ONIGIRI] (pp. 97-112) Unit 7 continues</p> <p>⑨ Unit 7 continues Unit 7 continues</p> <p>⑩ Unit 7 continues Unit 7 continues</p> <p>⑪ Unit 7 Speaking Test [about onigiri – Bring your PC] UNIT 8 - [TRANSPORT IN JAPAN] (pp. 113-128)</p> <p>⑫ Unit 8 continues Unit 8 continues</p> <p>⑬ Unit 8 continues Unit 8 continues</p> <p>⑭ Unit 8 continues Unit 8 Speaking Test [about transport in Japan – Bring your PC]</p> <p>⑮ Unit 8 Speaking Test [about transport in Japan – Bring your PC] LISTENING TEST [4 listenings]</p>								
評価方法	<p>① English Village (10%) 10 visits</p> <p>② 4 Speaking Tests (50%) Unit 5 10%, Unit 6 10%, Unit 7 10%, Unit 8 20%</p> <p>③ Listening Test (40%)</p> <p>* You must have an Excused Absence (公欠) to be able to have a make-up test.</p>								
講義外での学習	You need these things in all lessons: the <i>Lessons on Japan 2</i> textbook, a dictionary, paper / notebook, a pen, your smartphone, a PC and earphones.								
履修上の注意事項	<p>Online practice, homework and test preparation. Visit English Village 10 times. NOTE: 15 minutes late for class = absent Three lates = one absence ※先修科目: なし</p>								
教材	<p>◆教科書: <i>Lessons on Japan 2, Intensive English Program Handbook</i> (online)</p> <p>◆参考書: lessonsonjapan.com and tuesenglish.com (for English Village)</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	Intensive English 8 (2nd year Reading & Writing)					授業タイプ		講義 (AL)	
科目区分	外国語	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教員名	Tokuyama, Mizufumi (専任)、Fernandez, Cristhian (非常勤)、Moua, Jennifer (専任)、Otani, Sean (非常勤)、Xenos, Tremain (非常勤)、Yanagita, Minako (非常勤)、Stanley, Kevin (非常勤)								
授業の概要	<p>キーワード: skill-developing, self-directed learning, critical thinking</p> <p>この授業では様々な話題の文章を読み、論理的思考力を養うと共に、英文の基本的な書き方と伝える力を指導する。実践的な英語コミュニケーション能力を高めるため、教師は脇役のアクティブラーニングの授業タイプとし、授業の練習は全て英語で行う。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 英文理解力を訓練し、英借文の理念を基にして、英文を書く能力を結びつけるようになる。 自然な英文を書けるように、様々なトピックのエッセイを書く技能を確実に身につけ、将来、自分で勉強を続けるために必要な動気づけを持つ。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
						○	○		○
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① Orientation [授業の概要] Orientation [宿題の種類と評価方法] ② Unit 5: Reading 1 (Quick Write for Unit Five Essay Writing Topic) Unit 5: Reading Skill, Vocabulary Skill and Grammar ③ Unit 5: Reading 2 (Quick Write for Unit Five Essay Writing Topic) Unit 5: Writing Skill and Unit Essay Writing Draft ④ Unit 5: Unit Five Reading Comprehension Test Unit 5: Unit Five Essay Writing Test ⑤ Unit 5: Oral Book Report (1) Unit 6: Reading 1 (Quick Write for Unit Six Essay Writing Topic) ⑥ Unit 6: Reading Skill, Vocabulary Skill and Grammar Unit 6: Reading 2 (Quick Write for Unit Six Essay Writing Topic) ⑦ Unit 6: Writing Skill and Unit Essay Writing Draft Unit 6: Unit Six Reading Comprehension Test ⑧ Unit 6: Unit Six Essay Writing Test Unit 6: Oral Book Report (2) ⑨ Unit 7: Reading 1 (Quick Write for Unit Seven Essay Writing Topic) Unit 7: Reading Skill, Vocabulary Skill and Grammar ⑩ Unit 7: Reading 2 (Quick Write for Unit Seven Essay Writing Topic) Unit 7: Writing Skill and Unit Essay Writing Draft ⑪ Unit 7: Unit Seven Reading Comprehension Test Unit 7: Unit Seven Essay Writing Test ⑫ Unit 7: Oral Book Report (3) Unit 8: Reading 1 (Quick Write for Unit Eight Essay Writing Topic) ⑬ Unit 8: Reading Skill, Vocabulary Skill and Grammar Unit 8: Reading 2 (Quick Write for Unit Eight Essay Writing Topic) ⑭ Unit 8: Writing Skill and Unit Essay Writing Draft Unit 8: Unit Eight Reading Comprehension Test ⑮ Unit 8: Unit Eight Essay Writing Test Unit 8: Oral Book Report (4) 								
評価方法	1. Unit Reading Comprehension Tests (40%) 2. Unit Essay Writing Tests (40%) 3. Oral Book Reports (20%)								
講義外での学習	Homework: 1. To use SELF-ASSESSMENT for Unit Essay Writing Drafts 2. To read books in English and prepare for Oral Book Reports								
履修上の注意事項	教科書、辞書を持参すること ※先修科目: 「Intensive English」類を配当年次及び学期で履修することが望ましい								
教材	<p>◆教科書: <i>Q:Skills for Success (Reading&Writing2)</i> Oxford University Press ISBN 978-0-19-490393-6</p> <p>◆参考書: Intensive English Program Handbook</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	中国語 1					授業タイプ		講義 (AL)																						
科目区分	外国語	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	前期																					
教員名	川口 斐斐 (非常勤)																													
授業の概要	<p>キーワード：多文化を楽しむ、中国語の響きを学ぶ、ことばの不思議さ</p> <p>中国語は国際コミュニケーション言語になっており、世界で広く使われている言葉でもある。同じく漢字を用いるが外国語らしい響き、歌うような抑揚に耳を傾けましょう。発音重視、会話重視の授業である。</p>																													
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介ができるようになる。 簡単な日常挨拶ができるようになる。 世界が広がる国際感覚を身につける。 					<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="7">カリキュラムマップ項目</th> </tr> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> <th>VI</th> <th>VII</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>				カリキュラムマップ項目							I	II	III	IV	V	VI	VII	○	○					○
カリキュラムマップ項目																														
I	II	III	IV	V	VI	VII																								
○	○					○																								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス・授業の内容紹介・中国語の構造について解説する 四声を紹介する (単母音) 複合母音・子音 子音の復習・鼻母音 第一課 人称代名詞 第一課 動詞 (判断動詞) 第二課 動詞述語文 第二課 疑問詞疑問文 第三課 副詞 第三課 指示代名詞 第四課 家族紹介 第四課 数字の練習 第四課 形容詞 第五課 量詞 第五課 比較文 試験実施 期末テスト 																													
評価方法	学習態度・単語テスト 20%、インタビュー20%、定期試験 60%																													
講義外での学習	ネットを使い中国語を耳になれる 中国語の歌を口ずさむ発音になれる																													
履修上の注意事項	人数制限あり。 ※先修科目： 特になし。																													
教材	<p>◆教科書： シンプルチャイニーズ 東京会話編 朝日出版社 ISBN: 978-4-255-45279-1</p> <p>◆参考書： 三文字 アルク</p>																													
実務経験のある教員による授業科目																														

科目名	中国語 2					授業タイプ	講義 (AL)																							
科目区分	外国語	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期																					
教員名	川口 斐斐 (非常勤)																													
授業の概要	<p>キーワード：中国語を楽しむ、言葉の力を感じ取る、多文化を楽しむ</p> <p>発音記号の基礎を覚えたので、それを応用する。 文の組み立て方、ロールプレイ式で発音になれる、話せるようになる。 言語背景の文化を知り、世界観を広げる。</p>																													
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読解力・ヒアリング力をあげることができる。 ・ 後期寸劇発表の台本作成で、習った文法を応用し、文の組み立て力をアップする。 ・ 発表することによって、自信をもつ。 						<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="7">カリキュラムマップ項目</th> </tr> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> <th>VI</th> <th>VII</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>			カリキュラムマップ項目							I	II	III	IV	V	VI	VII	○	○					○
カリキュラムマップ項目																														
I	II	III	IV	V	VI	VII																								
○	○					○																								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 前期内容を復習する ② 前期内容を復習する ③ 第六課 曜日の練習 ④ 第六課 助動詞 ⑤ 第七課 存在文 ⑥ 第七課 存在文 ⑦ 第八課 完了文・前置詞 ⑧ 第八課 完了表現 ⑨ 第九課 動作の進行文 ⑩ 第九課 感情動詞 ⑪ 第十課 時量補語 ⑫ 第十課 距離を表す前置詞 ⑬ 第十課 原因を尋ねる疑問詞 ⑭ 第十一課 様態補語 ⑮ 寸劇発表 ⑯ 試験実施 期末筆記試験 																													
評価方法	学習態度・単語テスト 20%、寸劇発表 20%、定期筆記試験 60%																													
講義外での学習	ネットを使い中国語の歌や映画をみて発音になれること テキストの本文内容を暗記する																													
履修上の注意事項	人数制限あり。 ※先修科目： 履修にあたって、「中国語 1」を履修すること。																													
教材	<p>◆教科書： シンプルチャイニーズ 東京会話編 朝日出版社 ISBN: 978-4-255-45279-1</p> <p>◆参考書： 三文字 アルク</p>																													
実務経験のある教員による授業科目																														

科目名	韓国語 1					授業タイプ	講義・演習		
科目区分	外国語	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	前期
教員名	賈 惠京 (非常勤)								
授業の概要	キーワード：国際感覚を養う、コミュニケーション能力向上、向学心啓発								
	韓国語の「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」といった学習事項に重点をおいて、教科書に沿って授業を進める。ハングル文字の読み書きの練習をはじめ、初級文法と文型を学習する。また、韓国の文化や歴史、思想、風俗習慣にも触れていく。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ハングル文字の成り立ちを理解した上で、書き方や読み方を習得し、基礎文法を活用して簡単な会話や文章の作成ができる。 ・韓国語の基礎を学ぶと共に、韓国の歳時風俗や社会事情、韓国人の思考特性や生活習慣などに接することによって、受容力や共感的理解力を高め、グローバルな考え方を養うことができる。 ・韓国語を通して自己の視野を広げ、コミュニケーション能力を養うことができる。 						カリキュラムマップ項目		
							I	II	III
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 今日のことば、ハングルの概要 ② 今日のことば、文字と発音 (基本母音) ③ 今日のことば、文字と発音 (基本子音) ④ 今日のことば、文字と発音 (激音) ⑤ 今日のことば、文字と発音 (濃音) ⑥ 今日のことば、文字と発音 (合成母音) ⑦ 今日のことば、文字と発音 (받침) ⑧ 今日のことば、発音のルール 1 ⑨ 今日のことば、発音のルール 2、中間テスト ⑩ 今日のことば、会話と文法 (数詞) ⑪ 今日のことば、会話と文法 (指定詞) ⑫ 今日のことば、会話と文法 (助詞) ⑬ 今日のことば、会話と文法 (丁寧形 1) ⑭ 今日のことば、会話と文法 (丁寧形 2) ⑮ 総復習、小テスト (インタビュー) ⑯ 定期試験 								
評価方法	定期試験と授業時に行う小テスト・発表・インタビューなどで総合的に評価する。 小テスト (15%) + 中間テスト (25%) + 定期試験 (60%)								
講義外での学習	随時復習・予習をし、宿題が発表出来るようにする。付属のCDを活用して繰り返し音読を行い、正しい発音や会話を身につける。韓国のドラマや映画、K-pop 等を有効に活用し、韓国事情の理解に努める。韓国人との交流に積極的に参加し、会話力の向上に努める。								
履修上の注意事項	人数制限あり。 講義中の内容をよく聞き、理解できないところは質問する。ハングル文字の子音母音を正確に理解して駆使できるよう、発声器官をきちんと動かして大きな声で発音する。単語をたくさん覚え、学んだ文型を何度も反復練習して、しっかり理解しておく。「継続は力なり」ということばを肝に銘じて、休まず積極的かつ意欲的に講義を受け、韓国のことばや文化を楽しむ。 ※先修科目： 特になし。								
教材	<ul style="list-style-type: none"> ◆教科書： 吉本一 著「新・みんなの韓国語 1」(白帝社) ISBN : 9784863983458 ◆参考書： 「日韓類似ことわざ・慣用句辞典」(白帝社) 								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	韓国語 2					授業タイプ	講義・演習		
科目区分	外国語	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教員名	賈 惠京 (非常勤)								
授業の概要	<p>キーワード：国際感覚涵養、コミュニケーション能力向上、向学心啓発</p> <p>韓国語 1 で学習した知識を基に、教科書に沿った授業形式をとる。韓国語の「書く」・「読む」・「聞く」・「話す」といった学習事項に重点をおいて、文法を説明し、練習問題を解きながら会話中心に授業を進める。日韓の諺、季節、文化、生活、近況に関する話題を例に挙げ、文法や発音について講述する。活用文の作成に取り組み、韓国語の理解を深めると共に、コミュニケーション能力を養う。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 基礎文法を活用して、簡単な会話ができ、簡単な作文ができ、ハングル能力検定試験に挑戦できる。 韓国の歳時風俗や社会事情、韓国人の思考特性や生活習慣などを理解することによって、物事のグローバル的な考え方を養うことができる。 会話を通して、コミュニケーション能力を養うことができる。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
							○		○
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 今日のことば、会話、文型 (オリエンテーション及び復習) ② 今日のことば、練習、会話、文型 (指示語及び指定詞の丁寧形) ③ 今日のことば、練習、会話、文型 (指定詞の否定形) ④ 今日のことば、練習、会話、文型 (助詞の用法) ⑤ 今日のことば、練習、会話、文型 (指定詞以外の用言の丁寧形) ⑥ 今日のことば、練習、会話、文型 (並列語) ⑦ 今日のことば、練習、会話、文型 (固有数詞の用法) ⑧ 今日のことば、練習、会話、文型 (動詞の現在形) ⑨ 今日のことば、練習、会話、文型 (「～ても」の用法)、中間テスト ⑩ 今日のことば、練習、会話、文型 (逆説語) ⑪ 今日のことば、練習、会話、文型 (「하다」変則) ⑫ 今日のことば、練習、会話、文型 (丁寧な命令形) ⑬ 今日のことば、練習、会話、文型 (存在詞) ⑭ 今日のことば、練習、会話、文型 (用言の過去形) ⑮ 総復習、小テスト (インタビュー) ⑯ 定期試験 								
評価方法	<p>毎回学習した文型や会話文が理解でき、正しい発音で駆使出来るかを評価する。 小テスト (15%) + 中間テスト (25%) + 定期試験 (60%)</p>								
講義外での学習	<p>復習と予習で宿題が発表出来るようにして (書き、読み、会話、翻訳)、次回に提出する。付属のCDを利用し、繰り返し音読を行い正しい発音や会話を身につける。講義で取り扱っている歌 (童謡など) は随時聴いて歌えるように覚える。韓国のドラマや映画、K-pop 等を有効に活用し、韓国事情の理解に努める。韓国人との交流に積極的に参加し、会話力の向上に努める。ハングル能力検定試験に挑戦する。</p>								
履修上の注意事項	<p>人数制限あり。 辞典を準備する。講義中の答え合わせの間違いを完璧に理解し、理解できないところは質問する。日本語にない子音母音を正確に理解・駆使できるよう、発声器官の形をはっきり動かし、大きく声を出す。単語をたくさん覚え、学んだ文型をしっかりと理解しておく。講義最後の質問に的確に答えられるよう、講義に専念する。「継続は力になる」ということばを肝に銘じて、休まず積極的かつ意欲的に講義を受け、韓国のことばや文化を楽しむ。 ※先修科目： 履修にあたって、「韓国語 1」を履修すること。</p>								
教材	<p>◆教科書： 吉本一 著「新・みんなの韓国語 1」 (白帝社) ISBN : 9784863983458 ◆参考書： 「日韓類似ことわざ・慣用句辞典」 (白帝社) ISBN : 9784891748227</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	ロシア語 1					授業タイプ		講義(AL)・演習	
科目区分	外国語	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	前期
教員名	岸田 旭弘 (非常勤)								
授業の概要	<p>キーワード：ロシア、文法、会話</p> <p>キリル文字の読み書きから始めて、ロシア語の基礎文法を学んでいきます。挨拶や自己紹介、簡単な日常会話表現を身につけることを目指します。普段なかなか触れる機会がないロシア語を、楽しく学びましょう。</p>								
到達目標	<p>・簡単なロシア語表現を使えるようになることを目指します。</p>					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
		○						○	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 授業の概要説明。キリル文字の紹介。 ② 文字の書き方と発音規則の解説。 ③ 文字の書き方と発音規則の解説。 ④ 簡単な単語を用いて文字と発音に慣れる。 ⑤ これはナターシャです。名詞の性。 ⑥ 彼女はナターシャではありません。人を表す代名詞と挨拶の表現。 ⑦ 練習問題。 ⑧ これは私のスーツケースです。所有を表す代名詞。 ⑨ あそこに古いスーツケースがあります。形容詞。 ⑩ 練習問題、復習、応用練習。 ⑪ 私は雑誌を読んでいます。動詞。 ⑫ 私は日本語を話します。動詞。名詞の複数形。 ⑬ 彼女はどこに住んでいますか？場所を示す表現。 ⑭ あなたは電話を持っていますか？所有の表現。 ⑮ 音楽を聴いているのですか？目的語の表し方。 ⑯ 定期試験 								
評価方法	定期試験の得点に出席点を加味して評価します。								
講義外での学習	授業についていけるようにしっかり復習をすること。								
履修上の注意事項	※先修科目： 特になし。								
教材	<p>◆教科書： 黒田龍之介著『ニューエクスプレスプラスロシア語』白水社 (ISBN 978-4-560-08777-0)</p> <p>◆参考書：</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	ロシア語 2					授業タイプ		講義(AL)・演習	
科目区分	外国語	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教員名	岸田 旭弘 (非常勤)								
授業の概要	<p>キーワード：ロシア、文法、会話</p> <p>前期に引き続いて、ロシア語の初級文法を学んでいきます。学んだロシア語表現を用いた簡単な会話練習を随時行います。覚えてた表現を存分に使って、楽しく学びましょう。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な事柄であればロシア語で表現できるレベルになることを目指します。 ロシア語を学び、話すことを通じてコミュニケーション能力の向上を図ります。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
		○						○	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 前期の復習。 ② 日本語を勉強していました。動詞の過去形。 ③ 家にいました。いわゆる「Be 動詞」の過去形。天候の表現。 ④ 練習問題 ⑤ 今晚はお客さんが来ます。動詞の未来形。 ⑥ 傘がありません。人や物の存在を否定するときの表現。 ⑦ 病気の表現。交通手段の表現。 ⑧ 夫にプレゼントを買いたいです。間接目的語の表現。 ⑨ 私はたいはい紅茶にミルクを入れて飲みます。「with」に相当する表現。 ⑩ 日本料理店でアントンを見かけました。形容詞の変化形。 ⑪ 動詞の時制と完了体・不完了体。 ⑫ 練習問題と復習。 ⑬ 捨てるのなら手伝います。動詞の完了体と不完了体。 ⑭ もしも私が鳥だったら。仮定法。 ⑮ 色々な会話表現紹介。試験対策。 ⑯ 定期試験。 								
評価方法	試験の得点に出席点を加味して評価する。								
講義外での学習	授業についていけるようにしっかり復習する。								
履修上の注意事項	※先修科目： 履修にあたって、「ロシア語 1」を履修すること。								
教材	<p>◆教科書： 黒田龍之介著『ニューエクスプレスプラスロシア語』白水社 (ISBN 978-4-560-08777-0)</p> <p>◆参考書：</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	Advanced English 1 (Four-Skills English 1, CEFR B1)					授業タイプ		講義(AL)	
科目区分	外国語	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	前期
教員名	Kieran Enright (非常勤)								
授業の概要	<p>キーワード : four-skills, fluency, culture</p> <p>This class is not lecture format. It is interactive, blended learning, building on the skills from Intensive English. Students will read short articles and discuss actively in class. Students will practice pronunciation, practice different writing styles, and do short presentations in this class. Students are also required to visit English Village to improve their discussion skills.</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> Students will understand the different politeness levels needed for different discourse types. Students will be able to express their opinions clearly and fluently in both writing and speaking. Students will understand the “traffic signals” of English discussion, and use them competently. 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
						○	○		○
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① Orientation to class and grading standards. Unit 1: (p 3-8; 1.1-1.2) ② Register textbooks. Unit 1: (p 9-14; 1.3-1.5) [Writing Assessment 1: email and analysis due next time] ③ Peer check Writing Assessment 1, Unit 2: (p 15-20; 2.1-2.2) [online homework 1] ④ Unit 2: (p 21-25; 2.3-2.5), writing a short article in class. ⑤ Unit 3: (p 27-33; 3.1-3.2) logical connectors in speaking and writing, synonyms. [online HW 2] ⑥ Unit 3: (p 34-38; 3.3-3.5) pronunciation/contractions is spoken discourse. Preparation for Speaking Assessment 1. ⑦ Unit 3: Preparation for Speaking Assessment 1. Unit 4: (p 39-41; 4.1) [online HW 3] ⑧ Speaking Assessment 1: Describing a life experience. ⑨ Unit 4: (p 42-47; 4.2-4.3) Discussion skills ⑩ Unit 4: (p 48-50; 4.4-4.5) [Writing Assessment 2: Correct discourse level in text messages due next time]. ⑪ Peer check Writing Assessment 2; Unit 5: (p 51-57; 5.1-5.2) cause and effect; comparisons [online HW 4] ⑫ Unit 5: (p 58-62; 5.3-5.5) formality, social skills [online HW 5] ⑬ Unit 6: (p 63-68; 6.1-6.2) listening for specific information. Preparation for Speaking Assessment 2. ⑭ Unit 6: (p 69-74; 6.3-6.5), preparation for Speaking Assessment 2 ⑮ Speaking Assessment 2: Presentation using visuals. Class survey. 								
評価方法	Classroom activity/discussion 30%; speaking assessments 20%; writing assessments 20%; online homework 15%; English Village visits 15%.								
講義外での学習	<ul style="list-style-type: none"> Students will have online homework using their textbook site. Students are required to visit English Village once each week to improve their speaking and listening skills. 								
履修上の注意事項	<p>This is an English course. Please be prepared to speak English.</p> <p>This course will use the online dictionary www.dictionary.com (携帯電話可)</p> <p>The textbook is CEFR B1, building on the A2 level of Intensive English.</p> <p>※先修科目： 特になし</p> <p>※他学部履修：</p>								
教材	<p>◆教科書： Wide Angle 3, Oxford University Press, ISBN 978-0-19-452856-6</p> <p>◆参考書： Intensive English handbook, dictionary (携帯可)</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	Advanced English 2 (English Writing 1, CEFR B1)					授業タイプ		講義 (AL)	
科目区分	外国語	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	前期
教員名	Jennifer Moua (専任)								
授業の概要	<p>キーワード : fluency, analysis, writing organization and expository writing</p> <p>This course will go over important aspects of writing in brainstorming, organizing, analyzing, and editing. Note that this is not a lecture-style course but rather interactive as students will do peer-work activities to brainstorm ideas and give feedback to one another. Topics range from personal opinion to intercultural-related themes.</p> <p>Students are expected to speak in English.</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> Students will be able to brainstorm and compose expository paragraphs Students will be able to compose persuasive writing Students will be able to peer-edit and give feedback to their classmates Students will be able to write their opinions fluently and coherently 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
						○	○		○
授業計画	<p>① Unit 1 Expository writing. Analysis, organization (p 1-3); QW1 & Orientation</p> <p>② Unit 1 Expository writing continued. Organization, content; paragraph A (p 4-7)- work on EWD1</p> <p>③ Unit 2 Peer check EWD1 (p 8-9), analysis, organization (p 11-13), QW2, [email assignment due next week p 20]</p> <p>④ Unit 2 continued (p 14-16) QW3, <i>In class EW1</i></p> <p>⑤ Unit 2 continued –Peer check EW1 (p 18-19) , QW4</p> <p>⑥ Unit 3 analysis, organization (p 21-24), work on EWD2, QW5</p> <p>⑦ Unit 3 continued - work on EWD2</p> <p>⑧ Unit 4 Peer check EWD2 (p 28-29), Unit 4 begins: analysis, content, QW6. [email 2 due next time]</p> <p>⑨ Unit 4 continued – organization, analysis (p 34-36), <i>In class EW2</i>, QW7</p> <p>⑩ Unit 5 Peer check EW2 (p 38-39), cause and effect: Analysis, content (p 42-43), paragraph C_</p> <p>⑪ Unit 5 continued – Organization, analysis (p 44-46) [greeting card due next time], work on EWD3</p> <p>⑫ Unit 5 continued – Peer check EWD3 (p 48-49)</p> <p>⑬ Unit 6 Process writing (p 52-53), QW8, work on EWD3 [travel tips due next time]</p> <p>⑭ Unit 6 continued - Content, organization, analysis (p 54-56), <i>In class EW3</i></p> <p>⑮ Unit 6 continued – Peer check EW3 (p 58-59),_class survey</p> <p>※ EWD = Essay Writing Draft</p>								
評価方法	<p>① Participation/effort (20%)</p> <p>② 3 In class Essay Writing (30%)</p> <p>③ Quick Writing - QW (20%)</p> <p>④ Homework assignments (EWD and others) (30%)</p>								
講義外での学習	Textbook homework assignments and Essay Writing Drafts (EWD)								
履修上の注意事項	<p>※先修科目：特になし</p> <p>We will use the online dictionary at www.dictionary.com in this course (In class EWの時はPCのみです)</p>								
教材	<p>◆ 教科書 : Writing from Within 2 (2nd edition), Cambridge University Press, ISBN 978-0-521-18834-0</p> <p>◆ 参考書 : Intensive English Handbook, Intensive English writing portfolio</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	Advanced English 3 (Four-Skills English 2, CEFR B1)					授業タイプ		講義(AL)					
科目区分	外国語	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期				
教員名	Kieran Enright (非常勤)												
授業の概要	<p>キーワード : four-skills, fluency, culture</p> <p>This class is not lecture format. It is interactive, blended learning, building on the skills from Intensive English & Advanced English 1. Students will read short articles and discuss actively in class. Students will practice pronunciation, practice different writing styles, and do short presentations in this class. Students are also required to visit English Village to improve their discussion skills.</p>												
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> Students will understand the different politeness levels needed for different discourse types. Students will be able to express their opinions clearly and fluently in both writing and speaking. Students will understand the “traffic signals” of English discussion, and use them competently. 						カリキュラムマップ項目						
							I	II	III	IV	V	VI	VII
							○	○		○		○	○
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> Orientation to class and grading standards. Unit 7: (p 75-77; 7.1) Unit 7: (p 78-83; 7.2-7.3) elision and predictions Unit 7: (p 84-86; 7.4-7.5) , Unit 8 (p 87-89; 8.1) modals [online homework 1] Unit 8: (p 88-95; 8.2-8.3), modals continued. [Writing Assessment 1, opinion essay, due next time]^ Peer check Writing Assessment 1. Unit 9: (p 99-105; 9.1-9.2) giving reasons. [online HW 2] Unit 9: (p 106-110; 7.3-7.5) predicting while listening. Preparation for Speaking Assessment 1. Unit 9: Preparation for Speaking Assessment 1 [online HW 3] Speaking Assessment 1: Explaining words you don't know Unit 10: (p 111-116; 10.1-10.2) Information technology Unit 10: (p 117-122; 10.3-10.5) logical connectors; misinformation [online HW 4] Unit 11: (p 123-128; 11.1-11.2) past perfect; sound changes. [online HW 5] Unit 11: (p 129-134; 11.3-11.5) [Writing Assessment 2: Movie or book review] Peer check Writing Assessment 2. Unit 12: (p 135-141; 12.1-12.2) narrative tenses, infinitives. Preparation for Speaking Assessment 2, an emotional event. Unit 12: (p 142-146; 12.3-12.5), preparation for Speaking Assessment 2 Speaking Assessment 2: Presentation concerning an emotional event. Class survey. 												
評価方法	Classroom activity/discussion 30%; speaking assessments 20%; writing assessments 20%; online homework 15%; English Village visits 15%.												
講義外での学習	<ul style="list-style-type: none"> Students will have online homework, using the textbook site. Students are required to visit English Village once each week to improve their speaking and listening skills. 												
履修上の注意事項	<p>This is an English course. Please be prepared to speak English.</p> <p>This course will use the online dictionary www.dictionary.com (携帯電話可)</p> <p>The textbook is CEFR B1, building on the A2 level of Intensive English.</p> <p>※先修科目： 特になし</p> <p>※他学部履修：</p>												
教材	<p>◆教科書： Wide Angle 3, Oxford University Press, ISBN 978-0-19-452856-6</p> <p>◆参考書： Intensive English handbook, dictionary (携帯可)</p>												
実務経験のある教員による授業科目													

科目名	Advanced English 4 (English Writing 2, CEFR B1)					授業タイプ		講義 (AL)				
科目区分	外国語	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期			
教員名	Jennifer Moua (専任)											
授業の概要	<p>キーワード : fluency, analysis, writing organization</p> <p>This course builds important aspects of writing in brainstorming, organizing, analyzing, and editing. Note that this is not a lecture-style course but rather interactive as students will do peer-work activities to brainstorm ideas and give feedback to one another. Topics range from personal opinion to intercultural-related themes.</p> <p>Students are expected to speak in English.</p>											
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> Students will be able to write correct comparison/contrast, division and entertaining paragraphs. Students will be able to write correct comparison/contrast, development-by-process & research essays Students will be able to express their own thoughts fluently without a dictionary. 						カリキュラムマップ項目					
							I	II	III	IV	V	VI
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> Orientation. Unit 7: Research writing. Analysis, organization (p 61-63); QW1 Unit 7: Research writing continued. Organization, content; paragraph D, (p 64-67) Work on EWD4 Peer check EWD4 (p 68-69), Unit 8: analysis, organization (p 71-73), QW2. Unit 8 In class EW4. content, analysis (p 75-76) Unit 8: Peer check job interview EW4 (p 78-79), QW3 Unit 9: analysis, organization (p 81-83), QW4, work on EWD5 Unit 9: content, organization, analysis (p 84-85), paragraph E (done in class). [goal-setting EWD5 due next time] Peer check goal-setting EWD5 (p 88-89), Unit 10 begins: analysis, content (p 91-94, QW5. [creative writing poster due next time p 100] Unit 10 In class EW5: Organization, analysis (p 95-96), Peer check EW5 (p 98-99), Unit 11 (development by example) begins: Analysis, content, organization (p 101-103), paragraph F Unit 11 continues: Organization, analysis (p 104-106) QW6 [letter due next time] work on EWD6 Unit 11:Peer check EWD6 (p 108-109) Unit 12 (writing styles and use): Analysis, organization (p111-113) Unit 12 In class EW6. Content, organization, analysis (p 114-117). [class newspaper due next time] Peer check EW6 (p 118-119), final summary, class survey <p>※ EWD = Essay Writing Draft</p>											
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> Participation/effort (20%) 3 In class Essay Writing (30%) Quick Writing - QW (20%) Homework assignments (EWD and others) (30%) 											
講義外での学習	Textbook homework assignments and Essay Writing Drafts (EWD).											
履修上の注意事項	<p>※先修科目：特になし</p> <p>We will use the online dictionary at www.dictionary.com in this course (In class EW の時は PC のみです)</p>											
教材	<p>◆ 教科書 : Writing from Within 2 (2nd edition), Cambridge University Press, ISBN 978-0-521-18834-0</p> <p>◆ 参考書 : Intensive English Handbook, Intensive English writing portfolio</p>											
実務経験のある教員による授業科目												

科目名	Advanced English 5 (Reading CEFR B2)					授業タイプ		講義(AL)	
科目区分	外国語	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	前期
教員名	Kieran Enright (非常勤)								
授業の概要	<p>キーワード : fluency, comprehension, vocabulary</p> <p>This course is not lecture, but centered on group and pair work in class. Students will improve fluency through extensive reading, improve vocabulary and the ability to acquire vocabulary, improve reading comprehension. This course is taught entirely in English.</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> Students will be able to process new vocabulary from context, without a dictionary Students will learn strategic reading skills Students will improve their reading speed 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
		○		○	○	○	○	○	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> Orientation/expectations; p 4-7; vocab p 34-36; comp. p 228-234; [HW p 237-238] Ext.read. p 8-11; vocab p 37-42; comp p 107-111 [HW bring notebook; p 239-40] Ext read (ER) p 12-15; vocab p 43-50; comp p 112-116 [HW p 241-242] ER p 16-18; vocab p 53-56; comp p 117-123 [HW p 243-244] ER p 19-26; comp p 124; Quiz 1 p 125-130 [HW p 245-246] Reading circle (1); vocab p 57-59; comp p 131-133 [HW p 247-248] Vocab notebook check; vocab p 60-61; comp p 134-136 [HW p 249-250] Reading circle (2); comp p 137-140;midterm group test p 141-145 [HW p 251-2] Book conference/reading practice [HW p 253-254] Vocab p 62-65; comp p 147-152 [HW p 255-256] Reading circle (3); comp p 153-160 [HW p 257-258] Reading circle (4); vocab p 66-67; comp p 161-165 [HW p 259-260] Reading circle (5); vocab notebook check; quiz p 166-171 [HW prepare for test] Book conference/reading practice [HW prepare for test, and logbook checks] Final exam (paper test); turn in extensive reading and fluency logs; survey 								
評価方法	Classroom effort (includes discussion, group quizzes, etc.) 30%; reading circle 10%; extensive reading log 15%; fluency reading log 10%; book reports 5%; final exam 30%								
講義外での学習	Reading homework will take about one hour each week; ※[HW] is homework.								
履修上の注意事項	<p>We will use the online dictionary at www.dictionary.com in this course. (携帯電話可)</p> <p>Students should also bring an 英和・和英 dictionary (any type)</p> <p>※先修科目： 特になし</p> <p>※他学部履修：</p>								
教材	<p>◆教科書： More Reading Power, 3rd edition, PearsonLongman, ISBN 978-0-13-208903-6</p> <p>◆参考書： Intensive English Handbook (green)</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	Advanced English 6 (Academic Writing 1, CEFR B2)					授業タイプ		講義(AL)	
科目区分	外国語	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	前期
教員名	Jennifer Moua (専任)								
授業の概要	<p><u>キーワード : fluency, analysis, writing organization</u></p> <p>This course is not lecture. This course will be conducted entirely in English. This course builds on the skills from Intensive English to improve writing organization and fluency through extensive practice. Particular attention will be paid to structure of longer essays through both writing and reading. Grammar will be reviewed as necessary.</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> Students will be able to write fluent, accurate comparison/contrast & cause/effect essays. Students will read and analyze information in English, to improve their writing. Students will be able to express their own thoughts fluently without a dictionary in class. 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
						○	○	○	○
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① Orientation. Unit 1: Environmental Studies p 13-17; thesis statements. [reading 1] ② Unit 1: structural analysis, p18-26; QuickWriting 1. [online HW 1] ③ Unit 1: essay thesis & outline, p 27-34 ④ Unit 1: grammar & draft writing, p35-42; QuickWriting 2 [essay 1 due next time] ⑤ Unit 2: Approaches to Learning; peer check essay 1; comp/contrast, p43-49; QuickWriting 3 [online HW 2] ⑥ Unit 2: parallel structure, p50-57 [reading 2] ⑦ Unit 2: grammar & draft writing, p58-68; QuickWriting 4 [essay 2 due next time] ⑧ Unit 3: Sociology; peer check essay 2; reflection, p73-83 [reading 3] ⑨ Unit 3: structure, p84-90; QuickWriting 5 [online HW 3] ⑩ Unit 3: internal logic, p91-98; QuickWriting 6 [reading 4] ⑪ Unit 3: preparation, p99-102; essay 3 written in class [online HW 4] ⑫ Unit 4: Technology; cause & effect, p103-113; QuickWriting 7 [online HW 5] ⑬ Unit 4: organization, p114-120 [reading 5] ⑭ Unit 4: internal logic, p121-131; QuickWriting 8 [online HW 6] ⑮ Unit 4: preparation, p132-135; essay 4 written in class; class survey <p>※ [~] are assignments done outside of class; all others done in class.</p>								
評価方法	Classroom effort 30%; 4 essays 30%; QuickWriting 20%; online homework 10%, required outside reading 10%								
講義外での学習	授業計画で[~]を付けている課題は宿題になります。								
履修上の注意事項	<p>※先修科目：特になし</p> <p>We will use the online dictionary at www.dictionary.com in this course. (携帯電話可)</p> <p>Students may also bring an E-J/J-E dictionary if they like, but it is not required.</p>								
教材	<p>◆教科書：Final Draft, level 3, Cambridge University Press, ISBN 9781009345460</p> <p>◆参考書：Intensive English Handbook, Intensive English writing portfolio</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	Advanced English 7 (Reading CEFR B2)					授業タイプ	講義(AL)				
科目区分	外国語	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期		
教員名	Kieran Enright (非常勤)										
授業の概要	<p>キーワード : fluency, comprehension, vocabulary</p> <p>This course is not lecture, but centered on group and pair work in class. Students will further improve fluency through extensive reading, improve vocabulary and comprehension, and read increasingly longer texts. This course is taught entirely in English. (It is recommended to take Advanced English 5 before taking this course.)</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> Students will learn additional reading strategies Students will be able to use an E-E dictionary Students will further improve their reading speed (goal: 180 words per minute or more) 					カリキュラムマップ項目					
						I	II	III	IV	V	VI
						○	○		○	○	○
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> Orientation/expectations; extensive reading log, vocabulary notebook, fluency log, book reports; p 19-25; p 50-52; p 228-234; [HW p 261-262] Check vocabulary notebook, check logs, comp p 172-177 [HW p 263-264] Reading circle (1); comp p 178-181 Repeated reading practice; comp p 181-184 [HW p 267-268] Vocabulary check; comp p 269-270 [HW p 269-270] Reading circle (2); group quiz p 189-193; comp p 194-200 [HW 271-272] Repeated reading practice; comp p 200-204 [HW 273-274] Book conference/reading practice; group quiz p 205-210 [HW 275-276] Reading circle (3); comp p 211-215 [HW p 277-278] Vocabulary notebook check; comp p 216-221 [HW 279-280] Reading circle (4); group quiz p 222-226; rapid reading practice [HW 281-282] Bibliobattle [HW 283-284] Reading circle (5); preparation for final exam Book conference; preparation for final exam; prepare reading logs, etc. Final exam (paper test); turn in both reading logs; survey 										
評価方法	Classroom effort (includes discussion, group quizzes, bibliobattle, etc.) 30%; reading circle 10%; extensive reading log 15%; fluency reading log 10%; book reports 5%; final exam 30%										
講義外での学習	Reading homework will take about one hour each week; ※[HW] is homework.										
履修上の注意事項	<p>We will use the online dictionary www.dictionary.com in this course. (携帯電話可)</p> <p>Students may bring an English-Japanese/Japanese-English dictionary, if they like, but it is not required.</p> <p>※先修科目： 特になし</p> <p>※他学部履修：</p>										
教材	<p>◆教科書： More Reading Power, 3rd edition, PearsonLongman, ISBN 978-0-13-208903-6</p> <p>◆参考書： Intensive English Handbook (green)</p>										
実務経験のある教員による授業科目											

科目名	Advanced English 8 (Academic Writing 2, CEFR B2)					授業タイプ		講義(AL)				
科目区分	外国語	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期			
教員名	Jennifer Moua (専任)											
授業の概要	<p>キーワード : fluency, analysis, writing organization</p> <p>This course is not lecture. This course will be conducted entirely in English. This course builds on the skills from Intensive English to improve writing organization and fluency through extensive practice. Particular attention will be paid to structure of longer essays through both writing and reading. Grammar will be reviewed as necessary, particularly logical connectors and modals.</p>											
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> Students will be able to write fluent, accurate summary, summary-response and argumentative essays, including research. Students will read and analyze longer texts in English to improve their own writing. Students will be able to express their own thoughts fluently in class without a dictionary. 					カリキュラムマップ項目						
						I	II	III	IV	V	VI	VII
						○	○		○	○	○	○
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> Orientation. Unit 5 (summary essays): Health; reflection, p137-147 [online HW 1] Unit 5: annotation/summary paragraphs, p 148-155 [reading] Unit 5: grammar, sourcing references, p156-159; QuickWriting 1 Unit 5: preparation, p160-162; draft essay 5 [online HW 2] Unit 6 (summary-response essays): peer check essay 5; summary-response, p163-169 [reading] Unit 6: analysis, p170-175; QuickWriting 2 [HW p 174-175] Unit 6: structure, p176-183; QuickWriting 3 [online HW 3] Unit 6: coherence, p184-191 [online HW 4] [essay 6 due next time] Unit 7 (argumentative essays): peer check essay 6; reflection, p198-207 [reading 3] Unit 7: arguments vs. facts, p208-210; QuickWriting 4 [HW p 202-203] Unit 7: structure, p211-219; QuickWriting 5 [reading] Unit 7: grammar and draft writing, p220-227 [online HW 5] [essay 7 due next time] Unit 8: peer check essay 7; reflection, p230-239; [reading] Unit 8: structure, 240-248; logic, p249-255, QuickWriting 6 [HW 7] Unit 8: preparation, writing essay 8; university survey <p>※ [~] are assignments done outside of class; all others done in class.</p>											
評価方法	Classroom effort 30%; 4 essays 30%; Online QuickWriting 20%; online homework 10%, required reading 10%											
講義外での学習	授業計画で[~]を付けている課題は宿題になります。											
履修上の注意事項	<p>※先修科目：特になし</p> <p>We will use the online dictionary www.dictionary.com in this course. (携帯電話可)</p> <p>Students may also bring an E-J/J-E dictionary if they like, but it is not required.</p>											
教材	<p>◆教科書：Final Draft, level 3, Cambridge University Press, ISBN 9781009345460</p> <p>◆参考書：Intensive English Handbook, Intensive English writing portfolio</p>											
実務経験のある教員による授業科目												

科目名	英語特別講義A					授業タイプ		講義 (AL)			
科目区分	外国語	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	前期集中		
教員名	Sean Otani (大谷ショーン) (非常勤)										
授業の概要	<p>キーワード : zoology, Animalia, invertebrates</p> <p>In this class we will study the key terminology and principles of animal biology. We will explore the animal cell, common organs, organ systems, phylogeny and classification, and evolution. Classes will be student-centered, and all classes will be conducted in English.</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> To combine English comprehension with the field of animal biology. Students will improve all 4 English skills, and will enhance their confidence and ability to converse in the scientific field of animal biology. 					カリキュラムマップ項目					
						I	II	III	IV	V	VI
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> Orientation: syllabus, course outline, assessment, textbook, etc. Animal classification. p.26-27, 30-31, 33-34. Animal evolution: variation, speciation, and extinction. p. 205-211, 213-214. Animal cell biology: specialization, mitosis, and meiosis. p. 36, 44-46. Transport in animals: diffusion, osmosis, etc. p. 51-52, 56-58. (Vocabulary test 1.) Respiration: aerobic and anaerobic. p. 60, 63-65. Enzymes: metabolism. p. 67, 74. Nutrition in humans: digestive system. p. 98-102. Nervous system: the brain, sight, hearing, and temperature control. p. 125-140. (Vocabulary test 2.) Animal reproduction: sexual reproduction, hermaphroditism. p. 160, 173-178. Animal life cycles: insects, amphibians, birds, and mammals. p.169-172. Humans and the environment Animal ecology: classifying feeding, food webs, social behavior. p. 218-219, 224. (Vocabulary test 3.) Group presentations Preparation for the final test, and questionnaire Final exam 										
評価方法	Vocabulary tests x 3 (30%), presentations (20%), final exam (50%). Note: Vocabulary tests will be from the previous 3-4 classes. A portion of class time will be allocated to working on presentations. The final exam will be a written test with questions from all units studied.										
講義外での学習	Pre-reading, designated homework, presentation preparation.										
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ※先修科目 : ※他学部履修 : 										
教材	<ul style="list-style-type: none"> ◆教科書 : Supersimple Biology: The Ultimate Bitesize Study Guide, Smithsonian Institution, ISBN-13 : 9781465493248 ◆参考書 : None. 										
実務経験のある教員による授業科目											

科目名	英語特別講義B					授業タイプ		講義				
科目区分	外国語	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	前期			
教員名	フェルナンデス・クリスティアン (非常勤)											
授業の概要	<p>キーワード: supply, demand, inventory, forecasting, logistics</p> <p>The course of Fundamentals of Supply Chain Management provides a comprehensive overview of the business processes, value creating activities, and practices for a supply chain and logistics. Students will learn how to develop and apply analytic tools, approaches, and techniques used in the design of integrated supply chains. Students will use case studies, simulations, and projects to apply supply chain management tools and techniques to real-world problems.</p>											
到達目標	<p>By the end of the course, students will be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Apply basic probability models. • Implement effective supply strategies. • Formulate and solve optimization models. • Identify approaches for effective inventory replenishment policies. • Implement optimal transportation routing. 						カリキュラムマップ項目					
	I	II	III	IV	V	VI	VII					
	○	○	○		○							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① Overview. Push/Pull Processes. ② Segmentation. ③ Demand Forecasting. ④ Time Series Analysis. ⑤ Seasonality ⑥ Inventory Management. ⑦ Economic Order Quantity ⑧ MIDTERM TEST ⑨ Stochastic Demand. ⑩ Probability Distributions. ⑪ Inventory Replenish Policies. ⑫ Inventory Replenish Policies. ⑬ Vehicle Routing. ⑭ Network Models. ⑮ FINAL TEST 											
評価方法	Classwork (25%), Midterm Test (30%), Final Test (45%)											
講義外での学習	Students will need to dedicate some time outside of the classroom to practice data analysis techniques and solve supply chain challenges.											
履修上の注意事項	<p>Participants should:</p> <p>Have a basic understanding of high school level math.</p> <p>Be comfortable with basic statistics.</p> <p>Be comfortable with Microsoft Excel spreadsheets.</p>											
教材	<p>The course uses handouts provided in class as the main learning materials.</p> <p>A computer is necessary for every class. Students will use it to perform data analysis, solve problems related to supply chain management.</p>											
実務経験のある教員による授業科目												

科目名	英語特別講義C					授業タイプ		講義 (AL)			
科目区分	外国語	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	後期		
教員名	Mark Giardine										
授業の概要	<p>キーワード: botany, stomata, gymnosperm, angiosperm</p> <p>In this class we will study the key terminology and principles of plant biology. We will explore the plant cell, plant respiration, reproduction methods, phylogeny and classification, and evolution. Classes will be student-centered, and all classes will be conducted in English.</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> To combine English comprehension with the field of plant biology. Students will improve all 4 English skills and will enhance their confidence and ability to converse in the scientific field of plant biology. 	カリキュラムマップ項目									
		I	II	III	IV	V	VI	VII			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> Orientation: syllabus, course outline, assessment, textbook, brief introduction. Life & plant classification: p. 25, 27-28, 32. Main plant cells: mitosis, meiosis p. 37, 42-43, 44-45. Cell transport: binary fission, diffusion, osmosis p. 47, 51-52, 56. Plant respiration: aerobic and anaerobic, p. 60-61, 63, 64-65. Plant enzymes: temperature, pH, substrates, p. 67-70, 74. Plant nutrition part 1: photosynthesis, leaves, stomata, glucose, p. 76-79. Mid-term test Plant nutrition part 2: nitrates, phosphates, potassium, magnesium, plant adaptation, greenhouse farming p. 80-89. Plant transport: xylem, phloem, transpiration, plant roots, plant hormones p 104-109. Plant reproduction and life cycles: asexual reproduction, germination, seed dispersal, flowers, pollination, fertilization, p. 161-168. Genetics and biotechnology: Mendel's work, codominance, cloning, micropropagation, plant evolution, selective breeding p. 190-193, 199, 202, 212. Plant health and ecology: interdependence, abiotic factors, carbon, water, and nitrogen cycles, carbon sinks, farming methods, pests and plants, plant defenses p. 221, 231-233, 242, 250, 272-273. Final presentation preparation check: finalize structure, timing, confirmation of sources, mock presentation, adhering to grading requirements. Final presentation. 										
評価方法	Mid-term test (30%), Participation (20%), Final presentation (50%). A portion of class time will be allocated to working on the final presentation.										
講義外での学習	Pre-reading, designated homework, presentation preparation.										
履修上の注意事項	※先修科目: ※他学部履修:										
教材	◆教科書: Supersimple Biology: The Ultimate Bitesize Study Guide, Smithsonian Institution, ISBN-13: 9781465493248 ◆参考書: Quicklook (新規販売はありません)										
実務経験のある教員による授業科目											

科目名	英語特別講義D					授業タイプ		講義 (AL)	
科目区分	外国語	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	後期
教員名	松原ノエル (非常勤)								
授業の概要	<p><u>キーワード</u>: international studies, global awareness, cross-cultural understanding</p> <p>In this four-skills English course, students will learn the basic components of International Relations. 1. Students will discuss reading from the textbook and news in class. 2. Students will take short quizzes and tests to deepen their understanding. 3. Students will discuss key issues and components of International Relations. 4. Students will make short presentations in class.</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> Students will acquire basic knowledge of International Relations and become more globally aware. Students will be able to express on various global issues and news. 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
		○		○		○	○		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> Orientation: syllabus, class outline, grading, assessments. What is International Relations? Chapter 1: The Making of Modern World p6-19. Chapter 2: Diplomacy P20-31. News discussion. Explanation and Example Quiz Chapter 3: One world and Many Actors p32-45. News discussion. Quiz #1. Chapter 4: International Relations Theory p46-56. News discussion. Quiz #2. Chapter 6: International Organizations p71-77. News discussion, Quiz #3. Explanation of the mid semester assessment. Chapter 7: Global Civil Society p78-86. News discussion. Quiz #4. Explanation of the mid-semester assignment Chapter 8: Religion and Culture p98-111. Quiz #5 Preparation of the mid-semester assignment Mid-semester Assignment: Presentation of the country of your choice. Chapter 10: Global Poverty and Wealth p113-122. News discussion. Quiz #6. Chapter 11: Protecting People p123-134. News discussion. Quiz #7. Chapter 12: Connectivity, Communications and Technology p135-143. News discussion. Quiz #8. Chapter 14: Transnational Terrorism p152-162. News discussion. Quiz #9. Explanation of the final assessment. Chapter 16: Feeding the World p172-182. Quiz #10. Explanation of the End of semester Test. Preparation for the final assessment. End of Semester Quiz. Preparation for the final assessment. Final Assignment: Presentation on the global issue of your choice. Class survey. 								
評価方法	Classroom activity/discussion 30% ; Quizzes 20% (2% each×10=20%) ; Mid-semester Assignment 15% ; Final Assignment 25% ; End of semester Quiz 10%								
講義外での学習	<ul style="list-style-type: none"> -Students are assigned to read chapters of textbook materials to prepare for the class activity/discussion. -Students are highly recommended to read English news papers. The Japan News http://japannews.yomiuri.co.jp (オンライン可) 								
履修上の注意事項	This is an English course. Please be prepare to speak English. ※先修科目： ※他学部履修：								
教材	<p>◆教科書： International Relations, Stephen McGlinchey, E-International Relations Publishing, ISBN 978-1-910814-17-8 (papaerbook) ISBN 978-1-910814-18-5 (e-book)</p> <p>◆参考書： The Japan News http://japannews.yomiuri.co.jp</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	英語活動A					授業タイプ		実習																						
科目区分	外国語	履修区分	選択	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期																					
教員名	荒田 鉄二（専任）																													
授業の概要	<p>キーワード：異文化交流、持続性、調査報告</p> <p>ドイツの Berliner Hochschule für Technik の学生とチームを組んで、それぞれの地域で行われている都市、農村、産業等の持続性に関わる取組みについてフィールド調査を行い、取組みの当事者からの一次情報の収集を行う。ドイツの学生と、オンライン・プラットフォーム等を通じて収集した情報を交換・共有し、調査結果を共同で取りまとめる。この際、調査レポートのとりまとめ、情報交換、最終プレゼンテーション資料の作成は、全て英語で行う。</p>																													
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 英語でレポートが作成できる（チームごとに、日独2つのケース・スタディから、両国における活動の違い、共通点、特徴を比較整理した4ページの英文レポートを作成） 英語でプレゼンテーション・スライドを作成できる（調査結果についての英語ナレーション付きのプレゼンテーション・スライドを作成） 英語でインタビューとショート・ビデオを作成できる（チームごとに、相互インタビューを含むこの活動についてのビデオを作成） 					<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="7">カリキュラムマップ項目</th> </tr> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> <th>VI</th> <th>VII</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>				カリキュラムマップ項目							I	II	III	IV	V	VI	VII		○					○
カリキュラムマップ項目																														
I	II	III	IV	V	VI	VII																								
	○					○																								
授業計画	<p>実施担当者：ジェニファー・モウア（専任）</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション フィールド調査のテーマ検討（1）：情報収集 フィールド調査のテーマ検討（2）：訪問先の検討 ドイツ側とのオンライン・ミーティング（第1回）：自己紹介、調査テーマ、訪問先についての意見交換 フィールドの調査 フィールドの調査結果の取りまとめ ドイツ側とのオンライン・ミーティング（第2回）：調査レポートの進捗状況と以後の作業について情報交換および合意形成 ドイツ側のパートナーと適宜意見交換し、レポート作成を進める。 ドイツ側とのオンライン・ミーティング（第3回）：チームごとに共同してレポートを完成させる共に相手側の経験について互いにインタビューする。 調査レポートを完成させる。 プレゼンテーション・スライド（音声抜き）を完成させる プレゼンテーション・スライドへの英語ナレーション原稿の作成 プレゼンテーション・スライドへの英語ナレーションの吹込み スライドショーによるプレゼンテーションとビデオの上映・視聴 全体振り返り 																													
評価方法	調査の実施状況：30%、成果物（調査レポート、プレゼンテーション資料）の出来：40%、ドイツ側とのコミュニケーション充実度（ビデオで評価）：30%																													
講義外での学習	ドイツ側の学生とのメール等による連絡は、オンライン・ミーティングの時間以外にも適宜行うこと。																													
履修上の注意事項	今年度または来年度に海外語学研修に参加することを考えている学生は、この英語活動Aを履修することが望ましい。また、内容はドイツ側との調整によって変更になることがある。 ※先修科目： 特になし																													
教材	◆教科書： なし ◆参考書： なし																													
実務経験のある教員による授業科目																														

科目名	英語活動B					授業タイプ		実習	
科目区分	外国語	履修区分	選択	配当年次	1	単位数	2	開講区分	後期
教員名	荒田 鉄二（専任）								
授業の概要	<p>キーワード：非欧米文化、近代化、異文化理解</p> <p>私たちは西欧近代文明の中に生きており、世界的にも欧米文化がビジネス、スポーツ、芸術など、多くの分野で主流の文化となっている。しかし、世界には、欧米文化以外の多様な文化が存在する。この授業では、中南米、アフリカ、中近東、南アジア、中央アジア、東欧など、日本では比較的になじみの薄い地域の文化について英語で学び、異なる視点から世界を見るとともに異文化理解を深める。なお、1～10回は、週1回で基礎知識を学び、11～15回はゲスト・スピーカーを招き、1日の集中で行う。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本では比較的になじみの薄い地域の歴史や文化を学び、基礎知識を身につける。 ゲスト・スピーカーとの対話から、対象地域の文化に対する理解を深める。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
授業計画	<p>※ 対象地域は、中南米、アフリカ、中近東、南アジア、中央アジア、東欧などの中から履修者の希望地域を選んで実施する。</p> <p>※ この授業は対話重視で、学生には授業中に積極的に質問することが期待される。</p> <p>実施担当者：</p> <ol style="list-style-type: none"> 対象地域の地理 対象地域の歴史 対象地域の産業と経済 対象地域の政治 対象地域の言語と文化 対象地域の暮らし 西欧化としての近代化の受容と葛藤 貧困等、対象地域の社会問題とその対応 対象地域の環境問題 対象地域と日本との関係 <p>< 1日の集中講義 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 対象地域の人気スポーツ 対象地域の食文化 エコ・ツーリズム等、対象地域における環境への取り組み 対象地域の音楽 ゲスト・スピーカーら見た日本での異文化体験 								
評価方法	集中講義への参加状況 40%、中間レポート 30%、最終レポート 30%								
講義外での学習	特になし。								
履修上の注意事項	集中講義の日は、休憩時間も極力日本語を使わないこと。 内容は、ゲスト・スピーカーとの調整等により変更になることがある。 ※先修科目： 特になし								
教材	◆教科書： なし ◆参考書： なし								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	海外英語研修A					授業タイプ		実習	
科目区分	外国語	履修区分	選択	配当年次	1	単位数	1	開講区分	前期集中 後期集中
教員名	今井 正和（専任）								
授業の概要	キーワード： 海外語学研修、国際交流、異文化交流								
	国際交流センターが行う国際交流活動には、海外の大学で行われる英語語学研修がある。英語語学研修期間中に、当該の海外の大学が英語で実施する授業を受講することによって学修を行う。								
到達目標	授業を提供する大学が設定する到達目標を本授業の到達目標とし、英語運用能力を高めることを目標とする。					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
									○
授業計画	国際交流センターが実施する国際交流活動のうち、海外大学が授業を提供する場合があります。詳細な授業計画については、授業を実施する大学が設定するので、それを参照すること。								
評価方法	授業を実施した現地の大学の評価をもって、本授業の評価とすることを基本とするが、本学教員が事前事後に講義を行うことで、到達度を評価することもある。その場合は別途シラバスを定める。								
講義外での学習									
履修上の注意事項	本科目では国際交流センターが実施する国際交流活動（海外大学への語学研修）に参加することが前提となるので、国際交流センターからの案内に注意しておくこと。 ※先修科目： 特になし								
教材	◆教科書： ◆参考書：								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	海外英語研修B					授業タイプ		実習	
科目区分	外国語	履修区分	選択	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期集中 後期集中
教員名	今井 正和（専任）								
授業の概要	キーワード： 海外語学研修、国際交流、異文化交流								
	国際交流センターが行う国際交流活動には、海外の大学で行われる英語語学研修がある。英語語学研修期間中に、当該の海外の大学が英語で実施する授業を受講することによって学修を行う。								
到達目標	授業を提供する大学が設定する到達目標を本授業の到達目標とし、英語運用能力を高めることを目標とする。					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
									○
授業計画	国際交流センターが実施する国際交流活動のうち、海外大学が授業を提供する場合があります。詳細な授業計画については、授業を実施する大学が設定するので、それを参照すること。								
評価方法	授業を実施した現地の大学の評価をもって、本授業の評価とすることを基本とするが、本学教員が事前事後に講義を行うことで、到達度を評価することもある。その場合は別途シラバスを定める。								
講義外での学習									
履修上の注意事項	本科目では国際交流センターが実施する国際交流活動（海外大学への語学研修）に参加することが前提となるので、国際交流センターからの案内に注意しておくこと。 ※先修科目： 特になし								
教材	◆教科書： ◆参考書：								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	海外英語研修C					授業タイプ		実習	
科目区分	外国語	履修区分	選択	配当年次	1	単位数	3	開講区分	前期集中 後期集中
教員名	今井 正和（専任）								
授業の概要	キーワード： 海外語学研修、国際交流、異文化交流								
	国際交流センターが行う国際交流活動には、海外の大学で行われる英語語学研修がある。この英語語学研修期間中に、当該の海外の大学が英語で実施する授業を受講することによって学修を行う。								
到達目標	授業を提供する大学が設定する到達目標を本授業の到達目標とし、英語運用能力を高めることを目標とする。					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
									○
授業計画	国際交流センターが実施する国際交流活動のうち、海外大学が授業を提供する場合があります。詳細な授業計画については、授業を実施する大学が設定するので、それを参照すること。								
評価方法	授業を実施した現地の大学の評価をもって、本授業の評価とすることを基本とするが、本学教員が事前事後に講義を行うことで、到達度を評価することもある。その場合は別途シラバスを定める。								
講義外での学習									
履修上の注意事項	本科目では国際交流センターが実施する国際交流活動（海外大学への語学研修）に参加することが前提となるので、国際交流センターからの案内に注意しておくこと。 ※先修科目： 特になし								
教材	◆教科書： ◆参考書：								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	海外語学実習A					授業タイプ		実習																																	
科目区分	外国語	履修区分	選択	配当年次	1	単位数	1	開講区分	前期集中 後期集中																																
教員名	今井 正和（専任）																																								
授業の概要	キーワード： 海外語学研修、国際交流、異文化交流																																								
	国際交流センターが行う国際交流活動のうち、海外大学で行われる語学研修に参加することによって語学能力を磨く。同時に現地の文化・習慣などに触れ、体験することによって直接に理解する。																																								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 海外の大学などが行っている語学研修に参加することによって対象となる言語能力を向上させ、現地で問題なく生活できるようになる。 現地の文化・習慣に触れ、国際的な感覚を身につけ、他人に説明できるようになる。 					カリキュラムマップ項目																																			
						I	II	III	IV	V	VI	VII																													
授業計画	<p>国際交流センターが実施する国際交流活動のうち、海外大学への語学研修に参加する形で実施する。研修期間が3週間程度以上のものを対象とし、2週間程度以下の短い研修期間のものは対象とならない。その他に国際交流センターが実施する国際交流活動には海外大学との学生交流・文化交流もあるが、これらは大学からの派遣であるため、本科目の対象とはならない。語学研修プログラムはシラバス作成時点では次のように計画されているが、変更されることもあるので詳細については国際交流センターからの周知事項を参照すること。詳細な研修内容は実施大学によって異なるので、語学研修プログラムの詳細で確認すること。</p> <table border="1" data-bbox="354 1234 1402 1536"> <thead> <tr> <th>研修国</th> <th>研修先大学</th> <th>研修時期</th> <th>期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ドイツ</td> <td>カッセル大学</td> <td>8月～9月頃</td> <td>3週間</td> </tr> <tr> <td>アメリカ</td> <td>ワーナーパシフィック大学</td> <td>8月～9月頃</td> <td>3週間</td> </tr> <tr> <td>オーストラリア</td> <td>サザンクロス大学</td> <td>2月～3月頃</td> <td>5週間</td> </tr> <tr> <td>カナダ</td> <td>トリニティ・ウエスタン大学</td> <td>2月～3月頃</td> <td>4週間</td> </tr> <tr> <td>マレーシア</td> <td>アジアパシフィック大学</td> <td>2月～3月頃</td> <td>4週間</td> </tr> <tr> <td>韓国</td> <td>延世大学</td> <td>8月頃</td> <td>3週間</td> </tr> <tr> <td>中国</td> <td>吉林大学</td> <td>8月頃</td> <td>2週間</td> </tr> </tbody> </table>									研修国	研修先大学	研修時期	期間	ドイツ	カッセル大学	8月～9月頃	3週間	アメリカ	ワーナーパシフィック大学	8月～9月頃	3週間	オーストラリア	サザンクロス大学	2月～3月頃	5週間	カナダ	トリニティ・ウエスタン大学	2月～3月頃	4週間	マレーシア	アジアパシフィック大学	2月～3月頃	4週間	韓国	延世大学	8月頃	3週間	中国	吉林大学	8月頃	2週間
研修国	研修先大学	研修時期	期間																																						
ドイツ	カッセル大学	8月～9月頃	3週間																																						
アメリカ	ワーナーパシフィック大学	8月～9月頃	3週間																																						
オーストラリア	サザンクロス大学	2月～3月頃	5週間																																						
カナダ	トリニティ・ウエスタン大学	2月～3月頃	4週間																																						
マレーシア	アジアパシフィック大学	2月～3月頃	4週間																																						
韓国	延世大学	8月頃	3週間																																						
中国	吉林大学	8月頃	2週間																																						
評価方法	参加した現地での語学学習プログラムにおける評価に加えて、提出された毎日の参加レポートの内容を勘案し、本科目の評価とする																																								
講義外での学習																																									
履修上の注意事項	<p>本科目では国際交流センターが実施する国際交流活動（海外大学への語学研修）に参加することが前提となるので、国際交流センターからの案内に注意しておくこと。</p> <p>※先修科目： 特になし</p>																																								
教材	<p>◆教科書： なし</p> <p>◆参考書： なし</p>																																								
実務経験のある教員による授業科目																																									

科目名	海外語学実習B					授業タイプ		実習																																	
科目区分	外国語	履修区分	選択	配当年次	1	単位数	1	開講区分	前期集中 後期集中																																
教員名	今井 正和（専任）																																								
授業の概要	キーワード： 海外語学研修、国際交流、異文化交流																																								
	国際交流センターが行う国際交流活動のうち、海外大学で行われる語学研修に参加することによって語学能力を磨く。同時に現地の文化・習慣などに触れ、体験することによって直接理解する。																																								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 海外の大学などが行っている語学研修に参加することによって対象となる言語能力を向上させ、現地で問題なく生活できるようになる。 現地の文化・習慣に触れ、国際的な感覚を身につけ、他人に説明できるようになる。 					カリキュラムマップ項目																																			
						I	II	III	IV	V	VI	VII																													
授業計画	<p>国際交流センターが実施する国際交流活動のうち、海外大学への語学研修に参加する形で実施する。研修期間が3週間程度以上のものを対象とし、2週間程度以下の短い研修期間のものは対象とならない。その他に国際交流センターが実施する国際交流活動には海外大学との学生交流・文化交流もあるが、これらは大学からの派遣であるため、本科目の対象とはならない。語学研修プログラムはシラバス作成時点では次のように計画されているが、変更されることもあるので詳細については国際交流センターからの周知事項を参照すること。詳細な研修内容は実施大学によって異なるので、語学研修プログラムの詳細で確認すること。</p> <table border="1" data-bbox="354 1216 1422 1518"> <thead> <tr> <th>研修国</th> <th>研修先大学</th> <th>研修時期</th> <th>期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ドイツ</td> <td>カッセル大学</td> <td>8月～9月頃</td> <td>3週間</td> </tr> <tr> <td>アメリカ</td> <td>ワーナーパシフィック大学</td> <td>8月～9月頃</td> <td>3週間</td> </tr> <tr> <td>オーストラリア</td> <td>サザンクロス大学</td> <td>2月～3月頃</td> <td>5週間</td> </tr> <tr> <td>カナダ</td> <td>トリニティ・ウエスタン大学</td> <td>2月～3月頃</td> <td>4週間</td> </tr> <tr> <td>マレーシア</td> <td>アジアパシフィック大学</td> <td>2月～3月頃</td> <td>4週間</td> </tr> <tr> <td>韓国</td> <td>延世大学</td> <td>8月頃</td> <td>3週間</td> </tr> <tr> <td>中国</td> <td>吉林大学</td> <td>8月頃</td> <td>2週間</td> </tr> </tbody> </table>									研修国	研修先大学	研修時期	期間	ドイツ	カッセル大学	8月～9月頃	3週間	アメリカ	ワーナーパシフィック大学	8月～9月頃	3週間	オーストラリア	サザンクロス大学	2月～3月頃	5週間	カナダ	トリニティ・ウエスタン大学	2月～3月頃	4週間	マレーシア	アジアパシフィック大学	2月～3月頃	4週間	韓国	延世大学	8月頃	3週間	中国	吉林大学	8月頃	2週間
研修国	研修先大学	研修時期	期間																																						
ドイツ	カッセル大学	8月～9月頃	3週間																																						
アメリカ	ワーナーパシフィック大学	8月～9月頃	3週間																																						
オーストラリア	サザンクロス大学	2月～3月頃	5週間																																						
カナダ	トリニティ・ウエスタン大学	2月～3月頃	4週間																																						
マレーシア	アジアパシフィック大学	2月～3月頃	4週間																																						
韓国	延世大学	8月頃	3週間																																						
中国	吉林大学	8月頃	2週間																																						
評価方法	参加した現地での語学学習プログラムにおける評価に加えて、提出された毎日の参加レポートの内容を勘案し、本科目の評価とする																																								
講義外での学習																																									
履修上の注意事項	<p>本科目では国際交流センターが実施する国際交流活動（海外大学への語学研修）に参加することが前提となるので、国際交流センターからの案内に注意しておくこと。</p> <p>※先修科目： 海外語学実習A</p>																																								
教材	<p>◆教科書： なし</p> <p>◆参考書： なし</p>																																								
実務経験のある教員による授業科目																																									

科目名	基礎英語能力養成 A					授業タイプ		演習	
科目区分	外国語	履修区分	自由	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期集中
教員名	中村 弘子 (専任)								
授業の概要	<p>キーワード : four skills of English , test-taking strategies, independent learning</p> <p>企業のグローバル化に伴い、英語の実践力を身につけた人材が求められている。本授業では、英語力を可視化する資格試験に焦点を置き、4技能の効果的な伸長を目指す。TOEIC®のスコアアップに必要な基礎力の強化に加え、読解力、および速読力の伸長を図る。毎回単語および文法の小テストを行い、4技能の土台になる基礎知識を定着させる。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> CEFR の B1 レベル (TOEIC®550, 英検 2 級) を取得するための基礎力を身につける。 資格試験の意義を理解し、自宅学習の習慣をつけ、弱点を克服する。 長期目標および短期目標を設定し、目標スコアを取得する。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
授業計画	<p>2回目以降は前回の授業で扱った内容から復習小テストを行う。</p> <p>① Orientation [授業の概要・評価方法] 単語・文法基礎テスト</p> <p>② Unit 1: Companies and Organization (Section A) 単語・文法基礎テスト</p> <p>③ Unit 1: Companies and Organizations (Section B) Unit 1 A 小テスト 品詞</p> <p>④ Unit 2: Work Routines Unit 1 B 小テスト 前置詞</p> <p>⑤ Unit 3: Travel and Entertainment Unit 2 小テスト 接続詞</p> <p>⑥ Unit 4: Human Resources Unit 3 小テスト 代名詞</p> <p>⑦ Unit 5: Manufacturing Unit 4 小テスト 受動態・分詞</p> <p>⑧ 模擬試験</p> <p>⑨ Unit 6: Office Technology Unit 5 小テスト 時制</p> <p>⑩ Unit 7: Purchasing Unit 6 小テスト 動名詞・不定詞</p> <p>⑪ Unit 8: Health Care Unit 7 小テスト 動詞の形</p> <p>⑫ Unit 9: Housing and Property Unit 8 小テスト 可算・不可算名詞</p> <p>⑬ Unit 10: Banking and Finance Unit 9 小テスト 関係代名詞</p> <p>⑭ 模擬試験 Unit 10 小テスト</p> <p>⑮ 復習テスト, TOEIC Speaking & Writing</p>								
評価方法	Participation (50%) 資格試験のスコア(30%) 復習テスト(20%)								
講義外での学習	テキストの予習を原則とする。								
履修上の注意事項	<p>* TOEIC® IP テストを必ず受験すること。</p> <p>* 先修科目：特になし</p> <p>* テキストは受講者の数を確認して、担当教員が注文する。履修登録については学内 Web を確認すること。 聴講も可。第1回授業 4/8(月)4 限</p>								
教材	<p>◆教科書： <i>TOEIC SKILLS 1</i> ISBN 978-1-896942-93-3</p> <p>◆参考書：</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	基礎英語能力養成 B					授業タイプ		演習	
科目区分	外国語	履修区分	自由	配当年次	1	単位数	2	開講区分	後期集中
教員名	中村 弘子 (専任)								
授業の概要	<p>キーワード： four skills of English , test-taking strategies, independent learning</p> <p>前期に引き続き、英語の資格試験を活用し、4技能の継続的な伸長を目指す。TOEIC®に特化したテキストをベースに、ビジネス英語の基礎やビジネスシーンの背景知識を学ぶ。さらにアウトプットの課題に取り組むことで、実践力を強化する。2回目以降は、前回の授業内容から復習小テストを行い、知識とスキルの定着を図る。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> CEFR の B1 レベル (TOEIC®550, 英検 2 級) を取得するための基礎力を身につける。 資格試験の意義を理解し、自宅学習の習慣をつけ、弱点を克服する。 長期目標および短期目標を設定し、目標スコアを取得する。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
授業計画	<p>2回目以降は前回の授業で扱った内容から復習小テストを行う。</p> <p>① Orientation [授業の概要・評価方法]</p> <p>② Unit 1: Companies and Organizations (Section A) 品詞</p> <p>③ Unit 1: Companies and Organizations (Section B) Unit 1 A 小テスト 品詞</p> <p>④ Unit 2: Work Routines Unit 1 B 小テスト 前置詞</p> <p>⑤ Unit 3: Travel and Entertainment Unit 2 小テスト 接続詞</p> <p>⑥ Unit 4: Human Resources Unit 3 小テスト 代名詞</p> <p>⑦ 模擬試験</p> <p>⑧ Unit 5: Manufacturing Unit 4 小テスト 受動態・分詞</p> <p>⑨ Unit 6: Office Technology Unit 5 小テスト 時制</p> <p>⑩ Unit 7: Purchasing Unit 6 小テスト 動名詞・不定詞</p> <p>⑪ Unit 8: Health Care Unit 7 小テスト 関係代名詞</p> <p>⑫ Unit 9: Housing and Property Unit 8 小テスト 可算・不可算名詞</p> <p>⑬ Unit 10: Banking and Finance Unit 9 小テスト 文法総復習</p> <p>⑭ TOEIC speaking Unit 10 小テスト</p> <p>⑮ 復習テスト, TOEIC writing</p>								
評価方法	Participation (50%) 資格試験のスコア(30%) 復習テスト(20%)								
講義外での学習	テキストの予習を原則とする。								
履修上の注意事項	<p>* TOEIC® IP テストを必ず受験すること</p> <p>* 先修科目：特になし</p> <p>* テキストは受講者の数を確認して、担当教員が注文する。履修登録については学内 web を確認すること。聴講も可。第1回授業は10/8(火)2限</p>								
教材	<p>◆教科書： <i>TOEIC SKILLS 2</i> ISBN 978-01-78547-082</p> <p>◆参考書：</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	応用英語能力養成 A					授業タイプ		演習	
科目区分	外国語	履修区分	自由	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期集中
教員名	中村 弘子 (専任)								
授業の概要	<p>キーワード: four skills of English, test-taking strategies, independent learning</p> <p>英語の基礎力を固めるためには、目標を設定し、目標達成のために日々努力を続けることが大切である。本講義では、英語の資格試験を活用し、4技能の向上と、ビジネスで必要とされる英語の運用能力の強化を図る。スコアアップに必要な基礎力、および応用力を固めるための演習に加え、TOEIC®に不可欠な読解力、および速読力の伸長を図る。毎回単語および文法の小テストを行い、スコアアップに必要な基礎知識を定着させる。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> CEFR の B1 から B2 レベル (TOEIC®550~700) を取得するための基礎力・応用力を身につける。 資格試験の意義を理解し、自宅学習の習慣をつけ、弱点を克服する。 長期目標および短期目標を設定し、目標スコアを取得する。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
						○	○		
授業計画	<p>毎回単語・文法の小テストを行う。</p> <p>① Orientation [授業の概要・評価方法] 単語・文法基礎テスト</p> <p>② Unit 1: Companies and Organizations (Section A) 品詞</p> <p>③ Unit 1 Companies and Organizations (Section B) 品詞</p> <p>④ Unit 2: Work Routines (Section A) 前置詞</p> <p>⑤ Unit 2: Work Routines (Section B) 接続詞</p> <p>⑥ Unit 3: Travel and Entertainment (Section A) 代名詞</p> <p>⑦ Unit 3: Travel and Entertainment (Section B) 受動態・分詞</p> <p>⑧ 模擬試験</p> <p>⑨ Unit 4: Human Resources (Section A) 時制</p> <p>⑩ Unit 4: Human Resources (Section B) 動名詞・不定詞</p> <p>⑪ Unit 5: Manufacturing (Section A) 動詞の形</p> <p>⑫ Unit 5: Manufacturing (Section B) 関係代名詞</p> <p>⑬ 模擬試験</p> <p>⑭ TOEIC Speaking & Writing</p> <p>⑮ 復習テスト, TOEIC Speaking & Writing</p>								
評価方法	Participation (50%) 資格試験のスコア(30%) 復習テスト(20%)								
講義外での学習	テキストの予習を原則とする。								
履修上の注意事項	<p>1. 2技能で B1 レベルを既に達成していることが望ましい (TOEIC®550 以上、英検 2 級取得)。</p> <p>2. TOEIC® IP テストを必ず受験すること。</p> <p>*テキストは受講者の数を確認して、担当教員が注文する。履修届は学内 web を確認すること。聴講も可。第 1 回授業 4/10(水)</p>								
教材	<p>◆教科書: TOEIC SKILLS 3 ISBN 978-1-896942-92-6</p> <p>◆参考書: TOEIC L&R TEST 出る単特急金のフレーズ ISBN 978-02-331568-6</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	応用英語能力養成 B					授業タイプ		演習	
科目区分	外国語	履修区分	自由	配当年次	1	単位数	2	開講区分	後期集中
教員名	中村 弘子 (専任)								
授業の概要	<p>キーワード： four skills of English , test-taking strategies, independent learning</p> <p>前期に引き続き、英語の資格試験を活用し、4技能の継続的な伸長を目指す。TOEIC 学習をビジネス英語のスキルに結びつけるために、テキストのスピーキングおよびライティング課題に加え、TOEIC Speaking & Writing の問題にも取り組み、4技能における B2 レベルの習得を目指す。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 資格試験 (TOEIC・英検・GTEC 等) の CEFLB2 レベルを取得できる英語のスキルを身につける。 ビジネスシーンでの会話や議論に参加できるようになる。 英文メールを 10 分以内、エッセイを 30 分以内で書けるようになる。 	カリキュラムマップ項目							
		I	II	III	IV	V	VI	VII	
									○
授業計画	<p>毎回単語・文法の小テストを行う。</p> <p>① Orientation [授業の概要・評価方法] 単語・文法基礎テスト</p> <p>② Unit 6: Office Technology (Section A) 品詞</p> <p>③ Unit 6 Office Technology (Section B) 品詞</p> <p>④ Unit 7: Purchasing (Section A) 前置詞</p> <p>⑤ Unit 7: Purchasing (Section B) 接続詞</p> <p>⑥ Unit 8: Health Care (Section A) 代名詞</p> <p>⑦ Unit 8: Health Care (Section B)</p> <p>⑧ 模擬試験</p> <p>⑨ Unit 9: Housing and Property (Section A) 時制</p> <p>⑩ Unit 9: Housing and Property (Section B) 動名詞・不定詞</p> <p>⑪ Unit 10: Banking and Finance (Section A) 関係代名詞</p> <p>⑫ Unit 10: Banking and Finance (Section B) 可算・不可算名詞</p> <p>⑬ 模擬テスト</p> <p>⑭ TOEIC Speaking</p> <p>⑮ 復習テスト TOEIC Writing</p>								
評価方法	<p>Participation (50%) 資格試験のスコア(30%) 復習テスト(20%)</p>								
講義外での学習	テキストの予習を原則とする。								
履修上の注意事項	<p>*2技能で B1 レベルを既に達成していることが望ましい (TOEIC550 点以上, 英検 2 級取得)</p> <p>*TOEIC® IP テストを必ず受験すること</p> <p>*テキストは受講者の数を確認して、担当教員が注文する。履修登録については学内 web を確認すること。聴講も可。第 1 回授業 10/16(水)2 限</p>								
教材	<p>◆教科書： TOEIC SKILLS 3 ISBN 978-1-896942-92-6</p> <p>◆参考書： TOEIC L&R TEST 出る単特急金のフレーズ ISBN 978-02-331568-6</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	情報リテラシ1					授業タイプ		演習	
科目区分	情報処理	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	齊藤 明紀（専任）、市丸 夏樹（専任）、岩田 健吾（専任）、堀 磨伊也（専任）、吉田 聡(専任)								
授業の概要	<p>キーワード：情報リテラシ、Microsoft Office、電子メール</p> <p>情報リテラシ科目は、前期の1と後期の2の2科目で構成する演習科目である。大学生活に必要な情報活用技術を身につけるとともに、ある程度仕組みについても学ぶことにより、不測のトラブルへの対応能力を持った「しぶといユーザ」となることを目指す。情報リテラシ1では、コンピュータの基本設定、電子メール、ワープロによる文書作成、電子的プレゼンテーション、表計算、Web ページ作成など、コンピュータとインターネットを活用するための基本的スキルを身につける。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 学内でのコンピュータとネットワーク利用のための基礎知識を習得する。 ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトとOSの基本操作を身につける。 WWWや電子メールを活用して、他者と安全にコミュニケーションを取ることができる。 自分のパソコンを自分で管理できる。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
	○								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 受講上の注意、パソコンとアカウント通知書の配布、サインイン・サインアウト、アプリケーションの起動と終了、ネットワーク認証。 ② Windowsの基本操作、授業支援システム、パワーポイント教材の視聴方法、VPN。 ③ 授業支援システム、電子メールの設定、コンピュータとは何か ④ パソコンの基礎知識：パスワードの変更、ドライブ・フォルダ・ファイル、フォルダの階層構造、ファイル操作、タッチタイプ、電子メールの利用と注意事項。 ⑤ 表計算(1)：Microsoft Excel 2021による表計算（オートフィル、数式、関数等）。 ⑥ インターネットとセキュリティの基礎知識：インターネットの基礎知識（TCP/IP、DNS）、WebブラウザによるWWWの閲覧、ファイルのダウンロード、セキュリティの基礎知識（コンピュータウイルスとその対策）。 ⑦ Web ページ作成：Web サーバ、HTML、URL、Web ページの作成と公開。 ⑧ 文書作成(1)：Microsoft Word 2021による文書作成、Word レポート出題。 ⑨ 文書作成(2)：図や表の挿入、図表番号の設定。 ⑩ 電子的プレゼンテーション(1)：Microsoft PowerPoint 2021によるスライド作成。 ⑪ 電子的プレゼンテーション(2)：アウトライン、印刷。 ⑫ 表計算(2)：絶対参照、相対参照、複合参照、グラフの作成、印刷、Excel レポート出題。 ⑬ 表計算(3)：データベースの操作（フィールド、レコード、数値・日付フィルター、集計等）、複数のシート間の集計。 ⑭ 情報倫理・情報セキュリティ：引用のルール、著作権。 ⑮ パソコンの管理：メール・ファイルの整理、データの圧縮、バックアップ。 								
評価方法	講義中に出題される毎週の演習課題（40%）と2回のレポート（各30%）により総合的に評価する。								
講義外での学習	<p>円滑な演習のため、予めテキストを読んで来ること（予習）を勧める。授業時間内に終わらなかった演習課題とレポートは宿題となる。レポートは各自時間を確保して早めに仕上げ、メ切を守って必ず提出すること。</p> <p>分からないところは放置せず、オフィスアワー、授業支援システム等を利用して、適宜担当教員に質問すること。</p>								
履修上の注意事項	<p>本学における学生生活に必要なPC設定を行うため、入学初年度の学生は、必ず受講すること。テキストを毎回持参すること。1回目を除いて、教材ノートパソコンを使用する。パソコン忘れは欠席扱いとする。</p> <p>※先修科目：なし。</p>								
教材	<p>◆教科書：情報リテラシー アプリ編 Windows11/Office2021 対応、FOM 出版、2022</p> <p>◆教科書：公立鳥取環境大学情報リテラシ1・2 テキスト 2024 年度版、2024</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	情報リテラシ2					授業タイプ		演習						
科目区分	情報処理	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	後期					
教員名	齊藤 明紀（専任）、市丸 夏樹（専任）、久保 奨（専任）、佐川 龍之（専任）、吉田 聡（専任）													
授業の概要	<p>キーワード： MS Excel、MS Word、セキュリティ</p> <p>情報リテラシ1に引き続き、高級な文房具としてのコンピュータのより高度な使い方を習得する。コンピュータを使うことで、様々な作業を効率よくこなせるようになることが目標である。表計算による数値データ処理とグラフ化、論文やレポートの作成などを学ぶ。</p>													
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて各種関数を用い、表計算に必要な Excel の数式を自力で適切に記述することができる。 様々なソフトウェアを組み合わせ使用し、数式やグラフおよび画像を含む複雑な文書を作成することができる。 インターネット等を通じて必要な情報を素早く効果的に入手し、集めた情報を簡潔にまとめてわかりやすく表現することができる。 セキュリティに配慮して、安全に情報を管理できる。 	カリキュラムマップ項目												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> <th>VI</th> <th>VII</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	I	II	III	IV	V	VI	VII	○				
I	II	III	IV	V	VI	VII								
○														
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 表計算(4)：関数 (COUNTA、COUNTIF、VLOOKUP、IF、AND、OR、FREQUENCY 等)。 表計算(5)：Excel 確認テスト(1)、解説。 Python 入門：Python の基本。 文書作成(3)：長文のレポートの編集 (タブとリーダー、見出し、脚注、校閲等)、後期 Word レポート出題。 文書作成(4)：数式。 論文の執筆：アウトライン、見出しスタイル、段組み、数式と数式番号、文中数式、独立数式、図とタイトルのグループ化、相互参照。 インターネットの活用と注意：WWW 利用上の注意事項、Web 検索、情報の扱いについて (個人情報、著作権)、ソーシャルメディアの注意事項。 表計算(6)：ユーザー定義の表示形式、条件付き書式、複合グラフ、補助縦棒グラフ付き円グラフ、スパークライン。 表計算(7)：ピボットテーブル、データベース、テーブルの利用、レコードの抽出。 表計算(8)：練習問題 (世界の年間気温のグラフ化、度数分布、関数を利用した複雑な集計)。 表計算(9)：成績の集計と分析。 アプリケーションの導入：ファイル形式、拡張子とアプリケーションの関連付け、総合レポート出題。 フォトレタッチ：GIMP 入門 (レイヤー、画像のファイル形式、画像データの圧縮等)。 表計算(10)：Excel 確認テスト(2)、解説。 まとめと復習：情報リテラシ1・2の総復習。 													
評価方法	講義中に出題される演習課題 (40%)、2回の Excel 確認テスト (各 10%) 及び2回のレポート課題 (各 20%) により総合的に評価する。													
講義外での学習	<p>円滑な演習のため、予めテキストを読んで来ること (予習) を勧める。</p> <p>授業時間内に終わらなかった演習課題とレポートは宿題となる。レポートは各自時間を確保して早めに仕上げ、メ切を守って必ず提出すること。</p> <p>分からないところは放置せず、オフィスアワー、授業支援システム等を利用して、随時担当教員に質問すること。</p>													
履修上の注意事項	<p>教材ノートパソコンとテキストを毎回持参すること。パソコン忘れは欠席扱いとする。</p> <p>※先修科目：履修にあたって「情報リテラシ1」を修得しておくことが必要である。</p>													
教材	<p>◆教科書：情報リテラシー アプリ編 Windows11/Office2021 対応、FOM 出版、2022</p> <p>◆教科書：公立鳥取環境大学情報リテラシ1・2 テキスト 2024 年度版、2024</p>													
実務経験のある教員による授業科目														

科目名	キャリアデザインA					【COC】	授業タイプ		講義		
科目区分	キャリアデザイン	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	1	開講区分	前期		
教員名	今井 正和（専任）										
授業の概要	<p>キーワード：大学での学び、有意義な学生生活、卒業後の進路</p> <p>高校と大学の違いを理解し、大学生の自覚を持つことを目指す。さらに大学生として、将来社会人になる上で必要な自分の考えを持ち他人に伝える技術を修得する。また、働くことに興味を持ちその意義について考える。それをベースに自らのキャリアデザインを設計し、専門課程で学ぶべき方向性を見出す。</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 大学での学修方法を身につける 自分とは違う考えを聞くことができるようになる 企業への就職と大学院への進学という卒業後の進路への興味を持つ 					カリキュラムマップ項目					
						I	II	III	IV	V	VI
						○	○			○	
授業計画	<p>以下のような授業計画に従って授業が行われる。なお、諸般の事情により変更されることがあるので注意すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション 講義の概要等 大学での学び方の基本を理解する ② 大学での学び方と学生生活の基本 高校生（生徒）と大学生（学生）との違いを意識する ③ 大学での学び 最近の身の回りにある便利なものの有効活用 ④ 若手教員の語る大学生活（1） 大学生活を有意義に過ごすためのヒントを環境学部教員から学ぶ ⑤ 若手教員の語る大学生活（2） 大学生活を有意義に過ごすためのヒントを経営学部教員から学ぶ ⑥ 情報の仕入れ方（1） 情報の種類と信頼性 信頼できる情報とは何か ⑦ 情報の仕入れ方（2） 活字情報とインターネット上の情報 ⑧ コミュニケーションの基礎 大学内での友人、教員、職員とのコミュニケーション。挨拶の仕方、重要性 ⑨ ディスカッション（ディベート）の仕方 自分の考えを整理し伝える ⑩ ディスカッション（ディベート）の実践 ⑪ 学生時代に社会を体験する一つの方法 -インターンシップ ⑫ 卒業後の進路 学部学科、大学院進学等によって異なってくる進路について考える ⑬ 大学院への進学という選択 本学教員による進学の勧め ⑭ 経験者は語る 自分の進路を決めた方法・理由 あなたは就職？ 進学？ 起業？ ⑮ まとめ 										
評価方法	毎回の講義で出題するレポート（50%）、最終レポート（50%）										
講義外での学習	新聞を読み、説明をする練習を繰り返す。 指定する書籍を読む。										
履修上の注意事項	主体性を持って取り組んでください ※先修科目： 特になし										
教材	<p>◆教科書： 特に使用しない</p> <p>◆参考書： 講義の中で適宜紹介する</p>										
実務経験のある教員による授業科目											

科目名	キャリアデザインB				【COC】	授業タイプ		講義	
科目区分	キャリアデザイン	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	1	開講区分	前期
教員名	石川 真澄（専任）								
授業の概要	<p>キーワード：キャリアプラン、自己分析、職業研究</p> <p>専門分野の学修が本格的になる時期を迎え、自分の適性や価値観と向き合い、将来目指すべきキャリアの方向や、大学時代に準備すべき備えについて考えます。多様なゲストスピーカーを迎え、それぞれの業種・職種の事情や、キャリア形成のイメージを学ぶとともに、広く働くことの意義や社会と職場についてとらえ、理解と自己の職業観を深めることを目指します。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自己の適性や価値観を踏まえ、将来に向けた大学生活の現実的な目標を定めることができる。 様々な仕事に興味を持ち、社会人に質問ができる。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
						○	○		○
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① イントロダクション： 講義の概要、評価の考え方 ② 「働く」ということと向き合う ③ 自己分析の意義と方法 ④ 「働く」価値観から考える ⑤ ゲストスピーカー (1) ゲストスピーカー（公共部門）の講演と質疑応答 ⑥ ゲストスピーカー (2) ゲストスピーカー（金融業）の講演と質疑応答 ⑦ ゲストスピーカー (3) ゲストスピーカー（製造業）の講演と質疑応答 ⑧ ゲストスピーカー (4) ゲストスピーカー（環境関連産業）の講演と質疑応答 ⑨ ゲストスピーカー (5) ゲストスピーカー（士業）の講演と質疑応答 ⑩ ゲストスピーカー (6) ゲストスピーカー（公共部門2）の講演と質疑応答 ⑪ ゲストスピーカー (7) ゲストスピーカー（環境関連産業2）の講演と質疑応答 ⑫ ゲストスピーカー (8) ゲストスピーカー（流通・サービス産業）の講演と質疑応答 ⑬ ゲストスピーカー (9) ゲストスピーカー（未定）の講演と質疑応答 ⑭ 自己の適性と向き合う ⑮ 結び 								
評価方法	各回の講義で実施するレポート等の課題により評価します。また、講義時に積極的にゲストスピーカーに質問をすることを奨励し、その貢献によって加点を行います。								
講義外での学習	事前にゲストスピーカーの職業・企業を研究し疑問点を整理し、質問等の準備をする。								
履修上の注意事項	学外のゲストスピーカーによる講義の際は敬意と真剣さを持って臨むこと。 ※先修科目： 履修にあたって「キャリアデザインA」を履修していることが望ましい。								
教材	<p>◆教科書： 使用しない</p> <p>◆参考書： 講義の中で適宜紹介する</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	基礎インターンシップ 【COC】					授業タイプ		実習																						
科目区分	キャリアデザイン	履修区分	選択	配当年次	1	単位数	1	開講区分	前期集中 後期集中																					
教員名	今井 正和（専任）																													
授業の概要	<p>キーワード： 地域協働、インターンシップ、鳥取県</p> <p>短期間の鳥取県内の事業所における実務を経験することによって、働くことの意味を考える機会を得る。単に実務を経験するだけでなく、事前及び事後に学修を行うことで、働くことの意味を考え、自らの進路選択を判断する材料の一つとする。</p>																													
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所で実務経験を積む。 ・自らのキャリアをどのように形成していくかという問に対しての答えを得る。 					<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="7">カリキュラムマップ項目</th> </tr> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> <th>VI</th> <th>VII</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				カリキュラムマップ項目							I	II	III	IV	V	VI	VII		○			○		
カリキュラムマップ項目																														
I	II	III	IV	V	VI	VII																								
	○			○																										
授業計画	<p>本授業は鳥取県インターンシップ推進協議会が実施する「とっとりインターンシップ」に参加することで実施する。事業所での実習期間は夏休み期間の8月～9月もしくは春休み期間の2月～3月に実施する予定である。具体的な受け入れ先事業所やスケジュールなどの詳細については、決まり次第掲示などで周知される。</p> <p>事前学修会では、受け入れ事業所の特徴を知り、自分に見合った事業所の候補を検討することにより、自分のキャリア形成の方針についての考えを深める。</p> <p>事業所での実習では、実際の仕事を体験したり、間近で経験したりすることにより、自分が持っているイメージと現実の異同を確認する。</p> <p>事後学修会では、実習を行うことで発見したことを確認し、また他の参加者の考えと比較検討することにより、自分のキャリア形成の方針を再確認する。</p> <p>事業所での実習期間は数日程度が予定されている。</p>																													
評価方法	事前学修会、事後学修会への参加状況、実習先事業所での評価などを総合的に判断して可否による評価が行われる。																													
講義外での学習																														
履修上の注意事項	授業実施の詳細については決定次第掲示などで周知する。 ※先修科目： 特になし。																													
教材	<p>◆教科書：</p> <p>◆参考書：</p>																													
実務経験のある教員による授業科目																														

科目名	経営学入門					授業タイプ		講義	
科目区分	学部基礎	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	兪 成華 (専任)								
授業の概要	<p>キーワード：マネジメント、戦略、地域経営</p> <p>経営学は経済学、社会学、心理学などの多様な分野の研究成果を取り入れながら発展してきた学問である。また経営学が研究対象としている企業やそれを取り巻く環境も絶えず変化し続けている。企業は経済発展の担い手であるだけでなく、われわれの日常生活や地域社会に対しても大きな影響力をもっている。企業経営について体系的に学ぶことは、現代社会を考えるための重要な手掛かりになる。</p> <p>本授業では、ビジネス基礎科目として、受講生が経営学の基礎ならび戦略や組織の入門に触れる内容を総論として学習する。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 経営学のアウトラインを理解し、説明できる。 主要な概念については、具体的な事例を挙げて説明できる。 経営に関心を持ち、経営理論と関係づけて解決法を考えることができる。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
						○			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス：講義概要、成績評価の方法及び連絡方法など。 経営学とは何か：経営学は何を学ぶ学問かを紹介する。 企業経営の全体像：企業経営の大まかな仕組みを紹介する。 株式会社の仕組み：株式会社の歴史、特徴、設立などについて学ぶ。 企業戦略：戦略の種類、業界分析、バリューチェーンなどの考え方を紹介する。 競争戦略：3つの基本戦略、規模の経済と範囲の経済の有効性を解説する。 多角化戦略のマネジメント：PPM理論、ROI、シナジー効果を紹介する。 組織行動：動機付け理論、リーダーシップについて学ぶ。 人的資源管理：ヒトと人的資源管理の概念、活動や機能について解説する。 マーケティング：マーケティングの概念や基本機能について学ぶ。 ブランディング：ブランドという考え方の基本を解説する。 企業経営と環境：鳥取県の地元企業の取り組みを紹介する。(外部講師や実務家) 経営のグローバル化：事例を通じて国内と海外市場の仕組みの違いを紹介する。 地域経営：地方創生・地域活性化のための地域経営について学ぶ。 SDGs 経営：鳥取県の企業事例を中心に学ぶ。(外部講師や実務家) 定期試験 								
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験：成績評価の60%、筆記式の試験を行う。 小テスト：成績評価の30%、5回の小テストを実施する。 授業の参加態度・発言：成績評価の10%。 								
講義外での学習	「しっかり取ったノートを復習すること。」という勉学の基本事項を徹底するために、小テストを行う。よって受講生が前回の授業内容を復習することが必要になる。								
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 第1回「ガイダンス」時に詳細な説明を行う。必ず出席すること。 効率的に授業を進めるためにプロジェクトを用いて講義するが、一方的な授業にならないよう、受講生への質問を交えながら進行していく。 <p>※先修科目： 特になし。</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>								
教材	<p>◆教科書： 指定しない。 毎回資料プリントを配布する。</p> <p>◆参考書： 『地方創生のための経営学入門』磯野・倉持・川崎・兪編著、今井出版、ISBN：978-4866111506 『1からの経営学（第2版）』加護野忠男・吉村典久著、碩学舎、ISBN-10:4502696102 『経営学入門（上・下）』榊原清則著、日経文庫、ISBN-10:4532112826</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	会計学入門					授業タイプ		講義・演習		
科目区分	学部基礎	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	後期	
教員名	柳 年哉（専任）									
授業の概要	キーワード： GAAP、財務諸表、会計事象 会計学入門の講義では、会計を初めて学ぶ学生に、財務諸表の構成項目・体系及び役割を解説します。さらに、一般に公正妥当と認められる企業会計原則（GAAP）の意義を講義し、企業会計原則の具体的な会計処理方法（資産・負債の認識と測定）及びその結果がどのように財務諸表に反映されるかを解説します。									
到達目標	・ 財務諸表の見方と簡単な財務分析を理解し、公表されている上場企業の決算書が理解できる。 ・ 企業会計原則の体系と概要を理解し、説明できる。 ・ 会計取引の簡単な会計処理ができる。					カリキュラムマップ項目				
						I	II	III	IV	V
						○				
授業計画	（会計学概論） ① ガイダンス、会計と財務諸表の関係。（会計の役割と財務諸表との関連を学ぶ。） ② 財務諸表の種類（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）・体系及び役割。（財務諸表の見方を学ぶ。） ③ 財務諸表の種類（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）・体系及び役割。（財務諸表の見方を学ぶ。） ④ 一般に公正妥当と認められる企業会計原則（GAAP）とは何か及びその基本原理。（GAAPの体系と意義を学ぶ。） （貸借対照表） ⑤ 現金預金の意義と会計処理方法。（現金の範囲と現金過不足の処理を学ぶ。） ⑥ 売上債権の意義と会計処理方法。（売上債権の認識と貸倒引当金の処理を学ぶ。） ⑦ 棚卸資産の意義と会計処理方法。（棚卸資産の範囲と取得原価の処理を学ぶ。） ⑧ 棚卸資産の意義と会計処理方法。（棚卸資産の払出単価の算定を学ぶ。） ⑨ 固定資産の意義と会計処理方法。（固定資産の範囲と取得原価の処理を学ぶ。） ⑩ 固定資産の意義と会計処理方法。（減価償却方法を学ぶ。） ⑪ 負債と偶発債務の意義と会計処理方法。（負債の意義と認識と消滅を学ぶ。） （損益計算書） ⑫ 収益・費用及び経過勘定の認識。（収益及び費用の認識基準を学ぶ。） ⑬ 税金の意義と会計処理方法。（税金の種類と中間納付の会計処理を学ぶ。） （連結財務諸表） ⑭ 連結財務諸表の役割。（連結財務諸表の目的と簡単な連結修正仕訳を学ぶ。） ⑮ 全体のまとめと演習問題。（簡単な練習問題を解く） ⑯ 定期試験									
評価方法	財務諸表の内容・役割が理解できているか、企業会計原則に基づく簡単な会計処理が出来るかに重点を置く。 小テストの提出（評価 50%）、定期試験（評価 50%）									
講義外での学習	講義が始まる前に教科書を読み授業内容の概要を把握してください。講義後に教科書の練習問題を解いて理解の確認をしてください。									
履修上の注意事項	小テストの提出率が 50%を満たさない場合、定期試験の受験資格がありません。第 1 回に履修上の注意を話しますので、よく理解した上で受講してください。 ※先修科目： 特になし。 ※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。									
教材	◆教科書： 柳 年哉・川崎紘宗著『図解 簿記・会計の基本テキスト』同文館出版 ISBN978-4-495-21022-9 ◆参考書： 講義中に紹介します。									
実務経験のある教員による授業科目										
公認会計士として監査法人で勤務した経験を活かし、会計原則の理論とその実務上の具体的な適用についての授業を行う。										

科目名	現代経済学入門					授業タイプ		講義	
科目区分	学部基礎	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	西村 教子 (専任)								
授業の概要	キーワード：経済の仕組み、経済学的思考、経済学と日本経済								
	社会で起きている様々な問題をどのように観察し、理解していけばよいのだろうか。その助けとなるひとつの方法が経済学である。本講義では基礎的な経済学の考え方を学び、現実経済の仕組みの理解と現在社会が抱える諸問題に対する洞察力を養う。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済学の考え方が理解できるようになる ・現代経済の仕組みが理解できるようになる ・現代社会の諸問題の背景が理解できるようになる 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
						○			
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 経済学とは：経済学の考え方の考え方を学ぶ ② 家計(1)：消費と貯蓄など消費行動の理論を学ぶ ③ 家計(2)：時間配分の理論を学ぶ ④ 企業(1)：企業と生産活動の意義と目的を学ぶ ⑤ 企業(2)：市場の種類と独占市場の特徴を学ぶ ⑥ 政府：政府の役割を理解し、公共財の供給や税について学ぶ ⑦ ミクロ市場：完全競争市場の市場均衡と社会的厚生を学ぶ ⑧ ミクロ政策：公害や情報の非対称性を例に市場の失敗と対策を学ぶ ⑨ 金融(1)：金融取引の意義と経済に与える役割を学ぶ ⑩ マクロ市場とミクロ政策(2)：経済政策の市場効果とGDPの概念を学ぶ ⑪ マクロ政策(1)：財市場モデルとIS-LMモデルを学ぶ ⑫ マクロ政策(2)：財政政策と金融政策とその効果を学ぶ ⑬ 国際経済(1)：貿易の利益を学ぶ ⑭ 国際経済(2)：国際収支と為替レートを学ぶ ⑮ 国際経済(3)：国際貿易のルールと日本経済の国際化を学ぶ 								
評価方法	<p>確認テスト(30%)：予習と復習を含んだ確認テストを毎回実施する。</p> <p>中間レポート(30%)：学修したことを踏まえて、経済現象を説明できるかに重点を置く。</p> <p>期末レポート(40%)：学修したことを踏まえて、経済現象を説明できるかに重点を置く。</p>								
講義外での学習	経済学は大学で4年間学ぶため、そして社会人として生活していくために必要な教養のひとつです。「現代経済学入門」の講義は知識を増やし、覚えることではなく、仕組みを理解し自分で説明できることに重点を置いた講義です。そのために、経済学理論だけでなく、専門用語や日本経済の現状など基礎的な知識も必要となります。予習復習は必ずしておくことが大切です。								
履修上の注意事項	<p>特になし。</p> <p>※先修科目： 特になし。</p>								
教材	<p>◆教科書： 井堀利宏『入門経済学 第4版』新世社(ISBN：978-4-88384-339-8)</p> <p>◆参考書：</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	統計学入門					授業タイプ		講義				
科目区分	学部基礎	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	後期			
教員名	高井 亨 (専任)											
授業の概要	<p>キーワード：記述統計、正規分布、推測統計</p> <p>世の中には多くのデータがあふれている。われわれは、データからどのような知見を引き出すことができるのだろうか。まずはそのまま眺めるという作業が考えられる。しかし、それだけではデータの特徴をつかむことはむずかしい。データから有益な情報を引き出すためには、適切な道具があるとよい。それが統計学である。本講義では統計学が提供する道具のうち、基本的なものを中心として解説をおこなう。前半では、データの特徴を概観するために役立つ記述統計の方法を取り上げる。中盤から後半にかけては、部分（標本）から全体（母集団）を推測する「推測統計」について講義する。推測統計の考え方になじむことができれば、大学レベルの統計学の入口に立つことができたとと言える。</p>											
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> データを適切に要約することができる。 正規分布の特徴を説明できる。 区間推定の考え方を理解し、正規分布に従う標本が与えられたとき、母平均や母分散の区間推定ができる。 検定の考え方を説明できる。 					カリキュラムマップ項目						
						I	II	III	IV	V	VI	VII
						○						
授業計画	<p>① データの分布を視覚的に捉える：度数分布表とヒストグラム</p> <p>② データの分布の中心：平均値</p> <p>③ データの散らばりを調べる：分散・標準偏差</p> <p>④ 標準偏差からデータを見る</p> <p>-----</p> <p>⑤ 正規分布の特徴</p> <p>⑥ 仮説検定の考え方</p> <p>⑦ 区間推定の考え方</p> <p>-----</p> <p>⑧ 母集団と標本 1 母平均と標本平均、大数の法則</p> <p>⑨ 母集団と標本 2 標本平均の分布、中心極限定理</p> <p>⑩ 母分散が既知のとき、正規母集団の母平均の区間推定（正規分布）</p> <p>⑪ 母平均が既知のとき、正規母集団の母分散の区間推定（カイ二乗分布）</p> <p>⑫ 母平均と母分散が未知のとき、正規母集団の母分散の区間推定（カイ二乗分布）</p> <p>⑬ 母平均と母分散が未知のとき、正規母集団の母平均の区間推定（t 分布）</p> <p>-----</p> <p>⑭ 2変量のデータの分析方法 1：散布図と相関係数</p> <p>⑮ 2変量のデータの分析方法 1：回帰直線</p> <p>⑯ 定期試験</p>											
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験の成績 70% 課題の提出状況 30% 											
講義外での学習	<ul style="list-style-type: none"> さまざまなデータに触れる。 授業で学習した概念を、実際のデータに適用してみる。 											
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 中学卒業程度の数学的予備知識を前提としているので、当該知識については、各自復習しておくこと。 実際に自分で計算することを通して統計学は身につくので、毎回演習をおこなう。 統計学は「科学の文法」である。学部を問わず多くの学生の履修を歓迎する。 <p>※先修科目： 特になし。</p>											
教材	<p>◆教科書： 配布資料を用いる。</p> <p>◆参考書： 本講義と同レベルの参考書：「教養のための統計入門」（実教出版） 本講義より程度の高い参考書：「基礎統計学Ⅰ 統計学入門」（東京大学出版会）</p>											
実務経験のある教員による授業科目												

科目名	経営戦略論 1					授業タイプ		講義	
科目区分	学部基礎	履修区分	選択	配当年次	1	単位数	2	開講区分	後期
教員名	光山 博敏 (専任)								
授業の概要	<p>キーワード：経営戦略史、ビジネスモデル、持続的競争優位</p> <p>経営戦略を理解するためには、単に理論モデルを学ぶだけでなく、既存の理論がどのような歴史的背景の下で生み出され、競争力を発揮したのかを学ぶことが有益である。本講義では、今日まで使われてきた多様な戦略モデルが、どのような時代背景や社会環境の変化の中で生み出され実践されてきたのかについて網羅的且つ俯瞰的に学ぶ。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 経営戦略理論が発展してきた歴史的背景および経営戦略史が理解できる。 実際の企業がどのように経営戦略を策定・実行してきたのかを理解し、説明できる。 経営戦略論の基礎理論および分析フレームワークが理解できる。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
			○	○				○	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① イントロダクション～経営戦略の要諦～ ② 貨幣にまつわるビジネスモデル革新の変遷 ③ 日本発ビジネスモデル・イノベーションとチェーン・オペレーションモデル ④ ワン・ストップ型ビジネスモデルの登場 ⑤ フォードの大量生産システム ⑥ 自動車産業のトップランナー ～世界を変えたビジネス革新～ ⑦ ジレットの替え刃モデル ⑧ Xerox の従量課金システムとキヤノンの挑戦 ⑨ セブン・イレブンの換骨奪胎とドミナント戦略 ⑩ 任天堂のプラットフォームモデル ⑪ SPA モデル (GAP、ZARA、UNIQLO) から CSV 経営への移行 ⑫ 「ポータル」と「検索」モデル ⑬ B to B から C to B への転換ビジネスモデル ⑭ DELL のダイレクトモデル ⑮ プリミアム型ビジネスモデルと Moocs の台頭 								
評価方法	<p>平常点 30%、中間レポート 30%、期末レポート 40%</p> <p>「平常点」には、クラスへの参加度、<u>毎講義終了時のリアクション・ペーパーの内容と提出状況</u>などが含まれます。</p>								
講義外での学習	<p>普段から経済、経営関連の書籍やニュースに慣れ親しみ、主体的な知識習得の慣習化を求める。</p>								
履修上の注意事項	<p>講義中に生じた疑問や分からない語彙は当日中にクリアにしておくこと。</p> <p>※先修科目： 特に無し。</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>								
教材	<p>◆教科書： テキストは指定しません。パワーポイントスライドによる講義を行います。</p> <p>◆参考書： 『現場力-強い日本企業の秘密』光山博敏、中沢孝夫 筑摩書房 2020</p>								
実務経験のある教員による授業科目									
<p>医療器具、精密部品メーカーの米国現地法人において、経営管理全般に携わってきた経験をもとに実践的な戦略経営のあり方について講義する。</p>									

科目名	経営組織論 1					授業タイプ		講義	
科目区分	学部基礎	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	前期
教員名	島田 善道 (専任)								
授業の概要	キーワード：組織観、人間観、組織構造								
	企業は目的達成のため、組織を如何に運営するのでしょうか。経営組織論 1 ではその背後にある理論を学びます。講義では、運営する側と運営される側の両方の立場から、経営組織に関する諸理論を考えていきます。企業経営の現場で今まさに発生している事象や課題についても適宜、触れていきます。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 経営組織の基本的な理論を理解し、説明できる。 理論をもとに、実際の経営活動の良い点、改善すべき点を考えることができる。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
						<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション、経営組織論とは ② 経営組織論の全体概要 ③ 官僚制組織と官僚制の逆機能 ④ 成行管理と科学的管理法 ⑤ 大量生産する組織 ⑥ インフォーマル組織 ⑦ 新・人間関係論(1) 欲求階層説、ERG理論 ⑧ 新・人間関係論(2) 動機づけ・衛生理論、X理論・Y理論 ⑨ 近代組織論 ⑩ 意思決定する組織 ⑪ 環境適合する組織(1) 環境と組織 ⑫ 環境適合する組織(2) 技術と組織 ⑬ 新しい製品・技術・サービスを生み出す組織 ⑭ 新しい知識を生み出す組織 ⑮ 社会構成主義による組織観 ⑯ 定期試験 								
評価方法	期末試験 60%、講義中課題 40%。								
講義外での学習	日頃から新聞や雑誌などを読んで、ビジネスの現場では何が起きているのか興味を持って見て、そして良い点、改善すべき点を考えてください。								
履修上の注意事項	ノートを取る、課題は期限を守る、周りに迷惑をかける、以上3点必須です。 ※先修科目： 特になし。 ※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。								
教材	<ul style="list-style-type: none"> ◆教科書： なし ◆参考書： 適宜紹介します 								
実務経験のある教員による授業科目									
企業勤務経験を活かして、組織の中で実際に発生する事象を、経営組織に関する諸理論と関連付けて講義する。									

科目名	マーケティング1					授業タイプ		講義			
科目区分	学部基礎	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	前期		
教員名	竹内 由佳 (専任)										
授業の概要	キーワード：マーケティング、市場、社会的大義										
	マーケティングは 19 世紀後半から末にかけてアメリカにて生まれ、その学問領域が確立されたのは 20 世紀最初であるという比較的新しいものです。そしてマーケティングは、社会経済面と密接にかかわり合い、モノを売る話から、SDGs に掲げられた社会的な課題の解決といった、新たなステージへと突き進んでいることが確認されています。この授業では、様々な事例や理論を通じ、マーケティングとは一体どのようなものかについて学んでいきます。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 様々な事例や理論を通じて、マーケティングとは現在一体どのようなものであるかを理解できるようになる。 マーケティングとは一体どのようなものであるかをわかりやすく説明できるようになる。 						カリキュラムマップ項目				
							I	II	III	IV	V
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス：マーケティングとはどのようなものか、ドラマをもとにざっくりと説明します。 ② マーケティングの歴史：マーケティングを歴史的背景から追いかけます。 ③ マーケティング・マネジメント：STP, 4P について学びます。 ④ 戦略的マーケティング論 (1)：製品ポートフォリオ、製品ライフサイクルについて学びます。 ⑤ 戦略的マーケティング論 (2)：ポーターの基本戦略、市場地位別戦略について学びます。 ⑥ マーケティング・リサーチ：マーケティング・リサーチの方法やその意義について学びます。 ⑦ これまでの復習および質疑応答：これまでの講義内容を復習し、質問等に答えていきます。 ⑧ 関係性マーケティング：関係性マーケティングについて学び、これまでのマーケティングとの違いについて学びます。 ⑨ サービス・マーケティング：サービスを扱うマーケティングが、これまでのマーケティングとどのように違うかについて学びます。 ⑩ 国際マーケティング：国境を越えてマーケティングを行う場合、どのようなことが起こり得るのかについて学びます。 ⑪ 社会的大義とマーケティング(1)：マーケティングで社会的大義を扱う背景について学びます。 ⑫ 社会的大義とマーケティング(2)：ソーシャル・マーケティングについて学びます。 ⑬ 社会的大義とマーケティング(3)：社会を変えていくようなマーケティング活動を行う企業の事例を学びます。 ⑭ 社会的大義とマーケティング(4)：社会を変えていくようなマーケティング活動を行う企業がどのようなことを要因として持っているかを学びます。 ⑮ これまでの復習及び質疑応答：これまでの講義内容を復習し、質問等に答えていきます。 										
評価方法	1 回の課題レポート (15%)、ミニテスト (50%)、期末レポート (35%) を総合して評価します。自分なりの言葉で難しい用語を説明できているかに重点を置きます。										
講義外での学習	毎回授業後にミニテストを課します。さらに、1 回課題レポートを課します。それらのために十分な学習時間を割いてください。また、何気なく目に入った店の商品の並び方や、何気なく耳に入った流行についてのニュースなどを、マーケティングの理論を身に付けた上で解釈し直してみると、面白いことがわかるかもしれません。										
履修上の注意事項	<p>「流通論」も履修していただくと、より流通とマーケティングの違いが理解できるかと思えます。また、毎回のレジュメを大切にしてください。</p> <p>※先修科目： 特になし。</p> <p>※他学部履修： 特に制限なし。事前確認不要。</p>										
教材	<p>◆教科書：『社会を変えるマーケティング』（竹内由佳著、千倉書房、2020 年）、ISBN：978-4-8051-1212-0。</p> <p>◆参考書：適宜紹介していきます。</p>										
実務経験のある教員による授業科目											

科目名	商業簿記1					授業タイプ		講義・演習	
科目区分	学部基礎	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	川崎 紘宗（専任）								
授業の概要	<p>キーワード： 複式簿記、決算、複式簿記一巡の手続き</p> <p>企業が行う調達・製造・販売・財務といった経済活動を、金額に換算し、取引を分析し、継続的に帳簿へ二面的に記帳する手段が複式簿記である。それゆえ、複式簿記はビジネス言語といわれており、企業の活動を表現し、企業がどのような方向に進んでいるかを示してくれる。したがって、企業で仕事をするためには複式簿記の知識は不可欠である。本授業は、複式簿記の知識と技術について日商簿記検定試験というならば、3級程度の範囲（一部他級の範囲有）で説明を行う。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な会計用語を理解できるようになる。 ・ 個人事業の貸借対照表・損益計算書の作成に至るまでの簿記一巡の手続きを習得し、実際に作成できる。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション：複式簿記の歴史について学ぶ。 ② 財務諸表：貸借対照表と損益計算書の構造と期間損益計算について学ぶ。 ③ 複式簿記一巡の手続き：一連の手続きについて学ぶ。 ④ 帳簿記入：期中仕訳について学ぶ。 ⑤ 帳簿記入：転記について学ぶ。 ⑥ 諸取引の処理：事例によって諸取引を学ぶ。（現金と当座預金） ⑦ 諸取引の処理：事例によって諸取引を学ぶ。（商品売買） ⑧ 決算予備手続き：その一連の概要について学ぶ。 ⑨ 決算予備手続き：試算表の作成方法について学ぶ。 ⑩ 決算予備手続き：決算整理仕訳と8桁精算表の作成方法について学ぶ。 ⑪ 決算本手続き：その一連の概要について学ぶ。 ⑫ 決算本手続き：損益勘定の設定と決算振替仕訳について学ぶ。 ⑬ 決算本手続き：損益勘定の作成と損益計算書の作成の仕方を学ぶ。 ⑭ 決算本手続き：繰越試算表の作成と貸借対照表の作成の仕方を学ぶ。 ⑮ 複式簿記一巡の手続の演習。 ⑯ 定期試験 								
評価方法	小テスト（20%）、定期試験（80%）								
講義外での学習	簿記の習得には、復習が不可欠です。授業では、定期的に復習範囲を示すので講義終了後に学習すること。								
履修上の注意事項	<p>電卓を毎回必ず持参すること。また、ウェブ上に公開される講義資料を使用する回もあるので、あらかじめプリントアウトしておくこと。</p> <p>※先修科目： 特になし。</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>								
教材	<p>◆教科書： 柳 年哉・川崎紘宗著『図解 簿記・会計の基本テキスト』同文館出版（ISBN 978-4-495-21022-9）</p> <p>◆参考書： 中野常男『複式簿記会計原理（第2版）』中央経済社 久野光朗編『新版 簿記論テキスト』同文館出版、</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	商業簿記2					授業タイプ	講義・演習		
科目区分	学部基礎	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	前期
教員名	柳 年哉（専任）								
授業の概要	<p>キーワード：資産・負債の認識と測定、時価評価、連結財務諸表</p> <p>商業簿記2の講義では、商業簿記1で学習した項目の理解を確認しながら、日本商工会議所簿記検定2級（商業簿記）のレベルの会計処理を学習します。講義は、設例を中心にその理論的な裏付けを解説します。学習した項目に関しては、理解の確認のため演習問題を随時行います。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本商工会議所簿記検定試験2級レベルの知識を習得し、基本的な会計処理ができる。 ・基本的な財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書）の作成ができる。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション：簿記の体系と会計の基礎知識を確認する。 ② 現金・預金の会計処理（現金の範囲と銀行勘定調整表の作成）を学ぶ。 ③ 売上債権の会計処理（特に、貸倒引当金の算定方法）を学ぶ。 ④ 有価証券の会計処理（主として、有価証券の分類と期末評価）を学ぶ。（1） ⑤ 有価証券の会計処理（主として、有価証券の分類と期末評価）を学ぶ。（2） ⑥ 棚卸資産の会計処理（主として、棚卸資産の期末評価）を学ぶ。（1） ⑦ 棚卸資産の会計処理（主として、棚卸資産の期末評価）を学ぶ。（2） ⑧ 有形固定資産の会計処理（主として、減価償却方法）を学ぶ。 ⑨ 無形固定資産と繰延資産の会計処理（意義と認識基準）を学ぶ。 ⑩ 税金の会計処理（主として、税金の仕訳と税効果の意義）を学ぶ。 ⑪ 引当金の会計処理（主として、引当金の認識と測定）を学ぶ。 ⑫ 資本取引の会計処理（配当金・企業結合の会計処理）を学ぶ。 ⑬ 財務諸表作成（決算整理事項の仕訳）を学ぶ。 ⑭ 連結財務諸表の会計処理（連結修正仕訳）を学ぶ。（1） ⑮ 連結財務諸表の会計処理（連結財務諸表の作成）を学ぶ。（2） ⑯ 定期試験 								
評価方法	日本商工会議所簿記検定試験2級の商業簿記レベルの会計処理及び当該会計処理の理論的裏付けの理解ができているかどうかに重きを置く。小テストまたは小レポートの提出（評価50%）、定期試験（評価50%）								
講義外での学習	次回の講義内容を教科書で予習すること。また、不明な点はそのままにしないで、講義中又は研究室に質問にくること。								
履修上の注意事項	<p>電卓を毎回必ず持参してください。</p> <p>※先修科目： 履修にあたって、「会計学入門」「商業簿記1」を履修しておくことが望ましい。</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>								
教材	<p>◆教科書： 柳 年哉・川崎紘宗著『図解 簿記・会計の基本テキスト』同文館出版 ISBN978-4-495-21022-9</p> <p>◆参考書： 講義の中で紹介します。</p>								
実務経験のある教員による授業科目									
公認会計士としての会計実務の経験を活かして、図解による会計理論と実務との関連を踏まえた講義を行う。									

科目名	財務会計					授業タイプ		講義・演習	
科目区分	学部基礎	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	前期
教員名	柳 年哉（専任）								
授業の概要	<p>キーワード：財政状態と経営成績、企業会計基準、アカウンタビリティ</p> <p>財務会計の講義では、財務報告の目的、財務諸表の各構成要素（各勘定科目）の意義と役割及び会計処理を解説し、必要に応じて、日本の会計基準と国際財務報告基準（IFRS）の差異を講義します。また、実務上、論点となる会計事象とその会計処理及び論点を整理します。本講義では、図を使用して会計処理を説明します。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 財務会計の基本概念を理解し、説明できる。 貸借対照表、損益計算書及びキャッシュ・フロー計算書の役割と相互関連を理解し、説明できる。 上場企業の決算書の基本的な業績分析ができる。 財務諸表の各構成要素の基本的な会計処理を理解し、実務に活用できる。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス、財務会計の基本的な考え方（目的、フレームワーク）を学ぶ。 ② 会計情報（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書、注記事項）の役割及び会計の基本構造（一般に公正妥当と認められる企業会計基準）を学ぶ。 ③ 現金・預金及び金銭債権の意義と会計処理（現金の仕訳と現金過不足）を学ぶ。 ④ 有価証券の意義と会計処理（取得価額と払出単価の算定）を学ぶ。 ⑤ 棚卸資産の意義と会計処理（取得価額と払出単価の算定）を学ぶ。 ⑥ 有形固定資産の意義と会計処理（取得価額の算定）を学ぶ。 ⑦ 負債及び偶発債務の意義と会計処理（負債の認識と測定）を学ぶ。 ⑧ 引当金の意義と会計処理（引当金の要件と見積方法）を学ぶ。 ⑨ 税金と税効果の会計処理（中間納付と確定納税額の処理）を学ぶ。（1） ⑩ 税金と税効果の会計処理（繰延税金資産・負債の会計処理）を学ぶ。（2） ⑪ 純資産の認識と測定及び会計処理（増資と減資）を学ぶ。（1） ⑫ 純資産の認識と測定及び会計処理（増資と減資）を学ぶ。（2） ⑬ キャッシュ・フロー計算書の意義と作成方法とその見方を学ぶ。 ⑭ 連結財務諸表の意義と作成方法を学ぶ。 ⑮ 全体のまとめ ⑯ 定期試験 								
評価方法	<p>財務諸表の構成要素である各勘定科目の認識と測定の基本的な知識の修得及び会計事象の基本的な会計処理ができるかどうか、および財務諸表数値の見方を理解しているかどうかに重きを置く。</p> <p>小テスト及び小レポートの提出（評価 50%）、定期試験（評価 50%）</p>								
講義外での学習	<p>講義が始まる前に教科書を読み基礎知識を習得し、講義後に教科書の基本例を解いて理解の確認をしてください。</p>								
履修上の注意事項	<p>小テストの受講回数及び小レポートの提出率が 50%を満たさない場合、定期試験の受験資格がありません。第 1 回に履修上の注意を話しますので、よく理解した上で受講してください。</p> <p>※先修科目： 履修にあたって、「会計学入門」又は「商業簿記 1」を修得しておくことが望ましい。</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>								
教材	<p>◆教科書： 柳 年哉・川崎紘宗著『図解 簿記・会計の基本テキスト』同文館出版 ISBN978-4-495-21022-9</p> <p>◆参考書： 講義中に紹介します。</p>								
実務経験のある教員による授業科目									
公認会計士としての監査実務及び会計実務の経験を活かして、会計理論がどのように実務で適用されているかを実務家の視点を交え講義する。									

科目名	管理会計					授業タイプ		講義	
科目区分	学部基礎	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教員名	川崎 紘宗（専任）								
授業の概要	キーワード：マネジメント、コスト、意思決定 管理会計はマネジメント・コントロール、さらには戦略的コスト・マネジメントのための会計を研究の対象としている。本講義では、マネジメント・コントロールのための直接原価計算や予算管理だけでなく、戦略的コスト・マネジメントのための原価企画やバランスト・スコアカードについても学習する。								
到達目標	・ マネジメント・コントロールにおける管理会計の役割を理解できるようになる。 ・ 戦略的コスト・マネジメントにおける管理会計の役割を理解できるようになる。					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
授業計画	① オリエンテーション：工業簿記、原価計算、管理会計の役割の相違を学ぶ。 ② 管理会計の概説：社会的背景から管理会計の論点を整理する。 ③ 業績評価：事業部制組織の業績評価の手法を通じて、その意義と目的を学ぶ。 ④ 直接原価計算：その目的と機能について学ぶ。 ⑤ 利益管理のための管理会計：中長期経営計画と予算管理について学ぶ。 ⑥ 標準原価計算：その目的と機能について学ぶ。 ⑦ 戦略的コスト・マネジメント：原価企画について学ぶ。 ⑧ 戦略的コスト・マネジメント：環境管理会計について学ぶ。 ⑨ 日本の現場管理：その手法と特徴を学ぶ。 ⑩ バランスト・スコアカード：戦略策定と実行のマネジメント・システムについて学ぶ。 ⑪ 経営戦略と管理会計：戦略の実現を管理する手法を学ぶ。 ⑫ 無形資産の管理：レピュテーション・マネジメントについて学ぶ。 ⑬ 意思決定会計：業務的意思決定と戦略的意思決定について学ぶ。 ⑭ 会計と社会：会計と「管理」について考える。 ⑮ 総復習とまとめ。 ⑯ 定期試験。								
評価方法	中間レポート（20%）、定期試験（80%）								
講義外での学習	管理会計の学習には、会計学だけではなく、経営学や経済学に関する幅広い知識が必要とされるので、授業の予習で疑問点を整理し、復習で疑問点が残されていないかどうかを確認するために十分な時間を割くこと。								
履修上の注意事項	教科書を毎回持参すること。授業の進み具合により講義計画の内容が多少前後することがある。 ※先修科目： 特になし。 ※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。								
教材	◆ 教科書 ： 櫻井通晴著『管理会計 基礎編』同文館出版（ISBN978-4-495-19511-3） ◆ 参考書 ： 櫻井道晴著『管理会計（第七版）』同文館出版								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	ファイナンス入門					授業タイプ		講義																								
科目区分	学部基礎	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期																							
教員名	吉田 高文 (専任)																															
授業の概要	キーワード：キャッシュフロー、現在価値、NPV ファイナンスの基本的な考え方や基礎知識を身につけ、大学で学ぶファイナンス、金融および会計関連科目の体系的理解に役立てる。授業は教科書を使用した講義形式で行うが、電卓または表計算ソフトを使って計算問題を解くことがある。																															
	到達目標	・ 財務三表を見てその内容を説明できるようになる。 ・ CAPMやWACC、現在価値などの求め方を理解し、簡単な財務計算をできるようになる。					<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="7">カリキュラムマップ項目</th> </tr> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> <th>VI</th> <th>VII</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						カリキュラムマップ項目							I	II	III	IV	V	VI	VII	○			○		
カリキュラムマップ項目																																
I	II	III	IV	V	VI	VII																										
○			○																													
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 会計とファイナンスの違い (1) 財務諸表 ② 会計とファイナンスの違い (2) バランスシートと運用 ③ 会計とファイナンスの違い (3) キャッシュフロー ④ ファイナンスの基礎概念 (1) リスクとリターン ⑤ ファイナンスの基礎概念 (2) CAPMで求める株主資本コスト ⑥ ファイナンスの基礎概念 (3) 加重平均資本コスト (WACC) ⑦ ファイナンスの基礎概念 (4) WACCの計算とEVA[®] ⑧ 貨幣の時間価値 (1) 将来価値と現在価値 ⑨ 貨幣の時間価値 (2) 現在価値計算 ⑩ 企業評価の考え方 (1) 事業価値と非事業価値 ⑪ 企業評価の考え方 (2) 企業価値の計算 ⑫ 投資の判断基準 (1) NPV法 ⑬ 投資の判断基準 (2) IRR法 ⑭ 資本調達 (1) レバレッジ効果 ⑮ 資本調達 (2) 配当と企業価値 ⑯ 定期試験 <p>第1回から第3回では、会計とファイナンスの違いをバランスシートやキャッシュフロー計算書を用いながら理解する。第4回から第7回は、リスクとリターンの概念を学習し、割引率として重要な意味をもつ加重平均資本コスト (WACC) の求め方を理解する。第8回と第9回は、貨幣の時間価値を考慮した現在価値計算を学ぶ。第10回と第11回はキャッシュフローに基づいた企業価値の計算を理解する。第12回と第13回は、投資決定基準として、割引キャッシュフロー法のNPV法とIRR法を学ぶ。第14回と第15回は、資本調達と最適資本構成問題を学習する。</p>																															
評価方法	配点は、定期試験 60%、提出物 (期末報告書) および受講状況 40%。																															
講義外での学習	WACC、NPVなど、各回の授業で出てきた用語を理解すること。テキストは新書サイズなので、持ち歩いて時間のあるときに読んでおくこと。わからないことは、インターネットで検索するだけでなく、図書や論文でも調べること。講義外での学習時間の目安は、1回の講義につき90分。																															
履修上の注意事項	授業で電卓または表計算ソフトを使用することがある。 ※先修科目： 「会計学入門」を履修しておくことが望ましい。 ※他学部履修： 特に制限なし。事前確認不要。																															
教材	◆教科書： 石野雄一『ざっくり分かるファイナンス』光文社新書、2007年。ISBN978-4-334-03397-2 (電子版あり) ◆参考書： 亀川雅人『入門経営財務』新世社、2002年。ISBN4-88384-039-5																															
実務経験のある教員による授業科目																																

科目名	ミクロ経済学					授業タイプ		講義	
科目区分	学部基礎	履修区分	選択	配当年次	1	単位数	2	開講区分	後期
教員名	高井 亨 (専任)								
授業の概要	<p>キーワード：消費者の行動、生産者の行動、市場</p> <p>ミクロ経済学でまなぶことの目的は、おおざっぱに言えば、次の2点に要約できる。</p> <p>(1) 市場の中に存在する個々の消費者や生産者が合理的に行動をするなら、どのように消費を行い、生産をするかを考え、市場における需要曲線と供給曲線を導くこと。</p> <p>(2) 市場経済が合理的な消費者や生産者で構成され、完全競争が実現しているならば、世の中の資源配分が最適になっているはず、ということ。</p> <p>以上のメッセージを「部分均衡分析」「生産者行動の分析(供給曲線の導出)」「消費者行動の分析(需要曲線の導出)」「市場メカニズム」についての分析を通じて学習する。このほか、余裕があれば「不完全競争」についての分析もとりあつかう。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 部分均衡分析によって簡単な経済分析をおこなうことができる。 合理的な消費者・生産者の行動から需要曲線と供給曲線を導くことができる。 市場メカニズムについて説明できる。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
						○		○	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 予備知識の確認・ミクロ経済学で学ぶこと 「部分均衡分析」 需要と供給(完全競争市場、需要、供給) 市場の効率性(市場均衡、完全競争市場の効率性、死荷重と規制・課税) 市場の失敗(外部性、公共財、ピグー税) 弾力性(需要の価格弾力性、供給の価格弾力性、価格規制と課税の効果) 「完全競争市場における生産者行動」 費用(短期の費用、長期の費用) 生産(1) 短期における生産の決定 生産(2) 長期における生産の決定 「消費者行動」 消費者行動(1)(効用関数、無差別曲線、予算制約線) 消費者行動(2)(効用最大化、需要曲線、代替効果・所得効果) 「市場メカニズム」 一般均衡分析入門(エッジワース・ボックス、パレート効率性) 一般均衡分析入門(厚生経済学の第一・第二基本定理) 「不完全競争市場」 独占(独占企業と需要曲線、独占企業の行動、独占の非効率性、自然独占) 寡占と独占的競争(寡占、ゲーム理論入門、クールノー・モデル) まとめ 定期試験 <p>※各回の内容は目安であり、回によっては早く進む場合と遅く進む場合がある。</p>								
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> レポートもしくは定期試験の成績：70% 2～4回程度おこなう小レポートの成績：20% 宿題(作文)の提出状況：10% 								
講義外での学習	<ul style="list-style-type: none"> 授業開始までに高校数学Ⅱ程度の微分積分の知識を復習しておくこと(x^nの微分ができ、微分と積分の概念がわかればよい)。 積・商の微分、合成関数の微分(高校数学Ⅲの範囲)を用いる。授業内で簡単な説明をおこなうものの、各自事前に学習しておくとう理解が容易になる。 								
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 講義すべき内容が多いため、早いペースで進む。復習が肝心である。 今年度から小テストを導入する。 <p>※先修科目： 特になし。 ※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>								
教材	<ul style="list-style-type: none"> ◆教科書： 使用しない(レジュメを配布する) ◆参考書： 自分が読みやすいと思うミクロ経済学の教科書 								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	マクロ経済学					授業タイプ		講義	
科目区分	学部基礎	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	前期
教員名	石川 真澄 (専任)								
授業の概要	<p>キーワード：国民経済、景気変動、マクロ経済政策</p> <p>景気が良いとか悪いとかしばしば話題にされますが、景気のような経済全体の動向はどのように決まっているのでしょうか。マクロ経済学では経済全体でのバランスがどのように成り立っているのか、また、そのバランスが崩れたときにどのような問題が発生し、政府がどのような役割を果たすことができるのか学びます。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 景気変動などマクロ経済の動きを表す指標について理解し、説明できる。 ・ マクロ経済の動きと家計、企業、政府の活動との関係を理解し、相互の関係や作用の方向性について判別できる。 	カリキュラムマップ項目							
		I	II	III	IV	V	VI	VII	
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① イントロダクション： 講義の概要、マクロ経済学とは何か ② マクロ経済をみる指標： GDP とはなにか、GDP の算出方法、名目値と実質値 ③ マクロ経済をみる指標： 消費者物価指数、労働統計、景気 ④ 金融市場と貨幣： 金融市場、金利、貨幣の機能 ⑤ 中央銀行の役割： 信用創造、貨幣量の調節、金融システムの安定化 ⑥ GDP の決定： 消費の理論、GDP 決定のモデル、乗数効果 ⑦ GDP の決定： 投資の理論、貨幣市場と金利、財市場と貨幣市場の同時均衡 ⑧ GDP の決定： IS-LM モデル、IS-LM モデルによる経済政策の分析 ⑨ 総需要・総供給分析： 総需要曲線、総供給曲線、物価と GDP の同時決定 ⑩ 総需要・総供給分析： 経済政策の限界、労働市場とマクロ経済 ⑪ インフレとデフレ： 発生の要因、インフレとデフレの費用、インフレと失業 ⑫ 財政の仕組みと機能： 財政の役割、政府の予算、政府債務問題 ⑬ 経済成長： 経済成長の要因、ソローモデル、成長会計 ⑭ 国際収支とマクロ経済： 国際収支、貯蓄・投資と貿易 ⑮ 為替レート決定： 外国為替市場、為替レートの決定 ⑯ 定期試験 								
評価方法	講義時の課題 40%、定期試験 60% の比率で評価します。								
講義外での学習	<p>各回の講義でテキストの該当部分の予習・復習が必要です。</p> <p>必要に応じて課題を出します。</p> <p>テキストの順序と講義内容は異なることがありますので注意して下さい。</p> <p>上記の授業計画は変更になる場合があるので、教室での連絡事項に注意して下さい。</p>								
履修上の注意事項	<p>※先修科目： 「現代経済学入門」を既習であることを前提とした内容です。</p> <p>※他学部履修： 履修を希望する場合は、事前に担当教員に問い合わせること。</p>								
教材	<p>◆教科書： 平口良司・稲葉大 (2023) 「マクロ経済学-入門の「一歩前」から応用まで [第3版]」有斐閣ストゥディア ISBN：9784641151116</p> <p>◆参考書： 福田慎一・照山博司 (2023) 「マクロ経済学・入門 第6版」有斐閣アルマ ISBN：9784641222243</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	金融論					授業タイプ		講義		
科目区分	学部基礎	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期	
教員名	矢野 順治 (非常勤)									
授業の概要	<p>キーワード：金融、銀行、証券</p> <p>この講義では、金融論に関する基本知識を説明します。金融システムは現代の経済システムにおいて極めて重要な役割をはたしています。また経済のグローバル化の急速な進展、金融技術の飛躍的発展等により現代経済のもっともエキサイティングな分野のひとつです。講義では受講生の皆さんが、ともすればとっつきにくい（とってしまう）金融の世界にスムーズに入れるよう、金融の知識、考え方を、教科書に即して分かりやすく講義してゆきます。また可能なかぎり現実の金融現象と対応させてゆきます。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 様々な金融市場に関する基礎概念を理解できる。 様々な金融商品の価格決定の仕組みを理解できる。 					カリキュラムマップ項目				
						I	II	III	IV	V
						○	○			
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 金融システム I：金融システムの仕組み ② 金融システム II：リスクの分散、情報の非対称性、流動性供給 ③ 貨幣：貨幣の定義と機能、マネーサプライの諸概念 ④ インフレ・デフレ：価格変動と貨幣の価値 ⑤ 債券：債券と利率 ⑥ 株式 I：株式と株式価格の決定 ⑦ 株式 II：ポートフォリオ、リスクとリターン ⑧ 為替 I：為替レート ⑨ 為替 II：実質為替レート ⑩ 国際収支：国際収支の見方 ⑪ 為替レートの長期的変動：購買力平価 ⑫ 為替レートの短期的変動：金利平価 ⑬ 為替レートの中期的変動：ポートフォリオ・バランス ⑭ 金融政策 I：伝統的金融政策 ⑮ 金融政策 II：非伝統的金融政策 									
評価方法	<p>授業支援システムを用いて12回行われる小テストにより評価します。小テストは、毎回4-6問、解答時間は文章題30秒、計算問題は難しによって変わります。小テストは各10点満点で12回ありますので、120点満点になります。これを100点満点に換算します。60点以上が単位取得となります。中間試験、期末試験、期末レポートはありませんので注意してください。</p>									
講義外での学習	<p>講義内容で興味を持った点があれば、講義前、後を問わずより深く調べてみよう。</p>									
履修上の注意事項	<p>※先修科目： 特になし。</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>									
教材	<p>◆教科書： 細野薫他 グラフィック金融論 2018年、新世社</p> <p>◆参考書： 家森信善 はじめて学ぶ金融のしくみ 2013年第4版 中央経済社</p> <p>本多祐三 はじめての金融 2011年新版 有斐閣</p>									
実務経験のある教員による授業科目										

科目名	情報システム基礎					授業タイプ		講義			
科目区分	学部基礎	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	後期		
教員名	成田 正久 (非常勤)										
授業の概要	<p>キーワード：情報システム、コンピュータ、ネットワークコンピューティング</p> <p>コンピュータがどのような場面で役立つか、基礎的な情報システムの例を学修する。具体的にはコンビニエンスストア、銀行システム、携帯電話、コールセンター、キャッシュレスシステムなどを予定している。その後、情報システムを構成する重要な要素であるコンピュータとインターネット、及び関連した基礎的な事項を学修する。</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 情報システムの全体像をとらえ、情報システムの利用場面、目的や特徴を理解できる。 情報システムの構成要素であるコンピュータや主要技術の基本を理解できる。 					カリキュラムマップ項目					
						I	II	III	IV	V	VI
						○					
授業計画	<p>本授業では、情報システムの事例を調査・紹介したのち、情報システムを構成する重要な要素を順次学ぶ。テーマ順は、授業の進捗等により変更されることがあり得る。</p> <ol style="list-style-type: none"> ガイダンス 情報システムの目的 情報システムは何の役にたつのか？ 情報システムの事例1 食品製造システム 情報システムの事例2 コンビニエンスストアシステム 情報システムの事例3 調剤薬局業務支援システム 情報システムの事例4 地図情報システム 情報システムの事例5 タクシー配車・キャッシュレスシステム 情報システムの事例6 コネクティッド・カー・サービス 情報システムの事例7 スマート農業システム コンピュータとは コンピュータの構成要素 情報システムの変遷 ネットワークコンピューティング 情報の表現 暗号 情報セキュリティ 定期試験 <p>※情報システムの事例については、変更する場合あり</p>										
評価方法	<p>情報システムの事例調査を行い、授業時間中に発表・質疑応答を行うことや、それをまとめたレポートの提出を求める。学期末には定期試験を実施し、レポートと合わせて評価(50%)を行う。基本的には、定期試験の結果を特に重視して評価(50%)する。</p>										
講義外での学習	<p>第3回から第8回までは、情報システムの事例を各自(1件/人)に調査してもらう。調査結果は授業中にグループ内で発表し、メンバーの質問に答えることにするので、調査の上、十分理解しておく必要がある。</p>										
履修上の注意事項	<p>講義資料を学内 Web で閲覧したり、授業時間内に課題、レポートを提出するため、必ず、パソコンを持参すること。</p> <p>※先修科目： 特になし。</p> <p>※他学部履修： 特に制限なし。事前確認不要。</p>										
教材	<p>◆教科書： 必要な教材は電子的に配布する。</p> <p>◆参考書：</p>										
実務経験のある教員による授業科目											
<p>民間企業における様々な情報システム開発責任者、および運用経験を活かし、情報システムの企画、開発、運用の実態について解説し、情報システムの応用と問題点について実践的な見地から講義する。</p>											

科目名	インターネット					授業タイプ		講義		
科目区分	学部基礎	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	前期	
教員名	齊藤 明紀 (専任)									
授業の概要	キーワード：情報システム、インターネット、インターネットガバナンス									
	今や社会基盤・ビジネス基盤として欠かせないものとなったインターネットについて概説する。歴史、技術的側面、運営形態、利用・普及状況、ビジネス応用事例などについて論じる。									
到達目標	インターネットのビジネス応用可能性の基礎知識を得る。IP アドレス、ポート、ルーティングなどインターネットの通信方式の基礎知識を習得する。インターネットの運営管理形態について知る。インターネットの社会的影響を知る。						カリキュラムマップ項目			
							I	II	III	IV
						○			○	
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① インターネットの概念と日本での普及 ② 情報のデジタル表現とインターネットの歴史 ③ インターネットの歴史と日本での発展 ④ インターネットの仕組み(1)～自宅からプロバイダまで ⑤ インターネットの仕組み(2)～媒体と通信方式 ⑥ インターネットの仕組み(2)～光ファイバーと衛星 ⑦ 変貌するインターネット(1)～WEB と標準化 ⑧ 変貌するインターネット(2)～インターネットと実空間、IOT ⑨ 個人情報、インターネットの運用 ⑩ ドメイン名と管理 ⑪ アドレスとプロトコル階層 ⑫ サブネットと次世代 IP ⑬ データセンター、クラウド、セキュリティ ⑭ ウィルスとサイバー攻撃 ⑮ セキュリティと暗号化、総括 ⑯ 定期試験 									
評価方法	定期試験(60%)、宿題およびレポート(25%)、講義中の演習・受講態度(15%)で評価する。									
講義外での学習	宿題は必ず行うこと。予習復習を行うこと。									
履修上の注意事項	※先修科目： ※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。									
教材	村井 純、角川インターネット講座(1)インターネットの基礎、角川書店 ◆教科書： ※紙の本(ISBN 9784046538819)は版元品切れのため、電子書籍または古書を利用すること。 ◆参考書：									
実務経験のある教員による授業科目										

科目名	地域経営論 【COC】					授業タイプ		講義	
科目区分	学部基礎	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	前期
教員名	倉持 裕彌（専任）								
授業の概要	<p>キーワード：地域経営、地方自治、まちづくり</p> <p>本講義では、人口減少や地域間格差などに代表される地方都市が抱える諸問題を解決する手がかりとなる地域経営論を学びます。地域経営論自体は様々な学問分野から構成されるため、本格的に学ぶためには個々の学問領域における体系的な知識を必要としますが、本講義はそれらへの入り口として、客観的に地域を見る目を養い、地域経営論が取り扱うテーマや基礎的知識について中心的に学びます。</p>								
到達目標	わが国や各地域が抱える現状と解決すべき課題を理解するとともに、その要因や課題解決に向けた地域経営の在り方について自分の言葉で説明できる能力を身につけることを目指す。	カリキュラムマップ項目							
		I	II	III	IV	V	VI	VII	
				○	○				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション（今後の予定、注意事項、評価方法等）、イントロダクション（本講義の特徴） ② 地域経営の歴史と自治体の財政 地域経営の背景を学ぶ。 ③ 戦後の都市経営 戦後の経済成長や過疎化の背景を学ぶ。 ④ 現代の都市経営 神戸市の都市経営などを学ぶ。 ⑤ 地域の課題と背景(1) 地方創生など地域振興策の背景を学ぶ。 ⑥ 地域の課題と背景(2) コンパクトシティなどの必須のキーワードを学ぶ。 ⑦ 地域を読み解く理論 衰退地域に関する論点を学ぶ。 ⑧ 商店街の再生 (1)開発型の商店街再生事例を学ぶ。 ⑨ 地方都市の経営 (ゲストスピーカー) を予定 ⑩ 商店街の再生 (2)商店街再生の目的や手法について理解する。 ⑪ 地域経営の事例 国外も含め地域経営の事例を解説する。 ⑫ 民間企業による地域経営 (ゲストスピーカー) を予定 ⑬ 過疎地域再生 過疎地域の課題や解決方法について学ぶ。 ⑭ 地域資源の活用 地域資源とは何か、地域資源の活用事例を学ぶ。 ⑮ 講義全体の総括、補足 ⑯ 定期試験 								
評価方法	講義のフィードバックレポート 30%、定期試験 70%で評価する。（新型コロナ等の影響で試験が実施できない場合はレポート課題等で代替する。）								
講義外での学習	地域経営に関するニュースやイベント等の情報を積極的に収集すること。								
履修上の注意事項	特になし。 ※先修科目： 特になし。 ※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。								
教材	<p>◆教科書： 講義内容に沿って、その都度、紹介します。</p> <p>◆参考書： 講義内容に沿って、その都度、紹介します。</p>								
実務経験のある教員による授業科目									
自治体のシンクタンクにおける地域経営に関する調査・支援業務の経験や人脈を活かし、身近な事例やゲストスピーカーを適宜講義に活用する。									

科目名	経営情報論					授業タイプ		講義				
科目区分	学部基礎	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	前期			
教員名	染谷 治志 (専任)											
授業の概要	<p>キーワード： 情報社会、ICT(情報通信技術)とビジネス、デジタル化</p> <p>ビジネス活動における情報の役割・機能・効果・影響、また情報技術革新がビジネスに与えるインパクトについて情報システムを活用する立場に立って学ぶ。</p> <p>まず、経営情報システムの系譜を概観し、経営戦略実現に「情報システム」が重要な役割を担っていることを理解する。次に、販売管理やマーケティングなど主要なビジネス機能とEC(電子商取引)を取り上げ、情報の役割・機能・効果・影響を理解する。そして、ICT(情報通信技術)革新とビジネスとの関わりを理解し、情報社会が安全で快適に運営されていくために必要な情報セキュリティと情報倫理の基礎知識を学ぶ。</p>											
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 情報通信技術とビジネスの関わりと、企業活動における情報の役割・機能・効果を理解し、利用者の立場で説明できる 情報社会の特質を理解し、情報セキュリティと情報倫理の基礎を実践できる 					カリキュラムマップ項目						
						I	II	III	IV	V	VI	VII
									○			
授業計画	<p>① イントロダクション：経営管理システムとは</p> <p>② 情報社会の特徴：文明史を振り返りながら情報社会の特質を理解する</p> <p>③～④ 経営情報システムの変遷：経営情報システムの変遷を概観し、その時代の最良の情報システム技術がその時代の経営に役立ってきたことを理解する</p> <p>③ EDPS から DSS ④ OA/EUC から e ビジネス</p> <p>⑤～⑩ ビジネス活動と情報：主要なビジネス活動における情報の役割・機能・効果を理解する</p> <p>⑤ 販売管理 ⑥ 発注管理・在庫管理</p> <p>⑦ 生産管理 ⑧ マーケティング</p> <p>⑨ サプライチェーン・マネジメント ⑩ 組織管理</p> <p>⑪ Electronic Commerce (EC)：EC(電子商取引)の基礎知識と発展経緯を理解し、ネットビジネスの今後について議論する</p> <p>⑫～⑬ ICT 革新とビジネス：ICT 革新がビジネスに及ぼす影響(ビジネス環境やビジネスモデル)について理解し、社会のデジタル化のムーブメントを議論する</p> <p>⑫ インターネット革新とデジタルトランスフォーメーション(DX)</p> <p>⑬ DX を支えるシステム技術と DX 事例(Industry4.0)</p> <p>⑭ 情報セキュリティと情報倫理：デジタル/ネット社会が安全で快適に運営されていくために必要な情報セキュリティと情報倫理について理解する</p> <p>⑮ まとめと今後の展望</p> <p>⑯ 定期試験</p>											
評価方法	定期試験を実施して目標到達度を確認する。また、講義内で実施する課題に対する取り組み状況も評価項目とし、定期試験(60%)、講義内課題(40%)の配分で評価する。											
講義外での学習	講義内で紹介する参考者や業界誌などを参考に講義内容を深め・広めて、ビジネスと情報との関わりについてより深い知見を持つよう努めること											
履修上の注意事項	<p>講義内課題に取り組む環境としてパソコンを持参することを勧める</p> <p>※先修科目： 「経営学入門」、「現代経済学入門」、「マーケティング1」、「情報システム基礎」を履修していることが望ましい</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し、事前確認不要</p>											
教材	<p>◆教科書： 教員が作成したテキストをもとに講義を進める</p> <p>◆参考書： 経営情報論、遠山・村田・岸 著、有斐閣アルマ、ISBN978-4-641-12353-3、2011年1月</p>											
実務経験のある教員による授業科目												
情報システムの構築に携わってきた経験を活かし、経営における情報の重要性だけでなく、実社会活動における情報の役割・成果・影響についても触れながら情報文化を理解させる												

科目名	プログラミング					授業タイプ	演習				
科目区分	学部基礎	履修区分	選択	配当年次	1	単位数	2	開講区分	後期		
教員名	今井 正和 (専任)										
授業の概要	<p>キーワード：Python、プログラミング、アルゴリズム</p> <p>コンピュータに対して処理を指示する命令文書がプログラムであり、プログラムを作成することをプログラミングという。本授業では、最近よく用いられるようになったプログラミング言語の一つである Python を用いてプログラムを作成し、コンピュータに処理を行わせる方法を取得する。プログラミングの基本から始め、アンケートの集計をするプログラムを実現できるようになることを目標とする。</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> Python の文法を理解し、基本的なプログラムが作成できるようになる。 自分が作成したプログラムの詳細を説明できるようになる。 アンケート集計を行うプログラムを作成できるようになる。 					カリキュラムマップ項目					
						I	II	III	IV	V	VI
授業計画	<p>本授業では、プログラムを作成してコンピュータに処理を行わせる方法を身につけ、プログラムを作成できるようになることが目的である。具体的には以下のような内容で行う予定であるが、授業の進捗状況等により内容が変更されることがある。毎回の授業の前半で説明を行い、後半では実際に Python を操作する演習を行う。毎回の授業では宿題として演習課題の提出が求められる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① イントロダクション、Python 開発環境 (Google Colaboratory) の導入 ② 開発環境の使い方と簡単な Python プログラムの実行 ③ 数値、変数・文字列、演算子 ④ リストの使い方 ⑤ 繰り返し (for 文) と条件判断 (if 文) ⑥ 関数の使い方 ⑦ モジュール、ディクショナリ、set、タプル ⑧ if 文、ループ、関数の応用 ⑨ オブジェクト指向の考え方 ⑩ Python での日本語の扱い方とファイル入出力 ⑪ Google Colaboratory でのファイルの扱い方 ⑫ ファイルの整理 ⑬ 例外処理 ⑭ エクセルファイルの操作 ⑮ アンケートの集計とまとめ 										
評価方法	毎回の授業終了時にレポート (15%) の提出を求める。その他、課題の提出 (85%) を求める。レポート、課題の提出は授業支援システムを活用する。										
講義外での学習	毎回の授業内容を理解し、授業時間内にできなかったことは次回授業までに行っておくこと。										
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンを用いて授業時間中に演習を行うので、必ずパソコンを持参すること。パソコンを忘れてきた場合は授業に参加できないので、欠席として扱う。 ※先修科目： なし。 ※他学部履修： 制限無し。事前確認不要。 										
教材	<ul style="list-style-type: none"> ◆教科書： みんなのPython 第4版、SBクリエイティブ、ISBN 978-4-7973-8946-3 ◆参考書： Marketing Python、インプレス、ISBN 978-4-295-00861-3 										
実務経験のある教員による授業科目											

科目名	人的資源管理論					授業タイプ		講義	
科目区分	企業経営	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	前期
教員名	兪 成華 (専任)								
授業の概要	<p>キーワード： 雇用管理、教育訓練、報酬システム</p> <p>現代企業の経営資源は、ヒト、モノ、カネ、情報と言われている。本講義は、企業の経営資源の中の「ヒト」に焦点をあて、企業内でどのように人的資源管理が行われているのかを概観するものである。人的資源は、他の経営資源とは異なる特徴を持ち、主に雇用管理・報酬管理・労使関係管理の三つから構成される。本講義では、雇用、賃金、昇進、労働移動等多様なトピックスも併用し、用語の解説とともに統計データやケーススタディから多面的に学習する。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 人的資源管理の諸領域に関する主要概念および基礎理論を正確に体系的に理解し、説明できる。 人的資源管理における本質的な問題を発見する能力を身につけることができる。 人的資源管理における今日的な課題を考察する能力を身につけることができる。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
						○		○	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 人的資源管理論 (HRM) への招待：授業の内容と進め方、成績評価の方法、HRM とは何か等。 ② 企業経営と HRM：企業経営の仕組み、企業経営と HRM の関連性。 ③ 日本的 HRM の特徴と変遷：日本的経営、日本型人事とその特徴。 ④ 雇用管理：現代企業の採用とそのプロセス、新卒一括採用。 ⑤ キャリア開発：企業の教育・訓練と OJT、企業内大学。 ⑥ 人事等級制度：職能資格、職務等級、役割等級に関する概念及び区別。 ⑦ 人事考課制度：企業内における人 (能力) ベース、仕事ベースの評価基準。 ⑧ 広がる成果主義について考える (ビデオ教材) ⑨ 賃金制度：年功賃金に代わりつつある成果賃金や年俸制の特徴と問題点。 ⑩ 企業実務家のご講演 (マルサンアイ鳥取株式会社 兼子明会長 予定) ⑪ 福利厚生制度：福利厚生制度の種類、従業員の家族生活、仕事と生活の調和。 ⑫ 労使関係管理：労働組合の種類、日本企業の労働組合の特徴、集团的交渉と個人的交渉、春闘。 ⑬ 雇用区分の多様化：企業で採用時点の雇用契約、仕事による従業員の使い分け、日経連の雇用ポートフォリオ。 ⑭ 非正規労働者：日本の非正規労働者の現状、非正規労働者の活用と問題点。 ⑮ 国際人的資源管理 (IHRM)：日本の多国籍企業、海外派遣者、国際人材の育成。 ⑯ 定期試験 								
評価方法	対面の場合：授業時の意見発言・ミニテスト (40%)、定期試験 (60%) により総合的に評価する。								
講義外での学習	<ul style="list-style-type: none"> 3回目から授業の最初 10 分間のミニテストを行うので、前回の講義内容をしっかり復習すること。 TV ニュース、インターネットや統計資料でわが国の雇用や賃金の動向にも目配りしておくこと。 								
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 第 1 回「人的資源管理論への招待」時に詳細な説明を行う。必ず出席すること。 効率的に授業を進めるためにプロジェクトを用いて講義するが、一方的な授業にならないよう、受講生への質問を交えながら進行していく。 <p>※先修科目： 履修にあたって、「経営学入門」を修得しておくことが望ましい。</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>								
教材	<p>◆教科書： 特に指定はしない。毎回資料プリントを配布する。</p> <p>◆参考書： 授業中に随時紹介する。</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	経営戦略論 2					授業タイプ		講義				
科目区分	企業経営	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	前期			
教員名	光山 博敏 (専任)											
授業の概要	<p>キーワード：経営戦略の本質、ビジネス理論とフレームワーク、イノベーション戦略</p> <p>本講義では、企業における実際の戦略活動を参照しながら、理論を深く理解すると共に、実践力を養う。前半は主に、戦略理論およびフレームワークの使い方を学ぶ。後半は、具体的な戦略ケースを学びながらディスカッションを通じて応用力を身に着ける。</p>											
到達目標	<p>・ 全社戦略、事業戦略を理解し、状況に応じて最適な戦略理論、フレームワークを選定、分析できる。</p> <p>・ イノベーション戦略を体系的に理解し、論理的に説明できることに加え、ソリューション提案ができる。</p>					カリキュラムマップ項目						
						I	II	III	IV	V	VI	VII
						○	○	○	○			○
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① イントロダクション～経営戦略の要諦～ ② 経営戦略の全体像～戦略理論とフレームワーク① ③ 経営戦略の全体像～戦略理論とフレームワーク② ④ 「ダイキン」のコンポーネント開発戦略 ⑤ IoTと予知保全ビジネスモデル ～「コマツ」と「GE」～ ⑥ 「ブリヂストン」の売切り ⇒ サブスクリプションモデル転換 ⑦ 「P&G」のブランド戦略とCSV経営のフロントランナー「ネスレ」 ⑧ 「デンソー」の成長戦略と「コア・コンピタンス」 ⑨ 「Audi」の先進技術と「TATA Motors」のEVI ⑩ 「アップルのDNA」～Think different～ ⑪ 「TSMC」とOIP (Open Innovation Platform) ⑫ 「スターバックス」の進化型「第3の場所」の提供 ⑬ 「ホールフーズ」のコンシャス・キャピタリズム ⑭ 「リクルート」のリボンモデル ⑮ 「分析」「計画」「コンプライアンス」過多に陥る日本企業 ～総括～ 											
評価方法	<p>平常点 30%、中間レポート 30%、期末レポート 40%</p> <p>「平常点」には、クラスへの参加度、毎講義終了時のリアクション・ペーパーの内容と提出状況などが含まれます。</p>											
講義外での学習	<p>普段から経済、経営関連の書籍やニュースに慣れ親しみ、主体的な知識習得の慣習化を求める。</p>											
履修上の注意事項	<p>講義中に生じた疑問や分からない語彙は当日中にクリアにしておくこと。</p> <p>※先修科目： 経営戦略論 I を受講していることが望ましい。</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>											
教材	<p>◆教科書： テキストは指定しません。パワーポイントスライドによる講義を行います。</p> <p>◆参考書： 延岡健太郎著、『MOT 入門』（日本経済新聞出版社）</p>											
実務経験のある教員による授業科目												
<p>医療器具、精密部品メーカーの米国現地法人において、経営管理全般に携わってきた経験をもとに実践的な戦略経営のあり方について講義する。</p>												

科目名	経営組織論 2					授業タイプ		講義	
科目区分	企業経営	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教員名	島田 善道 (専任)								
授業の概要	<p>キーワード：組織行動、組織と個人、働きかけ</p> <p>企業は目的を達成するために組織を構成します。その組織の一員として、個人はどのようにその組織と関わっていくのでしょうか。経営組織論2では、組織と個人の関係について考えていきます。また、企業経営の現場で今まさに発生している事象や課題についても適宜触れていきます。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織と個人に関する基本的な概念や枠組みが理解できる ・ 概念や枠組みに従って、実際の経営活動の良い点、改善すべき点を考えることができる 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
						○	○	○	○
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション、経営組織論2の全体概要 ② モチベーション(1) モチベーションの内容 ③ モチベーション(2) モチベーションの過程 ④ 組織コミットメント ⑤ 組織市民行動 ⑥ リーダーシップ(1) 資質と行動 ⑦ リーダーシップ(2) 条件適合・変革型リーダーシップ ⑧ 意思決定と合意形成 ⑨ キャリアマネジメント ⑩ 組織社会化 ⑪ 組織学習 ⑫ 組織的公正 ⑬ チームマネジメント ⑭ 組織変革 ⑮ 組織文化 ⑯ 定期試験 								
評価方法	期末試験 60%、講義中課題 40%。								
講義外での学習	日頃から新聞や雑誌などを読んで、ビジネスの現場では何が起きているのか、興味を持って見て、良い点、改善すべき点を考えてください。								
履修上の注意事項	<p>ノートを取る、課題は期限を守る、他人に迷惑をかけない、以上3点必須です。</p> <p>※先修科目： 特になし。</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>								
教材	<p>◆教科書： なし</p> <p>◆参考書： 適宜紹介します</p>								
実務経験のある教員による授業科目									
企業勤務経験を活かして、組織の中で実際に発生する事象を、経営組織に関する諸理論と関連付けて講義する。									

科目名	マーケティング2					授業タイプ	講義(AL)・演習				
科目区分	企業経営	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期		
教員名	磯野 誠 (専任)										
授業の概要	<p>キーワード：マーケティング、ケーススタディー、市場</p> <p>マーケティング1で学んだ各種基礎理論を用いて、実際の企業活動をケースとして取り上げ、分析、考察し、その特徴を明らかにする。その過程を通して、マーケティング関連基礎理論の実践的応用を学ぶ。</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> マーケティングに関する理論を用いて企業活動を分析し、その特徴を明らかにすることができる。 マーケティングの実践に不可欠な、自分の考えをもち、表現すること(プレゼンテーション)、人の考えを聞き、批評し、自分の考えと比較し、反省、選択、統合すること(ディスカッション)ができる。 					カリキュラムマップ項目					
						I	II	III	IV	V	VI
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① イントロダクション ② 説明:ケース概要、課題1概要(資源環境分析) ③ ワークショップ ④ プレゼンテーション&ディスカッション ⑤ 説明:課題2概要(STP分析) 課題1レポート提出 ⑥ ワークショップ ⑦ プレゼンテーション&ディスカッション ⑧ 説明:課題3概要(マーケティングミックス分析) 課題2レポート提出 ⑨ ワークショップ ⑩ プレゼンテーション&ディスカッション ―― ⑪ 説明:課題4概要(ブランド分析) 課題3レポート提出 ⑫ ワークショップ ⑬ ワークショップ ⑭ プレゼンテーション&ディスカッション ⑮ まとめ 課題4レポート提出 <p>説明回では、ケース題材の概要、その課題に用いる分析理論について説明。 ワークショップの回は、各自でプレゼ資料作成。 プレゼの回には、希望者および指名された人による分析プレゼンテーション(5人程度)およびそれに対するディスカッション。</p>										
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 計4回、各レポートのクオリティ (40点) プレゼンテーションのクオリティ (30点) ディスカッションの参加、積極性 (30点) (定期試験は実施しない) 										
講義外での学習	計4回の課題レポートの作成:課題レポートは、自身のプレゼ資料、プレゼの回のディスカッションをもとに作成すること。フォーマットは、A4、Word or PowerPoint、2ページ以上。										
履修上の注意事項	<p>優れた課題回答は卒論の足がかりとなり、また就職活動における自己PR資料として使えるものとなる。</p> <p>※先修科目： 履修にあたって「マーケティング1」を修得しておくことが望ましい。</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>										
教材	<p>◆教科書： (特に指定しない)</p> <p>◆参考書： 須藤実和、2005、「マーケティング実践講座」、ダイヤモンド社 4-478-508248-X 池尾恭一・他、2010、「マーケティング」、有斐閣 978-4-641-05373-1</p>										
実務経験のある教員による授業科目											
マーケティング実践経験にもとづいた解説および演習指導をおこなう。											

科目名	商品開発論					授業タイプ	講義(AL)・演習					
科目区分	企業経営	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	前期			
教員名	磯野 誠 (専任)											
授業の概要	<p>キーワード：マーケティング、アイデア、市場</p> <p>マーケティング1、マーケティング2の延長。商品開発のシミュレーションを通し、商品開発に関わる理論、その応用を実践的に学ぶ。ここでその理論とは次：戦略目標設定、環境・資源分析、STP、アイデア開発、コンセプト(incl. 3W, PoD/PoP)開発、デザイン、顧客定性調査、顧客定量調査。</p>											
到達目標	商品開発に関わる基本的な理論フレームを活用し、具体的に市場性のある商品コンセプトを企画・提案できるようになる。					カリキュラムマップ項目						
						I	II	III	IV	V	VI	VII
							○		○	○		
授業計画	<p>全体は、講義、ワークショップ、プレゼンテーションから構成される。</p> <p>① 商品企画プロセス(講義) コンセプト開発課題提示</p> <p>② 環境・資源分析、STP、目標・指標設定(講義)</p> <p>③ コンセプト、顧客定性調査、顧客定量調査(講義)</p> <hr/> <p>④ 環境・資源分析、STP、目標・指標設定(確認説明、ワークショップ)</p> <p>⑤ 中間プレゼンテーション 「環境・資源・STP、目標・指標」提出</p> <p>⑥ アイデア創出、コンセプト探索(確認説明、ワークショップ)</p> <p>⑦ 中間プレゼンテーション 「コンセプト」提出</p> <hr/> <p>⑧ 顧客定性調査(確認説明、ワークショップ)</p> <p>⑨ 中間プレゼンテーション 「定性調査知見」提出</p> <p>⑩ コンセプト修正・プロトタイピング(確認説明、ワークショップ)</p> <p>⑪ 中間プレゼンテーション</p> <hr/> <p>⑫ 企画書作成(講義)</p> <p>⑬ 中間プレゼンテーション</p> <p>⑭ プレゼンテーション 最終企画案提出</p> <p>⑮ フィードバック(講義)</p>											
評価方法	<p>1. 最終企画案のクオリティ(30点)</p> <p>2. 計3回の課題レポートのクオリティ(15点×3=45点)</p> <p>3. 中間プレゼンテーションのクオリティ(15点)</p> <p>4. 全体的な授業態度・積極性(10点) (定期試験は実施しない)</p>											
講義外での学習	計4回の課題レポートの作成：課題レポートは、自身のプレゼン資料、プレゼンの回のディスカッションをもとに作成すること。フォーマットは、A4、Word or PowerPoint、2ページ以上。											
履修上の注意事項	<p>最終企画案のクオリティの評価軸とは次：(1)その商品はターゲットとする顧客にとって魅力的か；(2)その商品は企業の成長に貢献するか；(3)その商品は実現可能か。</p> <p>※先修科目： 履修にあたり「マーケティング1」を修得しておくことが望ましい。</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>											
教材	<p>◆教科書：(特に指定しない)</p> <p>◆参考書：安原智樹、2009、マーケティングの基本、日本実業出版 978-4-534-04518-8</p>											
実務経験のある教員による授業科目												
マーケティング実践経験にもとづいた解説および演習指導をおこなう												

科目名	ブランド論					授業タイプ	講義(AL)・演習				
科目区分	企業経営	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	前期		
教員名	磯野 誠 (専任)										
授業の概要	キーワード：ブランド、マーケティング、地域ブランド										
	マーケティング1、マーケティング2の延長。実際の山陰の地域、商品、サービスを対象として取り上げ、それらをブランド化する過程をシミュレーションする。その過程を通して、ブランド論に関わる各種理論フレームとその応用を実践的に学ぶ。										
到達目標	ブランド、マーケティングに関わる基本的な理論フレームを理解し、その応用ができるようになる。					カリキュラムマップ項目					
						I	II	III	IV	V	VI
授業計画	<p>全体は、講義、グループ・ワークショップ、プレゼンテーションから構成される。</p> <p>① イントロダクション、ブランド理論1:ブランドとは、ブランドの性質、ブランド・エクイティ測定</p> <p>② ブランド理論2:ブランド構築プロセス</p> <p>③ ブランド理論3:ブランドフレーム</p> <p>④ ブランド理論4:ブランド連想、ブランド拡張、ブランド・タッチポイント</p> <hr/> <p>⑤ 地域ブランディング・テーマ設定(ブランディング対象地域等とその課題)</p> <p>⑥ 地域資源分析1:二次資料分析</p> <p>⑦ 地域資源分析2:定性調査&連想ネットワーク分析</p> <p>⑧ (ワークショップ)</p> <p>⑨ 市場分析、顧客セグメンテーション&ターゲティング 地域資源分析提出</p> <hr/> <p>⑩ ブランド・ピラミッド(incl. ブランド・プロミス、メタファー)作成</p> <p>⑪ ブランド表現例作成(キービジュアル、産品等)</p> <p>⑫ 顧客調査、顧客知見収集 ブランド・ピラミッド、表現例提出</p> <hr/> <p>⑬ (ワークショップ)</p> <p>⑭ プレゼンテーション&ディスカッション ブランディング・プラン提出</p> <p>⑮ まとめ</p>										
	評価方法	<p>1. 最終ブランディング・プランのクオリティ(40点)</p> <p>2. 中間2回の課題レポート(資源分析、ブランドフレーム等)のクオリティ(15点×2=30点)</p> <p>3. プレゼンテーションのクオリティ(15点)</p> <p>4. 全体的な授業態度・積極性(15点) (定期試験は実施しない)</p>									
講義外での学習	各回で設定された課題(地域資源分析、STP、ブランドフレーム、ブランド表現)作成 フォーマットは、A4、Word or PowerPoint、2ページ以上。										
履修上の注意事項	<p>第14回提出のブランディング・プランは、設定された対象地域等のブランディング提案となるものであり、地域資源分析、STP、ブランド・ピラミッド、その表現例(産品等)を含む。</p> <p>※先修科目： 履修にあたり「マーケティング1」「マーケティング2」を修得しておくことが望ましい。</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>										
教材	<p>◆教科書： (特に指定しない)</p> <p>◆参考書： 和田充夫・他、2009、地域ブランドマネジメント、有斐閣 978-4-641-16340-9</p>										
実務経験のある教員による授業科目											
マーケティング実践経験にもとづいた解説および演習指導をおこなう。											

科目名	事業創造論					授業タイプ		講義 (AL)	
科目区分	企業経営	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	前期
教員名	光山 博敏 (専任)								
授業の概要	キーワード：研究開発、資金調達、知財戦略 不確実性高まる社会環境下において、独自のアイデアや技術をもつ若き起業家に世界が注目している。本講義では、起業家精神をはじめとするベンチャー・ビジネス (スタート・アップ) の要諦、具体的にはスタート・アップにおけるチームビルドや資金調達、知財戦略など、起業に必須の実践的手順を学ぶとともに課題についても検討を加える。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> アントレプレナーおよびスタート・アップとそれを取り巻く現況が理解できる。 競争力のあるスタート・アップに不可欠な知見とその手順が説明できる。 習得した知識をベースに、「ビジネスプラン」の企画・立案・プレゼンテーションができる。 	カリキュラムマップ項目							
		I	II	III	IV	V	VI	VII	
		○	○	○	○	○		○	
授業計画	① インTRODクシヨン～スタートアップの要諦～ ② アントレプレナーシップとは何か？ ③ アントレプレナー・フォーメーション ④ 本場アメリカのハイテク・スタート・アップ ⑤ 企業の成長に必要な経営戦略のポイントおよび戦略フレームワーク ⑥ グループプレゼンテーション(1) ⑦ グループプレゼンテーション(2) ⑧ グループプレゼンテーション(3) ⑨ チームの作り方 ⑩ プロダクトの作り方 ⑪ 製品開発システムとその全体像 ⑫ 特許と知財 (知的財産権) 戦略 ⑬ マーケティング戦略 ⑭ 資金調達戦略 ⑮ エグジット戦略 まとめ (ベンチャー・ビジネスの発展を考える)								
評価方法	平常点 20%、中間課題発表 40% (プレゼンテーション力【20点】とディスカッションの質【20点】)、期末レポート 40% 「平常点」には、クラスへの参加度、毎講義終了時のリアクション・ペーパーの内容と提出状況などが含まれます。「クラスへの参加度」とは単に出席するだけでなく、他の受講生の発言をしっかりと聞き、自身の意見を具体的に述べることも含みます。								
講義外での学習	普段から米国シリコン・バレーの動向やスタート・アップ関連の書籍、ニュースに慣れ親しみ、主体的な知識習得の慣習化を求める。								
履修上の注意事項	講義中に生じた疑問や分からない語彙は当日中にクリアにしておくこと。中間試験はグループ・プレゼンテーションを通じて行う。 ※先修科目： 履修にあたって、「経営戦略論 I, II」を履修しておくことが望ましい。 ※他学部履修： 履修を希望する場合は、事前に担当教員に問い合わせること。								
教材	◆教科書： テキストは指定しません。パワーポイントスライドによる講義を行います。 ◆参考書： 『現場力-強い日本企業の秘密』光山博敏、中沢孝夫 筑摩書房 2020								
実務経験のある教員による授業科目									
日系メーカーの米国法人にて、新規拠点の立ち上げを中心とする業務に携わってきた経験をもとに、ゼロから事業を立ち上げ、ビジネスを実際に軌道に乗せるまでの実践的手法や手順に加え、就活においても必須となる実践的な知見を教授する。									

科目名	経営分析					授業タイプ		講義・演習	
科目区分	企業経営	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教員名	政田 孝（非常勤）								
授業の概要	<p>キーワード：収益性、安全性、効率性</p> <p>経営分析の講義では、企業の財務データを利用した企業診断の基本的な指標を講義したうえで、財務データ分析の限界と非財務データ分析の有用性を解説する。また、公開企業が IR で公表しているデータを利用した分析実務を行う。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な経営分析の指標を理解し、分析結果を通して企業の基本的な経営診断ができる。 企業の数字を読み取る基礎的な能力が身に付く。 企業のビジネスと分析結果の関連性が理解できる。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① ガイダンス、財務データと非財務データの種類を紹介する。 ② 財務データ（財務諸表）の役割と見方を学ぶ。 ③ 財務データ（連結財務諸表、注記事項）の意義と役割を学ぶ。 ④ 安全性分析の種類及び利用の方法を学ぶ。（1） ⑤ 安全性分析の種類及び利用の方法を学ぶ。（2） ⑥ 収益性分析の種類及び利用の方法を学ぶ。（1） ⑦ 収益性分析の種類及び利用の方法を学ぶ。（2） ⑧ 効率性・損益分岐点分析の種類及び利用の方法を学ぶ。（1） ⑨ 効率性・損益分岐点分析の種類及び利用の方法を学ぶ。（2） ⑩ キャッシュフロー分析の指標を学ぶ。 ⑪ 成長性分析の指標を学ぶ。 ⑫ 趨勢分析の種類を学ぶ。 ⑬ 合理性分析の種類と手法を学ぶ。 ⑭ 非財務データの種類と利用の仕方を学ぶ。 ⑮ 全体のまとめと総合練習 								
評価方法	レポート（80%）と授業参加態度（20%）により評価する。								
講義外での学習	講義が始まる前に教科書を読み授業内容の概要を把握してください。								
履修上の注意事項	<p>※先修科目： 履修にあたって、「商業簿記1」、「会計学入門」、「財務会計」を修得しておくことが望ましい。</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>								
教材	<p>◆教科書： 小倉三郎 監修『入門 経営分析』（第2版）（2015年12月5日） 同文館 ISBN（978-4-495-19812-1）</p> <p>◆参考書： 講義中に紹介します。</p>								
実務経験のある教員による授業科目									
税理士としての実務経験を活かし、企業の公表資料（決算短信、有価証券報告書）を利用した実務的な経営分析の講義をする。									

科目名	原価計算論					授業タイプ		講義・演習	
科目区分	企業経営	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	前期
教員名	川崎 紘宗（専任）								
授業の概要	キーワード：原価、原価計算制度、原価管理								
	原価計算は、企業内部における資源の有効かつ効率的な利用のために必要となる。その必要性は、企業間の競争が激化すればするほど増してゆく。先のような状況が生じた19世紀の中頃のイギリスで原価計算は生成した。他方、工業簿記は製造業における諸活動を的確に把握するための会計であり、商業簿記と同様に複式簿記によって記録・計算される。また、その特色は、商業簿記に見る外部活動と共に製造業の内部活動をも記録・計算することにある。この内部活動を正確に記録・計算するには、内部活動を記録・計算するための勘定を設けて、これに原価計算によって算出された内部活動の数値を記録する必要がある。それゆえ、原価計算と工業簿記は切っても切れない関係にある。それゆえ、本講義では、原価計算のみならず、工業簿記についての学習も進める。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 原価計算の基礎理論を理解し、工業簿記の会計処理の技術を習得し、応用できる。 マネジメント・コントロールのための標準原価計算や直接原価計算だけでなく、戦略的コスト・マネジメントのための活動基準原価計算（ABC）について理解することができる。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 原価計算の基礎：原価とは何かについて学ぶ。 ② 個別原価計算：その基本的な処理を学ぶ。 ③ 総合原価計算：規格品を量産する場合の原価計算手法について学ぶ。 ④ 総合原価計算：仕損および減損の処理について学ぶ。 ⑤ 総合原価計算：工程別・組別原価の計算について学ぶ。 ⑥ 総合原価計算：等級別・連産品原価の計算について学ぶ。 ⑦ 標準原価計算：その意義と目的について学ぶ。 ⑧ 標準原価計算：差異分析について学ぶ。 ⑨ 標準原価計算：勘定記入について学ぶ。 ⑩ 直接原価計算：その意義と目的について学ぶ。 ⑪ 直接原価計算：損益分岐点分析について学ぶ。 ⑫ 直接原価計算：限界（貢献）利益の概念と固定費調整について学ぶ。 ⑬ ABC：コスト・ドライバーの概念と伝統的な原価計算との相違を学ぶ。 ⑭ ABC：ABM（活動基準管理）とABB（ABC予算）について学ぶ。 ⑮ 総復習とまとめ。 ⑯ 定期試験 								
評価方法	レポート（30%）、定期試験（70%）								
講義外での学習	会計処理の技術の習得のために予習と復習をすること。								
履修上の注意事項	教科書と電卓を毎回必ず持参すること。 ※先修科目： 履修にあたって、「管理会計」を修得しておくことが望ましい。 ※他学部履修： 履修を希望する場合は、事前に担当教員に問い合わせること。								
教材	◆ 教科書 ： 建部宏明・長屋信義・山浦裕幸著『スタンダード原価計算』同文館出版（ISBN978-4-495-20641-3） ◆ 参考書 ： 岡本清著『原価計算[六訂版]』国元書房 櫻井道晴著『原価計算』同文館出版								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	税務会計					授業タイプ		講義		
科目区分	企業経営	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	前期	
教員名	下浦 正臣 (非常勤)									
授業の概要	<p>キーワード：租税法、基本、判例</p> <p>この講義の目的は、税及び税法の基礎的な知識の習得である。税の仕組み等の理解は社会人として必要不可欠である。そこで、まず税の基礎的な知識や税法の基本的な考え方を学び、各個人に課される所得税、そして誰もが知っておくべき相続税、贈与税、また個人法人とすべての経済取引にかかわる身近な消費税の概要について学ぶ。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 税や税法の基礎的な知識を習得するとともに、税に対する考えを深めることができる。 個別税法については、概要や仕組みを理解し、今後の社会人として必要となる知識を身につけることができる。 	カリキュラムマップ項目								
		I	II	III	IV	V	VI	VII	○	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス及び導入 歴史、税の意義役割 (我が国の財政状況など) ② 税の基礎知識 租税法主義と租税公平主義など (税負担の公平とは) ③ 所得税法Ⅰ【所得税の概要 (所得税の仕組み)】 ④ 所得税法Ⅱ【所得区分、所得金額、所得控除、税額控除】 ⑤ 所得税法Ⅲ【所得税法のまとめ 計算】 ⑥ 相続税法Ⅰ【相続税の概要 変遷】 ⑦ 相続税法Ⅱ【相続税の納税義務者、本来・みなし財産、税額計算】 ⑧ 相続税法Ⅲ【相続税の非課税財産】 ⑨ 相続税法Ⅳ【財産評価(1) 判例研究】 ⑩ 相続税法Ⅴ【財産評価(2) 判例研究】 ⑪ 相続税法【贈与税の概要 相続時精算課税制度】 ⑫ 消費税法Ⅰ【消費税の概要】 ⑬ 消費税法Ⅱ【消費税の課税取引、課税事業者】 ⑭ 消費税法Ⅲ【消費税の計算の仕組み等】 ⑮ 消費税法Ⅳ【日本版インボイス制度の概要】 									
評価方法	前回の授業にかかわるミニテストを都度実施予定、随時小レポート提出 (70%)、その他授業の参加態度、課題等の提出状況 (30%) を総合して行う。 定期試験は実施しない。									
講義外での学習	授業内容の復習									
履修上の注意事項	特になし。 ※先修科目： 特になし。 ※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。									
教材	<ul style="list-style-type: none"> ◆教科書：特になし。レジュメを配付予定。 ◆参考書：租税法 金子宏著など。 									
実務経験のある教員による授業科目										
大手製造メーカーから税理士へ転職した経験をもとに、今後の社会生活へのアドバイスや 税理士試験のアドバイス、税法の基礎的な知識の習得から実務からみた税法などについて授業を行う。										

科目名	監査論					授業タイプ		講義																						
科目区分	企業経営	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	後期																					
教員名	引地 健児 (非常勤)																													
授業の概要	<p>キーワード：不正、内部統制、公認会計士</p> <p>お金にまつわる不正事件は、ときに経営を大きく揺るがします。監査論を勉強することは、社会正義を身に着けることであり、同時に人間の性(さが)を学ぶことです。過去の不正事件から、その背景にあるものや、そこから人々が何を学んできたのか、社会人として身につけておくべき倫理観や判断基準について学びます。</p> <p>経営における監査の役割、不正発見の方法や原因追及、内部統制についての話は、経営に携わる人にとって有用な知識となります。また、現代の財務諸表監査の担い手である公認会計士の役割についての理解を深め、社会の制度としてどのようにして不正防止を担保しているかについて学習します。これらの事柄について、できるだけ実際の事例を取り入れることで理解を深めていくことを目指します。</p>																													
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 過去の不正事件から、人間とお金の関わりを学び、不正の手口とその発見方法、未然に防ぐ仕組みを理解し不正リスクを識別できる。 財務諸表監査の基本的な考え方と具体的な監査手続を理解し他者に説明できる。 					<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="7">カリキュラムマップ項目</th> </tr> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> <th>VI</th> <th>VII</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				カリキュラムマップ項目							I	II	III	IV	V	VI	VII			○	○			
カリキュラムマップ項目																														
I	II	III	IV	V	VI	VII																								
		○	○																											
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 【オリエンテーション】監査論の全体像 【簿記の基礎】財務諸表の読み方、簿記の基礎について 【企業における不正】粉飾決算とは？ 【社会を揺るがす経済事件1】実際の粉飾事例の分析（オリンパス事件） 【社会を揺るがす経済事件2】実際の粉飾事例の分析（東芝事件） 【監査の種類と法律】財務諸表監査制度とはどのような制度か？ 【財務諸表監査と公認会計士】監査の実施主体に求められる条件とは？ 【監査基準について1】監査基準とは？なぜ基準を設ける必要があるのか？ 【監査基準について2】監査実施の全体像 【監査基準について3】リスク・アプローチとは何か？ 【監査基準について4】事業上のリスクを重視したリスク・アプローチ 【監査基準について5】監査手続とはどんなことを実施するのか？ 【監査基準について6】リスク対応手続と監査証拠の評価 【内部統制】不正を防止するための仕組みとは？ 【監査報告】監査の結果は、誰にどのように報告するのか？ <p>なお、授業は全てオンデマンドで実施します。</p>																													
評価方法	<p>授業参加態度（30%）、期末レポート（70%）</p> <p>欠席が講義回数数の3分の1を超えた場合は、期末レポートの提出資格はありません。</p>																													
講義外での学習	<p>決算発表や粉飾事件等、経済関連のニュースを読んで、社会への関心を保つこと。</p>																													
履修上の注意事項	<p>指定した教科書は毎回持参してください。</p> <p>簿記の知識がなくても受講が可能ですが、基礎的な知識はあった方が望ましいです。</p> <p>※先修科目： 特になし。</p> <p>※他学部履修： 特に制限なし。事前確認不要。</p>																													
教材	<p>◆教科書： 「はじめてまなぶ監査論 第2版」 （盛田良久他 中央経済社、ISBN：978-4-502-34211-0）</p> <p>◆参考書：</p>																													
実務経験のある教員による授業科目																														
<p>監査法人における監査実務の経験を活かし、実際の不正の手口や不正を防ぐ仕組み（内部統制）、監査手続などについて実例を交えながら講義します。</p>																														

科目名	コーポレート・ファイナンス					授業タイプ		講義																						
科目区分	企業経営	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	前期																					
教員名	吉田 高文（専任）																													
授業の概要	<p>キーワード：レバレッジ、企業価値、M&A</p> <p>企業経営における資本の調達と運用を、「キャッシュフロー」、「時間」、「リスク」の概念を中心にして考察する。また、コーポレート・ファイナンスに関する最近の動向を理解する。授業は講義形式で行うが、練習問題や計算問題を解くことがある。</p>																													
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 企業の財務問題を考察するにあたって、専門用語や基礎理論および分析手法を理解し、説明できる。 財務計算を修得し、これを練習問題の中の投資決定問題や経営分析に応用できるようになる。 M&A（企業の合併・買収）について理解し、簡単な企業評価をできるようになる。 					<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="7">カリキュラムマップ項目</th> </tr> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> <th>VI</th> <th>VII</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				カリキュラムマップ項目							I	II	III	IV	V	VI	VII	○		○	○			
カリキュラムマップ項目																														
I	II	III	IV	V	VI	VII																								
○		○	○																											
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① コーポレート・ファイナンスの課題 ② 損益分岐点分析と事業的レバレッジ ③ 財務的レバレッジ ④ ROI と ROE ⑤ 企業評価（1）財務価値の計算 ⑥ 企業評価（2）投資決定 ⑦ 企業評価（3）さまざまな評価方法 ⑧ 企業評価（4）効率的市場仮説 ⑨ 企業評価（5）配当評価モデルとトービンの q ⑩ 企業合併・買収（1）M&A の基礎用語 ⑪ 企業合併・買収（2）米国の敵対的買収事例 ⑫ 企業合併・買収（3）日本の敵対的買収事例 ⑬ 企業合併・買収（4）買収防衛策 ⑭ 企業評価のケース学習 ⑮ 資本調達・資本構成 ⑯ 定期試験 <p>第1回から第4回で、キャッシュフローの概念や損益分岐点分析、財務的レバレッジなどを学習し、企業経営と財務管理との関わりを大まかに理解する。つぎに、第5回から第9回で、財務計算の基礎や投資決定手法およびいくつかの企業評価の考え方を学習する。この内容の理解が最も重要である。企業評価に関連して、第10回から第13回で企業合併・買収の学習に移る。ここでは、M&A について国内国外の発展経緯や最新動向を学習する。第14回では、実際の企業事例を用いて M&A を想定した企業評価を行う。最後に第15回で、MM 理論や資本調達について学習する。</p>																													
評価方法	配点は、定期試験 60%、提出物（期末報告書）および受講状況 40%。																													
講義外での学習	レバレッジ、ROE など、各回の授業で出てきた用語を理解すること。わからないことは、インターネットで検索するだけでなく、図書や論文を読んで調べること。																													
履修上の注意事項	授業で電卓（関数電卓）または表計算ソフトを使用することがある。 ※先修科目： 「ファイナンス入門」を履修済みであることが望ましい。 ※他学部履修： 特に制限なし。事前確認不要。																													
教材	<p>◆教科書： 使用しない。</p> <p>◆参考書： 伊藤邦雄『ゼミナール企業価値評価』日本経済新聞出版社、2007年。ISBN978-4-532-13261-3</p>																													
実務経験のある教員による授業科目																														

科目名	リスクマネジメント					授業タイプ		講義				
科目区分	企業経営	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	後期			
教員名	吉田 高文 (専任)											
授業の概要	キーワード：保険、オプション、ALM											
	私たちの生活におけるリスク、投資におけるリスク、金融機関におけるリスクなど、さまざまなリスクの存在を理解し、その対処方法を学習する。講義形式の授業であるが、計算問題や練習問題を解くことがある。											
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 私たちの社会に、どのようなリスクがあるのかを正しく認識し、リスクに対して適切な行動をとることができるようにする。 保険や年金についての基礎的知識を身につけ、応用できる。 投資とリスクとの関係を理解し、説明できる。 金融機関、とくに銀行のリスクマネジメントを理解し、説明できる。 						カリキュラムマップ項目					
							I	II	III	IV	V	VI
授業計画	① リスクと不確実性 ② 期待効用理論 ③ 保険のしくみ (1) 保険の種類 ④ 保険のしくみ (2) 保険商品 ⑤ 保険のしくみ (3) まとめ ⑥ 金融資産について ⑦ 現代ポートフォリオ理論 (1) 最適ポートフォリオ ⑧ 現代ポートフォリオ理論 (2) 資本資産評価モデル (CAPM) ⑨ 現代ポートフォリオ理論 (3) CAPM の応用 ⑩ デリバティブ (1) オプションの定義 ⑪ デリバティブ (2) オプションの価値 ⑫ デリバティブ (3) オプション評価モデル (ブラック＝ショールズ式) ⑬ 金融機関のリスク管理 (1) ALM ⑭ 金融機関のリスク管理 (2) VaR と RAF ⑮ リスク回避、リスクテイク、リスク管理 ⑯ 定期試験 第1回と第2回で、リスク概念を整理し、リスクに対する行動を分析するための基礎理論として期待効用理論を学習する。これを受けて第3回とから第5回では、リスクに対処する社会制度である保険について学習する。第6回から第12回では、投資に伴うリスクを評価要素に取り入れて金融資産を評価する、資本資産評価モデルとオプション評価モデルを学習する。第13回と第14回は、金融機関におけるリスクマネジメントの必要性を学び、実際にどのようなリスクマネジメントが行われるのかを理解する。最後に第15回では、全体を復習しながらリスクに対する行動のあり方を考える。											
	評価方法	配点は、定期試験 60%、提出物 (期末報告書) および受講状況 40%。										
講義外での学習	CAPM、ALM など、各回の授業で出てきた用語を理解すること。わからないことは、インターネットで検索するだけでなく、図書や論文を読んで調べる。講義外での学習時間の目安は、1回の講義につき 90 分。											
履修上の注意事項	授業で電卓 (関数電卓) を使用することがある。 ※先修科目： 「ファイナンス入門」を履修済みであることが望ましい。 ※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。											
教材	◆教科書： 使用しない。 ◆参考書： 矢島邦昭『投資理論とリスク管理』学文社、1997年。ISBN9784762007224											
実務経験のある教員による授業科目												

科目名	経営倫理					授業タイプ		講義				
科目区分	企業経営	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	後期			
教員名	兪 成華 (専任)											
授業の概要	<p>キーワード：企業の社会的責任、企業統治、企業不祥事</p> <p>本授業では、組織体の活動に必要な不可欠である倫理をとりわけ企業について分かり易く解説する。企業はその活動が、基本的には資本主義経済の性格により規定されているが、同時に社会的性格をも有する存在であることの認識が必要である。特に近年では企業実務で大きな課題として取り上げられている「企業の社会的責任 (CSR)」の具体的な内容ならびに企業倫理やコンプライアンスとの関係についても学習する。</p>											
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 企業組織の倫理観を浸透・徹底させるための制度化や手法を学び、理解することができる。 企業の経営課題に潜む倫理的な側面を自分で発見できる。 企業行動を倫理のレンズで分析できる。 					カリキュラムマップ項目						
						I	II	III	IV	V	VI	VII
						○		○	○			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス：授業の進め方と成績評価の方法、履修上の注意事項と連絡方法等、経営倫理とは何か。 ② 経営倫理学の歴史的背景と展開：米国・日本の経営倫理学、近年の研究方向。 ③ 「企業の社会的責任」：企業の社会的責任の概念、経営倫理との関係。 ④ 「企業不祥事」と経営倫理：企業不祥事を引き起こす原因メカニズム、対応策。 ⑤ 経営倫理の制度化：企業倫理プログラム、企業内制度。 ⑥ 事例研究 ⑦ 企業統治と経営倫理：企業倫理の責任者、経営者のコミットメントと役割。 ⑧ ステークホルダー・マネジメントと経営倫理：利害関係者や株主の概念、ステークホルダー理論、協力と信頼。 ⑨ 環境問題と経営倫理：環境問題の現状、環境倫理学。 ⑩ 企業の環境経営：地球温暖化、COP、SDGs、環境マネジメント。 ⑪ 企業グローバル化と経営倫理（外部講師のご講演） ⑫ 南アフリカトヨタ自動車のCSR経営 ⑬ リスクマネジメントと経営倫理：リスクと職場における権利・義務、過労死。 ⑭ 専門職倫理と経営倫理：技術者や研究者の社会的責任。 ⑮ 全体の総括：期末試験に向けてこれまで学んだ内容を復習すること。 ⑯ 定期試験 											
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ミニテスト（計6回）：成績評価の30%、筆記式の試験を行う。 定期試験：成績評価の50%、筆記式の試験を行う。 レポート課題：成績評価の20%、レポート課題については授業内で指示する。 											
講義外での学習	<ul style="list-style-type: none"> 講義では最近のニュースや出来事を取り扱うので、その具体的なイメージをつかむために、新聞や雑誌等に掲載される「企業不祥事」の記事を点検しておくこと。 											
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 第1回「ガイダンス」時に詳細な説明を行う。必ず出席すること。 効率的に授業を進めるためにプロジェクタを用いて講義するが、一方的な授業にならないよう、受講生への質問を交えながら進行していく。 <p>※先修科目：履修にあたって、「経営学入門」を修得しておくことが望ましい。</p> <p>※他学部履修：特に制限無し。事前確認不要。</p>											
教材	<p>◆教科書：特に指定はしない。毎回資料プリントを配布する。</p> <p>◆参考書：『ビジネスエッセックス』高 巖著、日本経済新聞出版社、ISBN-10: 453213434X 『日本の企業倫理』企業倫理研究グループ著、白桃書房、ISBN-10: 4561131752</p>											
実務経験のある教員による授業科目												

科目名	ビジネス・エコノミクス					授業タイプ		講義	
科目区分	企業経営	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	前期
教員名	西村 教子（専任）								
授業の概要	<p>キーワード：非合理性、時間割引、心理、利他性</p> <p>みなさんは計画を立ててもついつい後回しにしたり、一番人気！を信じて後悔したりしたことはありませんか？人は日々、非合理的な選択や利他的な選択をしたり、その結果、失敗や後悔をよくします。これは人が持つ選択のクセによるものなのです。今日、ビジネスシーンや政策など、この人のクセを積極的に利用しようとする風潮があります。本講義は日常生活でよく見られる人々の非合理的な意思決定を行動経済学から考えていきます。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 人々の選択のクセが理解できるようになる 非合理的な選択や失敗行動が理解できるようになる より良い選択するための方策を考えることができるようになる 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
			○						○
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 経済学と行動経済学：従来の経済学の仮定から行動経済学の意義を学ぶ ② ヒューリスティクス(1)：人の2つの思考とヒューリスティクスを学ぶ ③ ヒューリスティクス(2)：さまざまなヒューリスティクスを取り上げる ④ 時間選好(1)：現在と将来に関する意思決定とその非整合性について学ぶ。 ⑤ 時間選好(2)：時間非整合性パターンの種類とコミットメントを取り上げる ⑥ リスク選好：リスクに対する意思決定と矛盾について学ぶ ⑦ プロスペクト理論：確率加重関数と価値関数からプロスペクト理論を学ぶ ⑧ 社会的選好(1)：ゲーム実験から社会的選好や利他的行動を学ぶ ⑨ 社会的選好(2)：ゲーム実験を通じて繰り返しゲームを学ぶ ⑩ 社会的選好(3)：公共財供給実験を通じて社会的ジレンマを学ぶ ⑪ お金に関する経済心理：お金に関わるさまざまな人の心理を学ぶ ⑫ 行動ファイナンス：投資家心理とその要因を学ぶ ⑬ 実世界における行動経済学：リバタリアニズムを学び、ナッジを取り上げる ⑭ 幸福の経済学(1)：幸福の概念や幸福のパラドックスを学ぶ ⑮ 幸福の経済学(2)：幸福の判断基準である幸福感と生活満足度などを取り上げる 								
評価方法	<p>フィードバック(30%)：毎回提出を求めます。</p> <p>中間レポート(25%)：テーマに沿って具体例を挙げながら説明してもらいます。</p> <p>実験とグループディスカッション(15%)：これらを通じて理解を深めます。</p> <p>期末レポート(30%)：テーマの解説とあなたの考えを求めます。</p>								
講義外での学習	予習・復習をしておくこと								
履修上の注意事項	<p>※先修科目：履修にあたって、「ミクロ経済学」を修得しておくことが望ましい。</p> <p>※他学部履修：特に制限無し。事前確認不要。</p>								
教材	<p>◆教科書：筒井義郎他(2017)『行動経済学入門』東洋経済新報社 (ISBN：978-4-492-31497-5)</p> <p>◆参考書：講義の中で適宜紹介する。</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	日本経済論					授業タイプ		講義	
科目区分	企業経営	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教員名	石川 真澄（専任）								
授業の概要	<p>キーワード：経済事情、日本型経済システム、経済改革</p> <p>近代日本の経済的発展を可能にした「日本型経済システム」は、その転換に苦しみ、長い停滞を抜け出せずにいます。少子高齢化に代表される人口動態の変化は国内の生産・消費構造の前提を大きく揺るがし、国際的にはキャッチアップ型の経済発展が行き詰まる一方で新興国のめざましい発展により相対的な地位が低下する中で経済のグローバル化に対応しなければなりません。日本経済の現在の姿や特徴について論ずるとともに、現代の日本経済が直面する課題とそれに対応すべく近年生じた変化について採り上げます。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本経済の特徴や、直面する諸課題を理解し、説明できる。 日本経済の現状を把握するための代表的な指標や、それらを用いた経済に関するニュース等の内容を理解し、説明することができる。 	カリキュラムマップ項目							
		I	II	III	IV	V	VI	VII	
				○	○		○		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① イントロダクション：講義の概要、ねらい、日本経済の概要 ② 経済成長：戦後日本経済のあゆみ 1 戦後復興から高度経済成長へ ③ 経済成長：戦後日本経済のあゆみ 2 「失われた30年」を考える ④ 景気循環：景気循環の読み方と戦後日本の景気循環 ⑤ 物価：物価の変動とデフレ ⑥ 雇用：日本の雇用システムと失業 ⑦ 産業：産業構造の変化と日本型企业経営 ⑧ 貿易：貿易と国際収支 ⑨ 為替レートの変動と日本経済 ⑩ 財政：財政の現状と持続可能性 ⑪ 金融政策：金融政策とマクロ経済 ⑫ 格差問題と再分配政策 ⑬ 社会保障：少子高齢化と社会保障 ⑭ 人口構造の変化と日本経済 ⑮ 変容する日本型経済システム（まとめ） 								
評価方法	レポート課題（複数回）70%、講義時に出題する小課題 30% の比率で評価します。								
講義外での学習	各回の講義でテキストの該当部分や配布する資料による予習・復習が必要です。経済に関するニュース等に関心を持ち、積極的に情報を集めることを期待します。必要に応じて課題を出します。								
履修上の注意事項	<p>※先修科目：「現代経済学入門」を既習であることが望ましい。</p> <p>※他学部履修：履修を希望する場合は、事前に担当教員に問い合わせること。</p>								
教材	<p>◆教科書：小峰隆夫・村田啓子(2020)『最新 日本経済入門[第6版]』日本評論社、定価 2,500 円+税 (ISBN 978-4-535-55902-8)</p> <p>◆参考書：</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	金融市場論					授業タイプ		講義			
科目区分	企業経営	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	後期		
教員名	矢野 順治 (非常勤)										
授業の概要	<p>キーワード：先物、オプション、金利スワップ、リスクヘッジ</p> <p>本講義では、現代金融システムにおいて重要な役割を果たすデリバティブ市場について歴史的発展、現状、及び理論的側面について説明します。理論的側面については数式による展開は用いず、数値例によって説明してゆきます。</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本の先物市場、オプション市場、金利スワップ市場について歴史と現状を理解できる。 先物、オプション商品の価格決定メカニズムを理解できる。 様々なデリバティブを用いたリスクヘッジについて理解できる。 					カリキュラムマップ項目					
						I	II	III	IV	V	VI
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① イントロダクション:デリバティブ (金融派生商品) の概略 ② 先物市場:先物取引と先渡取引 ③ 債券先物:債券先物取引概要、証拠金取引、リスクヘッジ ④ 株式先物:株式指数先物取引概要、リスクヘッジ ⑤ 金利先物:ユーロ金利取引概要、リスクヘッジ ⑥ 通貨先物:通貨先物取引概要、リスクヘッジ ⑦ 先物理論価格:アービトラージ、スプレッディング ⑧ オプション:オプション、株式指数オプション、債券オプション、証券オプション ⑨ オプションとリスクヘッジ:オプション取引と先物取引、先物売り、買いコールヘッジング ⑩ オプション取引:損益図、基本ケース ⑪ オプション・ストラテジー:プロテクティブ・プット、カバード・コールストラドル ⑫ スワップ取引:固定金利と変動金利、リスクヘッジ ⑬ 債券:様々な債券の投資収益率 ⑭ 債券価格:債券価格の決定理論 ⑮ 債券投資のリスク管理:債券投資のリスク、デデュレーション、イミナイゼーション 										
評価方法	<p>授業支援システムを用いて 12 回行われる小テストにより評価します。小テストは、毎回 4-6 問、解答時間は文章題 30 秒、計算問題は難しによって変わります。小テストは各 10 点満点で 12 回ありますので、120 点満点になります。これを 100 点満点に換算します。60 点以上が単位取得となります。</p> <p>中間試験、期末試験、期末レポートはありませんので注意してください。</p>										
講義外での学習	講義内容に興味を持った点があれば、講義前、後を問わずより深く調べてみよう。										
履修上の注意事項	<p>※先修科目: 特になし。</p> <p>※他学部履修: 特に制限無し。事前確認不要。</p>										
教材	<p>◆教科書:</p> <p>◆参考書: 坂下晃他 証券市場の基礎知識 2011 年第二版 晃洋書房 日本証券経済研究所編 図説日本の証券市場 2016 年版、2016 年 日本証券経済研究所 釜江廣志他 証券論 2004 年 有斐閣 藤林宏他 エクセルで学ぶファイナンス 2 証券投資分析 2014 年 金融財政事情研究会</p>										
実務経験のある教員による授業科目											

科目名	証券論					授業タイプ		講義	
科目区分	企業経営	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	前期
教員名	矢野 順治 (非常勤)								
授業の概要	キーワード：株式市場、債券市場、投資戦略 本講義では、現代金融システムにおいて中心的な役割を果たす証券市場、債券市場について歴史的発展、現状、及び理論的側面について説明します。理論的側面については数式による展開は用いず、数値例によって説明してゆきます。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本の株式市場、債券市場の歴史と現状を理解することができるようになる。 株式、債券の価格決定メカニズムを理解することができるようになる。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
			○	○					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 金融市場の発展：イギリス、アメリカ、日本の金融市場の発展について説明します。 ② 株式発行市場：株式公開市場について説明します。 ③ 株式流通市場：証券取引所について説明します。 ④ ポートフォリオ理論：平均分散アプローチ、分離定理について説明します。 ⑤ CAPM 理論：理論モデル、実証研究について説明します。 ⑥ APT 理論：理論モデル、実証研究について説明します。 ⑦ 投資信託：歴史・現状・課題について説明します。 ⑧ 証券商品市場：証券化商品の種類とサブプライムローン危機について説明します。 ⑨ 公社債発行市場：発行市場と格付けについて説明します。 ⑩ 公社債流通市場：流通市場と現先取引について説明します。 ⑪ 債券投資収益率：様々な債券投資収益率について説明します。 ⑫ 債券価格と利子率：債券価格決定について説明します。 ⑬ スポットレートとフォワードレート：概念とブレイクイーブンレートについて説明します。 ⑭ 期間構造理論：純粋期待仮説、流動性仮説等について説明します。 ⑮ デュレーションとコンベクシテイ：概念とイミュナイゼーションについて説明します。 								
評価方法	授業支援システムを用いて 12 回行われる小テストにより評価します。小テストは、毎回 4-6 問、解答時間は文章題 30 秒、計算問題は難しによって変わります。小テストは各 10 点満点で 12 回ありますので、120 点満点になります。これを 100 点満点に換算します。60 点以上が単位取得となります。 中間試験、期末試験、期末レポートはありませんので注意してください。								
講義外での学習	講義内容で興味を持った点があれば、講義前、後を問わずより深く調べてみよう。								
履修上の注意事項	※先修科目： 特になし。 ※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。								
教材	◆教科書： なし ◆参考書： 坂下晃他 証券市場の基礎知識 2011 年第二版 晃洋書房 日本証券経済研究所編 図説日本の証券市場 2016 年版、2016 年 日本証券経済研究所 釜江廣志他 証券論 2004 年 有斐閣 藤林宏他 エクセルで学ぶファイナンス 2 証券投資分析 2014 年 金融財政事情研究会								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	地域経済論 【COC】					授業タイプ		講義		
科目区分	地域経営	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期	
教員名	佐藤 彩子 (専任)									
授業の概要	<p>キーワード：地域経済、内発的発展、外来型開発</p> <p>本講義では、地域経済を捉える基本的な視点を学び、具体的な都市・地域の経済・産業構造や発展過程を知ることを通じて、地域経済の望ましいあり方を考える力を身につけることを目指す。また、常日頃から地域に関する情報を積極的に収集しようとする姿勢を養う。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 地域経済を捉える基本的な考え方を理解し、本文だけでなく図表や地図等の情報を客観的に把握することができる。 ある特定地域が直面する事象のうち、興味のある事象について、自分なりの意見を根拠に基づいて積極的に述べるができる。 	カリキュラムマップ項目								
		I	II	III	IV	V	VI	VII		
授業計画	<p>原則として、下記の授業計画で進めるが、受講生の理解度等を踏まえ、必要に応じて変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション：授業計画を提示し、授業で扱う内容をおおまかに紹介する。 地域経済学の基礎と課題(1)：地域のスケールや地域経済を捉える視点について学ぶ。 地域経済学の基礎と課題(2)：都市と農村の役割を学ぶとともに、両者の関係を理解する。 地域経済学の基礎と課題(3)：地域経済の構造変化を時代の流れの中で捉える。 地域経済学の基礎と課題(4)：知識が地域経済の発展にもたらす影響を理解する。 世界都市・東京：東京の経済・産業構造と課題を理解する。 地方中枢都市：地方中枢都市の代表である福岡市と札幌市の比較から、その特性を学ぶ。 地方工業都市：自動車産業集積地である愛知県西三河地域を事例に、地方工業都市の特徴を学ぶ。 映画鑑賞：中山間地域に関する映画鑑賞を通じて、そこでの暮らしや課題を理解する。 商業集積と地域経済：中心商店街の空洞化の実態やその要因、再生の方策を学ぶ。 大都市圏の産業集積：産業集積の類型やその発展過程を理解する。 農村地域における観光業：農村観光が農村経済に果たす役割を理解する。 離島地域における観光業：離島地域における観光まちづくりの意義を学ぶ。 保育サービスと地域：保育サービス産業が抱える地域的課題を理解する。 農産物産地と地域経済：農産物産地の地域経済の特徴を理解する。 									
評価方法	講義で扱った基本的事項を理解した上で、興味を持った地域や事象に関して自分の言葉で説明できているかどうか重点をおく。中間レポート(30%)、期末レポート(45%)、毎回の講義後に課すミニツツペーパー(25%)									
講義外での学習	教科書の該当部分を事前に読み、わからない部分を明確にしておくこと。世界都市、大都市圏、地方中枢都市、中山間地域等、地域に関する情報を新聞記事やインターネット等から収集し、視野を広げておくこと。									
履修上の注意事項	回によっては教科書以外の教材も使用するが、その場合、別途、配布する。 ※先修科目： 特になし。 ※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。									
教材	<p>◆教科書： ・中村剛治郎編著(2008)『基本ケースで学ぶ地域経済学』有斐閣、(ISBN 978-4-641-18354-4)。</p> <p>◆参考書： ・松原宏編著(2014)『地域経済論入門』古今書院、(ISBN 978-4-7722-5278-2)。 ・宮本憲一・横田茂・中村剛治郎編著(1990)『地域経済学』有斐閣、(ISBN 4-641-08491-2)。 その他、必要に応じて講義の中で紹介します。</p>									
実務経験のある教員による授業科目										

科目名	公共経営論					【COC】	授業タイプ		講義 (AL)		
科目区分	地域経営	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期		
教員名	下境 芳典 (専任)										
授業の概要	<p>キーワード：地方自治、ニューパブリックマネジメント、官民連携</p> <p>この講義では、地域の自主的な経営と意思決定の原理、現代的な公共サービス提供のアプローチ、そして公的機関と民間の共同取り組みの実践とその意義について学修します。これらの視点を基に、地域の課題解決や持続可能な公共サービスの実現方法を探求します。</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 学修した知識を基に、実際の公共経営の場面での具体的な取り組みや改善策を提案できるようになる。 公共経営に関わる多様な利害関係者の立場を理解し、その意見や要望を政策提案や事業に反映させられるようになる。 					カリキュラムマップ項目					
						I	II	III	IV	V	VI
							○	○	○	○	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① イントロダクション：アクティブラーニングに参加する練習 ② ニューパブリックマネジメント：「その仕事は誰がすべきか」ディスカッション ③ 地方自治の歴史：グループワークで出身地の市区町村の合併の歴史を調査 ④ 公共サービス提供の原則と方法：公的機関が行っている営利事業の事例研究 ⑤ 官民連携の形態とその意義：民間機関が行っている公共事業の事例研究 ⑥ 地方自治のリーダー：出身地の首長について調査と比較 ⑦ 公共経営における財政：仮想の地域予算の策定ゲーム ⑧ 公共組織での人材管理：知り合いの公務員にキャリアをインタビューする ⑨ 政策策定のステップと方法：グループワークでの仮想政策策定 ⑩ 利害関係者との対話：正解が一つ以上あるが一つしか選べないゲーム ⑪ 公共サービスの評価方法：「市民からの声」を読んでみる ⑫ 危機時の公共経営の役割と対応策：ゲストスピーカーによるボランティア体験談 ⑬ 持続可能な公共サービス：人口減少についてディスカッション ⑭ テクノロジーの進化：デジタル空間に市役所を移転させるシミュレーション ⑮ 振り返り：授業全体の復習、フィードバック、今後の学びの方向性の共有 										
評価方法	<p>定期試験・期末レポートは課さない。</p> <p>毎回課される課題の評価と、アクティブラーニングへの参加度を数値化して評価する。毎回の課題 (50%)、アクティブラーニングへの参加度 (50%)</p>										
講義外での学習	<p>日頃から自身の出身地の自治体の経営に関心を持つ。また行政機関の経営について、ニュース等で情報を得られるよう常に心掛けることが望ましい。</p> <p>学修した理論や専門用語等の知識は実際に使用して定着に努める。</p>										
履修上の注意事項	<p>一般的な講義形式ではなく、学生が講義に主体的に参加する「アクティブラーニング」形式を採用するので、履修学生には様々なアクティビティへの積極的な参加が求められる。</p> <p>講義中に情報検索を行ったりネット上のフォームへの入力を指示したりするので、ノートPCやスマートフォン等を必ず持参すること。</p> <p>※先修科目： 特になし。</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>										
教材	<p>◆教科書： 使用しない。</p> <p>◆参考書： 『ニュー・パブリックマネジメント—理念・ビジョン・戦略』（大住 荘四郎、日本評論社、ISBN：4535551952）</p> <p>『テキストブック 地方自治 第3版』（北山 俊哉・稲継 裕昭、東洋経済新報社、ISBN：4492212485）</p>										
実務経験のある教員による授業科目											
政府系機関等での経験をもとに、公共経営に関して現在実際に起きている、もしくは将来起きそうな問題を題材にして、アクティブラーニングによる講義を行う。											

科目名	地域政策論					【COC】	授業タイプ	講義 (AL)			
科目区分	地域経営	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	前期		
教員名	下境 芳典 (専任)										
授業の概要	<p>キーワード：まちづくり、地域資源、地域振興</p> <p>これまでわが国では、「国土の均衡ある発展」を目指してきました。しかし現在では「地域の特色ある発展」が求められています。この授業では、住む人々が住みやすく、働きやすく、そしてその地域の資源を持続可能な形で継承していけるような政策をみんなで考えていきます。</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 地域の特色や資源を把握し、それを活かす政策提案ができるようになる。 地域の活性化や持続可能な地域づくりに必要な活動に参加できるようになる。 					カリキュラムマップ項目					
						I	II	III	IV	V	VI
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① イントロダクション：履修確認とアクティブラーニングに参加する練習 ② 地域政策の基本概念：自身の出身地の特色をプレゼンテーション ③ まちづくりの歴史と現状：自分の出身地の歴史をプレゼンテーション ④ 地域資源の「発掘」：自分の出身地の隠された魅力を探す ⑤ 地域振興政策の比較：それぞれの出身地で行われている地域振興計画を比較する ⑥ 地域ブランディング：鳥取の新しい「ゆるキャラ」を提案する ⑦ 公民連携：自治体以外の組織が行っている地域振興事業を調査する ⑧ 地域の課題解決：少子化問題を例にグループ討議と解決策の提案 ⑨ 持続可能なまちづくり：商業・産業の「新陳代謝」について考える ⑩ 地域の成長戦略：真似できそうな国内外の成功例を探す ⑪ 観光とまちづくり：オーバーツーリズム問題について討論 ⑫ 地域の伝統文化の継承：デジタル技術を使った新しい継承の方法を考える ⑬ 地域協力と協働の方法：地域間連携プロジェクト（姉妹都市など）を調査する ⑭ 地域振興の実践：これまでの学修を通じて知った活動に実際に参加する ⑮ 振り返り：実際に参加した活動の感想の発表 										
評価方法	<p>定期試験・期末レポートは課さない。</p> <p>毎回課される課題の評価と、アクティブラーニングへの参加度を数値化して評価する。</p> <p>毎回の課題（50%）、アクティブラーニングへの参加度（50%）</p>										
講義外での学習	<p>日頃から自身の出身地の自治体の政策に関心を持つ。また行政機関が行っている事業について、広報誌等を通じて情報を得られるよう常に心掛けることが望ましい。</p> <p>学修した理論や専門用語等の知識は実際に使用してみて定着に努める。</p>										
履修上の注意事項	<p>一般的な講義形式ではなく、学生が講義に主体的に参加する「アクティブラーニング」形式を採用するので、履修学生には様々なアクティビティへの積極的な参加が求められる。</p> <p>講義中に情報検索を行ったりネット上のフォームへの入力を指示したりするので、ノートPCやスマートフォン等を必ず持参すること。</p> <p>※先修科目： 特になし。</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>										
教材	<p>◆教科書： 指定しない。</p> <p>◆参考書： 『復刻版 日本列島改造論』（田中角栄、日刊工業新聞社、ISBN: 4526082708） 『平成三十年』（上）（下）』（堺屋太一、朝日新聞社、ISBN: 4022643242）</p>										
実務経験のある教員による授業科目											
政府系機関等での経験をもとに、地域政策に関して現在実際に起きている、もしくは将来起きそうな問題を題材にして、アクティブラーニングによる講義を行う。											

科目名	地域産業論					【COC】	授業タイプ	講義			
科目区分	地域経営	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	前期		
教員名	佐藤 彩子 (専任)										
授業の概要	キーワード：地域主義、地域産業、山陽・山陰地域										
	本講義では、地域主義の基本的な視点を学び、個々の地域や産業を取り上げ、具体的な事例を通じて各地域がどのように発展してきたのかを理解することを目指す。また、常日頃から、地域や産業に関する情報を積極的に収集しようとする姿勢を養う。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 地域主義の基本的な考え方を理解し、本文だけでなく図表や地図等の情報を客観的に把握することができる。 地域産業が直面する事象のうち、特に興味のある事象について、自分なりの意見を根拠に基づいて積極的に述べるができる。 					カリキュラムマップ項目					
						I	II	III	IV	V	VI
授業計画	<p>原則として、下記の授業計画で進めるが、受講生の理解度等を踏まえ、必要に応じて変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション：授業計画を提示し、授業で扱う内容をおおまかに紹介する。 地域主義とは何か：地域主義の基本的な考え方を日本経済の歩みを通して学ぶ。 地域主義の背景：地域主義という考え方が生まれた背景を地域政策の観点から学ぶ。 知識重視の経済と企業集積：知識が地域発展に果たす役割を学ぶ。 中小企業の多様性：地域産業を構成する中小企業の多様性を理解する。 農業・工業：チューネンの農業立地論、ヴェーバーの工業立地論を学ぶ。 地域ブランド：製造業と観光業の事例から、地域ブランド確立に必要な要素を学ぶ。 観光業：内発的発展という考え方が観光業の活性化に結び付く過程を理解する。 地場産業(1)：産地の地理的な分布と産地が抱える課題を理解する。 地場産業(2)：陶磁器産地の事例から、地場産業の技術特性や技能継承問題を考える。 情報サービス産業：高齢化・過疎化時代を支える情報サービス産業について学ぶ。 介護サービス産業：介護サービス産業と地域との関連を学ぶ。 山陽・山陰地域の産業(1)：山陽・山陰地域の人口構造・産業構造を理解する。 山陽・山陰地域の産業(2)：山陽・山陰地域の中山間地域で卓越する産業事例を学ぶ。 山陽・山陰地域の産業(3)：山陽・山陰地域の中山間地域で進む女性起業の事例を学ぶ。 										
評価方法	講義で扱った基本的事項を理解した上で、興味を持った地域や産業に関して自分の言葉で説明できているかどうか重点をおく。中間レポート(30%)、期末レポート(45%)、毎回の講義後に課すミニッツペーパー (25%)										
講義外での学習	地域や産業に関する情報を新聞記事やインターネット等から収集し、視野を広げること。										
履修上の注意事項	<p>※先修科目： 履修にあたって、「地域経済論」を修得しておくことが望ましい。</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>										
教材	<p>◆教科書： なし</p> <p>◆参考書： 伊藤正昭(2003)『新版 地域産業論-産業の地域化を求めて-』学文社、(ISBN 978-4-7620-1247-1)。</p> <p>その他、必要に応じて講義の中で紹介します。</p>										
実務経験のある教員による授業科目											

科目名	公共政策論					【COC】	授業タイプ		講義			
科目区分	地域経営	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	後期			
教員名	石川 真澄 (専任)											
授業の概要	<p>キーワード：ポリシーサイクル、政府の失敗、政策評価</p> <p>現代の社会では政府の役割は極めて大きなものとなっています。しかし、政府は万能ではなく、利用できる資源にも限りがあります。このため、政府が介入すべき対象や効果的な手法について、絶えず議論が行われてきました。この講義では、政府の役割の根拠として経済学の議論を踏まえつつ、政策の必要性やそれに基づいた政策手法について論じます。</p>											
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 政府の介入が必要となる根拠について理解し、説明できる。 政策課題の要因に応じた政策手段について理解し、その作用について説明できる。 課税の経済活動への影響について理解し、説明できる。 					カリキュラムマップ項目						
						I	II	III	IV	V	VI	VII
						○		○		○		○
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> イントロダクション： 公共政策学とは、政策論と価値 政府の役割をめぐって： 福祉国家の登場と政府の拡大 政府の役割をめぐって： 新自由主義による転換とその後の模索 市場メカニズムのメリットと市場の失敗（既習科目の復習を含む） 公共財： 公共財の定義、公共財の最適供給 公共財： 公共財の供給と費用負担 財政と政府間関係 課税と経済への影響 所得税を中心に 課税と経済への影響 間接税を中心に 外部性： 外部性により生じる問題、関連する公共政策 情報の非対称性： 情報の非対称性により生じる問題、関連する公共政策 競争政策： 独占等により生じる問題、競争政策の考え方 公益事業規制： 公益事業規制の根拠、「規制緩和」と新しい政策手法 格差と公平性： 経済格差の現状、公平性の考え方 再分配政策： 社会保障政策の現状と課題 											
評価方法	講義時に実施する課題（30%程度）やレポート（複数回、70%程度）により評価します。											
講義外での学習	<p>講義時に資料を配布しますが、各自ノートを作成し、復習することが必要です。必要に応じて課題を出します。</p> <p>教科書は指定しませんが、必要に応じて参考文献等を紹介しますので、予習・復習に利用して下さい。</p> <p>上記の授業計画は変更になる場合もあるので、教室での連絡事項に注意して下さい。</p>											
履修上の注意事項	<p>※先修科目： 「現代経済学入門」を既習であることを推奨します。</p> <p>※他学部履修： 履修を希望する場合は、事前に担当教員に問い合わせること。</p>											
教材	<p>◆教科書：</p> <p>◆参考書：</p>											
実務経験のある教員による授業科目												

科目名	中小企業経営論					【COC】	授業タイプ		講義 (AL)																							
科目区分	地域経営	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	前期																							
教員名	光山 博敏 (専任)																															
授業の概要	<p>キーワード：中小企業経営史、コア技術、組織的ケイパビリティ</p> <p>製造業を中心に日本の中小企業の歴史の変遷を学ぶと共に、中小企業が日本経済の発展とどう関わり、貢献してきたのかについて理解する。さらに、これからの中小企業のあり方や事業発展の可能性を戦略的視点から展望し、中小企業に関わる諸論点を検討する。</p>																															
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本経済の発展の中で中小企業が果たしてきた役割や本質が理解できる。 中小企業が現在直面している課題が説明できる。 習得した知識をベースに中小企業の今後の経営の在り方や課題を検討、分析できる。 					<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="7">カリキュラムマップ項目</th> </tr> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> <th>VI</th> <th>VII</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>						カリキュラムマップ項目							I	II	III	IV	V	VI	VII	○	○	○	○	○		○
カリキュラムマップ項目																																
I	II	III	IV	V	VI	VII																										
○	○	○	○	○		○																										
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① イントロダクション～中小企業の要諦～ ② 中小企業とは何か？ ③ 戦後日本の中小企業問題の推移(1) (1940年代後半～60年代) ④ 戦後日本の中小企業問題の推移(2) (1970年～90年代) ⑤ 戦後日本の中小企業における発展の軌跡(1) (1940年代後半～60年代) ⑥ 戦後日本の中小企業における発展の軌跡(2) (1970年～90年代) ⑦ 中小企業と金融 ⑧ 中小企業政策の展開 ⑨ グループプレゼンテーション(1) ⑩ グループプレゼンテーション(2) ⑪ グループプレゼンテーション(3) ⑫ グループプレゼンテーション(4) ⑬ ものづくりと中小企業 ⑭ 事例研究「中小 B to B メーカーの戦略経営」 ⑮ 日本中小製造業のグローバル化と経営 																															
評価方法	<p>平常点 20%、中間課題発表 40% (プレゼンテーション力【20点】とディスカッションの質【20点】)、期末レポート 40%</p> <p>「平常点」には、クラスへの参加度、毎講義終了時のリアクション・ペーパーの内容と提出状況などが含まれます。「クラスへの参加度」とは単に出席するだけでなく、他の受講生の発言をしっかりと聞き、自身の意見を具体的に述べることも含みます。</p>																															
講義外での学習	普段から中小企業、新しい技術関連の書籍やニュースに慣れ親しみ、主体的な知識習得の慣習化を求める。																															
履修上の注意事項	<p>講義中に生じた疑問や分からない語彙は当日中にクリアにしておくこと。中間試験はグループ・プレゼンテーションを通じて行う。</p> <p>※先修科目： 履修にあたって、「経営戦略論 I, II」を履修しておくことが望ましい。</p> <p>※他学部履修： 履修を希望する場合は、事前に担当教員に問い合わせること。</p>																															
教材	<p>◆教科書： テキストは指定しません。パワーポイントスライドによる講義を行います。</p> <p>◆参考書： 『現場力-強い日本企業の秘密』光山博敏、中沢孝夫 筑摩書房 2020</p>																															
実務経験のある教員による授業科目																																
医療器具、精密部品メーカーでの実務経験をもとに、世界的にも独自性の強い商習慣や企業間取引関係を有する我が国の中小中堅メーカーについて、より実務的な視点から講義すると共に就活においても必須となる実践的な知見を教授する。																																

科目名	地域マーケティング					【COC】	授業タイプ		講義		
科目区分	地域経営	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	後期		
教員名	竹内 由佳（専任）										
授業の概要	<p>キーワード：地域マーケティング、消費者、消費者行動</p> <p>「地域に向けて」とか「地域のを」を提供するって、どういうことなのでしょう？そのために必要となるのが、市場に存在する消費者である私たちがいったい何を考えて、どのように行動しているのかに関して分析し、読み取るということです。この講義では、「地域を売る」、「地域の消費者に売る」ために必要な、消費者行動論について学びます。</p> <p>なお、消費者行動を理解するためには様々な分野の学問の知識が必要となります。</p> <p>初級レベルの統計学、マーケティングおよび商業に関する知識、高校レベルの数学の知識、心理学に関する知識を持ったうえで講義に臨んでください。</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> マーケティングとは何かを理解したうえで、消費者行動とはどのような学問であるか説明することができる。 さまざまな消費者行動に関するモデルや理論について、自分の言葉で説明ができる。 「地域を売る」、「地域の消費者に売る」ためのプランを自分の言葉で説明ができる。 					カリキュラムマップ項目					
						I	II	III	IV	V	VI
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション:消費者行動とはどのようなものか、ざっくりと説明します。 ② マーケティングの復習 ③ ミクロ経済学における消費者行動 ④ 消費者行動論研究の潮流:動機付けモデルについて説明します。 ⑤ 消費者意思決定プロセス①:主に刺激反応型モデルについて説明します。 ⑥ 消費者意思決定プロセス②:主に精緻化見込みモデルについて説明します。 ⑦ 消費者意思決定プロセス③:主に関与について説明します。 ⑧ 態度について ⑨ 多属性態度モデルについて ⑩ 簡略化された意思決定と意思決定ルールについて ⑪ 消費者に影響を与えるもの:主に準拠集団について説明します。 ⑫ これまでの学習のまとめと質疑応答これまでの講義内容を復習し、質問等に答えていきます。 ⑬ 地域を売るということ:(色々な意味で)「北海道を売る」実例を学びます。 ※この部分は進み具合により変更する場合があります。 ⑭ 広告と学習:主に学習理論について学びます。 ⑮ イノベーションと情報粘着性仮説:イノベーションと情報の移転の関係について学びます。 										
評価方法	成績は、小テスト(50%)、期末レポート(50%)を総合して評価します。自分なりの言葉で難しい用語を説明できているかに重点を置きます。										
講義外での学習	講義内容やテキスト内容に関して少しでもわからない箇所が出てきた場合は必ず教員に質問し、わからないままの箇所を放置しないようにしてください。また、消費者行動はみなさんの行動について学ぶ学問です。買い物場や遊びに行く際、「今どうしてこの品物を選んだのかな?」「このアトラクション、なんでここにあるの?」など、常に自分の行動について振り返るように心がけてください。他にも、旅行先などでお土産物を見たり、物産展に行った際、地域の特色ある商品を見て、同じことを考えてみてください。										
履修上の注意事項	<p>「マーケティング1・2」「流通論」「商品開発論」「ブランド論」も履修していただくと、より理解できるかと思います。また、毎回のレジュメを大切にしてください。</p> <p>※先修科目： 特になし。</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>										
教材	<p>◆教科書：『消費者・コミュニケーション戦略 現代のマーケティング戦略④』、(田中洋・清水聰著、有斐閣アルマ、2006年) ISBN:4-641-12274-1</p> <p>◆参考書： 適宜紹介していきます。</p>										
実務経験のある教員による授業科目											

科目名	流通論					【COC】	授業タイプ		講義								
科目区分	地域経営	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期								
教員名	竹内 由佳（専任）																
授業の概要	<p>キーワード：流通、商業、パワー関係</p> <p>商業や流通といったものがなければ、私たちは食べ物や衣服、さらにはゲームや本などを手に入れることはほとんど不可能となるでしょう。すなわち、流通や商業は、私たち「消費者」と、食べ物や衣服を作った「生産者」との間を繋ぐ役割をしているということです。この授業では、流通や商業といった私たちの身近な「買い物」の一場面を担う領域に関して学んでいきます。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 様々な事例や理論を通じて、商業、流通とは一体どのようなものであるかを理解できるようになる。 商業、流通とは一体どのようなものであるかをわかりやすく説明できるようになる。 					カリキュラムマップ項目											
						I	II	III	IV	V	VI	VII					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス：商業、流通の実例について、さらにこの講義で扱う内容についてざっくりと紹介します。 ② 小売商業の構造：商業、流通の中でも小売商業の構造について学びます。 ③ 商業・流通の持つ意味(1)：商業・流通の持つ意味について学びます。特に、消費者がどのくらい商業・流通によってコストが減らされているかに着目します。 ④ 商業・流通の持つ意味(2)：商業・流通の持つ意味について学びます。特に、生産者や流通業者そのものがどのくらい商業・流通によってコストが減らされているかに着目します。 ⑤ 卸売業の構造：卸売業が小売商業とどのように異なるかについて学びます。 ⑥ 商業・流通とインターネット：インターネットが入ることによって、商業・流通がどのように変わっていくのかについて学びます。 ⑦ 商業集積：商店街やショッピングセンターについて学びます。 ⑧ 商業集積と街づくり：商店街やショッピングセンターと街づくりの関係について学びます。 ⑨ これまでの復習および質疑応答：これまでの講義内容を復習し、質問等に答えていきます。 ⑩ 商業におけるパワー関係：商業でのパワー関係について学びます。 ⑪ スーパーマーケットと流通：みなさんの一番身近な小売店であるスーパーマーケットについて学びます。 ⑫ 生産者による流通系列化：流通系列化について学びます。 ⑬ 小売業者による製販統合：製販統合について学びます。 ⑭ 小売業者によるPB開発：小売業者によるPB開発について学びます。 ⑮ これまでの復習および質疑応答：これまでの講義内容を復習し、質問等に答えていきます。 												○		○		
											評価方法	成績は、1回の課題レポートの提出状況（15%）、ミニテスト（45%）、期末レポート（40%）を総合して評価します。自分なりの言葉で難しい用語を説明できているかに重点を置きます。					
講義外での学習	毎回授業後にミニテストを課します。このミニテストのために、十分な学習時間を割いてください。さらに、課題レポートも課します。また、普段何気なく通り過ぎるだけのコンビニエンス・ストアの店内やスーパーマーケットの商品などを、講義の後に見直してみてください。これまでとは違ったように見えるかもしれません。																
履修上の注意事項	<p>「マーケティング1」も履修していただくと、より流通とマーケティングの違いが理解できるかと思えます。</p> <p>※先修科目： 特になし。</p> <p>※他学部履修： 特に制限なし。事前確認不要。</p>																
教材	<p>◆教科書： 『現代商業学（新版）』（高嶋克義著、有斐閣、2012年）、ISBN：978-4-641-12464-6。</p> <p>◆参考書： 適宜紹介していきます。</p>																
実務経験のある教員による授業科目																	

科目名	非営利組織論 【COC】					授業タイプ		講義 (AL)			
科目区分	地域経営	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	後期		
教員名	下境 芳典 (専任)										
授業の概要	<p>キーワード：NPO・NGO、ボランティア、社会的企業</p> <p>この講義では、社会的な課題解決を目指す組織や活動に焦点を当てます。営利を目的としない団体の役割や挑戦、地域や社会に対する貢献、そしてそうした活動を支える人々の動機や参加の仕方について学びます。さらに、収益を追求しつつも社会的な価値を提供する、新しい取り組みの意義と実際についても考えていきます。</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 社会的な課題解決を目的とする組織の特性や役割を理解し、その活動に参加する。 地域や社会への貢献活動の具体的な事例を分析し、改善策を提案できるようになる。 					カリキュラムマップ項目					
						I	II	III	IV	V	VI
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① イントロダクション：履修確認とアクティブラーニングに参加する練習 ② 非営利組織の歴史と意義：知っているボランティア団体等について調査する ③ NPO と NGO の違い：国際的な活動をしているボランティア団体等について調査する ④ ボランティアの役割と動機：なぜ政府や企業ではない組織が必要なのか議論する ⑤ 社会的企業の役割：NPO との違いを考え、なぜ彼らが誕生したのかを議論する ⑥ 資金調達方法：関心のある団体がどのように資金を得ているのか調査 ⑦ 非営利組織の経営と運営：トップが誰でメンバーはどのような人たちか調査 ⑧ 非営利組織の課題と展望：彼らが直面している問題について解決方法を考える ⑨ 企業や政府との協働：実際の協働事例を元になぜ共同が必要なのかを議論 ⑩ 活動の評価と効果測定：事業報告書を読んで活動を評価する ⑪ 倫理規範、透明性、信頼性：不正行為を行った組織の事例研究 ⑫ PR、広報活動、ブランディング：どうしたら仲間が増やせるかゲーム ⑬ ゲスト公演：現場で活躍する非営利組織の担当者を招き、リアルな経験を共有 ⑭ ボランティア実践：関心を持った団体の活動に実際に参加する ⑮ 振り返り：実践結果の報告会 										
評価方法	<p>定期試験・期末レポートは課さない。</p> <p>毎回課される課題の評価と、アクティブラーニングへの参加度を数値化して評価する。毎回の課題 (50%)、アクティブラーニングへの参加度 (50%)</p>										
講義外での学習	<p>日頃から身近な非営利組織の活動に関心を持つ。また可能ならば、それらの組織の活動に実際に参加し、組織の外側からでは見ることのできない組織の内側の様子も観察することが望ましい。</p> <p>学修した理論や専門用語等の知識は実際に使用してみて定着に努める。</p>										
履修上の注意事項	<p>一般的な講義形式ではなく、学生が講義に主体的に参加する「アクティブラーニング」形式を採用するので、履修学生には様々なアクティビティへの積極的な参加が求められる。</p> <p>講義中に情報検索を行ったりネット上のフォームへの入力を指示したりするので、ノートPC やスマートフォン等を必ず持参すること。</p> <p>※先修科目： 特になし。</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>										
教材	<p>◆教科書： 使用しない。</p> <p>◆参考書： 『はじめてのNPO論』（澤村 明 他、有斐閣ストゥディア、ISBN: 4641150419）</p>										
実務経験のある教員による授業科目											
政府系機関等での経験をもとに、非営利組織に関して現在実際に起きている、もしくは将来起きそうな問題を題材にして、アクティブラーニングによる講義を行う											

科目名	コミュニティビジネス論 【COC】					授業タイプ		講義		
科目区分	地域経営	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	後期	
教員名	倉持 裕彌（専任）									
授業の概要	<p>キーワード：コミュニティビジネス、地域社会、コミュニティ、まちづくり</p> <p>コミュニティビジネスを理解するにはまず、コミュニティや社会課題について学ぶことが必要である。次に、コミュニティビジネスが成り立つ、あるいは求められている社会経済環境について学習し、そのうえで、実際に取り組まれているコミュニティビジネスの事例を分析していく。事例分析を通して、コミュニティビジネスにおいて必要とされるスキルなどについて理解を深める。なお、コミュニティビジネスに関連する業務に携わっている方にゲストスピーカーを依頼する予定である。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会における課題を踏まえ、コミュニティビジネスの多様性と可能性を理解し、説明できる。 コミュニティビジネスにおいて求められるスキルについて理解し、説明できる。 	カリキュラムマップ項目								
		I	II	III	IV	V	VI	VII		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 履修上の注意、人口動態などを理解する。 社会の変容・コミュニティビジネスの定義 農村社会を理解する。 ソーシャル・ビジネスとコミュニティビジネス1 「コミュニティ」の概念を学ぶ。 コミュニティビジネスとNPO（ゲストスピーカー） ソーシャル・ビジネスとコミュニティビジネス2 ソーシャル・ビジネスを理解する。 コミュニティビジネスの特徴 コミュニティビジネスの特徴を類似領域と区別することで理解する。 コミュニティビジネスのフィールド 中山間地域の現状を学ぶ。 コミュニティビジネスをテーマとした作品鑑賞 映画鑑賞 ソーシャル・キャピタル 「信頼」について学ぶ。 コミュニティビジネスの課題 コミュニティビジネスの課題について解説する。 事例紹介 買い物支援の事例からコミュニティビジネスの現状を学ぶ。 共同売店1 沖縄地方に残る共同売店について学ぶ 共同売店2 複数の共同売店の事例を通して課題や現状を理解する。 商店街とコミュニティビジネス 商店街におけるコミュニティビジネス事例を学ぶ。 講義の総括・質疑応答 <p>※ゲストスピーカーの都合により内容が前後することがある。</p>									
評価方法	講義のフィードバックレポート3回（100%）									
講義外での学習	講義で得られる情報だけでなく、日ごろからコミュニティビジネスや地域資源を活用したビジネスに関心を持ち、情報収集に努めること。									
履修上の注意事項	<p>ゲストスピーカーについては予定である。</p> <p>※先修科目： 特になし。</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>									
教材	<p>◆教科書： 使用しない。</p> <p>◆参考書： 適宜紹介する。</p>									
実務経験のある教員による授業科目										
自治体のシンクタンクにおけるコミュニティビジネスに関する調査・支援業務の経験や人脈を活かし、身近な事例やゲストスピーカーを適宜講義に活用する。										

科目名	観光経営論					【COC】	授業タイプ		講義		
科目区分	地域経営	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	後期		
教員名	山口 和宏 (専任)										
授業の概要	<p>キーワード：ニューツーリズム、地域資源、推進主体</p> <p>観光事業は、旅行産業や宿泊産業、交通産業、レジャー産業などの観光とそれに関連する様々な産業から成り立っており、地域活性化の方策の一つとして注目されている。本講義では、観光立地を目指す地域を複合的にマネジメントするための観光経営についての視点と考え方について、事例分析を交えながら学習する。</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 観光経営に関わる基礎的な知識を理解し、説明できる。 観光地を経営・評価するための手法とその内容について理解し、説明することができる。 					カリキュラムマップ項目					
						I	II	III	IV	V	VI
							○	○			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 講義ガイダンス（観光と観光事業）：講義内容を説明するとともに、観光とは何かについて説明する。 観光の質的变化とニューツーリズム：観光の歴史的流れを説明するとともに、その到達点としてのニューツーリズムについて説明する。 観光経営の枠組みと考え方：観光経営の考え方について説明する。 観光経営の手法(1)：状況把握と戦略策定について説明する。 観光経営の手法(2)：市場創出と滞在促進について説明する。 観光経営の手法(3)：保存・活用と組織・人材について説明する。 観光経営の手法(4)：ブランド形成と財源確保、危機管理について説明する。 観光政策と観光経営：観光に係る政策について説明する。 観光地域づくり法人と観光経営：観光地域づくり法人について説明する。 観光経営の実践事例(1)：阿寒湖温泉を事例に、観光経営の在り方を説明する。 観光経営の実践事例(2)：長崎県長崎市を事例に、観光経営の在り方を説明する。 観光経営の実践事例(3)：長野県白馬村を事例に、観光経営の在り方を説明する。 観光経営の実践事例(4)：愛媛県内子町を事例に、観光経営の在り方を説明する。 観光資源としての農業：農業という地域資源を活用した観光について説明する。 講義全体の総括：講義全体を復習し、観光経営の在り方についてまとめる。 定期試験 										
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 講義で説明した内容と基礎的な知識を正確に理解しているか、 各地の観光に関する取組に対して、自身の言葉で説明が出来るか、 という点に重点をおく。 中間レポート（2回実施）40%、定期試験 60%で評価する。 ※ 状況によっては、定期試験を期末レポートに変更する場合がある。										
講義外での学習	講義内容について、その都度復習すること。また、興味のある観光地に関するニュースや記事などに関心を持ち、関連する書籍を読むなど、講義で触れられない事例に関しても積極的に学習すること。										
履修上の注意事項	講義中、受講者から意見や発言を求められた際には、積極的に発言すること。 ※先修科目： 特になし。 ※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。										
教材	◆教科書： 教科書は指定せず、講義内容に関するプリントを配布する。 ◆参考書： 「観光地経営の視点と実践」日本交通公社編著（丸善出版 2019） ISBN：978-4-621-30384-9 その他、都度紹介します。										
実務経験のある教員による授業科目											

科目名	地域振興論 【COC】					授業タイプ		講義			
科目区分	地域経営	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	前期		
教員名	山口 和宏 (専任)										
授業の概要	キーワード：地域振興、都市農村交流、関係人口										
	本講義では、日本の農村地域を取り巻く現状と課題について説明するとともに、地域特性や地域資源を活用した地域振興策についての基本的な考え方を説明し、事例分析を加えながら、地域振興のあるべき姿について学習します。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域振興に関する基本的知識を理解し、説明できる。 ・地域振興を考えるための視点について理解し、説明できる。 ・それぞれの地域資源を活用した地域振興策を提示するための考え方を身につける。 						カリキュラムマップ項目				
							I	II	III	IV	V
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 講義ガイダンス (地域振興の意義とその考え方) : 講義内容を説明するとともに、地域振興の意義と考え方について説明する。 ② 日本の農村地域の現状と課題 : 統計データを用いて、日本における地域間格差の現状把握を行う。 ③ 国土政策と地域振興 (1) : 戦後から 80 年代にかけてのわが国の国土政策を説明する。 ④ 国土政策と地域振興 (2) : 90 年代以降のわが国の国土政策を説明する。 ⑤ 地域振興政策の歴史 (1) : 条件不利地域に対する振興政策について説明する。 ⑥ 地域振興政策の歴史 (2) : 地域間格差是正のための振興政策について説明する。 ⑦ 観光政策と地域振興 : 地域振興策と観光分野との関係について説明する。 ⑧ 地域特性と地域資源の活用 : 地域資源の説明とその活用策について説明する。 ⑨ 地域の雇用と地場産業 : 地域における雇用の創出ならびに地場産業とその活用策について、事例を用いて説明する。 ⑩ 事例分析 (1) 6 次産業化の取り組み : 6 次産業化による地域振興について説明する。 ⑪ 事例分析 (2) グリーンツーリズムと農村交流 : 農村交流の意義について説明する。 ⑫ 事例分析 (3) 農産物直売所と市民農園 : 直売所や市民農園の役割について説明する。 ⑬ 事例分析 (4) U・I ターンと新規就農 : 移住者と地域振興の関係について説明する。 ⑭ 鳥取県の地域振興 : 鳥取県における地域振興策やその実践事例について説明する。 ⑮ 講義全体の総括 : 講義全体を復習し、地域振興の在り方についてまとめる。 ⑯ 定期試験 										
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ①地域振興に関する基礎的知識を理解しているか、②講義で得た知識を基に地域振興に関する自身の考えを展開できるか、という点に重点をおく。 中間レポート (2 回実施) 40%、定期試験 60% で評価する。 ※ 状況によっては、定期試験を期末レポートに変更する場合がある。 										
講義外での学習	講義内容について、その都度復習するとともに、地域に関する情報や出来事について関心をもって接すること。また、講義内で提示する文献の中で、関心を持ったものを 1 冊でよいので通読すること。										
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 講義中、受講者から意見や発言を求められた際には、積極的に発言すること。 ※先修科目： 特になし。 ※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。 										
教材	<ul style="list-style-type: none"> ◆教科書： 教科書は指定せず、講義内容に関するプリントを配布する。 ◆参考書： 講義内容に沿って、その都度、紹介します。 										
実務経験のある教員による授業科目											
農業振興計画の策定業務に携わった経験を活かし、農業資源を活用した地域振興について講義内で取り上げる。											

科目名	農業経営論 【COC】					授業タイプ		講義		
科目区分	地域経営	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	後期	
教員名	山口 和宏 (専任)									
授業の概要	<p>キーワード：農業経営、地域農業、担い手育成</p> <p>農業就業者の高齢化、農産物貿易の自由化など、我が国の農業を取り巻く環境は厳しさを増している。本講義では、我が国の農業の持続的発展を考えるため、農業経営の基礎的知識や考え方、経営戦略、地域との関わり、担い手対策について講義する。そして、講義全体を通して、我が国の農業の持続的発展の方策について考える。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・農業経営に関する基礎的単語を理解し、説明できる。 ・我が国の農業経営の形態および特徴を理解し、説明できる。 ・農業経営が置かれている現状を把握し、わが国農業の将来に向けたあるべき姿について、自身の考えを説明できる。 	カリキュラムマップ項目								
		I	II	III	IV	V	VI	VII		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 講義ガイダンス（現代社会と農業）：講義内容を説明するとともに、現在の日本農業がおかれている状況について説明する。 ② 農業経営と農業経営者：農業経営の特徴とその内容、農業における経営者の役割や必要とされる能力について説明する。 ③ 農業経営の組織形態：農業における組織形態について説明する。 ④ 農業経営規模と作目選択：規模の問題と作物選択の在り方について説明する。 ⑤ 農業経営の組織構造と経営計画：農業経営における組織構造の類型や農業における経営計画の在り方について説明する。 ⑥ 農業経営における収益と費用：農業における収益と費用の考え方について説明する。 ⑦ 農業経営における財務管理：農業における財務管理について説明する。 ⑧ 農業経営における経営診断：農業における経営診断の考え方について説明する。 ⑨ 農業経営における経営戦略：経営戦略の考え方と取り組みについて説明する。 ⑩ 農業経営とフードシステム：フードシステムとは何かについて説明する。 ⑪ 農業経営と農村地域：農業経営と地域との関係性やその在り方について説明する。 ⑫ 農業経営と農業政策：日本における農業に関わる政策について説明する。 ⑬ 農業経営と担い手育成：日本における担い手育成の現状と対策について説明する。 ⑭ スマート農業と日本農業の未来：スマート農業の現状と課題について説明する。 ⑮ 講義全体の総括：講義全体を復習し、農業経営に関する基本的な考え方についてまとめるとともに、農業が持続的に発展していくための条件について検討する。 ⑯ 定期試験 									
評価方法	<p>①講義で説明した基礎的知識を正確に理解しているか、②農業がおかれている状況を理解し、その将来展望についての考えをまとめることが出来るか、という点に重点をおく。中間レポート（2回実施）40%、定期試験 60%で評価する。</p> <p>※ 状況によっては、定期試験を期末レポートに変更する場合がある。</p>									
講義外での学習	講義内容について、その都度復習するとともに、一般経営学や簿記の分野の知識についても学習を深めること。また、講義内で提示する文献の中で、関心を持ったものを1冊でよいので通読すること。									
履修上の注意事項	講義中、受講者から意見や発言を求められた際には、積極的に発言すること。 ※先修科目： 特になし。 ※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。									
教材	<p>◆教科書： 教科書は指定せず、講義内容に関するプリントを配布する。</p> <p>◆参考書： 講義内容に沿って、その都度、紹介します。</p>									
実務経験のある教員による授業科目										

科目名	経営情報システム					授業タイプ		講義	
科目区分	経営情報	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	前期
教員名	染谷 治志 (専任)								
授業の概要	<p>キーワード： ビジネスシステム、経営情報技法、システムの開発と管理</p> <p>情報システムをいかにビジネスに役立てるか、また経営に役立つ情報システムをいかに構築・運営管理するかを、情報システムを活用する組織の立場に立って学ぶ。</p> <p>まず、ビジネスモデルやビジネスシステムの基礎知識を学び、経営情報システムの変遷を振り返りながら経営情報システム概念・役割・効果・構成について理解し、最新の動向を調査・議論・共有する。次に、ビジネス戦略実現に必須である顧客管理とサプライチェーン・マネジメントのIT経営技法について深掘りする。そして、経営情報システムの開発ライフサイクルと開発技法、管理技法であるITサービスマネジメントおよび情報セキュリティマネジメントについて理解する。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 経営情報システム概念・構成・役割や機能を理解し、利用者の立場で説明できる 情報システムの開発・管理及びセキュリティ対策の基礎知識とこれらのマネジメント手法を理解し、説明できる 	カリキュラムマップ項目							
		I	II	III	IV	V	VI	VII	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> イントロダクション：ビジネスモデルとビジネスシステム 経営情報システムの基礎：ビジネスシステムの構造を理解する 経営情報システムの基礎：経営管理のプロセスと組織構造を理解する 経営情報システムの基礎：経営組織における意思決定の分業構造を理解する 企業経営と経営情報システム(1)：経営情報システム(コンピュータシステム)の変遷を概観し、経営情報システム概念・役割・構成・効果について理解する 企業経営と経営情報システム(2)：創造社会実現に向けた経営情報システムの方向性(デジタルトランスフォーメーションなど)について理解・議論する 企業経営と経営情報システム(3)：経営情報システムの動向を調査・議論・共有する 経営情報技法(1)：データベースアーキテクチャを理解する 経営情報技法(2)：ビジネスインテリジェンスを理解する 経営情報技法(3)：サプライチェーンマネジメントにおけるICT技法を理解する 経営情報技法(4)：顧客管理におけるICT技法を理解する 経営情報システムの開発：情報システムの開発ライフサイクルと要件定義プロセス、システム開発方式を理解する 経営情報システムの管理：情報システムが稼働してからのサービス維持・向上のためのITサービスマネジメントについて理解する 情報セキュリティ：情報セキュリティに関する基本知識と情報セキュリティマネジメントの概要を理解する まとめと今後の展望 定期試験 								
評価方法	定期試験を実施して目標到達度を確認する。また、講義内で実施する課題やディスカッションに対する取り組み状況も評価項目とし、定期試験(60%)、講義内課題・ディスカッション(40%)の配分で評価する。								
講義外での学習	講義内で紹介する参考者や業界誌などを参考にして講義内容を深め・広めていき、ビジネスと情報システムとの関わりをより深い知見から語れるよう務める。								
履修上の注意事項	<p>講義内課題に取り組む環境としてパソコンを持参することを勧める</p> <p>※先修科目：履修にあたって「経営情報論」を履修していることが望ましい</p> <p>※他学部履修：特に制限無し、事前確認不要</p>								
教材	<p>◆教科書：教員が作成したテキストをもとに進める</p> <p>◆参考書：経営情報学、高橋敏郎編、日科技連、ISBN978-4-8171-9133-5、2005年3月</p>								
実務経験のある教員による授業科目									
ビジネス情報システムの構築に携わった経験(成功・失敗)を活かし、第一線の現場で通用する知識や情報技術応用の勘所など現場に即した講義をする									

科目名	システム監査					授業タイプ		講義		
科目区分	経営情報	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	後期	
教員名	飛田 治則 (非常勤)									
授業の概要	<p>キーワード：IT リスク、情報セキュリティ、監査</p> <p>今日の企業経営は情報システム (IT) を必須とする IT 経営となっています。しかし、IT の利用には様々なリスク、すなわち IT リスクがともないます。IT リスクへの対処にはリスクマネジメントをはじめとして、情報セキュリティや IT ガバナンスの知識が求められます。本授業では、システム監査を中心に IT リスクの対処方法を学びます。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> IT リスクの種類と内容について理解し、説明できる。 IT リスクに応じたコントロール目標について理解し、説明できる。 監査の手順と手法について理解できており、監査計画が作成することができる。 	カリキュラムマップ項目								
		I	II	III	IV	V	VI	VII		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① イントロダクション：システム監査を学ぶ意義を理解する。 ② 企業経営と IT：今日の企業環境を理解し、各人の学習イメージを描く。 ③ IT 経営と IT リスク：IT 経営に関連する様々な IT リスクを理解する。 ④ リスクマネジメント：IT リスクの内容に沿ったリスクマネジメントの手法を理解する。 ⑤ IT ガバナンス：IT 化リスクと IT ガバナンスおよび IT マネジメントを理解する。 ⑥ データガバナンス：高度化するデータ活用での課題として、情報セキュリティおよびデータおよび情報のガバナンスを理解する。 ⑦ 情報システムライフサイクル(1)IT 戦略、企画、設計：情報システム化投資の意義、企画設計プロセスの要点を理解する。 ⑧ 情報システムライフサイクル(2)運用、保守：情報システム管理の意義、管理プロセスの要点を理解する。 ⑨ システム監査のフレームワーク：システム監査の対象ならびに監査のフレームワークを理解する。 ⑩ システム監査計画：リスクアプローチにもとづくシステム監査計画の作成方法を理解する。 ⑪ システム監査の事例(1)情報セキュリティの監査：情報セキュリティの監査について。 ⑫ システム監査の事例(2)コンプライアンスの監査：情報ガバナンスおよび個人情報保護の監査について。 ⑬ システム監査の事例(3)電子商取引システムの監査：電子商取引システムの監査について。 ⑭ システム監査の事例(4)外部委託の監査：外部委託状況の監査について。 ⑮ まとめ：半年の講義内容の確認と今後の学習課題を確認する。 									
評価方法	<p>試験は行わず、下記のようなレポート形式とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ミニレポート：授業後、授業内容について授業支援システムのフィードバックにて提出 期末レポート：実務ベースのシステム監査課題について、レポートとして提出。 <p>評価基準は上記到達目標とします。配点：ミニレポート 50%：期末レポート 50%</p>									
講義外での学習	必要に応じ授業中に提示します。									
履修上の注意事項	<p>授業はナレーション入りパワーポイント資料を使用しオンライン形式で行います。</p> <p>※先修科目： 特になし。</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>									
教材	<p>◆教科書： 飛田治則他(著)「IT 内部監査人—リスクに対処しマネジメントを支える役割と実務」生産性出版 (抜粋版を PDF で配布します)</p> <p>◆参考書： 必要に応じ授業中に提示します。</p>									
実務経験のある教員による授業科目										
企業における情報システムの企画や監査等の実務経験や、実務者団体での教育・研修実績を踏まえ、今日の IT 経営を見据えた、システム監査の役割と課題について講義する。										

科目名	データベース					授業タイプ	講義・演習				
科目区分	経営情報	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	前期		
教員名	今井 正和（専任）										
授業の概要	キーワード：データベース、情報システム、SQL										
	データをどのようにコンピュータに蓄積し、管理していくかは非常に重要なテーマとなっている。この授業では、どのようにデータを整理していくか、どのように情報システムでデータを活用するかについて学修する。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> データベースの目的を理解して説明できるようになること。 データベースにおけるデータの整理方法、管理方法、活用方法について理解して説明できるようになること。 						カリキュラムマップ項目				
							I	II	III	IV	V
授業計画	<p>本授業では、データベースの目的、整理法、管理法、活用法を理解して説明できるようになることが目的である。詳細には以下のような内容で行う予定であるが、授業の進度等により変更されることがある。適宜、授業時間内で演習を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① イントロダクション ② データベースの基本（1） –さまざまなデータモデル– ③ データベースの基本（2） –データベースと集合演算– ④ リレーショナルデータベースで用いる演算 ⑤ ER図 ⑥ ER図と識別子 ⑦ エンティティ同士の関係（1） ⑧ エンティティ同士の関係（2）と正規化（1） ⑨ 正規化（2） ⑩ 正規化（3） ⑪ RDBMS ⑫ データベース制御言語SQL ⑬ データベースに関連した最近の動向 ⑭ データの記述形式 –JSONとXML– ⑮ まとめ ⑯ 定期試験 										
評価方法	演習を行い、レポートの提出を求める。学期末には試験を実施し、レポートと合わせて評価を行う。基本的には定期試験80%、レポート20%の配分とする。										
講義外での学習	次回までに前回の授業内容を理解し、理解できないことは授業で質問するなどして解決することを求める。										
履修上の注意事項	<p>※先修科目： 特になし。</p> <p>※他学部履修： 制限無し。事前確認不要。ただし、「環境データベース論」との重複は認められない。</p>										
教材	<p>◆教科書： 必要な教材は電子的に配布する。</p> <p>◆参考書： 必要に応じて授業中に紹介する。</p>										
実務経験のある教員による授業科目											

科目名	データサイエンス					授業タイプ	講義・演習		
科目区分	経営情報	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	前期
教員名	久保 奨 (専任)								
授業の概要	<p>キーワード：ビッグデータ、機械学習、データ分析</p> <p>社会のデジタル化が進み、あらゆる組織において、新たなサービス・商品の開発、よりの確な経営判断、業務効率化などを目指し、データを活用する動きが加速している。本講義では、将来企業等において、データに基づき問題解決に貢献できるようなデータ分析の視点を身に付けることを目指す。そのために、データの取扱いや機械学習の基本的なコンセプトを学習する。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・昨今のデータサイエンスに係る社会動向を説明できる ・データの収集・蓄積に係る技術を説明できる ・基礎的な統計量や確率を計算し、解釈できる ・代表的な機械学習（回帰、分類など）の考え方を説明でき、簡単な事例で実行できる 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
	○			○	○				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 導入：データサイエンスの重要性を学ぶ ② ビッグデータ：ビッグデータとICT（情報通信技術）について学ぶ ③ データ表現：データをコンピュータで処理するための表現方法を学ぶ ④ 分析設計：データ分析を実行するために必要となる基本的事項を学ぶ ⑤ データ観察、データ可視化：データを俯瞰的に観察する手法やグラフ作成方法を学ぶ ⑥ 確率と統計：一部のデータから全体を推測する理論を学ぶ ⑦ データ加工：表データ加工について学び、Excelで演習を行う ⑧ 機械学習の基礎：機械学習の学習方式やその流れを学ぶ ⑨ 回帰分析：重回帰や多重共線性について学び、Excelで演習を行う ⑩ 分類：分類木、ロジスティック回帰などを学び、Excelで演習を行う ⑪ クラスタリング：階層的クラスター分析と非階層的クラスター分析を学ぶ ⑫ 関連ルール：支持度、確信度、リフト値などの概念を学び、Excelで演習を行う ⑬ 時系列分析など：時系列データがもつトレンド、周期性、季節性、ノイズなどを学ぶ ⑭ データ収集とデータベース：データ収集方法のほか、データベースの初歩を学ぶ ⑮ まとめ：講義全体を振り返り、復習する ⑯ 定期試験 <p>※ データサイエンティストとして企業で活躍する方の講演を調整予定</p>								
評価方法	定期試験(100%)								
講義外での学習	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内容を理解するように復習を行うこと。 ・データ分析の視点を身に付けるには、実際に自分でデータを分析してみることが有効。 ・「データサイエンス実践演習」で、本講義で扱う内容について、Pythonで演習を行う。履修することを検討してもらいたい。 								
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン利用必須。データ分析の演習を主にExcelで行う。 ・AI・数理・データサイエンス副専攻の必修科目である。 <p>※先修科目： なし</p> <p>※他学部履修： 特に制限なし。事前確認不要。</p>								
教材	<p>◆教科書： なし。教員が作成した資料に基づき授業を進める。</p> <p>◆参考書： ・「データサイエンスリテラシー」 数理人材育成協会、培風館、ISBN：9784563016135</p> <p>・「戦略的データサイエンス入門」 フォスター・プロヴォスト、トム・フォーセット、オライリー・ジャパン、ISBN：9784873116853</p> <p>・「データサイエンス入門第2版」 竹村彰通、姫野哲人、高田聖治、学術図書出版社、ISBN：9784780607307</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	データサイエンス実践演習					授業タイプ	演習					
科目区分	経営情報	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	前期			
教員名	久保 奨 (専任)											
授業の概要	<p>キーワード：機械学習、データ分析、Python</p> <p>社会のデジタル化が進み、あらゆる組織において、新たなサービス・商品の開発、よりの確な経営判断、業務効率化などを旨し、データを活用する動きが加速している。本講義では、データから実際に有用な情報を抽出できるようになることを目指す。そのために、データサイエンスにおけるプログラミング言語として広く活用されているPythonを用いて、データ分析や基本的な機械学習の手法に係る演習を行う。</p>											
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> データ分析でよく使われるライブラリを使いこなせるようになる プログラミングで基礎的な統計量や確率を計算し、解釈できる 構造化データに、代表的な機械学習の手法を適用でき、結果を解釈できる 					カリキュラムマップ項目						
						I	II	III	IV	V	VI	VII
						○			○	○		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> Pythonの基礎：プログラミングに不可欠な事項を学び、実行する NumPy：数値計算に使われるNumPyの機能を学び、実行する Matplotlib：可視化に使われるMatplotlib等の機能を学び、実行する pandas：データ処理に使われるpandasの機能を学び、実行する データ観察、記述統計：代表値、相関係数等の計算を実行する 確率と確率分布：乱数を利用して、様々な確率分布を作成し、学ぶ 統計的推定と検定：シミュレーションも行いながら、推定や検定を学ぶ データ前処理：欠損値への対応や標準化について学び、実行する 回帰分析：単回帰、重回帰を実行する 分類：分類木、ロジスティック回帰、ベイズ分類を実行する クラスタリング：k-means法、エルボー法などを実行する 連関ルール：アプリアリ分析を実行する 時系列分析：時系列データの予測を行う ニューラルネットワークの基礎：脳とニューラルネットワーク、多層パーセプトロンを学び、実行する まとめ：講義全体を振り返り、復習する 											
評価方法	レポート (60%)、宿題 (40%) ※試験なし											
講義外での学習	<ul style="list-style-type: none"> 4回程度、宿題を課す。 データ分析の視点を身に付けるには、実際に自分でデータを分析してみることが有効。授業時間内にできなかったことは次回授業までに行っておくこと。 「データサイエンス」において、本講義で扱う内容の理論を解説する。履修することを検討してもらいたい。 											
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> パソコン利用必須。データ分析等に係る演習をPythonで行う。パソコンを忘れた場合は「欠席」扱いとする。 ※先修科目：なし ※他学部履修：特に制限なし。事前確認不要。 											
教材	<p>◆教科書：なし。教員が作成した資料に基づき授業を進める。</p> <p>◆参考書： ・「東京大学のデータサイエンティスト育成講座」塚本邦尊、山田典一、大澤文孝、マイナビ出版、ISBN: 9784839965259 ・「Pythonで儲かるAIをつくる」赤石雅典、日経BP、ISBN: 9784296106967</p>											
実務経験のある教員による授業科目												

科目名	情報産業論					授業タイプ		講義	
科目区分	経営情報	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	後期
教員名	染谷 治志 (専任)								
授業の概要	<p>キーワード：ICT/デジタル革新，ビジネスイノベーション，創造社会</p> <p>次世代の社会である創造社会の社会像を共有し、これの実現に向けたデジタル革新やビジネスイノベーション、情報産業の動向を学び・調査し・議論し・共有する。</p> <p>まず、情報産業の概要および情報サービス産業の構造変化とその特徴について理解し、その背景にある ICT の技術的本質と情報技術革新がビジネスや社会に与えてきた影響について理解する。次に、次世代の情報社会のイメージを共有して、その実現に向けたビジネスのデジタル化 (デジタルトランスフォーメーション (DX) やビジネスエコシステムなど) の動向を調査・共有する。また、技術の成熟度・採用度や社会への適用度から先進テクノロジーのトレンドを把握し、次世代情報社会に向けたビジネスイノベーションについて議論・共有する。また、いち早く IT の将来性に着目し 21 世紀の世界を変えた IT 企業創業者達のスピーチから経営スキルや思考スタイルなどを学ぶ。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 情報技術革新がビジネスに与える影響を理解し、説明できる ビジネスイノベーションの動向とそれを支える情報インフラ・技術について共有し、応用できる 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
							○		○
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> イントロダクション：創造社会と Cyber Physical System モデル 情報産業の進展：情報産業の進展と事業内容について概観する 情報サービス産業(1)：産業構造の変化とその特徴を理解する 情報サービス産業(2)：業界の職種と特徴について理解する ICT 革新の本質とビジネス：ICT の本質を議論し、ネット世界の法則や ICT 革新がビジネスに与える影響について理解する (レポート(1)出題) 創造社会：今後想定される創造社会の社会像を共有する 議論・共有(1)：創造社会における情報インフラや情報産業について ビジネスイノベーション：創造社会実現に向けたビジネスイノベーションの動向を概観する (レポート(2)出題) 先進テクノロジー：技術の成熟度や企業における採用度、社会への適用度から先進テクノロジーを概観する 議論・共有(2)：ビジネスイノベーションの動向(現状認識)について 議論・共有(3)：ビジネス情報システムの動向(今後の方向性)について ICT 企業創業者のスピーチ視聴：21 世紀の世界を変えた ICT 企業創業者やビジョナリー達の経営スキルや思考スタイルなどを学ぶ プレゼンテーション：創造社会を支えるビジネス情報システム ICT 産業を巡る最新動向：総務省情報通信白書をもとに、ビジネスや社会のデジタル化の動向を共有する まとめと情報産業の将来展望 								
評価方法	レポート課題(3回)とプレゼンテーション課題により目標到達度を確認する。また、議論参加の積極性など講義態度も評価項目とし、レポート・プレゼンテーション課題(80%)、講義参加態度(20%)の配分で評価する。								
講義外での学習	講義内で紹介する参考書や業界誌、メディア情報などで講義内容をより深め・広めていき、さまざまな場面でより深い知見からコミュニケーションできるようにすること。								
履修上の注意事項	<p>特になし</p> <p>※先修科目：履修にあたって、「経営情報論」「経営情報システム」を履修していることが望ましい</p> <p>※他学部履修：特に制限無し、事前確認不要</p>								
教材	<p>◆教科書：教員が作成したテキストをもとに進める</p> <p>◆参考書：適宜、講義内で紹介する</p>								
実務経験のある教員による授業科目									
情報システムの構築に携わった経験を活かし、潮流の表層だけでなく、社会システムを変革する情報技術の本質にも触れる。									

科目名	プロジェクトマネジメント					授業タイプ	講義・演習			
科目区分	経営情報	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	後期	
教員名	齊藤 哲（専任）									
授業の概要	キーワード：PMBOK、要求定義、情報システム開発									
	プロジェクトとは、独自のプロダクトやサービスなどを創造するために行われる有期の活動である。プロジェクトマネジメントとは、そのプロジェクトの要求を満たすために、知識や技法をプロジェクトの活動に適用することである。この講義では、プロジェクトマネジメントの標準的な適用ガイドである PMBOK(Project Management Body of Knowledge)を中心にプロジェクトマネジメントの理論を学ぶ。また、プロジェクトマネジメントが活用される情報システム分野や建設分野の事例や演習を通して、理論や知識・技法の実践的な理解を深める。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトマネジメントの理論を理解し、説明できる。 プロジェクトマネジメントに使われる知識や技法を理解し、説明できる。 事例や演習を通して、基礎的なプロジェクトマネジメント適用能力を身につける。 						カリキュラムマップ項目			
							I	II	III	IV
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① イントロダクション：プロジェクトとは何か、プロジェクトマネジメントとは何か ② プロジェクトマネジメントの適用：プロジェクトマネージャ、ITプロジェクト ③ PMBOK の概要：5つのプロセス群、10の知識エリア、49のマネジメントプロセス ④ プロジェクトのライフサイクルと組織：企業や組織でのプロジェクトの位置づけ ⑤ プロジェクトのマネジメントプロセス：商品開発プロジェクトの実際 ⑥ ステークホルダマネジメント：ステークホルダの特定、エンゲージメント計画 ⑦ スコープマネジメント：要求事項収集、スコープ定義、WBS の作成 ⑧ スケジュールマネジメント：アクティビティの定義、PERT 図、ガントチャート ⑨ コストマネジメント：コストの見積、予算の設定、EVM ⑩ 品質マネジメント：品質のコントロール、ばらつき、QC7つ道具 ⑪ 資源マネジメント：人的資源・物的資源、チームの育成・コントロール、動機付け ⑫ コミュニケーションマネジメント：プロジェクトの報告、プロジェクト知識 ⑬ リスクマネジメント：リスクの特定・分析、リスク対応策の実行 ⑭ 調達マネジメント：調達の実行・コントロール、プロジェクトの終結、 ⑮ まとめ：プロジェクトの基本・計画・実行・完了、戦略的思考、リーダーシップ ⑯ 定期試験 									
評価方法	定期試験を実施して、目標到達度を確認する。また、授業内で実施する演習課題の取り組み状況も評価する。定期試験(60%)、授業参加態度・課題の提出状況(40%)で評価する。									
講義外での学習	より深い理解のためには、授業中に示す事例や演習の復習が有効である。理解が不十分な部分の質問は歓迎する。									
履修上の注意事項	※先修科目： 特になし。 ※他学部履修： 特に制限なし。事前確認不要。									
教材	◆教科書： 特に指定しない。教員が作成した教材を使用する。 ◆参考書： 必要に応じて、授業内で紹介する。									
実務経験のある教員による授業科目										
数多くの情報システム開発プロジェクトにプロジェクトマネージャの立場で携わってきた経験を活かし、実体験した成功・失敗事例を紹介しながら、実務に則したプロジェクトマネジメントの理論や知識・技法の適用方法を具体的に講義する。										

科目名	経営工学					授業タイプ		講義・演習	
科目区分	経営情報	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	前期
教員名	齊藤 哲（専任）								
授業の概要	キーワード：生産管理、品質管理、システム工学								
	経営工学は「経営上の諸問題」を発見して解決するための「工学的アプローチ」を基本としたマネジメント技術である。このように広範囲にわたる経営工学のマネジメント対象やそこで使われる多様な理論・手法を概観する。また、製造業をはじめとする企業経営において、実務的に経営工学がどのように活用されているか、事例を通して理解する。そして、各授業内で実施する演習を通して、経営上の諸問題を見出し、工学的に解決する方法を実践的に学習する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 経営工学で使われる主な理論・手法を理解し、説明できる。 演習を通して、学んだ手法が活用できる。 経営上の諸問題を見出す切り口を考えられるようになり、応用できる。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
						○		○	○
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① インTRODククション：経営工学概要、経営工学の対象範囲、経営工学の歴史 ② 生産マネジメント(1)：時間研究、動作研究、工程分析、作業分析 ③ 生産マネジメント(2)：生産方式設計、部品表(BOM)、管理方式(JIT、製番管理) ④ 需給マネジメント：SCMの役割、需要予測、ABC分析、発注方式、資材所要量計算 ⑤ 在庫マネジメント：在庫の役割、在庫計画、在庫削減、在庫とキャッシュの関係 ⑥ 品質マネジメント(1)：品質の観点、品質項目、ISO9000、TQM ⑦ 品質マネジメント(2)：品質管理の手法(QC7つ道具、新QC7つ道具) ⑧ システム工学(1)：システムとは、業務プロセスモデリング ⑨ システム工学(2)：ビジネスプロセス設計、情報システムの要求定義 ⑩ 経済性工学(1)：優劣分岐点分析、損益分岐点分析(変動費・固定費、限界利益) ⑪ 経済性工学(2)：現場改善分析(不良低減、停止時間削減など)、資金の時間的価値 ⑫ 意思決定方法：トレードオフ、線形計画、AHP ⑬ 商品開発と価値創造(1)：顧客ニーズの理解、シーズとニーズ、ビジネスモデル ⑭ 商品開発と価値創造(2)：ブレーンストーミング、イノベーション、SECIモデル ⑮ 人間工学：マンマシンシステム、ヒューマンエラー、感性工学、行動科学 ⑯ 定期試験 								
評価方法	定期試験を実施して、目標到達度を確認する。また、授業内で実施する演習課題の取り組み状況も評価する。定期試験(60%)、授業参加態度・課題の提出状況(40%)で評価する。								
講義外での学習	より深い理解のためには、授業中に示す事例や演習の復習が有効である。理解が不十分な部分の質問は歓迎する。								
履修上の注意事項	※先修科目： 特になし。 ※他学部履修： 特に制限なし。事前確認不要。								
教材	◆教科書： 特に指定しない。教員が作成した教材を使用する。 ◆参考書： 必要に応じて、授業内で紹介する。								
実務経験のある教員による授業科目									
企業の経営実務に携わっていた経験を活かし、企業の現場で実際に起きている諸問題を解決するための理論・手法を具体的に講義する。									

科目名	生産管理					授業タイプ		講義・演習				
科目区分	経営情報	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	後期			
教員名	齊藤 哲（専任）											
授業の概要	<p>キーワード：製造業、生産情報、サプライチェーンマネジメント</p> <p>製造業にとって最も重要な活動は付加価値を産み出す生産活動である。生産管理は生産活動を効率的に実施するために必要な管理活動の知識・技術の体系である。製造業の管理活動は広範囲にわたるため、管理業務全体を概観したのち、個々の管理業務を学ぶ。本授業では、生産戦略を中心とした会社の仕組み、ものづくりの仕組み、生産管理の体系などについて概観する。また、事例を通して、生産において発生する問題の構造を理解する。そして、各授業内で実施する演習を通して、生産上の諸問題を発見して、工学的に解決する方法を実践的に学習する。</p>											
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 生産管理に関する知識や考え方を理解し、説明できる。 演習を通して、学んだ知識や考え方が活用できる。 生産上の諸問題を発見する切り口を考え、応用できる。 					カリキュラムマップ項目						
						I	II	III	IV	V	VI	VII
						○		○	○			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① インTRODクシヨン：生産管理の概念、生産管理の体系 ② 製造業を巡る経営環境：経営環境の変化、製造業の課題、DXとは、IoTの活用 ③ 生産戦略：経営戦略・生産戦略、生産方式、工場立地計画 ④ モチベーション：製造組織の編成、作業者の能力・意欲の向上 ⑤ 市場戦略とマーケティング：マーケティングプロセス、製品戦略、ブランド戦略 ⑥ 調達と外注：戦略的購買、外注と内作、調達先決定プロセス ⑦ 納期管理：納期管理と生産計画、納期短縮、在庫管理 ⑧ 原価管理：原価の種類・分類、原価企画、活動基準原価計算 ⑨ 品質管理：品質管理活動、管理図、品質原価計算 ⑩ 設備管理と信頼性：設備管理、信頼性管理、保全計画、設備投資 ⑪ 生産情報システム：生産管理システム、需要予測、資材所要量計画、ERP ⑫ 環境問題と生産：環境問題、CO2削減問題、環境経営 ⑬ サプライチェーンマネジメント：SCMの概念、SCMによる経営戦略実現、導入事例 ⑭ 生産方式の分類：ライン生産方式、個別生産方式、セル生産方式 ⑮ トヨタ生産方式：トヨタ生産方式の概要、ジャストインタイム、かんばんの役割 ⑯ 定期試験 											
評価方法	定期試験を実施して、目標到達度を確認する。また、授業内で実施する演習課題の取り組み状況も評価する。定期試験(60%)、授業参加態度・課題の提出状況(40%)で評価する。											
講義外での学習	より深い理解のためには、授業中に示す事例や演習の復習が有効である。理解が不十分な部分の質問は歓迎する。											
履修上の注意事項	<p>※先修科目： 特になし。</p> <p>※他学部履修： 特に制限なし。事前確認不要。</p>											
教材	<p>◆教科書： 特に指定しない。教員が作成した教材を使用する。</p> <p>◆参考書： 大場 允晶・藤川 裕晃著「生産マネジメント概論 戦略編」、文眞堂、2010年 大場 允晶・藤川 裕晃著「生産マネジメント概論 技術編」、文眞堂、2009年</p>											
実務経験のある教員による授業科目												
数多くの企業の生産管理システム構築に携わってきた経験を活かし、生産現場や管理部門で実際に起きている諸問題を解決するための理論・手法を具体的に講義する												

科目名	経済史					授業タイプ		講義																						
科目区分	学部共通	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	前期																					
教員名	谷口 謙次 (専任)																													
授業の概要	<p>キーワード：グローバル化、グローバル・ヒストリー、イギリス帝国</p> <p>本講義では、イギリスを中心に 17 世紀から 20 世紀までの世界経済史の流れを大まかにつかみます。イギリスの経済発展についてだけでなく、アジアや南北アメリカなどの経済の成長や変容についても詳しく話していきます。</p>																													
到達目標	経済史とはどんな学問であるかを理解し、歴史的に経済を通じて世界がつながり、多文化やグローバル化が進んだことを学ぶことができる。					<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="7">カリキュラムマップ項目</th> </tr> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> <th>VI</th> <th>VII</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>				カリキュラムマップ項目							I	II	III	IV	V	VI	VII	○						○
カリキュラムマップ項目																														
I	II	III	IV	V	VI	VII																								
○						○																								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 経済史とは何か—グローバル化・グローバルヒストリー・イギリス帝国 ② イギリス帝国の起源 ③ 豊かなアジア ④ 商業革命とイギリス帝国—商業革命・生活革命・財政軍事国家 ⑤ 重商主義帝国と大西洋貿易 ⑥ イギリス帝国と北米植民地 ⑦ 従属するアジア ⑧ 産業革命とイギリス帝国 ⑨ 近代イギリスの変容 ⑩ パクス・ブリタニカの時代 ⑪ 帝国主義とジェントルマン資本主義 ⑫ ヘゲモニー国家イギリスとアジア間貿易 ⑬ 第一次世界大戦と現代社会 ⑭ 第二次世界大戦 ⑮ 冷戦—始まりから終結まで 																													
評価方法	講義内容の基本を理解しているかを確認します。 宿題 (20%)、期末レポート (80%)																													
講義外での学習	世界の広い範囲の歴史を扱いますので、必ず復習をしてください。																													
履修上の注意事項	筆記用具を必ず持参してください。また、ウェブ上に公開される講義資料を使用する回もありますから、パソコンを持参してください。 ※先修科目： 特になし。																													
教材	<p>◆教科書： テキストは使用しません。毎回、レジメを配布いたします。</p> <p>◆参考書： 秋田茂『イギリス帝国の歴史 (中公新書)』中央公論新社</p>																													
実務経験のある教員による授業科目																														

科目名	西洋経営史					授業タイプ		講義				
科目区分	学部共通	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期			
教員名	谷口 謙次 (専任)											
授業の概要	<p>キーワード：欧米ビジネスヒストリー、企業組織、金融システム</p> <p>本講義では、産業革命以降資本主義経済と経営システムがどのように発展してきたのかをみていきます。資本主義経済や企業経営の発展に関する基本的な概念や基本用語をきちんと理解することを第一の目的とします。さらに、時間的・地域的特徴がどのような要因で生まれたのか、をわかりやすく説明することを第二の目的とします。その発展をイメージできるように、経済や企業の具体的な事例をできるだけ多く示していきます。</p>											
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 産業革命期に生まれた近代工業が大量生産・大企業に発展していく過程を見ていくことで、企業経営における意思決定や経営管理がどのように立ち現われ発展したのかを学ぶことができる。 アメリカを中心に、産業革命・第一次世界大戦・大恐慌・第二次世界大戦・冷戦終結というターニング・ポイントが経済発展や企業形態の発展に及ぼした影響についても詳しく知ることができる。 金融システムが経済や企業経営に与えた影響についても考えることができる。 					カリキュラムマップ項目						
						I	II	III	IV	V	VI	VII
						○						○
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 経営史とは何か 株式会社の誕生 産業革命の実像 アメリカの誕生と興隆 大企業の形成 (1) — 専門経営者と経営階層組織 大企業の形成 (2) — アメリカにおける垂直統合戦略 金融センターの興亡—ロンドンとニューヨーク 第一次世界大戦と大恐慌 大企業の多角化戦略と経営者企業 ニュー・ディール政策と第二次世界大戦 エレクトロニクス産業の誕生と軍産複合体 アメリカの衰退—経済・大企業体制 冷戦終結と金融革命 21世紀の到来—PCとEUの登場 リーマン・ショックとその後の世界経済 											
評価方法	講義内容の基本を理解しているかを確認します。 宿題 (20%)、期末レポート (80%)											
講義外での学習	世界の広い範囲の歴史を扱いますので、必ず復習をしてください。											
履修上の注意事項	<p>筆記用具を必ず持参してください。また、ウェブ上に公開される講義資料を使用する回もありますから、パソコンを持参してください。</p> <p>※先修科目： 履修にあたって、「経済史」を修得しておくことが望ましい。</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>											
教材	<p>◆教科書： テキストは使用しません。毎回、レジメを配布いたします。</p> <p>◆参考書： 鈴木良隆ほか『ビジネスの歴史 (有斐閣アルマ)』有斐閣</p>											
実務経験のある教員による授業科目												

科目名	日本経営史					授業タイプ		講義	
科目区分	学部共通	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	前期
教員名	谷口 謙次 (専任)								
授業の概要	<p>キーワード：日本経営史、企業家、企業経営の発展</p> <p>本講義においては、日本において近代企業がどのように生まれ、どのように発展していったのかを概観します。日本の近代企業がどのような点で、欧米のそれとは異なる発展をしたのかを理解することが第一の目的です。さらに、明治維新以降の経済発展や社会変化に企業がどのような影響を与えたのかを理解することが、第二の目的です。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 明治維新以降の近代企業の発展を時代に沿って学ぶことができる。その際、明治維新、両大戦間期、第二次世界大戦、バブル崩壊といったターニング・ポイントが企業経営に与えた影響を詳しく知ることができる。 企業の形成や発展を論じる際、特徴的な企業や企業家を取り上げ、その特質を具体的に知ることができる。 	カリキュラムマップ項目							
		I	II	III	IV	V	VI	VII	○
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 日本経済史・経営史を学ぶ 江戸時代の経済と商家経営 明治維新と近代企業の誕生—企業家たちの活躍 近代産業経営の成立 両大戦間期の変化と財閥 技術経営の誕生 都市型ビジネスの成立 サラリーマンの誕生 第二次世界大戦の終結と経済民主化 大衆消費社会の到来と家電メーカーの発展 企業集団とメインバンク 日本的生産システムの形成—1975-1985 流通のイノベーション—1985-1990 戦後の総合商社 日本的経営とその変容 								
評価方法	講義内容の基本を理解しているかを確認します。 宿題 (20%)、期末レポート (80%)								
講義外での学習	主に明治時代以降の日本の経営史を幅広く扱いますので、テキストの当該箇所を必ず予習してください。また、講義ではテキストにプラス・アルファの部分もお話しますので、必ず復習してください。								
履修上の注意事項	筆記用具を必ず持参してください。また、ウェブ上に公開される講義資料を使用する回もありますから、パソコンを持参してください。 ※先修科目： 履修にあたって、「西洋経営史」を修得しておくことが望ましい。 ※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。								
教材	<p>◆教科書： 宮本又郎ほか編『1からの経営史』碩学舎</p> <p>◆参考書： 講義の中で紹介します。</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	国際経済論					授業タイプ		講義	
科目区分	学部共通	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教員名	連 宜萍 (専任)								
授業の概要	<p>キーワード： 国際貿易、比較優位、関税政策、非関税政策</p> <p>ミクロ・マクロ経済学を基礎に、国際経済学に関連する理論知識を身につけ、世界経済における日本の位置づけと国際的な経済交流の実態について解説する。</p>								
到達目標	国際経済の問題を理解し、自ら関心の課題を発見できる力を身につける。					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
							○		
授業計画	<p>① 国際経済の概要</p> <p>② 貿易パターン (1) : 誰か何を生産するか? [比較生産費でみた比較優位]</p> <p>③ 貿易パターン (2) : 誰か何を生産するか? [要素賦存量でみた比較優位]</p> <p>④ 消費者余剰と生産者余剰からみた貿易前の均衡</p> <p>⑤ 貿易の利益: 自由貿易を行うと誰かどれだけ利益が得られるか?</p> <p>⑥ 関税政策の基礎 (1) : 小国の関税の効果</p> <p>⑦ 関税政策の基礎 (2) : 大国の関税の効果</p> <p>⑧ 関税政策の基礎 (3) : 関税賦課の世界市場への影響</p> <p>⑨ 関税政策の基礎 (4) : 最適関税と関税戦争</p> <p>⑩ 非関税政策の基礎 (1) : 輸入数量制限の効果</p> <p>⑪ 非関税政策の基礎 (2) : 輸出自主規制及び国内生産補助金の効果</p> <p>⑫ 一時的な貿易政策: アンチダンピングとセーフガード</p> <p>⑬ 産業間貿易と産業内貿易</p> <p>⑭ 国際化の進展と日本 (学外講師による担当予定)</p> <p>⑮ カネの国際移動と多国籍企業</p> <p>⑯ 定期試験</p> <p>※受講者の反応、時事の動向などにより、適宜内容を変更することがある。</p>								
評価方法	<p>授業中指定課題 30% (@2×15回、遅れの提出を認めない)</p> <p>定期試験 70% (3分の2以上の出席を単位取得の必要条件とする)</p>								
講義外での学習	毎回の授業に配布するテキストを必ず次の授業までに復習すること。								
履修上の注意事項	<p>必ずノートを用意して授業内容を取ること。</p> <p>※先修科目: 履修にあたって、「現代経済学入門」、「ミクロ経済学」を修得しておくことが望ましい。</p> <p>※他学部履修: 特に制限無し。事前確認不要。</p>								
教材	<p>◆教科書: なし。毎回テキストを配布する。</p> <p>◆参考書: 国際経済学 (阿部頭三、遠藤正寛著、ISBN978-4-641-12480-6)</p> <p>国際経済学をつかむ (第2版) (石井城太他、ICBN978-4-641-17719-2)</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	国際関係入門					授業タイプ		講義	
科目区分	学部共通	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	前期
教員名	相川 泰 (専任)								
授業の概要	<p>キーワード：国際関係史、国際関係の現状分析、国際化した環境問題</p> <p>地球大の国際関係は、現代においては最大の人間社会であり、そのあり方が直接的に、より小さな社会や個人にまで影響を及ぼすようになってきている。本講義では、日本や主要国・地域などの国際関係とのかかわりを含む、国際関係の形成と変化の経緯（国際関係史）、現状分析、環境問題との関係を学ぶ。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 近代国際関係がどのように形成され、変化して、現代に至ったか、その主な経緯について具体的に説明できるようにする。 現在の国際関係が直面する問題と、それに対する主な見方を具体的に説明できるようにする。 日本や主要国・地域などの国際関係とのかかわり、環境問題と国際関係の相互の影響について具体的に説明できるようにする。 	カリキュラムマップ項目							
		I	II	III	IV	V	VI	VII	
				○			○		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> ① シラバスの確認と補足説明、「国際関係」の意味 ② 国際関係の部分と全体、歴史の学習・研究の意義、日本からみた国際関係(1)：現代の領土問題の根源にある東アジア国際体系 ③ 近代国際関係の起源と変容：「近代国際関係」の特徴と成立、ナショナリズムや地理的な拡大などによる変容 ④ 日本からみた国際関係(2)：開国、戦争と占領・独立、主要国との国交正常化 ⑤ 近代国際関係の現代化への試行錯誤：一次大戦の起源から二次大戦前夜まで ⑥ 二次大戦と冷戦 ⑦ 冷戦後の国際関係と日本外交 ⑧ 国際関係に対する様々な見方：国際政治学の諸理論 ⑨ 主要国・地域と国際関係(1)：国・地域をみる意味と注意事項、米国、中国 ⑩ 主要国・地域と国際関係(2)：東・南アジア、中東、ロシア、EU ⑪ 主要国・地域と国際関係(3)、国際関係の主体の多様化：アフリカ、中南米、国際機関、企業、市民社会（NGO等）、情報化と個人 ⑫ 安全保障（論）の拡大：伝統的～、核時代の～、総合～、人間の～、非伝統的～ ⑬ 経済・社会・文化をめぐる国際関係 ⑭ 国際関係と環境問題(1)：国際関係において環境問題が重要になってきた経緯 ⑮ 国際関係と環境問題(2)：国際関係（論）の課題としての環境問題 ⑯ 定期試験 <p>※受講者の反応、時事動向その他の事情により、適宜内容を変更することがある</p>								
	<p>基本的には定期試験で100%評価する。なお、定期試験は短答式(60%)と論述式(40%)を併用するが、前者での正答率60%を必須とする。建設的な質問・提案・意見等は、氏名が確認でき、かつ定期試験で必須の得点を上回った場合のみ、1回につき最大7%、自発的なレポートは最大10%の加算対象とする(加算分、定期試験の満点を割り引く)。</p>								
講義外での学習	<p>資料は授業支援システム経由にて提供する。資料、特に空欄とする重要語句ははじめ授業での強調部分などを手掛かりとした復習が求められる。授業(計画含む)に登場する国・地域の所在地などは(国・地域によっては所在時期も)授業前後に各自で確認のこと。資料や、授業で強調される部分などを手掛かりとした復習が求められる。</p>								
履修上の注意事項	<p>資料は初回から授業支援システム経由で提供し、適度なサイズにプリントアウトされたものが手元にある前提で進める。国際関係は単なる外国事情や時事問題ではないので、勝手に混同・誤解して落胆しないこと。重要な連絡を授業内や授業支援システム経由で行う場合がある。休講・補講など掲示も活用する。合理的配慮によるなどの例外を除いて授業中のパソコン・携帯電話等の使用を禁止する。授業中の私語・出入りも原則禁止(欠席扱いの場合あり)。</p> <p>※先修科目： 特になし(世界史、特に東アジア史と17世紀以降の復習を望む)</p> <p>※他学部履修： 不可(経営学部、環境学部両学部とも正規の科目であるため)</p>								
教材	<p>◆教科書： なし(授業支援システム経由で資料提供)</p> <p>◆参考書： 各回(前後する場合あり)の資料に明記</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	国際経営論					授業タイプ		講義		
科目区分	学部共通	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	前期	
教員名	兪 成華（専任）									
授業の概要	<p>キーワード：国際経営、多国籍企業、国際経営戦略</p> <p>国際経営とは、国境を越えて事業を展開している企業（主に多国籍企業）の経営戦略上およびマネジメント上の課題に取り組む経営学の一領域である。現代の日本企業の多くは、海外市場での機会を狙って多国籍経営を模索している。本講義では、国際ビジネスの基礎から戦略選択上の問題について、グローバル経営の歴史・発展過程及び理論フレームワークを体系的に解説し、組織・戦略・生産・R&D・人的資源・文化などのグローバル経営と日本企業の実例を交えながら講義を進めていく。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 企業の国際事業展開にかかわる戦略的要因を多面的に分析・評価する能力を習得できる。 複雑な国際関係がビジネスにどのように影響を与えるのかを理解できる。 将来国際的なビジネスマンとして必要な基本的知識を習得できる。 					カリキュラムマップ項目				
						I	II	III	IV	V
						○		○	○	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス（授業の進め方と履修上の注意事項、国際経営とは） ② 国際経営の歴史 ③ 国際経営の制度と環境 ④ 国際経営の理論 ⑤ 国際マーケティング ⑥ 海外生産 ⑦ 国際研究開発 ⑧ 国際人的資源管理 ⑨ 国際財務管理 ⑩ 国際経営組織 ⑪ 国際戦略提携 ⑫ 欧米の多国籍企業 ⑬ 新興国の多国籍企業 ⑭ 海外子会社の管理（ゲストスピーカー） ⑮ 国際経営の展望 ⑯ 定期試験 									
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> レポート課題と授業の参加態度：成績評価の40%、レポート課題については授業内で指示する。 定期試験：成績評価の60%、筆記式の試験を行う。 									
講義外での学習	<ul style="list-style-type: none"> 授業中で行われる議論への積極的な参加を強く求める。また主体的姿勢がより良い理解につながるため、日ごろから日本経済や企業の動きを新聞やニュースでフォローして欲しい。 									
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 第1回「ガイダンス」時に詳細な説明を行う。必ず出席すること。 効率的に授業を進めるためにプロジェクトを用いて講義するが、一方的な授業にならないよう、受講生への質問を交えながら進行していく。 <p>※先修科目：履修にあたって、「経営学入門」「経営戦略論」を修得しておくことが望ましい。</p> <p>※他学部履修：特に制限無し。事前確認不要。</p>									
教材	<p>◆教科書：特に指定はしない。毎回資料プリントを配布する。</p> <p>◆参考書： <ul style="list-style-type: none"> 『グローバル経営入門』浅川和宏著、日本経済新聞出版、ISBN-13：978-4532135270 『国際経営[第5版]』吉原英樹著、有斐閣アルマ、ISBN-13:978-4641221727 『ケースに学ぶ国際経営』吉原英樹・白木三秀・新宅純二郎・浅川和宏編著、有斐閣、ISBN-13：978-4641184152 </p>									
実務経験のある教員による授業科目										

科目名	アジア経済論 1					授業タイプ		講義	
科目区分	学部共通	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	前期
教員名	連 宜萍 (専任)								
授業の概要	キーワード：雁行形態論、圧縮型経済発展、東アジアの産業発展								
	東アジアにおける経済発展の形態とその全貌を把握し、産業・技術の国際展開と多国籍企業の行動との関係を解説する。								
到達目標	アジアで起きている経済・社会問題を理解し、問題解決に必要な洞察力を身につけることができる。					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
授業計画	<p>① 【イントロダクション】 東アジア地域・経済の概観及び授業の進め方の説明</p> <p>② 雁行形態型経済発展と日本の役割</p> <p>③ アジア型経済発展（キャッチアップ型工業化、圧縮型経済発展、後発性利益）</p> <p>④ 経済発展を測る指標</p> <p>⑤ アジアにおける経済開発と政策</p> <p>⑥ アジアの貿易と投資の現状</p> <p>⑦ 東アジアの労働移動</p> <p>⑧ 社会と市場の転換期（学外講師による担当予定）</p> <p>⑨ アジアにおける電子産業の分業体制と技術移転</p> <p>⑩ アジアにおける繊維産業の発展と国際波及</p> <p>⑪ アジアにおける自動車産業の海外展開と裾野産業</p> <p>⑫ アジアの経済発展をリードする多国籍企業の役割</p> <p>⑬ 東アジアの経済発展の奇跡と限界</p> <p>⑭ アジア諸国の社会事情</p> <p>⑮ アジアにおける経済発展の課題</p> <p>⑯ 定期試験</p> <p>※受講者の反応、時事動向などにより、適宜内容を変更することがある。</p>								
評価方法	授業中指定課題 30%（@2×15回、遅れの提出を認めない） 定期試験 70%（3分の2以上の出席を単位取得の必要条件とする）								
講義外での学習	毎回講義した内容を次の授業までに復習すること。								
履修上の注意事項	必ずノートを用意して授業内容を取ることに。 ※先修科目： 履修にあたって、「マクロ経済学」と「国際経済論」を修得しておくことが望ましい。 ※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。								
教材	◆教科書： なし ◆参考書： 授業中に指定する								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	アジア経済論 2					授業タイプ		講義			
科目区分	学部共通	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	後期		
教員名	連 宜萍 (専任)										
授業の概要	キーワード：アジア諸国の経済発展、発展戦略、多国籍企業の行動										
	アジアの経済発展を日本、NIEs、ASEAN、中国という段階別に分けて概観し、それぞれの特徴、成長要因と課題を説明する。										
到達目標	アジアで起きている経済・社会問題を理解し、問題解決に必要な洞察力を身につけることができる。					カリキュラムマップ項目					
						I	II	III	IV	V	VI
授業計画	<p>① 【イントロダクション】前期の復習及び後期授業の進め方の説明</p> <p>② 日本の経済発展とアジア経済成長への波及</p> <p>③ NIEsの輸出主導型経済発展の特徴とイノベーション</p> <p>④ 台湾の経済発展と工業化戦略</p> <p>⑤ 韓国の経済発展と技術の形成</p> <p>⑥ 香港、シンガポールの経済発展とその要因</p> <p>⑦ ASEANの経済発展とその特徴</p> <p>⑧ インドネシアの経済発展、戦略と課題</p> <p>⑨ マレーシアの経済発展、戦略と課題</p> <p>⑩ タイの経済発展、戦略と課題</p> <p>⑪ フィリピンの経済発展、戦略と課題</p> <p>⑫ ベトナムの経済発展、戦略と課題</p> <p>⑬ カンボジアの経済発展、戦略と課題</p> <p>⑭ 国際化に必要な視点 (学外講師による担当予定)</p> <p>⑮ 中国の経済発展、戦略と課題</p> <p>⑯ 定期試験</p> <p>※受講者の反応、時事動向などにより、適宜内容を変更することがある。</p>										
評価方法	<p>授業中指定課題 30% (@2×15回、遅れの提出を認めない)</p> <p>定期試験 70% (3分の2以上の出席を単位取得の必要条件とする)</p>										
講義外での学習	毎回講義した内容を次の授業までに復習すること。										
履修上の注意事項	<p>必ずノートを用意して授業内容を取ることを。</p> <p>※先修科目： 履修にあたって、「マクロ経済学」と「アジア経済論1」を修得しておくことが望ましい。</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>										
教材	<p>◆教科書： なし</p> <p>◆参考書： 授業中に指定する</p>										
実務経験のある教員による授業科目											

科目名	アジア環境論					授業タイプ		講義	
科目区分	学部共通	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	後期
教員名	相川 泰 (専任)								
授業の概要	<p>キーワード：日中韓などの東アジア、環境問題、政府・市民社会の取り組み</p> <p>中国を中心とする東アジア（他に韓国・台湾・北朝鮮・日本）の政治・経済・社会と環境の関係を概観する。より具体的には、中国の環境汚染と政策の実態をはじめ、日本、韓国、台湾、北朝鮮の各種の環境問題と政治経済体制の関係、政府・市民社会の取り組み、その相互比較、日本と中国などとの間で進む環境協力などについて解説する。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 中国・韓国・台湾・北朝鮮・日本の環境問題とそれに対する取り組みについて、相互比較も含めて具体的に説明できるようになる。 中国の政府の環境政策と市民社会の環境問題への取り組み、それらとの日本などとの協力につき具体的に説明できるようになる。 環境共同体という考え方の2義性について具体的に説明できるようになる。 	カリキュラムマップ項目							
		I	II	III	IV	V	VI	VII	
				○			○		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① シラバスの確認と補足説明、中国・韓国・台湾・北朝鮮についての基礎知識確認 ② 経済・社会と環境問題、日本の政治経済体制と環境問題 ③ 中国の政治経済体制と環境問題 ④ 韓国の政治経済体制と環境問題-1 巨大公共事業 ⑤ 韓国の政治経済体制と環境問題-2 ソウルの環境再生と問題点 ⑥ 台湾と北朝鮮の政治経済体制と環境問題 ⑦ 日本・中国・韓国・台湾・北朝鮮の比較、環境問題を共有する「環境共同体」としての東アジア-1 ⑧ 環境問題を共有する「環境共同体」としての東アジア-2、中国環境汚染の近況 ⑨ 中国のがん多発地域にみる水汚染問題の推移 ⑩ 松花江汚染の今昔、中国環境汚染問題の背景 ⑪ 中国環境政策史 ⑫ 政策が改善に必ずしも結びつかない中国の政治経済要因分析 ⑬ 中国の環境 NGO 総論 ⑭ 中国の環境 NGO 各論：環境汚染との関係、国際民間非営利協力 ⑮ 日本・中国（一部は韓国ほか）の環境 NGO 協力から「環境共同体」を考える ⑯ 定期試験（または期末レポート） <p>※受講者の反応、時事動向その他の事情により、適宜内容を変更することがある</p>								
評価方法	<p>基本的には定期試験または期末レポートで 100%評価する。建設的な質問・提案・意見等は、氏名が確認できた場合のみ 1 回につき最大 7%、自発的なレポートは最大 10%の加算対象とする（加算分、定期試験の満点を割り引く）。</p>								
講義外での学習	<p>資料は授業支援システム経由にて提供する。予習範囲を指示する（資料提供する場合もある）場合には、その範囲を読んでくる。資料や、授業内で強調される部分、予習範囲に補足・追加の情報が加えられた部分などを手掛かりとした復習が求められる。</p>								
履修上の注意事項	<p>資料は初回から授業支援システム経由で提供し、適度なサイズにプリントアウトされたものが手元にある前提で進める。中国および東アジアの詳細な地図があると便利な場合がある（確認は授業時間外に行うこと）。重要な連絡を授業内で行う場合がある。休講・補講など掲示も活用する。合理的配慮によるなどの例外を除いて受講中のパソコン・携帯電話等の使用を禁止する。授業中の私語・出入りも原則禁止（欠席扱いの場合あり）。</p> <p>※先修科目： 「国際関係入門」「環境経済論」の内容を修得しておくことが望ましい。</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>								
教材	<p>◆教科書： なし（授業支援システム経由で資料提供）</p> <p>◆参考書： 寺西俊一監修、東アジア環境情報発信所編『環境共同体としての日中韓』集英社新書、中国環境問題研究会編『中国環境ハンドブック』蒼蒼社ほか適宜指示</p>								
実務経験のある教員による授業科目									
<p>担当教員は環境関連の複数の民間非営利組織の会員・役員等として日本・中国・韓国およびアジア太平洋諸国の 2 国間・多国間の交流・協力活動に従事経験があり、本講義の一部はその経験に基づく。</p>									

科目名	環境経済論					授業タイプ		講義	
科目区分	学部共通	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教員名	相川 泰 (専任)								
授業の概要	キーワード：環境問題の経済社会史、環境経済政策、地球環境政策 「環境問題」と呼ばれる様々な問題の多くは、人々の経済活動が原因となって起きている。この講義では、どのような問題が環境問題と呼ばれ、それぞれがどのような経済活動とのかかわりで起きてきたか、から、それに対する解決や改善に向けて、これまでどのような取り組みが考えられて実行され、今後に向けてどのような計画や構想が考えられているか、また、そこにどんな限界や問題があると指摘されているか、までを話す。								
到達目標	以下の3点が説明できるようになる。 ・ 複数の環境問題の具体像と共通点 ・ 環境と経済の関係と政策・取り組みによる変化 ・ 従来の環境問題への取り組みに対し、経済を中心とする観点から指摘されている限界や問題					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
						○			○
授業計画	① シラバスの確認と補足説明、経済の基盤としての環境 ② 環境問題とはどのような問題か ③ 環境史の学習・研究の意義、環境問題の世界史：「環境革命」まで ④ 環境問題の日本史：二次大戦期まで ⑤ 日本「公害列島」史：各種の公害・環境問題の段階的発生、反対運動と政策導入 ⑥ 終わっていない水俣病：被害者・支援者の運動とその広がり、政策の問題点 ⑦ 水俣病と共通性を持つ諸問題、被害者の（ための）運動からネットワークへ ⑧ 自然破壊と歴史的・文化的環境の破壊、それらに対する保護・保全の運動、政策 ⑨ 「環境革命」から地球環境問題、宇宙へ？：国際的な環境問題の現代史 ⑩ 環境問題と経済活動の関係を改めて考える：物質代謝論と政治経済論 ⑪ 環境経済政策の理想と現実-1：汚染排出と資源利用の「最適」化 ⑫ 環境経済政策の理想と現実-2：環境評価、サプライチェーン管理、環境産業奨励 ⑬ 社会的費用論、社会共通・関係資本論：値段がつかない価値の尊さをどう守る？ ⑭ SDGs とパリ協定で十分？ もう手遅れ？ 地球環境政策 ⑮ 気候変動を例に今後を考える：脱成長論とグリーン・ニューディール論 ⑯ 定期試験 ※授業準備の進展、受講者の反応、時事動向その他の事情で変更することがある								
評価方法	基本的には定期試験で100%評価する。建設的な質問・提案・意見等は、氏名が確認できた場合のみ1回につき最大7%、自発的なレポートは最大10%の加算対象とする（加算分、定期試験の満点を割り引く）。								
講義外での学習	資料は授業支援システム経由にて提供する。資料、特に空欄とする重要語句ははじめ授業での強調部分などを手掛かりとした復習が求められる。一部、予習を求める回もある。								
履修上の注意事項	資料は初回から授業支援システム経由で提供し、適度なサイズにプリントアウトされたものが手元にある前提で進める。この授業では狭義の環境経済学に限らず広義の環境と経済の関係も視野に入れる。重要な連絡を授業内で行う場合がある。資料訂正等の連絡を授業支援システムで行う場合がある。休講・補講など掲示も活用する。合理的配慮によるなどの例外を除いて授業中のパソコン・携帯電話等の使用を禁止する。授業中の私語・出入りも原則禁止（欠席扱いの場合あり）。 ※先修科目： 特になし ※他学部履修： 不可（経営学部、環境学部両学部とも正規の科目であるため）								
教材	◆教科書： なし（授業支援システム経由で資料提供） ◆参考書： 各回（前後する場合あり）の資料に明記								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	共生経営論					授業タイプ		講義			
科目区分	学部共通	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	前期		
教員名	岩田 健吾 (専任)										
授業の概要	<p>キーワード：社会的企業, エコシステム, コモンズ</p> <p>環境問題をはじめとする現代社会の諸問題を解決する重要なキーワードとして、「共生」の概念が唱えられている。多義的な用語であるが、企業経営や地域経営においては注目すべき概念であり、「共生経営」を広く深く学び実践することが、永続し繁栄する社会や企業、幸せな人生(well-being)を構築するための重要な基盤となる。この講義では、多様な論理や事例を紹介し、共生経営の背景や論点を解説する。</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 共生経営の社会的な存在意義を説明できる。 共生経営について、具体的な事例を調査し、あるべき姿を構想する。 					カリキュラムマップ項目					
						I	II	III	IV	V	VI
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 授業概要：講義の全体計画，受講の留意事項，成績評価などを説明。 ② 現代社会の基本構造：共生を理解するための前提として，市場セクターと政府セクターの役割と限界，第三のセクターの登場とその役割を解説。 ③ 「共生」とは何か：多様に広がる「共生」の意味を解説し理解しやすくする。 ④ 「共生経営」の登場：共生経営論の始まりから現在の到達点までを概観する。 ⑤ 共生経営のモデル：共生型経営の典型的な事例を紹介する。 ⑥ 公共政策と共生：公共領域でも多用される共生概念の現状を俯瞰する。 ⑦ 企業組織内の共生：企業組織の基礎理論をふまえ，メンバーと組織が共に成長するチームづくりの論理や事例を解説する。 ⑧ 環境との共生：環境と社会経済との持続的な共生を追及している「エコロジー経済学」を概説する。 ⑨ 地域力を育む：地域力を育む共生経営の具体的な事例を紹介する。 ⑩ 企業と地域との共生：産業構造の転換を背景に，企業が地域に回帰し，エコシステムを形成するビジョンを提起する。 ⑪ 企業と顧客との共生：顧客との一体化によって実現する共生について考える。 ⑫ 営利企業と社会企業：営利企業から社会企業への移行の必然性を，地球環境学の最前線から考える。 ⑬ 観光による共生：観光の本質を踏まえて，文化と経済，地元民と外来者などが共生する道を探る。 ⑭ 創造する共生経営：共生経営の原理は，人間の潜在能力を開発し，創造やイノベーションが生まれることにあることを論じる。 ⑮ 総括と補足 <ul style="list-style-type: none"> ※ 学生の理解度合いに応じて，順番や内容は変更することがある。 ※ ゲストスピーカーを依頼する場合がある。 										
評価方法	<p>平常点：30% 授業への出席，参加態度など。</p> <p>小レポート：30% 履修範囲の基礎的な理解度。</p> <p>期末レポート試験：40% 講義全体の総合的な理解度と論理的思考力。</p>										
講義外での学習	講義内容を理解するための復習を欠かさないこと。										
履修上の注意事項	<p>※先修科目： 特になし。</p> <p>※他学部履修： 特に制限なし。</p>										
教材	<p>◆教科書： パワーポイント教材を配信する。</p> <p>◆参考書： 『エレガント・カンパニー』 著者：赤岡功 出版社：有斐閣</p>										
実務経験のある教員による授業科目											

科目名	環境経営論					授業タイプ		講義	
科目区分	学部共通	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	後期
教員名	岩田 健吾（専任）								
授業の概要	キーワード：外部性，環境経済評価，SDGs								
	この授業では、持続可能な経済活動と環境問題との関係に注目し、主に環境問題への経済／経営学からのアプローチを紹介する。具体的には、気候変動やエネルギー問題などの環境に纏わる諸問題が発生するメカニズムを明らかにするとともに、経済／経営学的観点から環境問題を解決する対策を明らかにする。主に前半は環境経済学、後半は環境経営学を体系的に学ぶ内容とし、それらは有機的に繋がっている。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 環境に関心のある学生が、環境経営／経済学の基本的な考え方や分析方法を理解できるようになる。 自分自身が環境問題の当事者であることを自覚し、自分の意見が持てるようになる。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス：講義の進め方、成績評価などの説明。環境経営／経済学を学ぶ意義と背景について。 ② 外部性と市場の失敗：外部性について、経済モデルを通して理解する。 ③ 限界社会的費用について：限界社会的費用の概念を理解する。 ④ 環境の経済評価(1)：市場価格の付かない「環境」の価値を、どのように経済的に評価するかを概観する。 ⑤ 環境の経済評価(2)：環境経済評価の理論と手法を学ぶ。 ⑥ コモンズの利用と管理：共有財・公共財である「コモンズ」の持続可能な利用と管理についての理論と実際を学ぶ。 ⑦ コモンズの悲劇とフリーライダー：「コモンズの悲劇」が生じるメカニズムと、悲劇を避ける取り組みや政策について学ぶ。 ⑧ 気候変動問題：気候変動（地球温暖化）問題について、経済モデルや事例などを交え理解する。 ⑨ カーボン・プライシング(CP)(1)：CPについて理解する。 ⑩ カーボン・プライシング(CP)(2)：環境税や排出量取引制度について経済モデルを使用して理解する。またCBAMなど最新のトピックにも触れる。 ⑪ 戦略的な環境経営(1)：企業がどのような環境経営戦略を講じているかを概観する。 ⑫ 戦略的な環境経営(2)：企業がどのような環境経営戦略を講じているかを概観する。 ⑬ 企業と環境問題(1)：主にCSRについて、その背景から理解する。 ⑭ 企業と環境問題(2)：SDGs, ESGの内容、企業が対応する方法に関して考える。 ⑮ まとめ：講義を振り返り、あるべき環境経営とはどういうものかを考える。 ※ 学生の理解度合いに応じて、順番や内容は変更することがある。 ※ ゲストスピーカーを依頼する場合がある。 								
評価方法	小レポート：30% 履修範囲の基礎的な理解度。 期末レポート試験：50% 講義全体の総合的な理解度と論理的思考力。 平常点（授業への出席，参加態度，小課題の提出状況等）：20%								
講義外での学習	講義内容を理解するための復習を欠かさないこと。								
履修上の注意事項	※先修科目： 履修にあたって「ミクロ経済学」を修得しておくことが望ましい。 ※他学部履修： 特に制限なし。								
教材	◆教科書： ▶ 栗山浩一・馬奈木俊介『環境経済学をつかむ』（有斐閣）ISBN：978-4641177295 ◆参考書： ▶ 植田和弘編著『企業経営と環境評価』（中央経済社）ISBN：978-4502268915 ▶ 諸富徹編著『電力システム改革と再生可能エネルギー』（日本評論社）ISBN:978-4535558205								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	社会経済と人口					授業タイプ		講義	
科目区分	学部共通	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	後期
教員名	西村 教子（専任）								
授業の概要	キーワード：人口減少社会、人口と経済、ライフイベント								
	<p>世界人口が78億人を超え、その増加傾向は続いています。一方、日本はすでに人口減少社会が到来し、社会や経済にその対応が求められています。社会が人の集団である限り、人口と社会そして経済は切っても切り離せない関係にあります。一方、人口動態はみなさん一人一人のライフイベントの合計であり、積み重ねです。</p> <p>本講義は、人口変動のメカニズムと社会や経済との関係といったマクロの視点と、結婚や就業や出産といったミクロな視点を通じて日本の人口減少を考えていきます。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人口変動のメカニズムが理解できるようになる ・社会や経済のメカニズムと人口との関係が理解できるようになる ・ライフイベントと人口との関係が理解できるようになる 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
						○			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 人口とは：人口の基本方程式から人口変動の要因を学ぶ ② 人口の推移と将来人口：日本や世界の人口推移や将来人口推計を取り上げる ③ 社会経済と人口の関係：人口論や人口転換論から経済と人口の関係を学ぶ ④ 人口動態(1)：死亡に関する諸指標を取り上げる ⑤ 人口動態(2)：再生産に関する諸指標を取り上げる ⑥ 人口構造：人口ピラミッド、世帯、就業などさまざまな人口構造を取り上げる ⑦ 人口移動と地域人口：地域人口分布や人口変動から社会移動の問題を学ぶ ⑧ 労働市場(1)：雇用形態の多様化やワークライフバランスを取り上げる ⑨ 労働市場(2)：働くことの考えに関するグループ・ディスカッションを行う ⑩ 経済発展と少子化(1)：人口減少が経済に与える影響を学ぶ ⑪ 経済発展と少子化(2)：ベッカー・モデルから少子化のメカニズムを学ぶ ⑫ 結婚(1)：結婚の指標からみる晩婚化と非婚化、晩婚化・非婚化の社会経済的要因 ⑬ 結婚(2)：結婚に対する考えに関するグループ・ディスカッションを行う ⑭ 少子化(1)：少子化の社会経済的要因と意識を学ぶ ⑮ 少子化(2)：子どもに関するグループ・ディスカッションを行う 								
評価方法	<p>フィードバック(30%)：毎回、授業内容の理解に重点を置きます。</p> <p>小レポート(25%)：日本の現状の理解と政策のあり方に重点を置きます。</p> <p>グループディスカッション(15%)：多様な価値観や考え方を理解することに重点を置きます。</p> <p>期末レポート(30%)：日本の現状の理解と考える力に重点を置きます。</p>								
講義外での学習	講義は人口学の基礎知識や人口統計などのデータを用いて、ディスカッションを取り入れ、日本社会の現状や展望を自ら理解していこうとする姿勢が求められます。その点を十分理解して履修するようにしてください。								
履修上の注意事項	<p>※先修科目： 特になし。</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>								
教材	<p>◆教科書： 特になし。</p> <p>◆参考書： 講義の中で適宜紹介する。</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	微分積分学					授業タイプ		講義	
科目区分	学部共通	履修区分	選択	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	橋本 隆司 (非常勤)								
授業の概要	キーワード：関数，極限，導関数，不定積分，定積分								
	<p>様々な現象は関数を用いて記述することができるが，微分積分学はその数量的な変化を理解するための数学で，環境学や経営学における多くの概念を表現することができ，かつ，AI やデータサイエンスなどにおける必須の計算方法を与えている．この科目では，初等関数の復習からはじめて，1変数関数の微分積分法の基礎概念と計算方法を学ぶ．ここで学ぶ学習事項は様々な分野の基礎となる．</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 初等的な関数を理解し，その計算を行えるようになる． 微分法および積分法の概念を理解し，その計算ができるようになる． 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
						○			
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 科目説明，実数，関数 ② 三角関数および逆三角関数 ③ 指数関数，対数関数 ④ 数列の極限 ⑤ 関数の極限，連続関数 ⑥ 導関数 ⑦ 微分の公式 ⑧ 平均値定理およびロピタルの定理 ⑨ テイラー展開 ⑩ 前半の復習，確認試験 ⑪ 不定積分 ⑫ 置換積分，部分積分 ⑬ 定積分 ⑭ 広義積分 ⑮ 定積分の応用 ⑯ 定期試験 								
評価方法	確認試験(50%)，定期試験(50%)によって評価します．								
講義外での学習	毎回の講義では，復習を行っていることを前提に説明を進めて行きます．講義で紹介した例題と演習問題を必ず復習して下さい．								
履修上の注意事項	<p>小中高の算数・数学教科書など，これまで使用してきた数学関連書籍を参照できるようにしておくことが望ましい．</p> <p>※先修科目： なし</p> <p>※他学部履修： 不可．</p>								
教材	<p>◆教科書： 竹縄知之著，コアテキスト微分積分 [第2版]，サイエンス社 ISBN 9784781915579</p> <p>◆参考書：</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	線形代数学					授業タイプ		講義	
科目区分	学部共通	履修区分	選択	配当年次	1	単位数	2	開講区分	後期
教員名	橋本 隆司 (非常勤)								
授業の概要	<p>キーワード：ベクトル，行列，線形写像</p> <p>ベクトルと行列およびそれらの演算は，様々な現象のデータの表現とその処理を扱うことを可能にし，その表現及び処理はそのままコンピュータ上で実行できる．この科目では，高校で学ぶ平面ベクトル・空間ベクトルからはじめて，行列，1次変換，ベクトル空間および行列の対角化までの線形代数の基礎概念と計算方法を学ぶ．ここでの学習事項はコンピュータを活用する分野において必須の知識と方法を与える．</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ベクトルと行列の基礎的な計算を行えるようになる． ベクトル空間，線形写像などの線形代数学の基礎概念を理解する． 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
		○							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 科目説明，平面ベクトル 空間ベクトル 行列，行列の和・差・実数倍 行列の積，零因子，累乗 逆行列，転置行列 連立1次方程式と行列1（掃き出し法） 連立1次方程式と行列2（掃き出し法と逆行列，行列の階数） 前半の復習，確認試験 2次の行列式，n次の行列式 行列式と逆行列，連立1次方程式 1次変換の定義，合成変換，逆変換 1次変換の線形性，1次変換と直線 ベクトル空間，部分空間，基底 固有値と固有ベクトル，正方行列の対角化 対称行列の対角化，対角化の応用 定期試験 								
評価方法	確認試験（50%）、定期試験（50%）によって評価する。								
講義外での学習	復習を十分に行っていることを前提に講義を進めていくので、個人学習を確実に行うこと。								
履修上の注意事項	<p>小中高の算数・数学教科書など、これまで使用してきた数学関連書籍を参照できるようにしておくことが望ましい。</p> <p>※先修科目： なし。</p> <p>※他学部履修： 不可。</p>								
教材	<p>◆教科書： 岡本和夫著，新版線形代数，実教出版，ISBN:978-4-407-34948-1</p> <p>◆参考書：</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	社会調査法					授業タイプ		講義	
科目区分	学部共通	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	前期
教員名	倉持 裕彌（専任）								
授業の概要	キーワード：社会調査、量的調査、質的調査、統計的検定								
	本講義では、社会調査の意義とその基礎的な事項について概説していく。社会調査を取り巻く歴史的経緯や現代社会の状況を踏まえつつ、量的調査と質的調査の双方において、調査の企画から分析に至る基本的な流れをおさえ、社会調査に関わる基礎的な知識の習得を目指す。なお、調査方法の理解を深めるため、適宜実習を織り交ぜながら講義を進めていく。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会調査についての基礎的な知識を身に付ける。 ・ 調査票の作成、インタビューの方法など調査を実施するための基礎的な技術を習得し、応用できる。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
						○			
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション 講義内容、評価方法について。 ② 社会調査とは何か 身近な社会調査や学術的な調査について学ぶ。 ③ 社会調査の歴史 社会調査の成り立ちについて学ぶ。 ④ 既存の資料・データの収集と活用 ⑤ 量的調査1 量的調査とは 量的調査の特徴について学ぶ ⑥ 量的調査2 調査の手順～母集団と標本 ⑦ 量的調査3 調査票の作成 依頼状や質問文の作り方を学ぶ ⑧ 量的調査4 調査票の点検とデータ作成 ⑨ 量的調査5 基本的な集計・分析 ⑩ 量的調査6 統計的検定 検定の役割を理解する。 ⑪ 質的調査1 質的調査とは 質的調査の特徴について学ぶ。 ⑫ 質的調査2 インタビュー調査 インタビュー調査の実際について学ぶ。 ⑬ 質的調査3 参与観察 参与観察の方法について学ぶ。 ⑭ 質的調査4 ライフヒストリー・内容分析 ⑮ 講義まとめ ⑯ 定期試験 								
評価方法	講義時の課題・レポート等（40%）、定期試験（60%） ※一部を講義中の小テストに代える可能性もある。 ※新型コロナの影響等で試験が実施できない場合はレポートで代替する。								
講義外での学習	使うことでより理解が深まるので、学習したことは積極的に実践してみることを。								
履修上の注意事項	パソコンを使用する（別途指示します）。 ※先修科目： 特になし。 ※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。								
教材	<ul style="list-style-type: none"> ◆教科書： 使用しない。 ◆参考書： 大谷信介ほか編著（2013）「新・社会調査へのアプローチ」ミネルヴァ書房 盛山和夫（2004）「社会調査入門」有斐閣ブックス 								
実務経験のある教員による授業科目									
民間や自治体のシンクタンクにおける多様な調査経験を活かし、調査を実施する際の具体的な問題点や課題について講義する。									

科目名	データ解析					授業タイプ		講義	
科目区分	学部共通	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	前期
教員名	高井 亨 (専任)								
授業の概要	<p>キーワード：データの尺度、さまざまな推測統計手法、回帰分析</p> <p>データを目の前にしたとき、適切な統計分析ができるようになるための実践的な知識と技術の習得を目指す。そのために必要な手法は基礎的なものばかりであり、決して難しくはない。</p> <p>前半ではデータの種類に応じ、適切に要約する方法に触れる。具体的には、データの種類や問題意識に応じ、適切に反映させるためのグラフ化の方法と統計量の選び方を学習する。中盤では統計学入門で学んだ内容を発展させ、より実践的な問題を解決するための推測統計手法について触れる。後半では社会科学において利用されることの多い回帰モデルを、実際にデータ分析をおこなうことを通じて習得する。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 与えられたデータを要約するための多様な方法を適切に使い分けることができる 簡単な仮説検定の問題を自ら立てて検証できる 具体的なデータに対して因果関係を考慮して回帰分析をおこなうことができる 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
						○			○
授業計画	<p>第1部 データ分析の基礎</p> <p>① データ解析への出発；データの種類</p> <p>② 1変数データの見方・読み方；多様な代表値と多様なグラフ表現</p> <p>③ 2変数データ（量的データ）の見方・読み方；散布図の読み方と関係性の計量</p> <p>④ 2変数データ（質的データ）の見方・読み方；クロス表と関連性の指標</p> <p>⑤ 各自の収集データを用いた第1部の内容についての演習</p> <p>第2部 推測統計の基礎と実際</p> <p>⑥ 推測統計の基礎（1）確率変数・期待値・分散・正規分布・大数の法則・中心極限定理・標本分布</p> <p>⑦ 推測統計の基礎（2）推定と検定；母平均および母比率を例に</p> <p>⑧ 平均値の差の検定</p> <p>⑨ 分割表の分析</p> <p>⑩ 各自の収集データを用いた第2部の内容についての演習</p> <p>第3部 実証分析入門</p> <p>⑪ 回帰分析</p> <p>⑫ 重回帰分析</p> <p>⑬ ダミー変数や交絡変数を用いた重回帰分析</p> <p>⑭ 二肢選択モデル</p> <p>⑮ 各自の収集データを用いた第3部の内容についての演習</p>								
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の課題提出（計12回）と発表会における発表内容：50% 発表会における発言：10% 期末レポートの内容：40% 								
講義外での学習	<ul style="list-style-type: none"> 第6回の授業の開始までに、定積分の意味を復習する。 日頃からさまざまな統計データに触れ。 毎回授業で学習した概念への理解を深めるために、各自が収集したデータを用いて統計分析をおこなう（毎回の課題）。 								
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 授業内でパソコンを用いた演習をおこなう。パソコンを持参すること。 データ分析や統計に興味のある環境学部生の履修も歓迎する。 <p>※先修科目： 特になし。</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>								
教材	<p>◆教科書： 配布資料を用いる。</p> <p>◆参考書： 事前学習用→「教養のための統計入門」（実教出版）</p> <p>理論的なことに興味があれば→「基礎統計学Ⅰ 統計学入門」（東大出版会）</p> <p>実証分析の入門書→「データ分析をマスターする12のレッスン」（有斐閣）</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	情報倫理					授業タイプ		講義	
科目区分	学部共通	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	後期
教員名	齊藤 明紀 (専任)								
授業の概要	キーワード：情報倫理、情報セキュリティ、知的財産権								
	この講義では情報倫理を中心に情報セキュリティや知的財産にまつわる問題に触れる。中等教育や人間形成科目の情報リテラシ1・2では主に生徒・学生個人としての情報倫理が中心であったが本講義では組織人としてあるいは法人としての情報倫理への展開を特に重視し、論ずる。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報化社会における諸問題の理解を深める。 ・ 情報化社会における倫理観、行動規範を身につける。 ・ 知的財産権と知財の適切な利用について知る。 					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
						○			○
授業計画	① 情報と情報化社会 ② 情報発信の責任、個人情報 1 ③ 個人情報 2、知的財産 1 ④ 知的財産権 2(著作権) ⑤ 知的財産権 3(著作権が制約される場合) ⑥ 電子メール 1 ⑦ 電子メール、WEB の活用 ⑧ 電子掲示板 ⑨ 情報社会における生活 1(社会生活における情報) ⑩ 情報社会における生活 2(情報社会の新しい文化) ⑪ 情報社会における生活 3(医療、福祉、公共サービス、ビジネスの変化、ネットワークのトラブル) ⑫ 情報社会における生活 4(ネット社会におけるトラブル)、情報セキュリティとネット被害 1 ⑬ 情報セキュリティとネット被害 2(暗号と情報セキュリティ) ⑭ 情報セキュリティとネット被害 3(ウイルス、セキュリティ技術) ⑮ 情報セキュリティとネット被害 4(サイバー攻撃、電子署名) ⑯ 定期試験								
評価方法	定期試験(60%)、課題およびレポート(25%)、講義中の演習・受講態度(15%)で評価する。								
講義外での学習	毎週の課題レポートを行うほか、予習・復習を励行することが重要である。また、教科書や講義内容を鵜呑みにするのではなく事例調査等自主的に学習に取り組むことが重要である。								
履修上の注意事項	情報リテラシ1・2ではパソコンを用いた個人情報処理技能を主に学んだが、この講義では組織や社会とデジタル情報処理技術とのかかわりを考える。教科書に無い項目はスライド等で補う。 ※先修科目： 特になし。 ※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。								
教材	◆ 教科書 ： 阿濱茂樹 他「インターネット社会を生きるための情報倫理 改訂版」実教出版、ISBN：9784407346213 ◆ 参考書 ： IPA「情報セキュリティ読本」実教出版								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	民法1					授業タイプ		講義	
科目区分	学部共通	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	前期
教員名	中山 実郎 (専任)								
授業の概要	<p>キーワード：私法学習の出発点、民法総則、物権・担保物権</p> <p>前半は私法学習のスタートに当たる民法総則編のうち、権利の主体、客体、法律行為、代理、時効などの基本項目について学び、後半では人と財産とのルールを定めた物権・担保物権編の基本的な項目について学習する。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 民法総則編の学習を通じて、私法の全体像について理解し、「法律は難しい」という先入観を払拭できる。 物権・担保物権編の知識を習得することで、民法が組織の運営や取引、そして、私たちの生活において、身近で不可欠な存在であること理解し、説明できる。 	カリキュラムマップ項目							
		I	II	III	IV	V	VI	VII	
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① ガイダンス、授業の位置づけ、民法を学習する意義、民法の基本原則について学ぶ ② 権利の主体、権利能力、意思能力、未成年者と制限行為能力者制度について学ぶ ③ 住所の定義、失踪宣告制度の意義と要件、効果、同時死亡の推定について学ぶ ④ 法人の意義と種類、民法上の法人の要件と能力、権利能力なき社団について学ぶ ⑤ 権利の客体としての物、不動産と動産、主物と従物、立木の制度について学ぶ ⑥ 法律行為の意義、公序良俗違反、意思表示の不存在と瑕疵ある意思表示について学ぶ ⑦ 代理制度の意義、代理行為の要件と効果、復代理、無権代理、表見代理について学ぶ ⑧ 条件と期限、時効制度の意義、取得時効と消滅時効、時効の援用と放棄、時効の完成猶予と更新について学ぶ ⑨ 物権の意義と種類、不動産物権変動と対抗要件、背信的悪意者の判例について学ぶ ⑩ 動産物権変動、占有権の意義と取得、公信力と即時取得、占有の訴えについて学ぶ ⑪ 所有権の意義、相隣関係の意義と種類、共有の仕組みと共有者相互の関係について学ぶ ⑫ 用益物権の意義と種類、地上権と地役権、担保の意義、優先弁済的効力について学ぶ ⑬ 担保物権の種類と通有性、留置権、先取特権、質権について学ぶ ⑭ 抵当権1 抵当権の意義と設定、抵当権の効力、物上代位について学ぶ ⑮ 抵当権2 法定地上権、抵当目的物の第三取得者と賃借人、根抵当権について学ぶ ⑯ 定期試験 								
評価方法	授業で説明した内容を正しく理解しているかどうかを基本に評価する。定期試験(80%)、出席他(20%)。								
講義外での学習	法律の制定や改正、訴訟など法律に関する報道に注意し、関心をもって授業に臨むこと。その他については、適宜授業内で指示する。								
履修上の注意事項	<p>毎回必ず指定した教科書を持参して授業に臨むこと。</p> <p>※先修科目： 特になし。</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>								
教材	<p>◆教科書： 「面白いほど理解できる民法(第5版)」 早稲田経営出版 ISBN：978-4-8471-5041-8</p> <p>◆参考書： 適宜授業時に紹介する。</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	民法2					授業タイプ		講義	
科目区分	学部共通	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教員名	中山 実郎 (専任)								
授業の概要	<p>キーワード：民法財産法の重要部分、債権・不法行為、親族・相続</p> <p>民法・債権編は、人と人との権利関係を律する基本的なルールである。ここでは、ビジネスの場をはじめ社会のあらゆる場面にかかわる重要な法手段となる債権法を中心に、合わせて不法行為、親族・相続の規定について学習する。</p>								
到達目標	<p>・民法の重要な分野である債権編を学習し、様々な実務の場で期待される具体的問題の解決能力を身に付ける。</p> <p>・ビジネスパーソンにとって有用な法的思考と対応力を習得する。</p>					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
授業計画	<p>① ガイダンス、学習範囲、債権・債務の意義、債権の成立要件と効力について学ぶ</p> <p>② 債務不履行の意義と形態、効果、債務不履行に基づく損害賠償について学ぶ</p> <p>③ 責任財産保全の意義、債権者代位権と詐害行為取消権の意義と効果について学ぶ</p> <p>④ 人的担保の意義、連帯債務、保証債務、連帯保証、個人根保証契約について学ぶ</p> <p>⑤ 債権譲渡の意義、債権譲渡の対抗要件と効果、弁済の意義と効果について学ぶ</p> <p>⑥ 相殺の意義と効果、代物弁済、更改、混同他、弁済に準じる制度について学ぶ</p> <p>⑦ 契約の意義と分類、契約の成立と効力、同時履行の抗弁権の意義について学ぶ</p> <p>⑧ 双務契約における危険負担の意義、契約の解除、定型約款の意義について学ぶ</p> <p>⑨ 財産権移転型契約の意義、売買契約、贈与、売主の担保責任の意義について学ぶ</p> <p>⑩ 貸借型契約の意義と種類、消費貸借、賃貸借、使用貸借、各契約について学ぶ</p> <p>⑪ 役務提供型契約の意義、請負契約と委任契約、寄託契約、和解契約について学ぶ</p> <p>⑫ 事務管理、不当利得、不法原因給付、それぞれの制度の意義と効果について学ぶ</p> <p>⑬ 不法行為の意義と成立要件、損害賠償責任、特殊な不法行為について学ぶ</p> <p>⑭ 親族の意義と範囲、婚姻の成立と効果、親子関係、養子制度について学ぶ</p> <p>⑮ 相続の意義、相続の発生と順位、相続の効力、遺言と遺留分の制度について学ぶ</p> <p>⑯ 定期試験</p>								
評価方法	授業で説明した内容を正しく理解しているか、どうかを基本に評価する。定期試験(80%)、出席他(20%)。								
講義外での学習	法律の制定・改正、訴訟など、法律に関する報道に注意し、関心をもって臨むこと。その他については、適宜授業内で指示する。								
履修上の注意事項	<p>毎回必ず指定した教科書を持参して授業に臨むこと。</p> <p>※先修科目： 履修にあたって「民法1」を既に履修していることが望ましい。</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>								
教材	<p>◆教科書： 「面白いほど理解できる民法(第5版)」早稲田経営出版 ISBN：978-4-8471-5041-8</p> <p>◆参考書： 適宜授業時に紹介する。</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	企業法概論					授業タイプ		講義		
科目区分	学部共通	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	前期	
教員名	中山 実郎（専任）									
授業の概要	キーワード：組織の法、経営の法、ビジネス法務の基本学習									
	組織の構成と運営、取引の現場を念頭に、ビジネスに関連する法領域の基礎について、横断的に学ぶ。民法のような基本法の他に商法、会社法、労働法など特別法が設けられている理由やその役割を理解することをはじめ、経営や取引を安全、円滑、迅速に行うための諸制度について学習する。									
到達目標	<p>ビジネスの分野に係る基礎的な法知識を得ることで、次の能力を身につけることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 取引に関するルールと会社の制度を理解し、加えて雇用に関する基礎知識を習得し、応用できる。 関連法規へと学習の領域を進め、ビジネスの場で生じる諸問題に対応する法的解決力を備えるための出発点とし、応用できる。 					カリキュラムマップ項目				
						I	II	III	IV	V
				○	○					
授業計画	<p>① ガイダンス、学習の範囲、ビジネスと法のかかわり、他</p> <p>② 組織におけるコンプライアンスとリスクマネジメントの意義と重要性について学ぶ</p> <p>③ 企業法としての民法と商法、契約の原則と企業間取引の特殊性について学ぶ</p> <p>④ 会社の法律(1) 会社の意義と要件、法人格、会社の設立と清算について学ぶ</p> <p>⑤ 会社の法律(2) 株式会社の特質、所有と経営の分離、会社の機関について学ぶ</p> <p>⑥ 会社の法律(3) 株式の意義、株主の権利と義務、株主総会の概要について学ぶ</p> <p>⑦ 会社の法律(4) 会社の役員・業務執行機関、取締役の意義と責任について学ぶ</p> <p>⑧ 職場の法律(1) 労働者と使用者、労働契約の意義と基本原則について学ぶ</p> <p>⑨ 職場の法律(2) 採用に関する規制、雇用の形態、使用者の義務について学ぶ</p> <p>⑩ 職場の法律(3) 就業規則の意義とその効力、労働基準監督署・労働局の役割について学ぶ</p> <p>⑪ 職場の法律(4) 賃金の意義、労働時間・休日・休暇の法制度について学ぶ</p> <p>⑫ 知的財産権の意義と種類、特許権、実用新案権、意匠権、商標権について学ぶ</p> <p>⑬ 企業活動への法規制(1) 経済法の概念、独占禁止法の意義と概要について学ぶ</p> <p>⑭ 企業活動への法規制(2) 不正競争防止法の意義と概要について学ぶ</p> <p>⑮ 企業活動への法規制(3) 消費者保護の意義と概要、消費者契約法について学ぶ</p> <p>⑯ 定期試験</p>									
評価方法	授業で説明した内容を正しく理解しているか、どうかを基本に評価する。定期試験(80%)、出席他(20%)。									
講義外での学習	法律の制定・改正、訴訟など法律に関する報道に注意し、関心をもって臨むこと。その他については、適宜授業内で指示する。									
履修上の注意事項	<p>※先修科目： 「民法1」、「民法2」を既修していることが望ましい。</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>									
教材	<p>◆教科書： 資料を配布。</p> <p>◆参考書： 適宜授業時に紹介する。</p>									
実務経験のある教員による授業科目										

科目名	Case Analysis					授業タイプ		講義 (AL)																						
科目区分	学部共通	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期																					
教員名	光山 博敏 (専任)																													
授業の概要	<p>キーワード: World Breaking News, The case analysis, discussion</p> <p>This course provides a business capstone for the study of the overall functioning of various types of strategies. This course includes a brief study of strategic planning including development of strategic alternatives, selection of appropriate alternatives, implementation of strategies, and competitive strategies and dynamics. The case method will be used to provide practical experience in analysis and decision making in the solution of business problems. Students will be reading, analyzing and to discuss approx. 4 to 5 individual written business news with students during the semester. The purpose is to demonstrate your understanding of the concepts in the readings by applying them to a real-life case situation.</p>																													
	到達目標	<p>This course aims to improve student understanding of concepts, principles, problems and applications of strategy. After completing this course:</p> <p>1. Students will demonstrate an understanding of business strategy and the essential terminology and concepts including the strategic management process, industry competition and planning for strategy implementation and control.</p> <p>2. Students will apply business strategy concepts and the strategic management process to current company and industry situations through case analysis and presentations.</p>					<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="7">カリキュラムマップ項目</th> </tr> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> <th>VI</th> <th>VII</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>				カリキュラムマップ項目							I	II	III	IV	V	VI	VII	○	○	○	○	○	○
カリキュラムマップ項目																														
I	II	III	IV	V	VI	VII																								
○	○	○	○	○	○	○																								
授業計画	<p>The following is a basic outline of the topics that will be covered in this course:</p> <p>① Course Overview: Explanation for the course contents. The team project: Reading a first written case.</p> <p>② The team project: Evaluating a Firm's environment and business situation. Discuss with group members and preparing PPT slides.</p> <p>③ The team project: Give presentations approx. 15 min and discuss the case.</p> <p>④ The team project: Reading a second written case and evaluating a Firm's environment and business situation.</p> <p>⑤ The team project: Discuss with group members and preparing PPT slides.</p> <p>⑥ Give presentations approx. 15 min and discuss the case.</p> <p>⑦ ~ ⑮ Repeat the above procedures.</p>																													
評価方法	<p>Grading</p> <ul style="list-style-type: none"> • Participation (speaking out in classes) 40% • Team Project (Quality of research and verbal communication, Preparing PPT slides) 20% • Presentation 40% 																													
講義外での学習	Students are required to deal with reading assignments.																													
履修上の注意事項	<p>Students will be required to pre-reading, researching and give presentations. Therefore, attendance and team effort are ABSOLUTELY NECESSARY. Course grading will be based on these criteria. ALL INSTRUCTION, COMMUNICATION AND ACTIVITIES WILL BE CONDUCTED IN ENGLISH.</p> <p>※先修科目: None</p> <p>※他学部履修: Available</p>																													
教材	<p>◆教科書: A specific textbook is not assigned. Each case will be prepared by your instructor.</p> <p>◆参考書:</p>																													
実務経験のある教員による授業科目																														
Prof. Mitsuyama has considerable international business experience in the United States.																														

科目名	経営学特別講義A					授業タイプ		講義				
科目区分	学部共通	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期			
教員名	柳 年哉（専任）											
授業の概要	<p>キーワード： 租税の概念、税の機能、納税者</p> <p>本講義は、日本の租税の意義、役割、機能及び仕組みを理解するための講座です。現代社会において、「税」は国民の社会生活を維持するためのインフラであり、また、国民一人一人のライフプランにおいても欠かせないコンテンツとなっています。この講義では、国家財政の基盤である「税」の体系について、所得税、法人税、相続税など、様々な税目を通じて理解することを目的とします。あわせて税を取り巻く環境の中で、税務の専門家として独立公正な立場で活動する税理士、課税庁側である国税局（税務署）と審査請求時の審理機関である国税不服審判所、健全な財政の確保と適正な歳出・歳入をコントロールする財務省（財務局）、それぞれの役割と職務についても学びます。</p>											
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本の税制度の仕組み並びに所得税、法人税、消費税及び相続税等の概要と機能を理解する。 税理士の使命と職務内容を理解する。 税務署の役割と国税不服審査制度、日本の財政状況ならびに地方税の役割と本県の財源確保の取り組みを理解する。 					カリキュラムマップ項目						
						I	II	III	IV	V	VI	VII
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 現代社会における税理士の使命と役割：税理士の職務及び社会との繋がりを学ぶ。 我が国の租税制度：我が国の税制の成り立ちと体系を学ぶ。 所得税について：生活する上で最も身近な税である所得税の概要を学ぶ。 所得税及び源泉所得税：源泉徴収制度と確定申告、年末調整を学ぶ。 消費税について：近年クローズアップされている消費税とインボイス制度を学ぶ。 税の役割と税務署の仕事：我が国の財政と税収の現状及び税務署の職務を学ぶ。 国税不服申立制度の概要：国税不服申立制度の概要と不服審判所の役割を学ぶ。 法人税について：法人税の概要と企業における取引から申告までの流れを学ぶ。 法人税について：法人税の計算方法を事例を交え学ぶ。 相続税について：相続税の概要と計算の仕組みを学ぶ。 相続税及び贈与税：相続税と贈与税の違いについて学ぶ。 地方税の役割と県税の仕組み：国税と地方税、直接税と間接税の違いを学ぶ。 日本の財政の現状と課題：税を原資とする国家財政の現状と問題点を学ぶ。 国際課税：国際税務の目的とその実現のための制度等を学ぶ。 税務調査と納税者権利について：税務調査の種類と納税者の権利を学ぶ。 							○	○			
						評価方法	講義で説明した内容の基礎的知識を正しく理解しているかどうかに重点を置く。定期試験は行わず、期限内に提出された講義のレポート（受講感想等）を各講師が審査し、総合評価する。					
講義外での学習	・テレビや新聞、ネット等を通じて見聞きする一日の出来事から、「税」の介在と日常生活や社会に与える影響について考える習慣をつけること。											
履修上の注意事項	電卓と以下の参考書を毎回使用する。 ※先修科目： 特になし。 ※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。											
教材	<ul style="list-style-type: none"> ◆教科書： 特になし ◆参考書： 財務省作成：「もっと知りたい税のこと」 日本税理士会連合会作成：「やさしい税金教室」 日本税理士会連合会作成：「税理士って？」 その他各回の担当講師がレジュメを作成 											
実務経験のある教員による授業科目												
中国税理士会に所属する鳥取県内在住の税理士と、広島国税局、広島国税不服審判所、中国財務局及び鳥取県の担当官が講師を務め、専門家・実務者の観点に基づいた講義を行う。												

科目名	経営学特別講義B					授業タイプ		講義		
科目区分	学部共通	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	前期	
教員名	竹内 由佳（専任）									
授業の概要	キーワード：金融、地方銀行、共同組織金融機関									
	金融機関は、地域経済の発展を支える重要な機能を担ってきていることは疑う余地のないところですが、実際の業務内容については知られていない部分も多いと思われます。本講義では、地方銀行、信用金庫、行政機関等幅広い特別講師を招聘することによって金融ビジネスの多面的な理解を目指します。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 金融ビジネスの金融仲介機能を理解し、説明できる。 金融ビジネスの具体的な業務内容を理解し、説明できる。 金融ビジネス業務に必要なスキルを理解し、説明できる。 						カリキュラムマップ項目			
							I	II	III	IV
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 金融機関：金融機関の概要、発展について説明します 中国地方における金融機関と金融監督行政（中国財務局） 中央銀行の役割（日本銀行） DBJとは（日本政策投資銀行） 地域金融機関の役割・取組・行員に求められる能力（鳥取銀行） 地域金融機関と地域のかかわり（鳥取銀行） 信用金庫の仕組みと役割（鳥取信用金庫） JAバンクの仕組みと役割（JA鳥取信連） 信用保証制度の仕組みと役割（鳥取県信用保証協会） 信販業務について（NKC） リース業界について（山陰総合リース） ベンチャーキャピタルの機能と運用（とっとりキャピタル） 制度金融について（鳥取県） 損害保険について（東京海上日動火災保険） まとめ <p>※ 各金融機関の授業タイトル、講義順は変更される場合がある。また、別の金融機関が担当される場合もある。</p>									
評価方法	講義内容に関する講義前・講義後レポート（40%）および期末レポート課題（60%）により評価する。									
講義外での学習	特別講師派遣機関についてはあらかじめホームページ等で予備学習しておいてください。									
履修上の注意事項	<p>※先修科目： 特になし。</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>									
教材	<p>◆教科書： 無し</p> <p>◆参考書： 無し</p>									
実務経験のある教員による授業科目										

科目名	経営学特別講義C					授業タイプ		講義									
科目区分	学部共通	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	後期								
教員名	未定（生命保険協会 寄付講座）																
授業の概要	<p>キーワード： 生命保険、長寿社会、自助努力</p> <p>本講義は、一般社団法人生命保険協会によって提供される。我が国は、人生100年時代と言われる超長寿社会を迎えようとしている。またテクノロジーの飛躍的進歩等により、生活環境や働き方、生き方が変化、多様化してゆくことは不可避である。このような状況の中で、我々のライフプランにおいて生命保険はますますその重要性を増している。本講義は、このような生命保険の仕組み、運用について説明する。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本の社会保障制度について理解し、説明できる。 少子・高齢化の進展等による社会保障制度の諸課題を背景に、私的保障の意義、自助努力の必要性・有効性等について理解し、説明できる。 生活の様々な局面に潜むリスクについて理解し、リスクを回避・抑制する手段として私的保障の役割等について理解し、説明できる。 					カリキュラムマップ項目											
						I	II	III	IV	V	VI	VII					
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 生保総論：生活に潜むリスクと保険、我々を取り巻く経済・社会保障環境 ② 生活設計とリスク管理：社会保障と私的保障の関連 ③ 死亡・医療保障：遺族年金と公的医療制度の概要、私的保障の関係 ④ 老後・介護保障：老齢年金と公的介護保険制度、私的保障の関係 ⑤ リスクに備える：リスクと公的保障・私的保障の総括。グループワークを実施 ⑥ 生命保険契約の仕組み：生保契約の性質・要素、 ⑦ 生保に関する調査・生命保険の基本：調査に基づく実態と生保の基本的内容 ⑧ 消費者保護・トラブル対応：生保契約における消費者保護、生保協会ADR運用体制 ⑨ 生命保険商品の変遷・動向：生保主力商品の変遷・動向 ⑩ 生命保険会社の組織・業務：生命保険会社の経営規制、隣接業界との比較 等 ⑪ グループ討論：提示課題に対し、グループ単位での課題分析・解決策の検討 ⑫ 災害対応：災害時の対応・体制整備 ⑬ 生命保険と税金：生命保険と税金との関連、関連する基礎知識 ⑭ 生命保険と資産運用：生命保険会社の固有業務の一つである資産運用の内容 ⑮ 総括：講義内容の振り返りと私的保障の将来像の展望 ⑯ 定期試験 <p>※変更の可能性有</p>												○	○			
	評価方法	講義貢献度（10%）、小テスト（10%）、アンケート（10%）、定期試験（70%）															
講義外での学習	疑問点等については、生保協会ホームページを活用してみよう。																
履修上の注意事項	<p>講義中の質問等、積極的な講義参加を希望する。</p> <p>※先修科目： 特になし。</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>																
教材	<p>◆教科書： なし、講義資料は配布する。</p> <p>◆参考書： なし</p>																
実務経験のある教員による授業科目																	
講師は、大手生命保険会社の役員、管理職経験者である。																	

科目名	ワークショップ					授業タイプ		演習					
科目区分	演習	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	前期				
教員名	佐藤 彩子 (専任)												
授業の概要	<p>キーワード：地域分析、RESAS、GIS</p> <p>わが国では人口減少、少子高齢化の進展に伴い、地域経済の衰退や地域間格差の拡大等、地方圏を中心に地域課題への積極的な関与と解決策の提示が求められている。ただ地域を構成する主体は行政、企業、NPO等、多岐にわたり、そこでやりとりされる情報も人口、産業、企業等、豊富に存在する。したがってそれらを集めて整理し、対象地域がどのような特徴を持っているのかを把握するだけでも、それなりのスキルが必要となる。本演習では、地域分析に必要な統計や手法を理解し、目的に沿った図表や地図を自ら作成できるようになることを目指す。</p>												
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 地域分析に必要な既存データを目的に沿ったかたちで収集できる。 地域分析に必要なデータを目的に沿ったかたちで加工し、図表や地図に的確に表現することができる。 						カリキュラムマップ項目						
							I	II	III	IV	V	VI	VII
									○	○	○		
授業計画	<p>原則として、下記の授業計画を進めるが、受講生の理解度等を踏まえ、必要に応じて変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション：授業計画を提示し、授業で扱う内容をおおまかに紹介する。 地域分析の基礎：地域分析で使うデータの種類と図表の効果的な作り方の基礎を学ぶ。 演習1：棒グラフの種類を理解し、既存統計から集合棒グラフを作成する。 演習2：棒グラフの種類を理解し、既存統計から100%積み上げ棒グラフを作成する。 演習3：折れ線グラフの種類を理解し、既存統計から積み上げ折れ線グラフを作成する。 演習4：既存統計から、散布図を作成する。 演習5：演習1～4の復習問題に取り組み、目的に沿った図を作成する練習を行う。 演習6：地域経済分析システム「RESAS」を用いて、人口マップの分析を行う。 演習7：地域経済分析システム「RESAS」を用いて、産業構造マップの分析を行う。 演習8：地域経済分析システム「RESAS」を用いて、観光マップの分析を行う。 演習9：演習6～8の復習問題に取り組み、各マップの特徴を深く理解する。 演習10：GISの基礎とフリーGISソフト「MANDARA」で使用するデータの種類の学ぶ。 演習11：フリーGISソフト「MANDARA」を用いて、モード別の地図を作成する。 演習12：フリーGISソフト「MANDARA」を用いて、MANDARA タグをつけた地図を作成する。 演習13：演習10～12の復習問題に取り組み、目的に沿った地図を作成する練習を行う。 												
評価方法	地域分析でよく用いられる図表や地図の基本的作法を理解した上で、目的に沿った図表や地図を的確に作成できているかどうか重点を置く。授業参加態度(20%)、期末レポート(40%)、毎回の演習後に課す復習問題(40%)												
講義外での学習	教科書や参考書をもとに、毎回の演習で扱った各図表や地図の種類・特徴を再確認し、復習問題に取り組むこと。												
履修上の注意事項	<p>毎回の授業はパソコンを使用した演習となるため、パソコンを必ず持参すること(パソコン利用必須)。</p> <p>※先修科目： 情報リテラシー基礎(エクセルの基本的な使い方を修得できている者に限る)</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>												
教材	<p>◆教科書： ・半澤誠司ほか(2015)『地域分析ハンドブック Excelによる図表づくりの道具箱』ナカニシヤ出版、定価2,700円+税(ISBN 978-4-7795-0917-9)。</p> <p>◆参考書： ・谷謙二(2011)『フリーGISソフト MANDARA パーフェクトマスター』古今書院、定価3,600円+税(ISBN978-4-7722-8109-6)。</p> <p>・日経ビックデータ編集部・小谷祐一郎・榎本真美・松浦義昭・矢崎裕一(2016)『RESASの教科書 リーサス・ガイドブック』図書印刷、定価2,700円+税(ISBN978-4-8222-3660-1)。</p> <p>その他、必要に応じて演習の中で紹介します。</p>												
実務経験のある教員による授業科目													

科目名	インターンシップ (経営学部)					授業タイプ		実習	
科目区分	演習	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	前期集中 後期集中
教員名	経営学部教員 (専任)								
授業の概要	<p>キーワード：インターンシップ、職業体験、社会人基礎</p> <p>企業・団体等が実施するインターンシップに参加することにより、企業や地域における実務体験を経験する。</p> <p>単位として認定されるインターンシップは、原則として大学が準備したものが対象であるが、学生自らが探してきたものについても、単位認定の対象となることがあるので、事前に担当教員に申し出ること。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 企業・地域における実務体験の中で、組織の仕組み、業務の流れを理解し、職業体験に活かすことができる。 職場における人間関係・マナー等に対する理解を深めて以後の学習に明確な目標を設定することを目的とし、「就職すること」や「働くこと」の意味や意義を理解し、職業体験に活かすことができる。 	カリキュラムマップ項目							
		I	II	III	IV	V	VI	VII	
授業計画	<p>企業・団体等が実施するインターンシップの内、原則以下の条件を満たすものを対象とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 原則夏期休暇中 (8月～9月) に実施されるもの (春期休暇については担当教員に相談すること)。 期間が2週間 (実質45時間) 以上のもの (期間が短いものは対象とならない)。 インターンシップの実習内容等について事前に提出があること。 実習先企業等からの評価書 (実習総評) 又は参加実績報告書等の提出があること。 <p><認定までの手続き></p> <ol style="list-style-type: none"> 事前学習 オリエンテーション (実習にあたっての心得と注意事項の説明)。 実習先企業等の研究並びに実習における目的・課題検討 (事前学習レポート)。 実習 (インターンシップ参加) 「実習日誌」の記録。実習先企業等は実習についての評価書 (実習総評) 又は参加実績報告書を提出。 事後報告 (調査、現場体験などを通じ、学習できた内容をまとめて報告) 全日程終了後「実習実績報告書」を提出。 								
評価方法	①～③の手続きを通じて作成・提出される各種提出物及び実習先企業等からの評価書等の内容を総合的に評価する。								
講義外での学習	<p>インターンシップの単位認定スケジュールは原則以下の通り。</p> <p>「シラバス公開」→「実習参加申込 (単位認定可否判定、履修手続)」→「実習等参加」→「企業からの評価書 (実習総評) 等受領」→「単位認定」</p> <p>インターンシップの実施時期により、単位認定が遅れることがあります。 (前期に実施されたインターンシップが後期に、また後期に実施されたインターンシップが翌年度前期に単位認定されることがあります。)</p>								
履修上の注意事項	<p>※先修科目： なし。</p> <p>※他学部履修： 不可。</p>								
教材	<p>◆教科書：</p> <p>◆参考書：</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	専門演習 1、専門演習 2、専門演習 3					授業タイプ		演習・実習			
科目区分	演習科目	履修区分	必修	配当年次	3 4	単位数	2 4	開講区分	1：前期 2：後期 3：通年		
教員名	経営学部で指定する担当教員										
授業の概要	<p>キーワード： 各担当教員の指導、専門領域、成果物</p> <p>各担当教員の指導の下、未来の産業社会の動向を見すえた経営のあり方、地域産業の発展、地域が持つ課題の解決方法等を、経営学に関連する幅広い専門領域の視野から学習・研究し、最終的に卒業論文等の成果物を作成する。</p>										
到達目標	<p>以下の目標の1つ以上を達成し、成果物を作成できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学問分野の理論的な理解を深め、理論的な説明ができる。 先行研究を渉猟し、仮説を検証するために必要な調査計画を立案・実行できる。 実データ解析を行い、得られた結果の見方を身に付ける。 					カリキュラムマップ項目					
						I	II	III	IV	V	VI
授業計画	別に定める各担当教員の個別シラバスによる。										
評価方法	別に定める各担当教員の個別シラバスによる。										
講義外での学習	別に定める各担当教員の個別シラバスによる。										
履修上の注意事項	<p>各担当教員の履修方針に従うこと。</p> <p>※先修科目： 「専門演習 1」の履修にあたっては、なし。 「専門演習 2」の履修にあたっては「専門演習 1」、「専門演習 3」の履修にあたっては「専門演習 1」及び「専門演習 2」を単位修得していること。</p> <p>※他学部履修： 不可。</p>										
教材	<p>◆教科書：</p> <p>◆参考書：</p>										
実務経験のある教員による授業科目											

SDGs

(Sustainable Development Goals)



科目と持続可能な開発目標（SDGs）との関係について

SDGs（Sustainable Development Goals）が2015年9月の国連サミットにおいて全会一致で採択されました。先進国を含む国際社会全体の開発目標として、2030年を期限とする包括的な17の目標を設定しています。SDGsは持続可能な開発の3つの側面である経済、環境、社会の持続可能性に関する諸課題を包括的に取り扱い、統合的に達成することを目指しています。

SDGsの趣旨は本学の理念に一致するため、本学としてもその知識とスキルを有する人材を育成することとしています。次頁から科目名と17の目標との関係を示しているので参考にしてください。

目標	概要
目標 1（貧困）	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
目標 2（飢餓）	飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
目標 3（保健）	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
目標 4（教育）	すべての人に包括的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯教育の機会を促進する
目標 5（ジェンダー）	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う
目標 6（水・衛生）	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
目標 7（エネルギー）	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
目標 8（経済成長と雇用）	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の安全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する
目標 9（インフラ、産業化、イノベーション）	強靱（レジリエント）なインフラ整備、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの促進を図る
目標 10（不平等）	各国内及び各国間の不平等を是正する
目標 11（持続可能な都市）	包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する
目標 12（持続可能な生産と消費）	持続可能な生産消費形態を確保する
目標 13（気候変動）	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
目標 14（海洋資源）	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
目標 15（陸上資源）	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の促進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
目標 16（平和）	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
目標 17（実施手段）	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

経営学部専門科目とSDGsの関係

科目区分	授業科目名称	SDGsの17の目標																
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
学部基礎科目	経営学入門				○				○	○								
	会計学入門				○				○	○								
	現代経済学入門				○				○	○	○		○					
	統計学入門				○													
	経営戦略論1				○				○	○			○					
	経営組織論1				○				○	○			○					
	マーケティング1				○				○	○			○					
	商業簿記1				○				○		○							
	商業簿記2				○				○		○							
	財務会計				○				○		○							
	管理会計				○				○		○							
	ファイナンス入門				○				○	○			○					
	ミクロ経済学				○				○	○			○					
	マクロ経済学				○				○	○			○					
	金融論				○				○	○			○					
	情報システム基礎				○					○								
	インターネット				○					○								
地域経営論				○				○	○	○	○	○					○	
経営情報論				○				○	○			○					○	
プログラミング				○					○									
学部展開科目	企業経営系科目	人的資源管理論				○			○	○	○							
		経営戦略論2				○			○	○			○					
		経営組織論2				○			○	○			○					
		マーケティング2				○			○	○			○					
		商品開発論				○			○	○			○					
		ブランド論				○			○	○			○					
		事業創造論				○			○	○			○					
		経営分析				○			○	○	○		○					
		原価計算論				○			○	○	○		○					
		税務会計				○			○	○	○		○					
		監査論				○			○	○	○							
		コーポレート・ファイナンス				○			○	○	○							
		リスクマネジメント				○			○	○	○							
		経営倫理				○			○	○	○							
	ビジネス・エコノミクス				○			○	○	○		○						
	日本経済論				○			○	○	○		○						
	金融市場論	○			○			○	○	○								
証券論	○			○			○	○	○									
地域経営系科目	地域経済論				○			○	○	○	○	○					○	
	公共経営論			○	○	○		○	○		○	○					○	
	地域政策論				○			○	○		○	○					○	
	地域産業論				○			○	○	○	○	○					○	
	公共政策論	○	○	○	○	○		○	○	○		○					○	
	中小企業経営論				○			○	○		○	○					○	
	地域マーケティング				○			○	○		○	○					○	
	流通論				○			○	○		○	○					○	
	非営利組織論				○			○	○		○	○					○	
	コミュニティビジネス論		○		○			○	○		○	○					○	
	観光経営論				○			○	○		○	○					○	
地域振興論		○		○			○	○		○	○					○		
農業経営論		○		○			○	○		○	○					○		
経営情報系科目	経営情報システム				○			○	○			○					○	
	システム監査				○			○	○			○					○	
	データベース				○			○	○			○					○	
	データサイエンス				○			○	○			○					○	
	データサイエンス実践演習				○			○	○			○					○	
	情報産業論				○			○	○			○					○	
	プロジェクトマネジメント				○			○	○			○					○	
	経営工学				○			○	○			○					○	
生産管理				○			○	○			○					○		



Tottori University of Environmental Studies

公立鳥取環境大学

〒689-1111 鳥取市若葉台北一丁目1番1号

代表／TEL 0857-38-6700 FAX 0857-38-6709

[PC] <http://gakunai.kankyo-u.ac.jp/>

[E-Mail] 学務課 kyoumu@kankyo-u.ac.jp
